

茨城県教育財団文化財調査報告第240集

# 宮後遺跡 2

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う  
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

下 卷

平成 17 年 3 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第240集

# 宮<sup>みや</sup>後<sup>うしろ</sup>遺跡 2

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う  
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

下 卷

平成 17 年 3 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

# 目 次

## —下 卷—

### 第3章 調査の成果

#### 第3節 遺構と遺物

3 土坑 .....	325
4 上坑墓 .....	530
5 土器埋設土坑 .....	545
6 ビット群 .....	550
7 ビット .....	553
8 陥し穴 .....	559
9 遺構外出土遺物 .....	561

第4節 まとめ .....	566
---------------	-----

写真図版

### 第1465号土坑（第304図）

位置 調査2区の北部，C3g6区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1455号土坑の北東側を掘り込み，第1460号土坑に北東側の上部を掘り込まれている。

規模と形状 南東壁が崩落しているため，開口部の平面形と規模は不明であるが，現状では長径1.40m，短径1.02m程度の楕円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.50m，短径1.28mの楕円形である。壁は内傾するが，南東壁のみは崩落しているため外傾している。深さは88cmである。ピットは1か所で，東壁際に位置している。ピットの深さは41cmである。

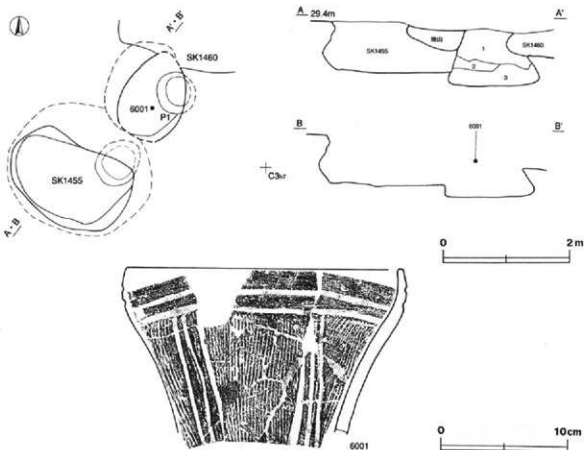
覆土 3層に分層される。第1・2層はレンズ状に堆積していることから自然堆積，第3層はロームブロックを多く含むことから南東壁の内傾する壁が崩落したものと考えられる。

#### 土層解説

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量   |                        |

遺物出土状況 縄文土器片41点が出土している。6001の深鉢は覆土上層から出土している。

所見 本跡の廃絶時期は，底面や覆土下層から出土した土器がないため明確にすることはできないが，覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第304図 第1465号土坑・出土遺物実測図

第1465号土坑出土遺物観察表（第304図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6001	縄文土器	深鉢	[21.4]	(13)	-	1 神部は沈線文を巡らしている。 胴部は懸垂文間を掘り滑す。地文は櫛歯状工具による条線文。	長石・石英	普通	にじい褐色	覆土上層	

### 第1467号土坑 (第305・306図)

**位置** 調査2区の北部, C3e6区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

**重複関係** 第233号土坑墓に掘り込まれている。本跡の第2層上面に第16号屋外炉がつくられている。

**規模と形状** 平面形は、長径3.18m, 短径2.70mの楕円形で、底面はほぼ平坦で、長径2.94m, 短径2.60mの楕円形である。壁は外傾して立ち上がり、深さは85cmである。ピットは7か所で、P1は中央部に、P2～P5は壁際に、P6・P7は壁寄りに位置している。深さは、P1が54cm, P2が25cm, P3が38cm, P4が40cm, P5が59cm, P6が72cm, P7が56cmである。

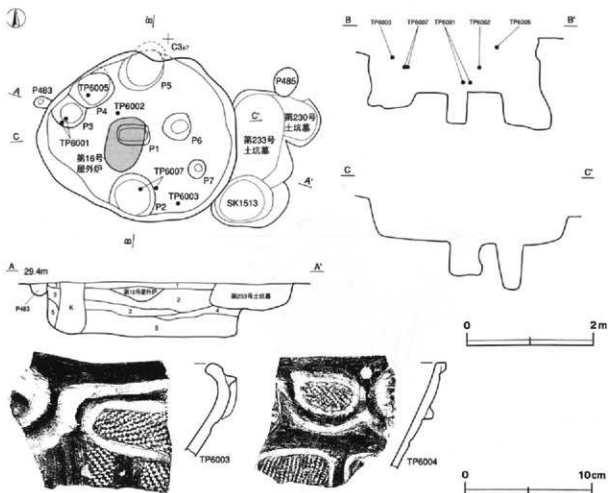
**覆土** 第1層が第16号屋外炉絶後の覆土で、その下部に第16号屋外炉がつくられている。本跡の覆土は第2～5層で、4層に分層される。第2・3層はレンズ状に堆積していることから自然堆積、第4・5層はロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

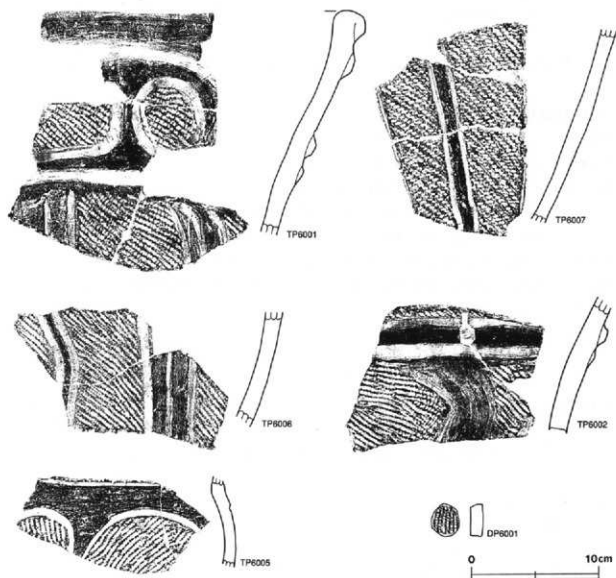
- |                           |                               |
|---------------------------|-------------------------------|
| 2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量     | 5 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量         |

**遺物出土状況** 縄文土器片631点, 土器片円盤1点, 剥片1点が覆土から満遍なく出土している。TP6001の深鉢片は覆土下層から、TP6002・6007の深鉢片は覆土中層から、TP6003・6005の深鉢片は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第305図 第1467号土坑・出土遺物実測図



第306図 第1467号土坑出土遺物実測図

第1467号土坑出土遺物観察表 (第305・306図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色・調	出土位置	備考
TP6001	縄文土器	深鉢	—	(17.7)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文により描出。胴部は懸垂文間を磨り滑す。地文はL Rの単筋縄文。	長石・石英	普通	黒褐色	覆土下層	
TP6002	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	沈線が沿う隆帯文により描出。胴部は懸垂文間を磨り滑す。L Rの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐色	覆土中層	TP6001と同一個体
TP6003	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文により描出。胴部は懸垂文間を磨り滑す。L R Lの複筋縄文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐色	覆土上層	
TP6004	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は沈線による逆J字状文外を磨り滑す。R Lの単筋縄文。	長石・石英	良好	暗褐色	覆土	
TP6005	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	沈線による逆J字状文外を磨り滑す。R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐色	覆土上層	
TP6006	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	3葉一組の懸垂文間を磨り滑す。L Rの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐色	覆土	
TP6007	縄文土器	深鉢	—	(15.6)	—	沈線による懸垂文間を磨り滑す。L Rの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐色	覆土中層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP6001	上唇片用探	2.6	2.2	1	6.7	不高・灰石 沢崎	LRの早期縄文。片縁は砥目	覆土	

### 第1471号土坑（第307～309図）

**位置** 調査2区の北部，C30A区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1470号土坑の西側と第1472号土坑の東側を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は，長径2.66m，短径2.54mのはほぼ円形である。底面は平坦で，平面形は長径2.42m，短径2.30mの円形である。壁はほぼ直立し，深さは45cmである。ピットは8か所で，P1は中央部に，P2とP3は中央部付近に，P4～P8は壁際に位置する。ピットの深さは，P1が71cm，P2が61cm，P3が59cm，P4が24cm，P5が25cm，P6が34cm，P7が63cm，P8が16cmである。

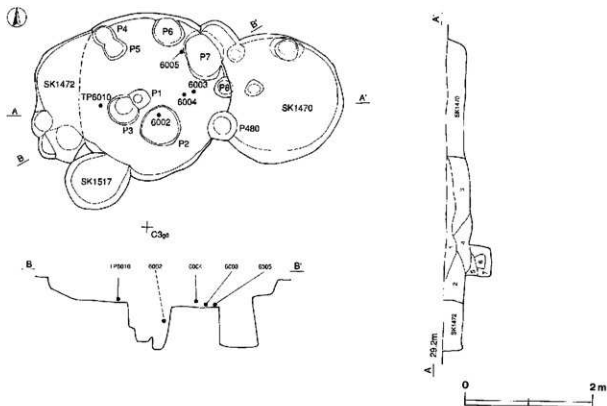
**覆土** 7層に分層され，第5～7層はP3の覆土である。第1～4層はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

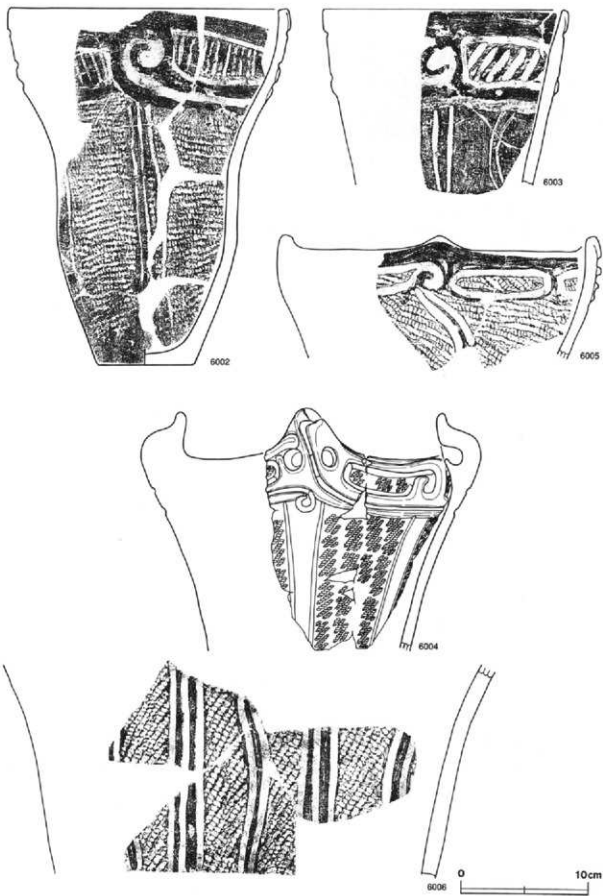
- |       |                     |       |                      |
|-------|---------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | コム粒子・炭化粒子・炭化粒子微量    | 5 黒褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量，珪土粒少量 |
| 2 黒褐色 | コム小ブロック・炭化粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック微量           |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量   | 7 褐色  | ローム小ブロック少量           |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量             |       |                      |

**遺物出土状況** 縄文土器片365点が主に覆土下層から出土している。6002の深鉢はP2覆土から，6003・6004・6005の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は，出上土器から中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

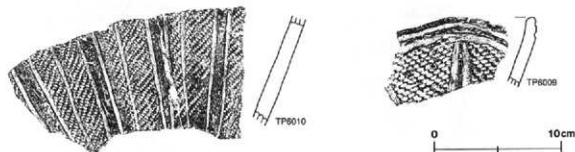


第307図 第1471号土坑穴測図



第308图 第1471号土坑出土物实测图(1)





第309図 第1471号土坑出土遺物実測図(2)

第1471号土坑出土遺物観察表(第308・309図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6002	縄文土器	深鉢	[21.6]	28.1	7.6	口縁部は隆帯による渦巻文と縦位の沈線文。胴部は懸垂文間を磨り消す。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐	P 2 覆土	
6003	縄文土器	深鉢	[18.8]	(13.7)	—	口縁部は隆帯による渦巻文と斜位の沈線文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文は燃赤文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐	覆土下層	
6004	縄文土器	深鉢	[20.6]	(18.8)	—	眼縁状把手。口縁部は隆帯による区画文。胴部は懸垂文間を磨り消す。R Lの単節縄文。	長石・石英	やや不良	にぶい橙	覆土下層	
6005	縄文土器	深鉢	[24.7]	(10.0)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はL Rの単節縄文。	長石・石英	良好	黒褐	覆土下層	
6006	縄文土器	深鉢	—	(16.5)	—	胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土	
TP6009	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	口唇部直下に沈線文。以下は懸垂文間を磨り消す。地文はL Rの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土	
TP6010	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	沈線による懸垂文間を磨り消す。地文はR Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	褐	覆土下層	

### 第1473号土坑 (第310・311図)

**位置** 調査2区の北部、C 3 e0区。住居跡群域に位置する。

**規模と形状** 本跡の北東部が調査区域外にあるため、開口部の平面形は径2.20mの円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.45mの円形と推定される。確認面からの深さは63cmであるが、土層観察では深さは75cmである。壁は南壁の一部は直立する以外は内傾して立ち上がっているが、土層観察では中位まで内傾して立ち上がり、上位で外傾して立ち上がることが確認されている。底面からくびれ部までの高さは、平均42cmである。ピットは2か所、P1は壁際に位置し、深さは40cmである。P2はやや壁寄りであるが、そのほとんどが調査区域外にあるため、深さは不明である。

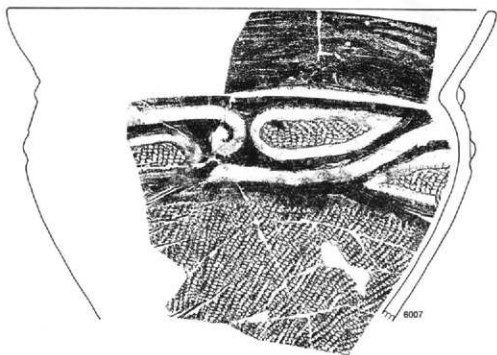
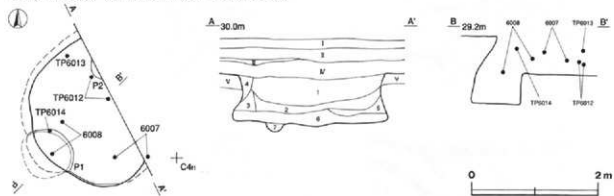
**覆土** 7層に分層され、第7層はP2の上部に堆積する覆土である。第1・2層は黒褐色を呈し、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第5層はロームブロックを多く含む、壁が崩落している南壁際にのみ堆積していることから崩落土と考えられる。

#### 土層解説

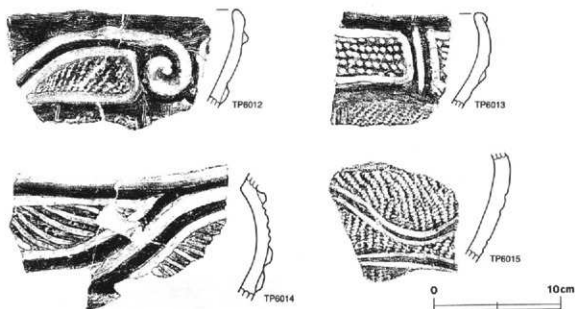
1 黒褐色	ローム粒子・腹語バミス小ブロック微量	5 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量
4 無暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片189点が、主に覆土下層に廃棄されたような状態で出土している。6007の鉢と6008の深鉢片は覆土中層から出土している。

所見 覆土下層に遺物の集中がみられ、一括廃棄された様相を呈している。時期は覆土下層に廃棄された遺物から、中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第310図 第1473号土坑・出土遺物実測図



第311図 第1473号土坑出土遺物実測図

第1473号土坑出土遺物観察表 (第310・311図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6007	縄文土器	鉢	[38.2]	(24.7)	—	口縁部無文。胴部上位は沈線が沿う珠帯文。R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐色	覆土中層	
6008	縄文土器	深鉢	[25.5]	(12.5)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はL Rの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐色	覆土中層	
TP6011	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はL Rの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐色	覆土下層	
TP6012	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はR Lの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土下層	
TP6013	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	口縁部は隆帯による区画文。区画文内は刺突文を充填。R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土下層	
TP6014	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	胴部上位は2本一組の隆帯により文様を推出。区画文内は沈線文を充填している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土下層	
TP6015	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	頸部は2条一組の沈線文間を磨り消している。R Lの単筋縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐色	覆土下層	

### 第1476号土坑 (第312図)

位置 調査2区の北部、D3 b2区。住居跡群域に位置する。

重複関係 覆土上面を第165号住居の土器埋設炉が掘り込んでいる。第1360・1391・1423号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.22m、短径1.92mの楕円形である。深さは30cmで、壁はほぼ直立する。ピットは3か所、P1は壁際に、P2とP3は中央部に位置している。P1はピットの南東壁際の底面に深さ5cmの小ピットがある。ピットの深さはP1が61cm、P2が89cm、P3が47cmである。

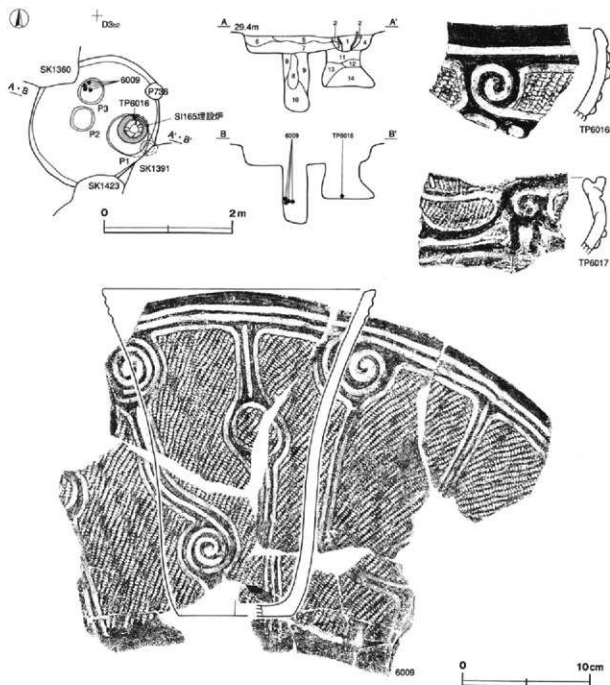
覆土 11層に分層され、第1～3層は第165号住居跡の炉の覆土と掘り方の土層である。第4～7層は本跡の主体となる覆土で、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第8～10層は本跡のP2の覆土、第11～14層は本跡のP1の覆土である。

土層解説

- |       |                        |        |                          |
|-------|------------------------|--------|--------------------------|
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック中量               |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量    | 11 黒褐色 | ローム小ブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量      | 12 黒褐色 | ローム粒子中量                  |
| 7 黒褐色 | ローム小ブロック中量、炭化粒子微量      | 13 黒褐色 | ローム小ブロック中量、鹿沼パミス粒子微量     |
| 8 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量      | 14 暗褐色 | ローム小ブロック中量、鹿沼パミス粒子微量     |
| 9 暗褐色 | ローム小ブロック中量             |        |                          |

遺物出土状況 縄文土器片81点が出土している。6009の深鉢はP3の覆土から、TP6016の深鉢片はP1の底面から出土している。

所見 時期は、ピットから出土した6009から中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第312図 第1476号土坑・出土遺物実測図

第1476号土坑出土遺物観察表 (第312図)

番号	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の部位	胎	地成	色調	出土位置	備考
6009	縄文土器	深鉢	25.5	26.0	8.9	1段部直下は浅鉢文、以下は底面による渦状文を起点に懸垂文同を繰り返す。R.Lの半鐘形文。	長石・石英	普通	褐色に濃い粉	P3底面	
TP6016	縄文土器	深鉢	—	17.3	—	1段部は懸垂文による渦状文。R.Lの半鐘形文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐色	P1底面	
TP6017	縄文土器	深鉢	—	6.0	—	1段部は隆竹による渦状文。R.Lの半鐘形文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黄	腹面	

第1478号土坑 (第313・314図)

位置 調査2区の北部、C4区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1477号土坑に南側を、第1491号土坑に北面を掘り込まれている。

規模と形状 間口部の平面形は長径2.51m、短径2.21mの楕円形である。深さは30cmで、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。ピットは1か所、西壁寄りに位置し、深さが48cmである。P1は本跡のピットとしたが、壁寄りに位置するピットとしては小形であることから、本跡に伴わない可能性もある。

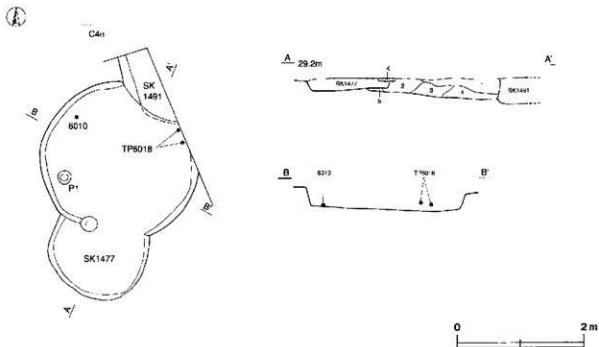
覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

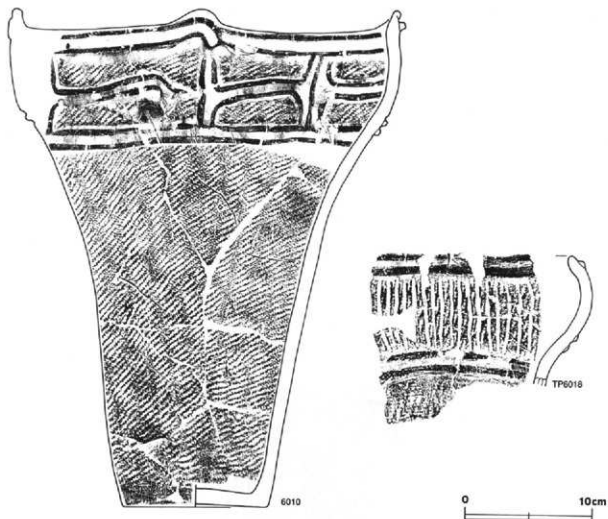
- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| 1 灰褐色 ローム小ブロック・炭化粒子微量   | 4 黒褐色 ローム小ブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック少量・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量  |
| 3 暗褐色 ローム小ブロック少量        |                  |

遺物出土状況 縄文土器片54点が覆土から出土している。6010の深鉢は整地の底面から横位の状態で出土している。

所見 時期は、底面から出土した6010の深鉢から中期後葉（加曾科E1式期）と考えられる。



第313図 第1478号土坑実測図



第314図 第1478号土坑出土遺物実測図

第1478号土坑出土遺物観察表 (第314図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6010	縄文土器	深鉢	[30.1]	39.5	11.4	口縁部は沈線が沿う細い隆帯文。R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	上半スチ付着 P L 9
TP6018	縄文土器	深鉢	—	(10.2)	—	口縁部は隆帯による区間文。区間文内は縦位の沈線文を充填。別部はR Lの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土	

第1479号土坑 (第315図)

位置 調査2区の北部、C3g0区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1482号土坑に西側を掘り込まれている。第1481号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は円形で、規模は現状では径1.94m程度である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは24cmであり、壁は直立する。

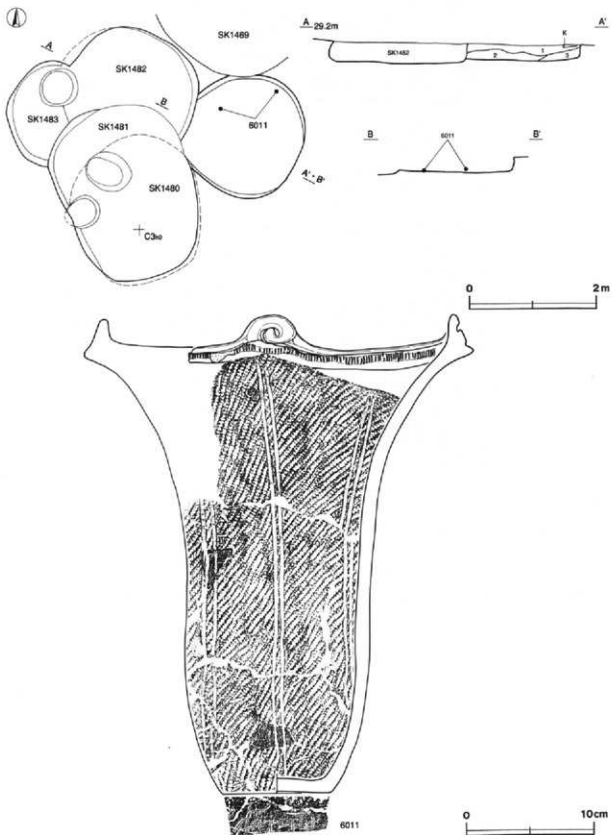
覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量 3 暗褐色 ローム小ブロック中量  
2 暗褐色 ローム小ブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片19点が出土している。6011の深鉢は底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土した6011の深鉢から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第315図 第1479号土坑・出土遺物実測図

第1479号土坑出土遺物観察表 (第315図)

番号	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の形数	胎土	土成	色調	出土位置	備考
6011	縄文土器	深鉢	[27.7]	37.6	8.6	縦溝部に溝底文を隔す4単位の 波状1段,1野筋部,はぎみそ を有する流背文,口縁の野筋4文。	灰石・石灰 ・雲母	普通	橙	底面	上平素 ス付者

第1480号土坑 (第316・317図)

位置 調査2区の北部, C3g9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1481号土坑を掘り込み, 第1482号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は, 第1481・1482号土坑と重複しているため, 現状では長径2.26m, 短径1.96mの楕円形と推定される。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは42cmであり, 壁は内傾して立ち上がる。西壁だけは崩落しているためか, 外傾して立ち上がる。ピットは2か所で, いずれも壁際に位置している。ピットの深さはP1が53cm, P2が42cmである。

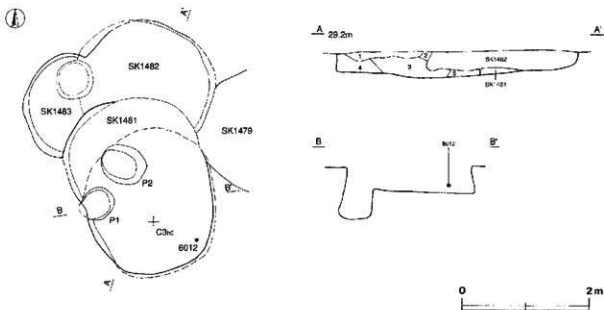
覆土 5層に分層される。第2・4・5層はロームブロックを多く含み, 特に第4層は内傾する壁が崩落したと考えられる西壁際付近に堆積していることから, 崩落土と考えられる。

土層解説

- |       |                    |       |            |
|-------|--------------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | コーム粒少量, 灰化粒子微量     | 4 暗褐色 | ロームブロック中量  |
| 2 褐色  | コーム小ブロック多量         | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 灰化粒子微量 |       |            |

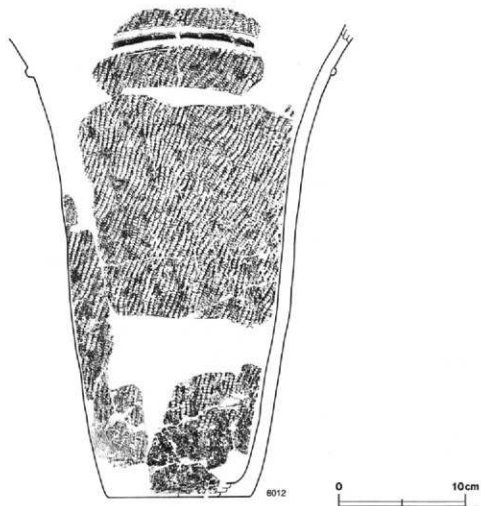
遺物出土状況 縄文土器片198点, 銅片3点が覆土から出土している。6012の深鉢は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 覆土下層から出土した6012の深鉢から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第316図 第1480号土坑実測図





第317図 第1480号土坑出土遺物実測図

第1480号土坑出土遺物観察表（第317図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6012	縄文土器	深鉢	—	(36.3)	11.4	口縁部と胴部の境に隆帯文。R.Lの単純縄文を縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土下層	上半スス附着

#### 第1487号土坑（第318図）

**位置** 調査2区の北部，C4g区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1493号土坑との新旧関係は，出土土器から本跡が新しい。第1492号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は，第1492号土坑と重複しているため，現状では長径2.26m，短径1.96mの楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.24m，短径2.10mのほぼ円形である。確認面からの深さは52cmで，壁は内傾する。

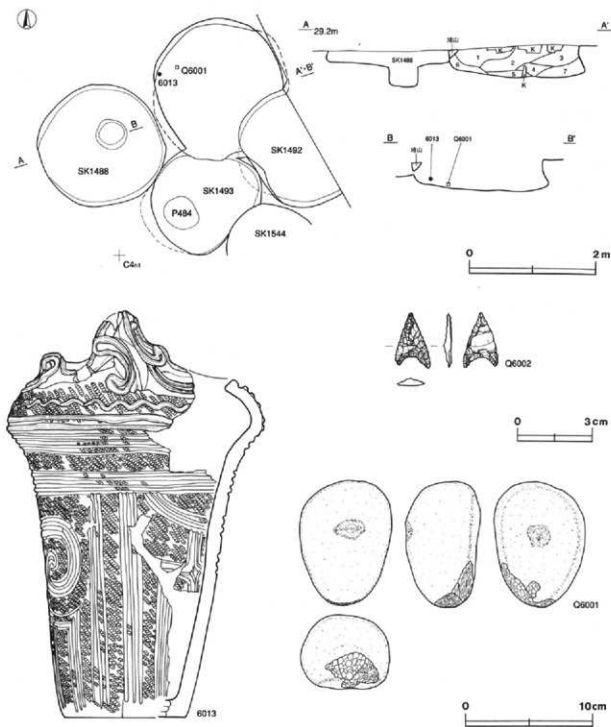
**覆土** 7層に分層される。各層とも壁際から流れ込んだような堆積状況であることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                  |       |                   |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量  | 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量         |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量  | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量     |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量       |       |                   |

遺物出土状況 縄文土器片149点、敲石1点、石鏝1点、剥片4点が、主に覆土下層から出土している。6013の深鉢は、西壁側の覆土下層から横位の状態出土している。

所見 時期は、6013の深鉢が覆土下層から出土していることから中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第318図 第1487号土坑・出土遺物実測図

第1487号上坑出土遺物観察表 (第318図)

番号	品別	器種	口径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	文様の写像	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
G013	縄文土器	深鉢	15.3	31.8	9.4	縦線・点線・11線が細い器口による浅文、側面は沈線により細密、底はL3の印記類文。	長石・石英	常焼	赤い橙	覆土下層	P.L.49

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
G6001	旗石	9.9	7.2	6.0	584.5	砂	土面に敲打痕あり。側面に溝用。	覆土下層	P.L.62
G6002	石鏃	2.2	1.4	0.3	0.6	チャート	縦長割片を大形。基部中央が大きく湾入。	覆土	P.L.59

第1493号土坑 (第319・320図)

位置 調査2区の北部、C4g1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1492号土坑と第484号ピットに掘り込まれている。第1487号土坑との新旧関係は、出土土器から本跡が古い。第1544号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南門部の平面形は、第1487・1544号土坑と重複しているため、現状では長径1.78m、短径1.52mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.88m、短径1.48mの楕円形である。確認面からの深さは37cmで、壁は内傾して立ち上がる。重複している北壁から南東壁にかけての壁はほぼ直立している。

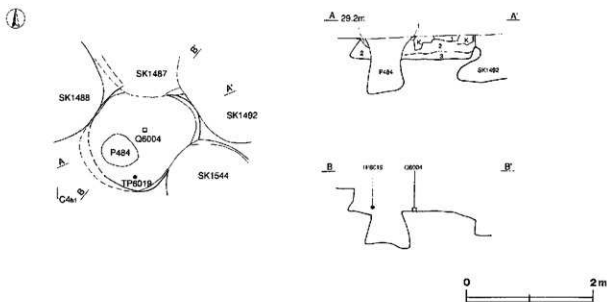
覆土 3層に分層される。各層ともにほぼ水平に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

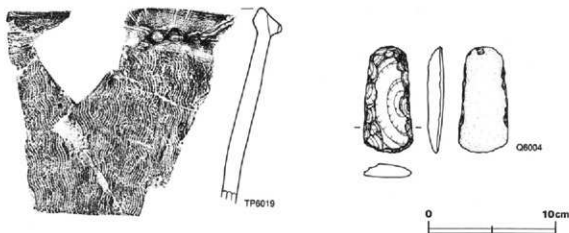
- 1 暗褐色 コーム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 コーム小ブロック少量
- 3 暗褐色 コーム小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片12点、打製石斧1点が、主に覆土下層から出土している。TP6019の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土したTP6019の深鉢片から中期中葉(阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期)と考えられる。



第319図 第1493号土坑実測図



第320図 第1493号土坑出土遺物実測図

第1493号土坑出土遺物観察表 (第320図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6019	縄文土器	深鉢	—	(15.3)	—	口唇部直下に押圧文を有する隆帯を巡らしている。繩車状工具による波状の亀織文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6004	打製石斧	8.4	3.9	1.2	56.1	砂岩	片面調整。裏面に原礫面を残す。	覆土下層	

### 第1495号土坑 (第321図)

**位置** 調査2区の北部, C3g7区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1496号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は、長径2.88m, 短径2.32mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.88m, 短径2.30mの楕円形である。確認面からの深さは88cmである。壁は北壁から東壁にかけては内傾し、それ以外は直立する。ピットは6か所で、いずれも壁際に位置している。ピットの深さは、P1が36cm, P2が22cm, P3が40cm, P4が27cm, P5が55cm, P6は30cmである。

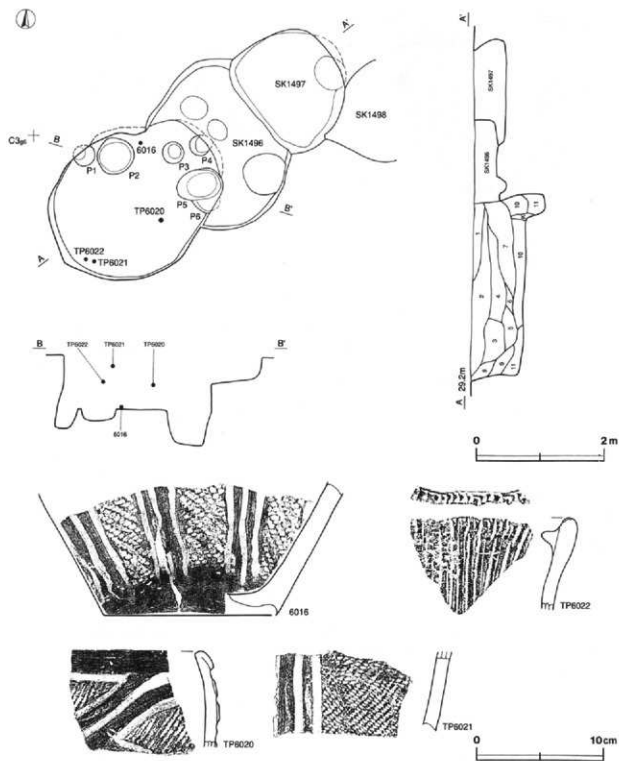
**覆土** 11層に分層される。第8・9・11層は壁が直立する西壁側から堆積し、ロームブロックを多く含むことから、内傾する壁が崩落したものと考えられる。第1～7層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量	7 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック多量, 鹿沼パミスブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量	11 極暗褐色	ローム小ブロック中量
6 暗褐色	ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片204点, 剥片2点が, 覆土から出土している。6016の深鉢片は壁際の底面から出土している。

**所見** 時期は、底面から出土した6016の深鉢片から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第321図 第1495号土坑・出土遺物実測図

第1495号土坑出土遺物観察表 (第321図)

番号	種別	器種	口徑(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6016	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	[13.8]	胴部は沈線による3条一組の 懸垂文向を拵り活している。 地文はL状の単節縄文。	長石・石英	良好	に灰褐	底面	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	地色	色調	出土位置	備考
TP6020	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	口縁部は泥濘が溜う2本一組の隆帯により支線を露出。地文は乱しの斜線地文。	長石・石英・雲母	良好	濃い茶	覆土中層	—
TP6021	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	胴部は辻縁による3条一組の隆帯文脈を帯り着している。地文は乱しの平野縄文。	長石・石英・雲母	良好	茶	覆土下層	—
TP6022	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	口縁部は半軟竹管による刺突文、胴部は半軟竹管による平行波線文。	長石・石英	良好	濃い茶	覆土中層	内蔵炭化物付

### 第1506号土坑（第322・323回）

位置 調査2区の北部、C3h0区。生居層群域に位置する。

重複関係 第1507号土坑に掘り込まれている。第1549号土坑との新旧関係は、出土土器から本跡が古い。

規模と形状 第1507・1549号土坑と重複し、東壁は崩落していると考えられるため、本来の開口部は復元できないが、現況では平面形は長径1.50m、短径1.32mの楕円形である。底は鹿沼バミス層の上面を底面とし、ほぼ平坦である。底部の平面形は長径1.96m、短径1.74mの楕円形である。確認面からの深さは62cmで、壁は東壁だけが直立する以外は内傾する。

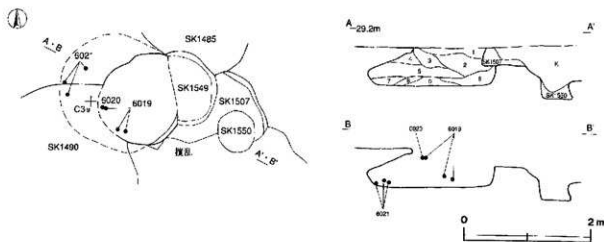
覆土 9層に分層される。第9層は床面中央部に凸状に堆積した土層で、開口部から流入した最下層である。第6～8層は崩落に堆積し、ロームブロックを多く含む土層で、内傾した壁の崩落土と考えられる。第1～5層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

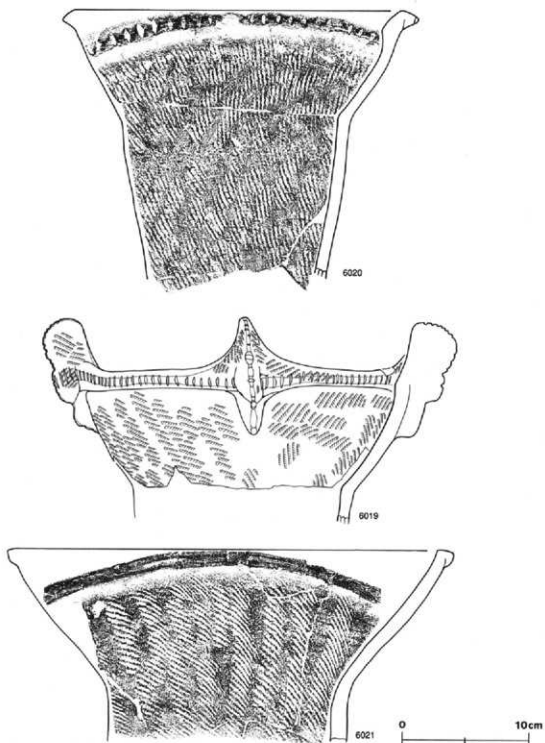
- |       |                   |       |                   |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量   | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック中量、炭化物微量  |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量   | 8 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子少量  |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量   | 9 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量  |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物微量    |       |                   |

遺物出土状況 縄文土器片121点が出土している。遺物は覆土中層から上層にかけて廃棄されたような状態で出土している。6019・6020の深鉢は覆土上層から、6021の深鉢は覆土下層（第7層）から出土している。

所見 土器の多くは覆土中層から上層にかけて廃棄されたような状態で出土していることから、東壁が崩落した直後に廃棄されものと考えられる。時期は、遺構の新旧関係や出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第322図 第1506号土坑実測図



第323図 第1506号土坑出土遺物実測図

第1506号土坑出土遺物観察表 (第323図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6019	縄文土器	深鉢	[28.3]	(16.1)	—	4単位の山形状把手。口唇部直下にキザミを有する隆帯文。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土上・中層	スス付着
6020	縄文土器	深鉢	[25.7]	(21.5)	—	口唇部直下にキザミを有する隆帯文。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	上半スス付着
6021	縄文土器	深鉢	[35.0]	(15.4)	—	口唇部直下に隆帯文。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・雲母・針状鉱物	普通	にぶい陶	覆土下層	上半スス付着

### 第1511号土坑（第324～327図）

**位置** 調査2区の北部，C3区5区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1512号土坑の南西側を掘り込み，第1518号土坑に南東側を掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は，現状では長径2.20m，短径1.60mの楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.50m，短径1.94mの楕円形である。確認面からの深さは54cmである。壁は内傾して立ち上がり，土層では第1512号土坑と重複している北東壁だけが直立することが確認されている。

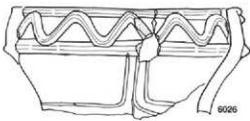
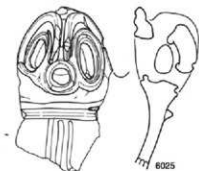
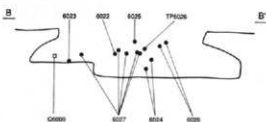
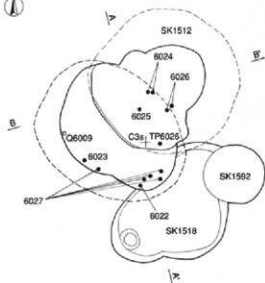
**覆土** 5層に分層される。第5層は床面の中央部に凸状に堆積しているローム小ブロックを多量に含む土層で，一度に堆積した状況から人為堆積と考えられる。第1～4層はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                   |       |                   |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物微量    | 4 黒褐色 | ローム小ブロック中量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック多量        |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |       |                   |

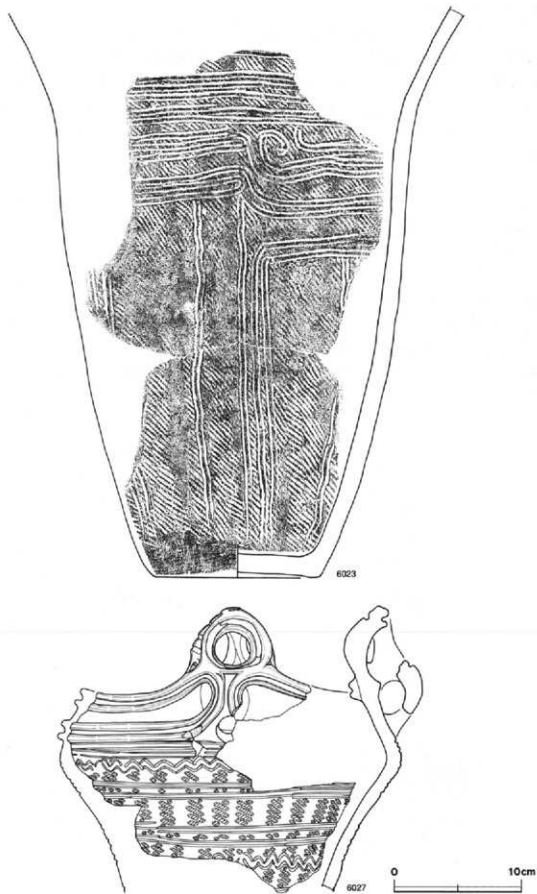
**遺物出土状況** 縄文土器片114点，磨製石斧1点が出土している。主な遺物は第5層上面付近の覆土中層あるいは第5層が堆積していない壁際の底面付近から廃棄されたような状態で出土している。6022・6023の深鉢は壁際の覆土下層から横位の状態で出土している。

**所見** 遺物の多くは第5層が堆積した後に廃棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。

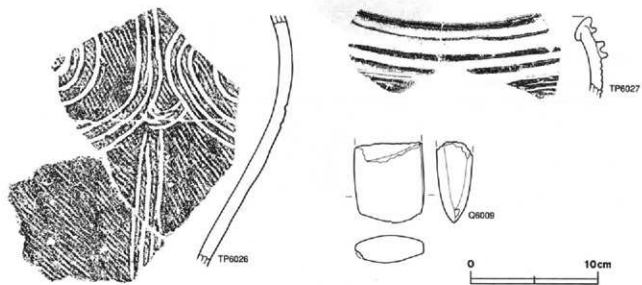
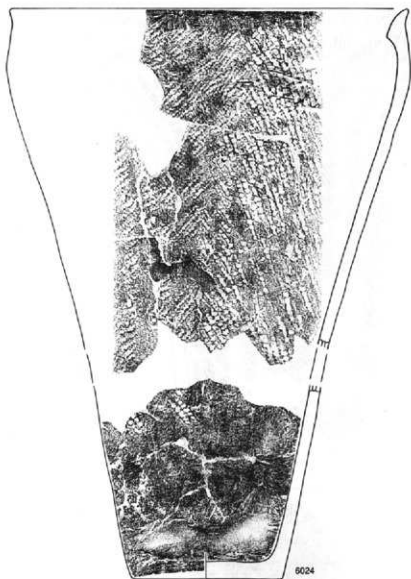


第324図 第1511号土坑・出土遺物実測図

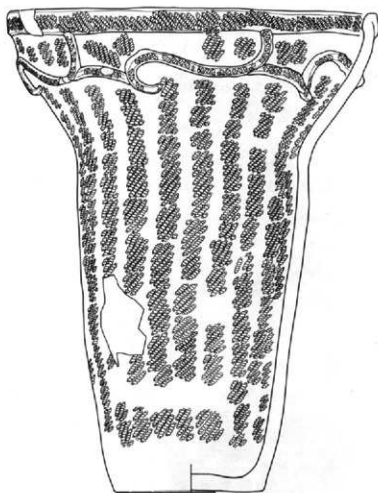




第325图 第1511号土坑出土遗物实测图(1)



第326图 第1511号土坑出土遗物实测图(2)



6022

0

10cm



第327図 第1511号土坑出土遺物実測図(3)

第1511号土坑出土遺物観察表(第324~327図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6022	縄文土器	深鉢	28.6	38.0	11.6	口縁部は隆帯による横S字状文。L Rの単節縄文を隆帯上は横方向に、それ以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土下層	底部測代表 P L 50
6023	縄文土器	深鉢	—	(44.5)	13.1	胴部は平軌竹管による平行波線文で文様を構成。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
6024	縄文土器	深鉢	[31.4]	[45.0]	11.9	R LとL Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土下層	
6025	縄文土器	深鉢	—	(13.2)	—	縦線状把手。口縁部と頸部の境に隆帯文。頸部は波線文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
6026	縄文土器	深鉢	[17.8]	(8.5)	—	口縁部と頸部の境に隆帯文。口縁部は隆帯による波状文。頸部は波線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土中層	P6025 と同一 製体

番号	品別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	施産	色調	出土位置	備考
6027	縄文土器	深鉢	[23.2]	(22.8)	—	裏縁周子に内縁部に沈線を有する浅帯文。胴部は平紋竹管による平行沈線文。I.Rの半環様文。	粘土・石灰	普通	黒褐色	覆土中層	
TP6026	縄文土器	深鉢	—	(20.6)	—	胴部は沈線により文様を呈出。I.Rの半環様文と平紋竹管による平行沈線文を有する。	粘土・石灰	普通	橙	覆土中層	
TP6027	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	上縁部は青に沈線を有する浅帯文と平紋竹管による平行沈線文を有している。	粘土・石灰	普通	に濃い赤褐色	覆土上	

番号	品別	計測値				材質	号	備考	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
Q6009	青磁石片	(6.3)	5.4	2.8	(153.3)	砂	型	器体破断不全	覆土下層	

### 第1512号土坑 (第328～330函)

**位置** 調査2区の北部、C36区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1511号土坑に南西部を掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は第1511号土坑に掘り込まれているため、南西部は残存していないが、現状から径1.12m程度の円形と推定される。底は泥溜りバミス層の上面を底面とし、ほぼ平坦である。確認面からの深さは72cmである。壁は下位からくびれ部にかけて内傾し、くびれ部から上位にかけては直立する。底面からくびれ部までの高さは、54cmである。

**覆土** 上位から中位にかけて第1511号土坑に掘り込まれているため、確認できた土層は下位に堆積している2層である。最下層の第2層はローム小ブロックと炭化物を含む土層で、遺物が集中して出土していることから、遺物の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

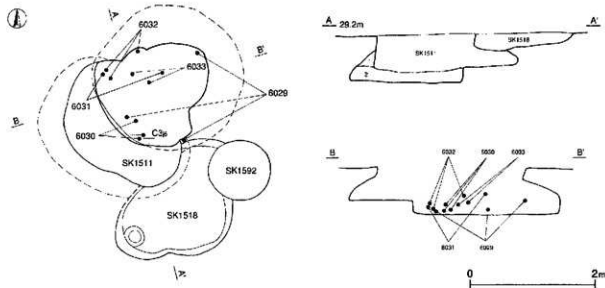
#### 土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック散在

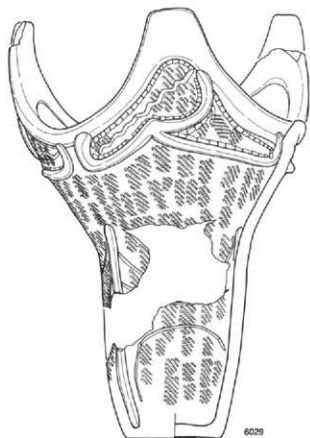
2 極砂褐色 ローム小ブロック中量、炭化物散在

**遺物出土状況** 縄文土器片126点、石核1点が覆土下層から出土している。6029・6030の深鉢、6031の深鉢片、6032の浅鉢片、6033の鉢片は、いずれも廃棄されたような状態で出土している。

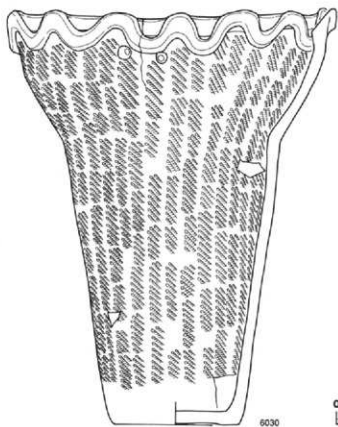
**所見** 第2層に遺物の集中がみられ、一括廃棄されたことがうかがわれる。時期は、廃棄された上層から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第328図 第1512号土坑実測図



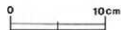
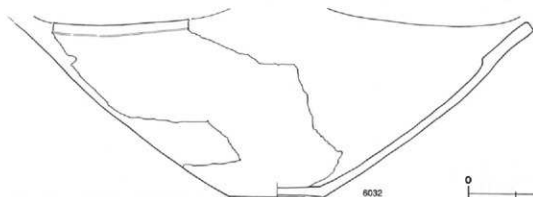
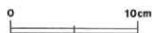
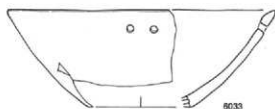
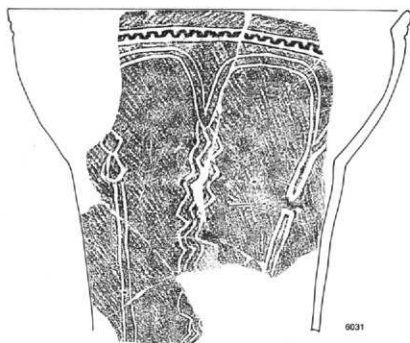
6029



6030



第329图 第1512号土坑出土遗物实测图(1)



第330図 第1512号土坑出土遺物実測図(2)

第1512号土坑出土遺物観察表(第329・330図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6029	縄文土器	深鉢	[22.9]	34.0	7.7	口縁部は結節沈線文が沿う隆帯文。胴部は隆帯により縦位に4分劃。沈線による上下対向弧線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土下層	上半ス ス附着 P L50
6030	縄文土器	深鉢	24.7	32.7	10.1	口唇部直下は隆帯による点状文。地文はL Rの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	上半ス ス附着 P L50
6031	縄文土器	深鉢	[31.8]	(25.5)	—	口唇部直下は交互刺突による連続コの字状文。以下は沈線文。地文はL Rの単節縄文。	長石・石英・雲母	良好	黒	覆土下層	
6032	縄文土器	浅鉢	(52.6)	(18.8)	10.0	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黒	覆土下層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6033	縄文土器	鉢	[21.2]	7.6	[7.9]	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土下層	内・外面赤彩

### 第1514号土坑（第331図）

**位置** 調査2区の北部，C3f7区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第11号井戸に掘り込まれている。第1503・1538・1547号土坑と重複するが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は，長径2.36m，短径2.20mのほぼ円形である。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは64cmである。壁は一部が外傾するが，ほとんどは直立している。ピットは4か所で，いずれも壁際に位置している。ピットの深さは，P1が41cm，P2が34cm，P3が43cm，P4が24cmである。

**覆土** 2層に分層される。ほぼ水平に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

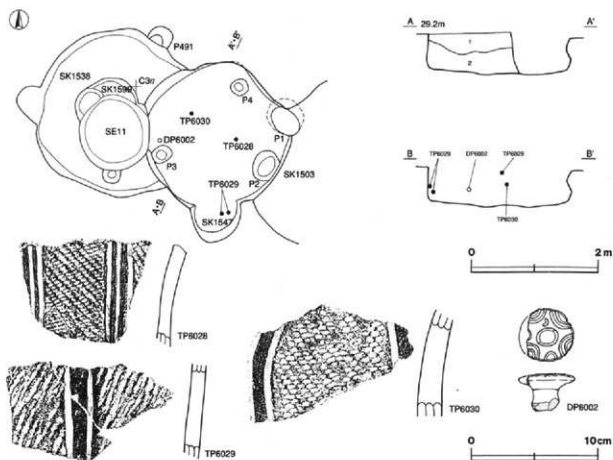
#### 土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム小ブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片11点，土製耳飾1点が出土している。遺物は，第1層の下部から第2層の上部にかけて出土している。なお，TP6029は，第1547号土坑の遺物である可能性がある。

**所見** 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第331図 第1514号土坑・出土遺物実測図

第1514号上坑出土遺物観察表 (第331回)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	口径(cm)	文様の特徴	絵土	土成	色	質	出土位置	備考
TP6028	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	胴部は沈線による3条一組の縦文を帯り出す。短文はL Rの基線縮文。	長石・石英	良好	暗赤褐	—	腹上...層	—
TP6029	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	胴部は沈線による帯り出す。短文はL Rの基線縮文を帯り出す。短文はL Rの基線縮文を帯り出す。短文はL Rの基線縮文を帯り出す。	長石・石英・雲母	良好	暗赤褐	—	腹上...層	—
TP6030	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	胴部は沈線による帯り出す。短文はL Rの基線縮文を帯り出す。短文はL Rの基線縮文を帯り出す。短文はL Rの基線縮文を帯り出す。	長石・石英・雲母	良好	暗赤褐	—	腹上...層	—

番号	器種	計測値				出土・産地	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)				
DP6002	刀 削	4.1	[4.4]	2.9	(30.1)	長石・石英 焼灰	沈線により文様を描出。	腹上...層	P.L.58

第1526号土坑 (第332・333回)

位置 調査2区の北部、C3j9区。住居跡群域に位置する。

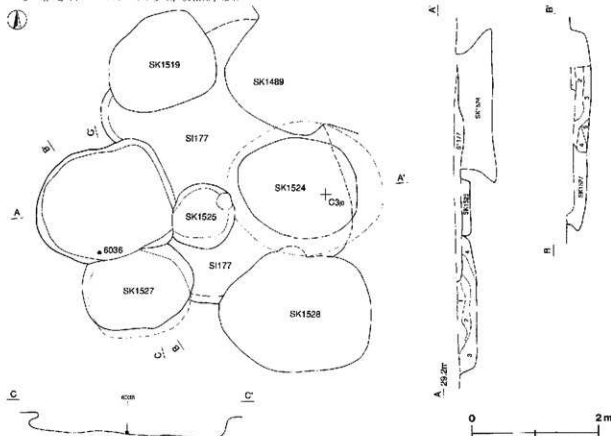
重複関係 第1527号土坑を掘り込み、第177号住居に東側上面を掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、現状では長径2.18m、短径1.80mの不整楕円形である。底面はほぼ平坦で、砂礫面からの深さは30cmである。壁は外傾して立ち上がる。

覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量    | 4 黒褐色 ローム塊少量          |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 砂礫層内 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |                       |

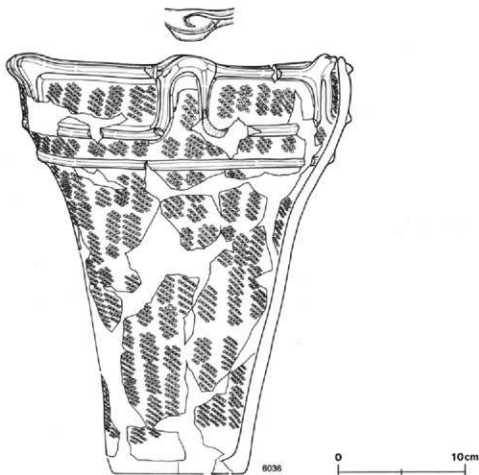


第332図 第1526号土坑実測図



**遺物出土状況** 縄文土器片44点が出土している。6036の深鉢は底面から横位の状態で出土している。

**所見** 時期は、底面から出土した6036の深鉢から中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第333図 第1526号土坑出土遺物実測図

第1526号土坑出土遺物観察表（第333図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6036	縄文土器	深鉢	25.3	33.1	[10.4]	口唇部外面に渦巻文を有する突起。口縁部は隆帯により文様を描出。L R Lの複列縄文。	長石・石英	普通	にぶい黒	底面	

#### 第1536号土坑（第334・335図）

**位置** 調査2区の北部、C3ⅱ6区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1537号土坑の東側を掘り込んでいる。第1584号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は楕円形と推定され、規模は長径2.45m、短径1.65mである。底は庵沼バミス層上面を底面とし、ほぼ平坦であるが、第1537号土坑の覆土を底面とする範囲ではわずかに沈んでいる。底面の平面形は長径2.62m、短径1.96mの楕円形である。確認面からの深さは92cmである。壁は崩落していると考えられる北壁以外は内傾する。

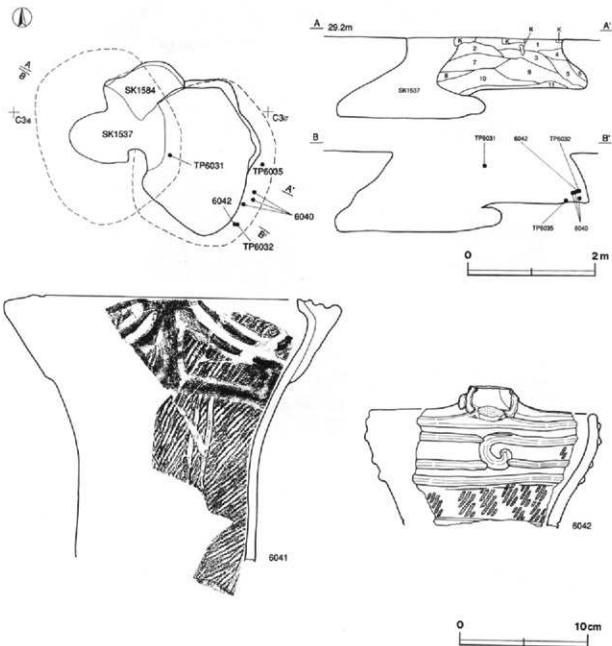
**覆土** 11層に分層される。第9～11層はローム粒子を多く含む褐色土で、底面中央に凸状に堆積していることから、短期間に埋め戻された人為堆積と考えられる。第1～8層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

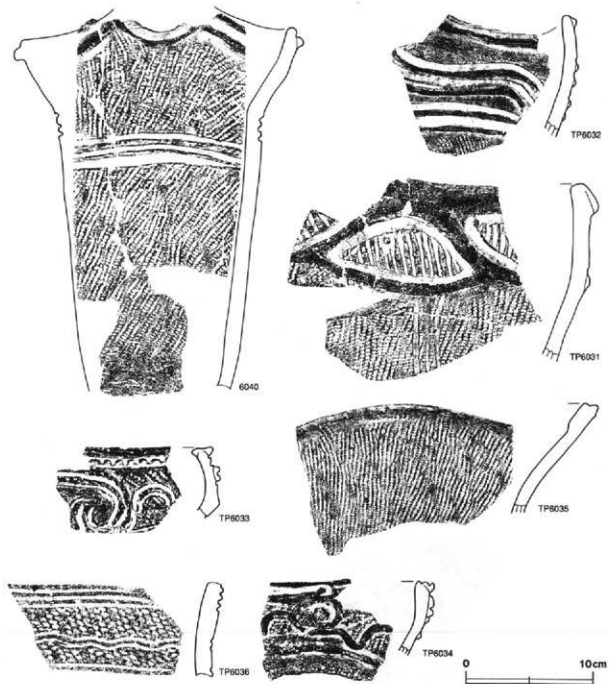
- |        |                    |       |                    |
|--------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量            | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量  |
| 2 黒褐色  | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色  | ローム小ブロック・炭化粒子微量    | 9 褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量  |
| 4 黒褐色  | ローム小ブロック少量         | 10 褐色 | ロームブロック中量          |
| 5 黒黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量  | 11 褐色 | ローム小ブロック中量         |
| 6 暗褐色  | ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子微量 |       |                    |

遺物出土状況 縄文土器片45点, 磨製石斧片1点が出土している。遺物は壁際の覆土中層に集中して出土している。6040の深鉢は, 覆土中層の下部から破片の状態で出土している。

所見 遺物が壁際の覆土中層の下部に集中して出土している状況は, それらの遺物が凸状に堆積した第9~11層上面に廃棄され, 壁際に転落したと考えられる。時期は, 覆土中層の下部から出土した6040の深鉢から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第334図 第1536号土坑・出土遺物実測図



第335図 第1536号土坑出土遺物実測図

第1536号土坑出土遺物観察表 (第334・335図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6040	縄文土器	深鉢	21.1	(30.2)	—	口縁部直下に隆帯を帯りしている。R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色に赤い褐	覆土中層	P L 49
6041	縄文土器	深鉢	[20.0]	(20.8)	—	口縁部は渦巻文を有する突起を起点に2本一組の隆帯文。地文はR Lの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	に赤い褐	覆土	上半ス ス付者
6042	縄文土器	深鉢	[18.0]	(10.1)	—	口縁部は隆帯文。施文はR Lの単筋縄文。	長石・石英	普通	灰褐色	覆土中層	
TP6031	縄文土器	深鉢	—	(14.2)	—	口縁部は隆帯文。区画文内は縦位の沈線文。胴部は比喩による螺旋文。施文はR Lの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐色	覆土上層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色	高	出土位置	備考
TP6032	縄文土器	深鉢	—	(9.8)	—	1段帯に2本・1本の隆帯による彫刻の字状文。沈線を含む隆帯により抽出された半環状文。	灰石・石英	普通	黒褐色	—	覆土中層	—
TP6033	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	1段帯に交差斜突による彫刻の字状文。沈線を含む隆帯により抽出された半環状文。	灰石・石英	普通	黒褐色	—	覆土上層	—
TP6034	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	1段帯に隆帯による沈線文。R.Lの半環状文を縦方向に施す。	灰石・石英	普通	黒褐色	—	覆土上層	—
TP6035	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	R.Lの半環状文を縦方向に施す。	灰石・石英	普通	黒褐色	—	覆土中層	—
TP6036	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	半環状文による平行沈線文を施している。L.Lの半環状文を縦方向に施す。	灰石・石英	普通	黒褐色	—	覆土上層	—

### 第1537号土坑 (第336・337図)

位置 調査2区の北部、C36区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1536号土坑に灰壁を掘り込まれている。第1584号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。  
規模と形状 開口部の平面形は、第1536号土坑に掘り込まれているため、長径0.94m、短径0.82mの楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.70m、短径2.20mの楕円形である。確認面からの深さは128cmである。壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がる。くびれ部より上位はほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは平均で98cmである。

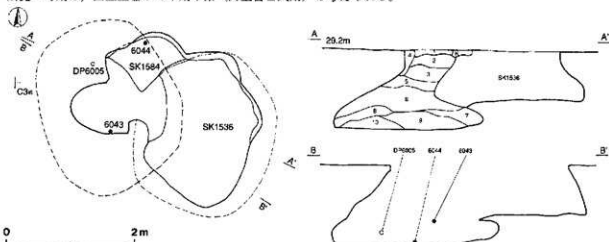
覆土 10層に分層される。第9・10層は、ローム粒子を多く含む褐色土で、床面中央に凸状に堆積していることから、短期間に埋められた土層と考えられる。第1～8層はほぼ平行に堆積していることから、それらの層は自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

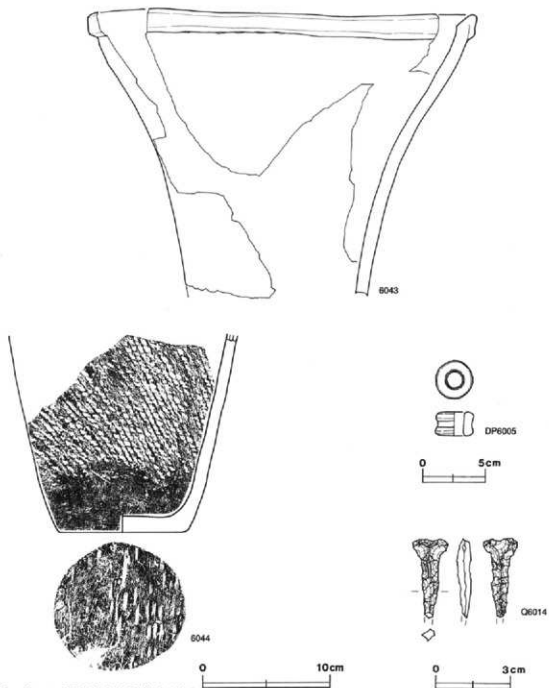
- |       |                    |       |                                |
|-------|--------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・焼沼パミス小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量、焼沼パミス小ブロック微量        |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化した微塵  | 8 黒褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子微量              |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量          | 9 褐色  | ローム粒子・焼沼パミス小ブロック少量             |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量     | 10 褐色 | ローム粒子・焼沼パミス粒子少量                |

遺物出土状況 縄文土器片76点、土製耳飾1点、石鏃1点が出土している。6043の深鉢は覆土中層(第6層)から、6044の深鉢片は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第336図 第1537号土坑実測図



第337図 第1537号土坑出土遺物実測図

第1537号土坑出土遺物観察表 (第337図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6043	縄文土器	深鉢	29.8	(22.9)	—	無文で、研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙褐色	覆土中層	底部 断代前
6044	縄文土器	深鉢	—	(15.7)	10.0	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐色	底面	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP6005	耳飾	3.0	3.0	1.9	15.7	長石・石英・雲母	中央部に円孔。無文。	覆土下層	P L 58

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6014	石 皿	(3.1)	1.4	0.6	(1.4)	チャート	両面調整。頸縁に押圧淵調整を施す。	Ⅷ 土	P L62

### 第1539号土坑 (第338・339図)

位置 調査2区の北部, C3j4区。住居跡群域に位置する。

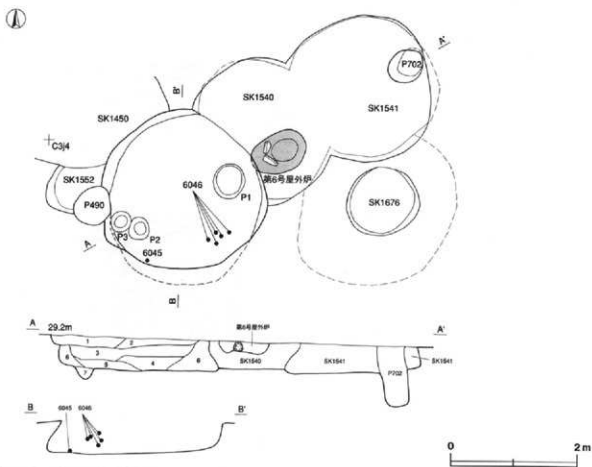
重複関係 第1540号土坑の西部を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は、北半の内傾する壁が崩落しているため本来の規模は不明であるが、現状では径2.52m程度の円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.70m, 短径2.34mの楕円形である。確認面からの深さは48cmである。壁は崩落している北壁付近以外は内傾する。ピットは3か所で壁際に位置している。ピットの深さは、P1が46cm, P2が21cm, P3が55cmである。

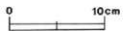
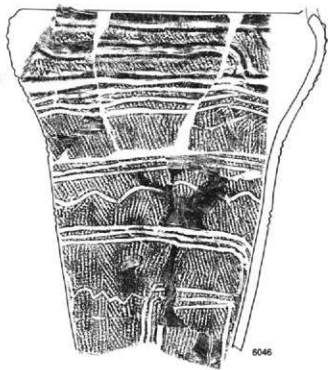
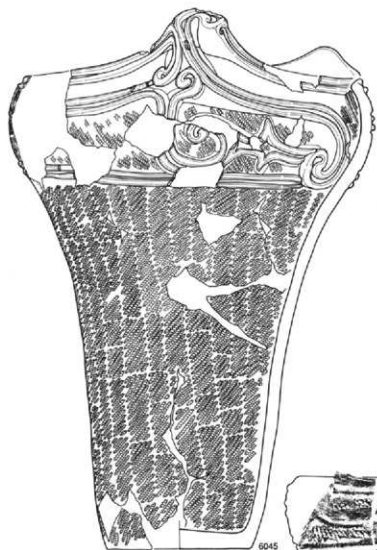
覆土 7層に分層される。第7層はP3の覆土上層である。第4・5層はロームブロックを多く含み、内傾する壁が崩落している北西壁側から堆積していることから、崩落土と考えられる。第1～3層は平行に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                    |       |                         |
|-------|--------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量       | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭屑バミス粒子微量    |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 黒色  | ローム小ブロック・焼土粒子微量         |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量  |       |                         |



第338図 第1539号土坑実測図



第339图 第1539号土坑出土物实测图

**遺物出土状況** 縄文土器片94点が覆土から出土している。6045の深鉢は底面から、6016の深鉢は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、6045の深鉢が底面から出土していることから中期後葉（加曾利 F. I 式期）と考えられる。

#### 第1539号土坑出土遺物観察表（第339図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色澤	出土位置	備考
6045	縄文土器	深鉢	26.1	42.4	11.2	眼地状凹凸、縁部は管に沈澱物を含む際帯と隆帯による気泡状文、底文はRしの半地帯文。	長石・石英	普通	濃い赤褐	底面	トナリス付着 P. I. 90
6016	縄文土器	深鉢	31.0	36.0	—	縁高は2本一箇の隆帯によるクランク文、胴部は沈澱物による気泡状文、底文はRしの半地帯文。	長石・石英	普通	濃い赤褐	覆土中層	

#### 第1541号土坑（第340・341図）

**位置** 調査2区の北部、C315区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1540号土坑の東部を掘り込んでおり、第702号ピットに掘り込まれている。第1676号土坑との新旧関係は出土土器から本跡が新しい。

**規模と形状** 開口部の平面形は、現状では径2.34mの円形である。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは43cmである。壁は崖壁付近が外傾する以外は内傾する。

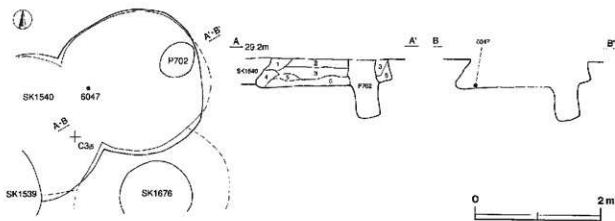
**覆土** 6層に分層される。第6層はロームブロックを多く含み、壁が外傾する南壁側から堆積していることから、人為堆積と考えられる。それ以外の層は平行に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

- |       |                   |       |                        |
|-------|-------------------|-------|------------------------|
| 1 圧縮色 | ローム小ブロック中量、炭化粒子微量 | 4 粘褐色 | ロームブロック少量              |
| 2 粘褐色 | ローム小ブロック少量        | 5 粘褐色 | ローム小ブロック中量、炭化粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量        | 6 粘褐色 | ローム小ブロック中量             |

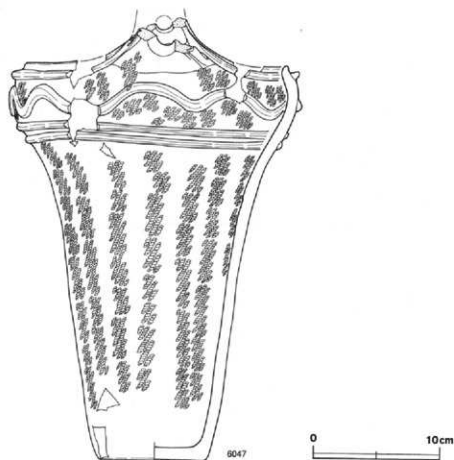
**遺物出土状況** 縄文土器片19点、石核2点が出土している。6047の深鉢は底面から横位の状態で出土している。

**所見** 時期は、6047の深鉢が底面から出土していることから中期後葉（加曾利 E. I 式期）と考えられる。



第340図 第1541号土坑実測図





第341図 第1541号土坑出土遺物実測図

第1541号土坑出土遺物観察表（第341図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6047	縄文土器	深鉢	20.4	(34.6)	8.5	腹縁状把手。口縁部は隆帯による波状文。R Lの単距縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐色	底面	PL51

#### 第1550号土坑（第342・343図）

**位置** 調査2区の北部、C310区。住居跡群域に位置する。

**確認状況** 第1507号土坑の底面で確認したが、土層が攪乱を受けていたために第1507号土坑のビットかどうかの確認ができなかった。本跡は第1507号土坑のビットである可能性もあるが、第1507号土坑から出土する遺物は少なく、本跡には多いことから、別の遺構と判断した。

**規模と形状** 開口部の平面形は、長径0.68m、短径0.57mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径0.64m、短径0.61mのほぼ円形である。壁は直立するが、東壁のみは内傾している。深さは第1507号土坑の底面から48cmである。

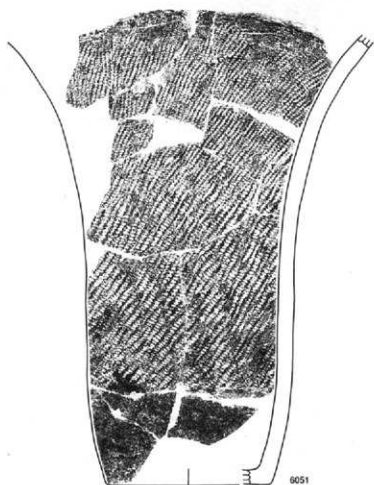
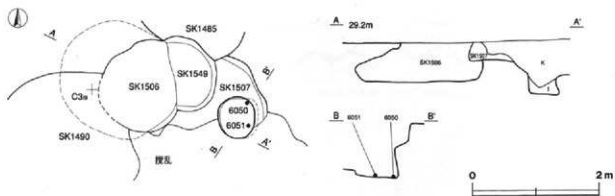
**覆土** 攪乱を受けているため、1層だけを確認する。

**土層解読**

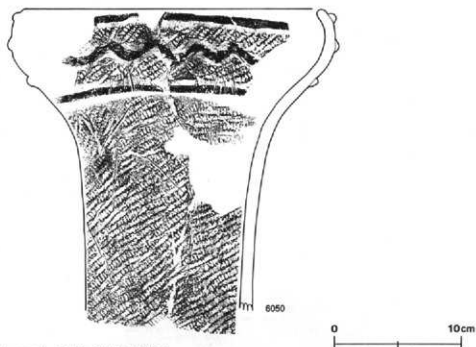
1 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片30点が覆土から出土している。6050の深鉢は横位の状態で、6051の深鉢の下半部片は逆位の状態で、いずれも底面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第342图 第1550号土坑·出土遗物实测图



第343図 第1550号土坑出土遺物実測図

第1550号土坑出土遺物観察表 (第342・343図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6050	縄文土器	深鉢	[23.2]	(23.6)	—	口縁部は隆帯による波状文。 R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にがい橙 黒褐	底面	
6051	縄文土器	深鉢	—	(35.5)	[13.0]	R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐 にがい橙	底面	

### 第1559号土坑 (第344・345図)

**位置** 調査2区の北部, D2 g9区。住居跡群の外周域に位置する。

**規模と形状** 開口部の平面形は, 径1.67mの円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は径1.75m程度の円形である。壁は南壁が直立する以外は, わずかに内傾する。深さは99cmである。ピットは1か所で, P1は北東壁際に位置しており, 深さは50cmである。

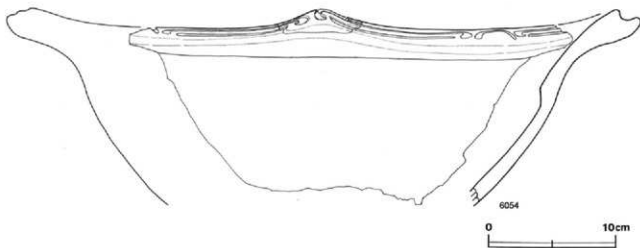
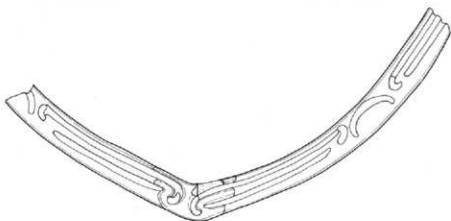
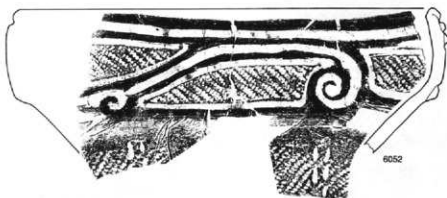
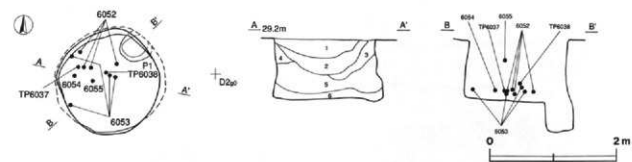
**覆土** 6層に分層される。第2・5・6層はロームブロックを多く含み, 遺物が廃棄されたような状態で出土していることから, 廃棄活動による人為堆積と考えられる。第1・3・4層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

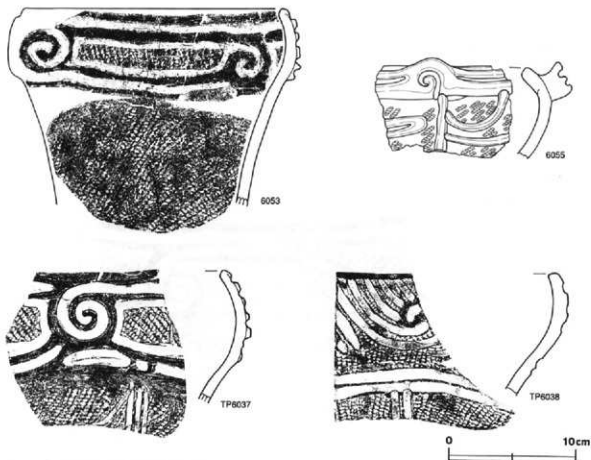
- |       |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量               | 4 暗褐色 | ローム粒子微量               |
| 2 褐色  | ローム粒子・炭屑パミス粒子中量       | 5 褐色  | ロームブロック多量, 炭化粒子微量     |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 炭屑パミス粒子微量 | 6 褐色  | ローム小ブロック中量, 炭屑パミス粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片188点が出土している。遺物は覆土上層(第2層)と覆土下層(第5層)に集中し, 廃棄されたような状態で出土している。6052・6053の深鉢と6054の浅鉢は覆土下層から, 6055の深鉢片は覆土上層から出土している。

**所見** 遺物の出土状況から二度の廃棄活動が行われたことがうかがわれる。時期は, 覆土下層から出土した土器から中期後葉(加曾利EⅠ式期)と考えられる。



第344图 第1559号土坑·出土遺物実測図



第345図 第1559号土坑出土遺物実測図

第1559号土坑出土遺物観察表 (第344・345図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6052	縄文土器	深鉢	[32.8]	(11.5)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。頸部は2条一組の結節沈線による懸垂文。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
6053	縄文土器	深鉢	[20.5]	(15.5)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。R Lの単節縄文を口縁部は横方向に、頸部は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙黒褐	覆土下層	
6054	縄文土器	浅鉢	[46.0]	(15.6)	—	口縁部は沈線により掘出している。胴部は無文で、研磨している。	長石・石英	良好	にぶい褐	覆土下層	赤彩痕
6055	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	口縁部の上段には渦巻状の突起を有する隆帯を巡らす。口縁部は隆帯で突出。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
TP6037	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は沈線による懸垂文。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP6038	縄文土器	深鉢	—	(9.7)	—	口縁部は沈線により文様を突出。胴部は沈線による懸垂文。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい赤褐	覆土下層	

### 第1581号土坑 (第346図)

位置 調査2区の北部、D2 g0区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第181号住居に南側を掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.41m、短径2.16mの楕円形である。底面は平坦で、平面形は長径2.26m、短径2.01mの楕円形である。壁は外傾し、深さは34cmである。ピットは3か所、P1とP3は壁寄

りに、P2は壁際に位置している。ピットの深さは、P1が52cm、P2が14cm、P3が45cmである。

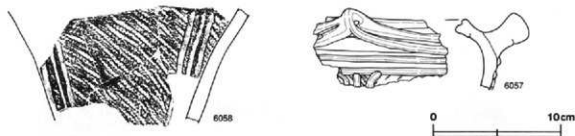
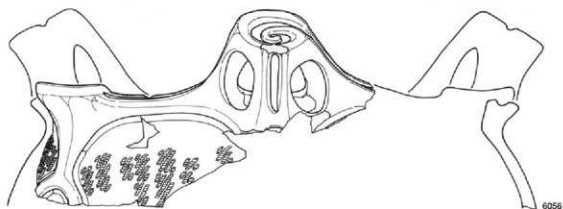
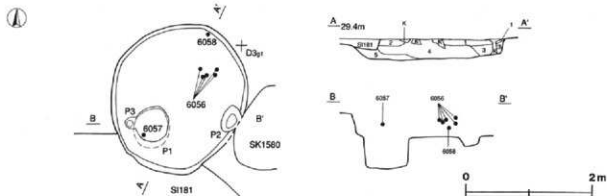
**覆土** 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                        |       |                   |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック微量、            | 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量      | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量  |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・糞沼バミズ粒子微量 |       |                   |

**遺物出土状況** 縄文土器片387点が出土している。6056・6057・6058の深鉢片は、いずれも覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、覆土中層から出土した土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第346図 第1581号土坑・出土遺物実測図

第1581号土坑出土遺物観察表（第346図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6056	縄文土器	深鉢	[34.0]	(15.6)	—	屈曲状把手。把手頂部は隆帯による渦巻文。口縁部は比喩が合う隆帯文。施文は良しの単筋縄文。	長石・石英・雲母	良好	明赤褐	覆土中層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6057	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	渦巻状の突起を有する隆帯を帯びている。地文は蒸糸文を施している。	長石・石英・雲母	良好	にぶい橙	覆土中層	
6058	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	3条一組の懸垂文周を磨り消している。L.Rの扉脚縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい橙	覆土中層	

### 第1600号土坑 (第347・348図)

**位置** 調査2区の北部、C3区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1601号土坑に東側を、第495号ピットに西側を掘り込まれている。

**規模と形状** 東壁が崩落しているため、開口部の平面形は長径1.14m、短径1.03mの楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.78m、短径1.50mの楕円形である。確認面からの深さは90cmである。壁は崩落している東壁以外は、内傾して立ち上がり、上位はほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは、平均で40cmである。

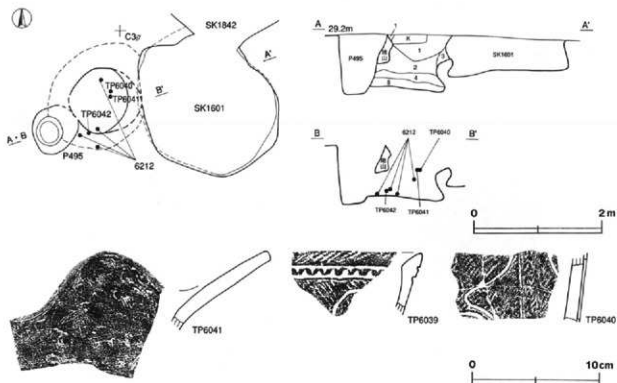
**覆土** 5層に分層される。第4層はロームブロックを多く含み、東壁が崩落していることから、崩落土と考えられる。第1・2層は黒褐色を呈し、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

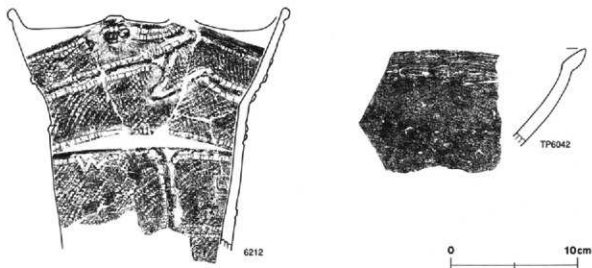
- |       |                   |       |                        |
|-------|-------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、底沼バミス小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒色  | ロームブロック少量、底沼バミス小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量         |       |                        |

**遺物出土状況** 縄文土器片105点が、主に底面から覆土中層にかけて廃棄されたような状態で出土している。6212の深鉢は底面から出土している。

**所見** 時期は、底面から出土した6212の深鉢から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第347図 第1600号土坑・出土遺物実測図



第348図 第1600号土坑出土遺物実測図

第1600号土坑出土遺物観察表 (第347・348図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6212	縄文土器	深鉢	[21.6]	(19.2)	—	口縁部は隆帯に沿った結節沈線文。胴部は隆帯によるV字状文。地文はR Lの単節縄文。	石英・長石	普通	黒褐色	底面	
TP6039	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	口唇部直下に交互刺突による連続口の字状文を巡らしている。Lの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土	
TP6040	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	隆帯による懸垂文。沈線により文様を描出。0段多突によるR Lの単節縄文を縦方向に描文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐色	覆土上層	
TP6041	縄文土器	浅鉢	—	(6.5)	—	無文で、入念に研磨している。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐色	覆土上層	
TP6042	縄文土器	浅鉢	—	(7.6)	—	無文で、入念に研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土下層	内面赤影

#### 第1604号土坑 (第349図)

位置 調査2区の北部、D3j5区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第1605号土坑に南東側を掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、径2.29mの円形である。深さは85cmで、壁は北西壁が外傾する以外は内傾する。ピットは2か所です、いずれも壁際に位置している。ピットの深さは、P1が54cm、P2のが53cmである。

覆土 8層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

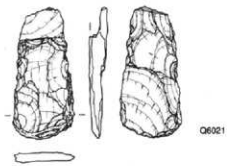
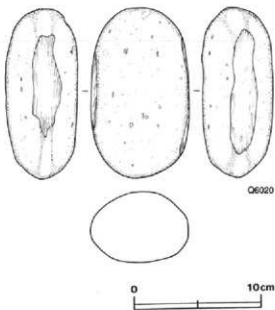
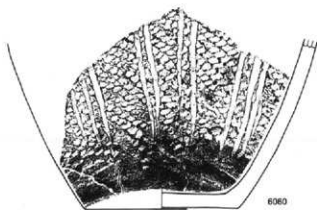
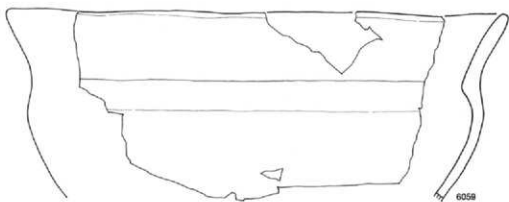
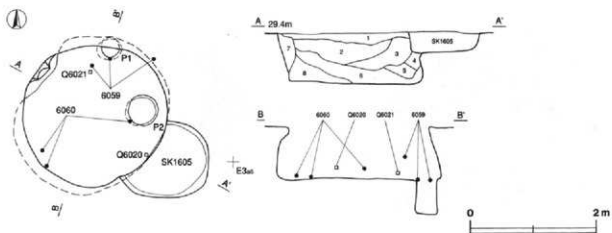
#### 土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	5	黒褐色	ローム粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子中量
3	黒褐色	ローム粒子微量、第1層より色調が明るい	7	暗褐色	ローム小ブロック少量
4	褐色	ローム粒子中量	8	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片92点、磨石1点、打製石斧1点が覆土から出土している。6059の鉢片と6060の深鉢片は散在する破片が接合したもので、いずれも覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。





第349图 第1604号土坑·出土遗物实测图

第1604号上坑出土遺物観察表 (第349回)

番号	種別	器種	口徑(cm)	器高(cm)	底径(cm)	支棟の特徴	胎土	焼成	色澤	出土位置	備考
6059	甕文土器	鉢	(38.6)	(15.0)	—	短文で、人念に磨削している。	長石・石英・雲母	良好	にぶい黄褐色	覆土下層	内・外面赤彩
6060	栴文土器	深鉢	—	(13.2)	12.2	沈線による栴垂文を施している。LRの複野縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい黄褐色	覆土下層	—

番号	器種	計量値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q4020	磨石	13.5	7.8	5.7	848.5	安山岩	西側縁に磨痕、	覆土下層	P.L.62
Q6021	打製石斧	10.3	4.7	1.4	72.8	粘板岩	割離による両面割痕後、刃部付近を局部研削、	覆土下層	—

第1608号土坑 (第350～353回)

位置 調査2区の北部、D3g2区。住居跡群域に位置する。

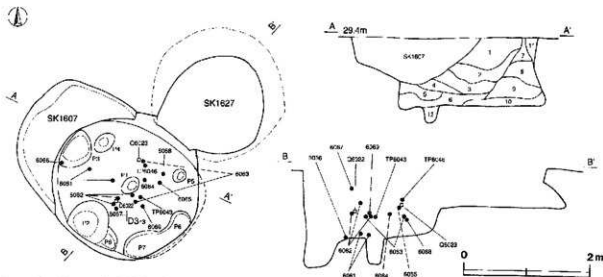
重複関係 第1627号土坑の南西側を掘り込み、第1607号土坑に西側を掘り込まれている。

規模と形状 閉じ部の平面形は長径2.36m、短径2.20mのほぼ円形である。底面は平坦で、底部の平面形は長径2.30m、短径2.00mの楕円形である。深さは110cmである。壁は北東壁が外傾する以外は、内傾あるいは直立する。ピットは8か所で、P1は中央部に、P2からP8は壁際に位置している。ピットの深さは、P1が41cm、P2が44cm、P3が52cm、P4が27cm、P5が36cm、P6が21cm、P7が31cm、P8が17cmである。

覆土 12層に分層される。第6～10層はロームブロックを多く含み、北東壁側から堆積していることから、内傾する壁の崩落上と考えられる。第2～4層からは散在した破片が接合する土器が多量に出上していることから、廃棄活動による人為堆積と考えられる。

土層解説

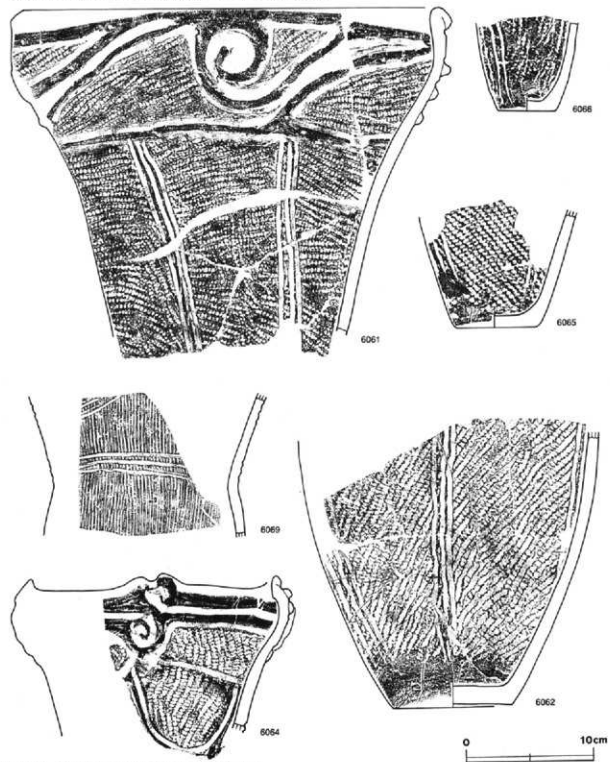
- |       |                        |        |                           |
|-------|------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量                | 7 黒褐色  | ローム粒子微量                   |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物微量         | 8 黒褐色  | ロームブロック中量、炭化物少量、焼治バミス粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物・焼治バミス粒子微量 | 9 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化物微量           |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量、焼治バミス粒子微量  | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・砂質粘土小ブロック微量 |
| 5 棕色  | ローム小ブロック少量             | 11 暗褐色 | ローム小ブロック中量                |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量          | 12 暗褐色 | ローム小ブロック少量                |



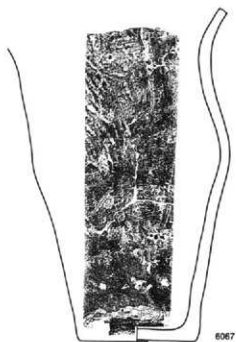
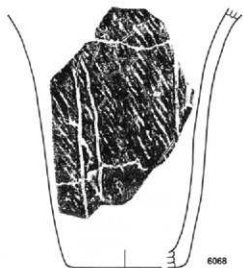
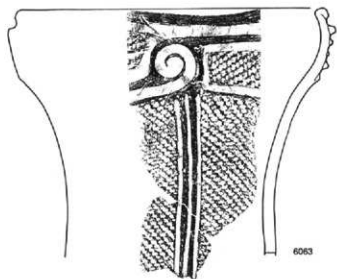
第350図 第1608号土坑実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片551点、石皿片1点、磨石1点、凹石片1点、石鏃1点が出土している。主な遺物は覆土上層（第2～4層）から廃棄されたような状態で出土している。6061・6066の深鉢は覆土下層から、6062～6065、6067～6069の深鉢片は覆土上層（第2～4層）から出土している。

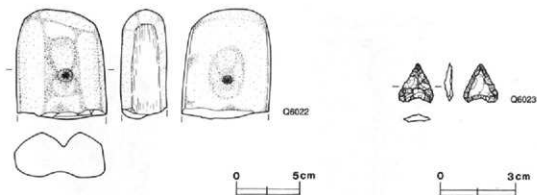
**所見** 覆土上層（第2～4層）に遺物の集中が見られ、一括廃棄された様相がうかがわれる。本跡の廃絶時期と覆土上層の堆積時期は、それらの出土土器からいずれも中期後葉（加曾利EⅡ式期）であり、本跡の廃絶から覆土上層が堆積するまでは短期間であったと考えられる。



第351図 第1608号土坑出土遺物実測図（1）



第352图 第1608号土坑出土遗物实测图(2)



第353図 第1608号土坑出土遺物実測図

第1608号土坑出土遺物観察表 (第351～353図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6061	縄文土器	深鉢	33.0	(25.9)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は3条一組の沈線による懸垂文。L Rの単節縄文を施している。	長石・石英	普通	灰褐	覆土下層	
6062	縄文土器	深鉢	—	(21.3)	9.5	3条一組の沈線による渦巻文を施している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上層	
6063	縄文土器	深鉢	[34.2]	(19.7)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は沈線による懸垂文を磨り消す。L R Lの複節縄文。	長石・石英	良好	黒褐	覆土上層	
6064	縄文土器	深鉢	[19.2]	(12.3)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は沈線文を磨り消す。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英	良好	灰褐	覆土上層	
6065	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	6.5	3条一組の沈線による懸垂文。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい褐	覆土下層	
6066	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	4.5	3条一組の沈線による懸垂文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい褐	覆土上層	P L 50
6067	縄文土器	深鉢	—	(26.0)	9.0	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	灰褐 にぶい褐	覆土上層	
6068	縄文土器	深鉢	—	(20.2)	[9.4]	2条一組の沈線による懸垂文。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐 にぶい褐	覆土上層	
6099	縄文土器	深鉢	—	(11.4)	—	頸部は3条一組の沈線による連弧文。磨面状工具による条線文。	長石・石英	普通	にぶい黄橙	覆土上層	
TP6043	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	—	2本一組の隆帯により文様を描出。R Lの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土上層	
TP6044	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	設頂部に隆帯による渦巻文を施している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	赤褐	覆土	
TP6045	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	3条一組の沈線による懸垂文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土	
TP6046	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	口縁部に円形突起文を巡らしている。磨面状工具による条線文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6022	磨石	(8.7)	7.2	3.5	(368.4)	砂岩	両側面に磨痕。凹石に併用。	覆土上層	P L 61
Q6023	石鏃	1.5	1.4	0.3	0.4	オパール	割片を素材。基部が湾入する。	覆土上層	P L 59

### 第1612号土坑 (第354・355図)

**位置** 調査2区の北部, D3 d2区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 規模がひとまわり大きい第1611号土坑の中心部を掘り込んでいる。

**規模と形状** 第1611号土坑の底面から確認した平面形は、長径1.96m、短径1.75mの楕円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは78cmで、壁は直立する。ピットは2か所で、いずれも壁際に位置している。ピットの深さは、P1が38cm、P2が18cmである。

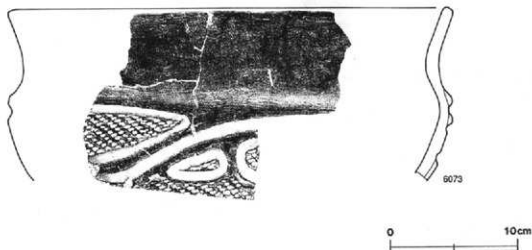
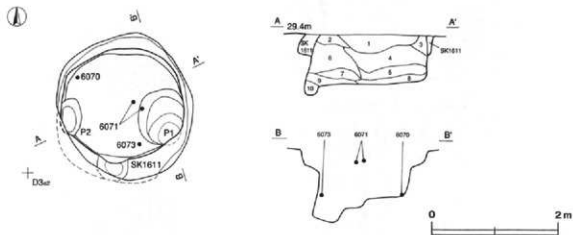
**覆土** 10層に分層され、第10層はP2の覆土である。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

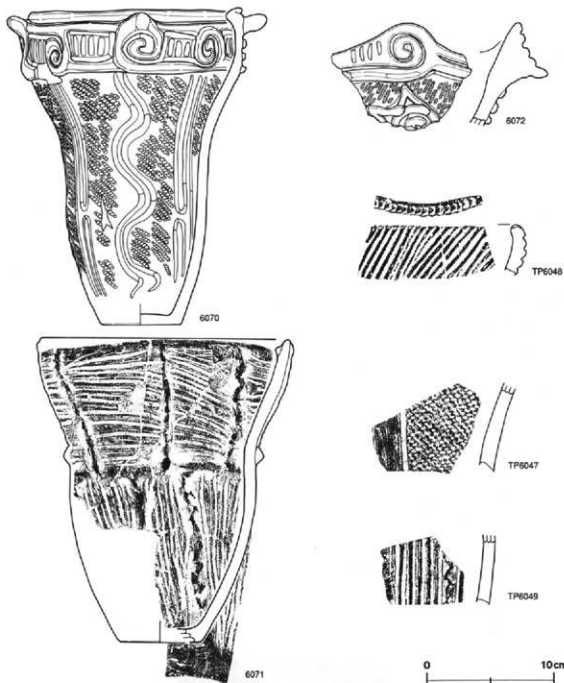
- |                               |                                |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物微量              | 6 暗褐色 ローム小ブロック・炭化物微量           |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物微量          | 7 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子微量            |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量                 | 8 暗褐色 ローム粒子少量、炭沼パミス粒子微量        |
| 4 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化物微量        | 9 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化物・炭沼パミス粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子微量 | 10 黒褐色 ローム粒子微量                 |

**遺物出土状況** 縄文土器片114点が出土している。6070の深鉢は底面から横位の状態で出土している。6071の曾利式土器の深鉢片は、覆土上層から廃棄されたような状態で出土している。

**所見** 時期は、底面から出土した6070の深鉢から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第354図 第1612号土坑・出土遺物実測図



第355図 第1612号土坑出土土物実測図

第1612号土坑出土土物観察表 (第354・355図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6070	縄文土器	深鉢	16.5	24.9	6.1	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はLRの半節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	上半ス入付着 P.L.50
6071	縄文土器	深鉢	[19.3]	24.0	[6.4]	頸部に隆帯文を巡らす、それ以外は交互に押圧された隆帯文。地文は半截竹管による平行沈線文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土上層	上半ス入付着 P.L.51
6072	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	成頂部直下に隆帯による渦巻文。口縁部は沈線が沿う隆帯文。地文はRLの半節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	—
6073	縄文土器	鉢	[34.0]	(13.7)	—	口縁部は無文。胴部上位は沈線が沿う隆帯文。地文はLRの半節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	—

番号	種類	器名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の枚数	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6047	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	浅鉢による器蓋文刷りを施している。LRLの放射線文を器方向に推文。	長石・石英	普通	黒	崖上	
TP6048	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	口唇部は平截竹管による刺突文。口縁部は平截竹管による平行放射線文。	長石・石英	普通	黒い橙	崖上	
TP6049	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	口唇部を平截竹管による刺突文。口縁部を平截竹管による平行放射線文。	長石・石英	普通	橙	崖上	

### 第1614号土坑 (第356・357図)

**位置** 調査2区の北部、D3 d3区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 第1613号土坑を掘り込み、第1639号土坑に上面を掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は、第1639号土坑に掘り込まれているため、現状では長径2.13m、短径1.72mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.01m、短径1.85mの楕円形である。確認面からの深さは44cmである。壁は内傾して立ち上がるが、南壁と北壁は崩落しており、外傾している。

**覆土** 3層に分層される。第2層はロームブロックを多く含み、内傾する壁が崩落したと考えられる北壁側から堆積していることから、崩落土と考えられる。

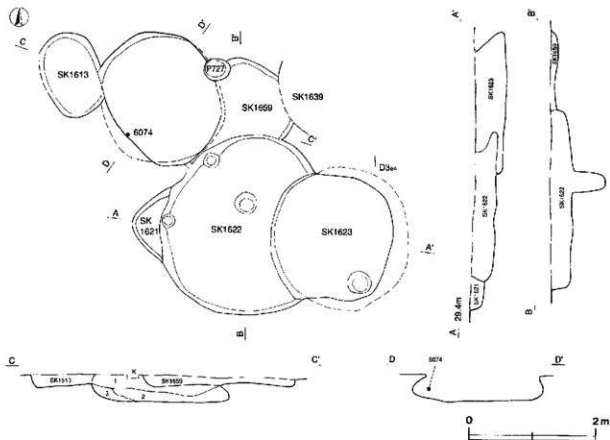
#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗棕色 ロームブロック中量

- 3 暗褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量

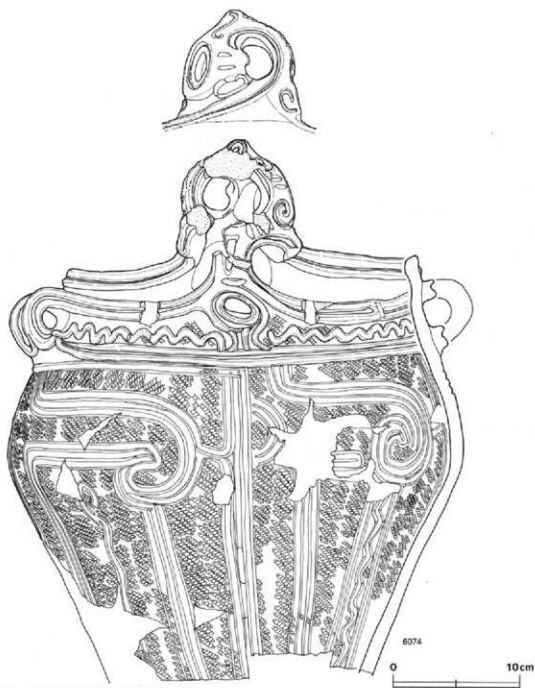
**遺物出土状況** 縄文土器片15点が出土している。6074の深鉢は東壁際の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、覆土下層から出土した6074の深鉢から中期後葉（加賀利EⅡ式）と考えられる。



第356図 第1614号土坑実測図





第357図 第1614号土坑出土遺物実測図

第1614号土坑出土遺物観察表（第357図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6074	縄文土器	深鉢	[27.0]	(42.4)	—	磨鏡状肥子。口縁部は沈線を有する段帯文。胴部は平截竹管による平行沈線文。し貝の単線縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	P L 51

第1622号土坑（第358図）

位置 調査2区の北部、D3e3区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第1621・1623・1659号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は、第1623号土坑と重複しているため、現状では径2.83mほどの円形と推定される。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは37cmである。壁は外傾しているが、土層断面では内傾することが確認されている。ピットは3か所で、P1は中央部に、P2とP3は壁際に位置している。ピットの深さは、P1が56cm、P2が33cm、P3が40cmである。

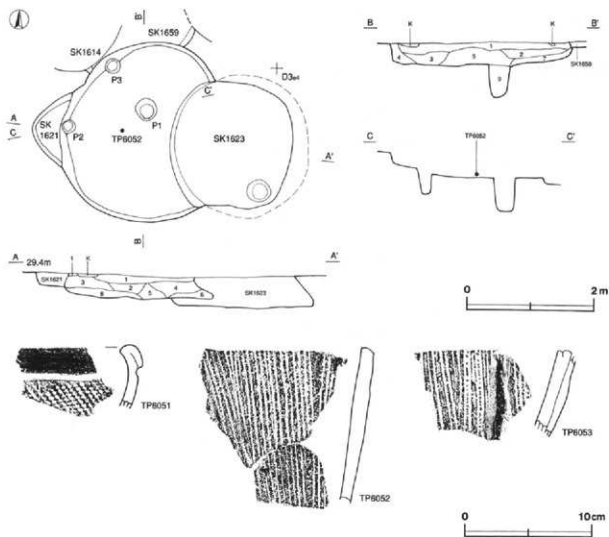
**覆土** 9層に分層される。第9層はP1の覆土である。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化物微量 | 6 黒褐色 ローム小ブロック中量         |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量        | 7 黒褐色 ロームブロック微量          |
| 3 黒褐色 ローム小ブロック中量       | 8 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量    |
| 4 黒褐色 ローム小ブロック多量       | 9 黒褐色 ローム小ブロック・塵沼パミス粒子少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック多量        |                          |

**遺物出土状況** 縄文土器片136点が出土している。TP6052・TP6053の深鉢片は曾利式土器で、TP6052は覆土下層から出土している。覆土から出土した土器は加曾利EⅡ・Ⅲ式土器と併行する時期の曾利式土器で、他時期の土器は出土していない。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ・Ⅲ式期）と考えられる。



第358図 第1622号土坑・出土遺物実測図

第1622号土坑出土遺物観察表 (第358図)

番号	類別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	支線の引数	胎土	焼成色調	土質	備考
TP6051	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	：器底外面を埋厚させ、点下に注染文を流らしている。L、R、Lの相間向文を縦方式に施文。	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	覆土	
TP6052	縄文土器	深鉢	—	(12.2)	—	：竹管による平行流線文を流している。	長石・石英	普通	覆土中層	
TP6053	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	：埋厚による懸下文、竹管竹管による平行流線文。	長石・石英	普通	にぶい黄	覆土

第1623号土坑 (第359～361図)

位置 調査2区の北部、D3 e3区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第1622号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、第1622号土坑に掘り込まれているため、現状では径1.98mの円形である。底面はほぼ平型で、平面形は長径2.29m、短径2.11mのはほぼ円形である。確認面からの深さは49cmで、壁は内傾して立ち上がる。ピットは1か所で、壁寄りに位置している。P1の深さは、11cmである。

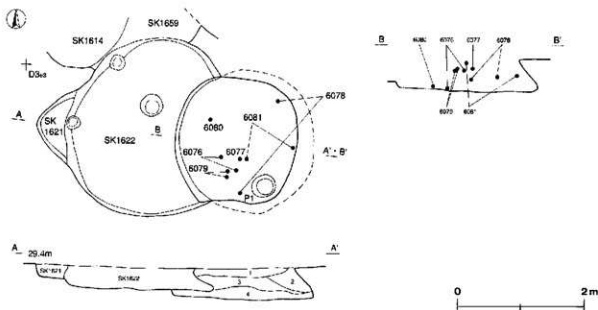
覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

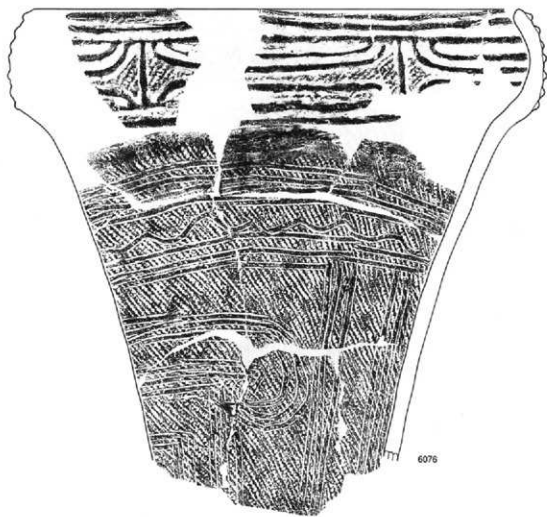
- |       |                   |       |                  |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 土褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量        |
| 2 黒色  | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片176点が出土している。出土土器の多くは覆土中層(第3層)から発掘されたような状態で出土している。6076～6079の深鉢片は覆土中層(第3層)から出土している。

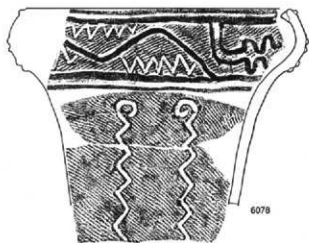
所見 覆土中層(第3層)に遺物の集中がみられ、一括発掘された様相がうかがわれる。本跡の廃絶時期は明確にすることはできないが、覆土中層の堆積時期は出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第359図 第1623号土坑実測図



6076



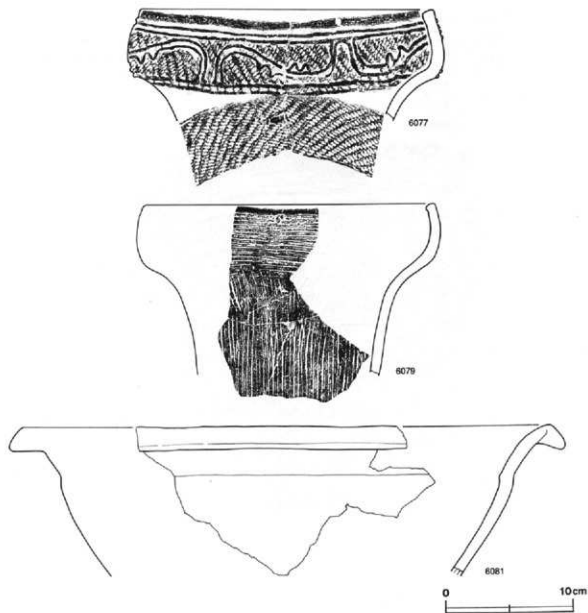
6078



6080



第360图 第1623号土坑出土物实测图(1)



第361図 第1623号土坑出土遺物実測図(2)

第1623号土坑出土遺物観察表(第360・361図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6076	縄文土器	深鉢	[38.6]	(35.8)	—	口縁部は隆帯文。胴部は平截竹筥による平行沈線文。地文はL Rの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐色	第3層	
6077	縄文土器	深鉢	[23.0]	(8.9)	—	口縁部は細い隆帯文。R Lの単節縄文を口縁部は横方向、胴部は縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	第3層	
6078	縄文土器	深鉢	[20.6]	(15.7)	—	口縁部は細い隆帯文。胴部は沈線による扇歯状の懸垂文。地文はLの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	第3層	
6079	縄文土器	深鉢	[23.0]	(13.5)	—	口縁部は糸線文を横方向に、胴部は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	第3層	口縁部スス付着
6080	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	9.4	糸線文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	底部網代痕
6081	縄文土器	浅鉢	[41.4]	(11.9)	—	無文で、内・外面を入念に研磨。	長石・石英	良好	にぶい橙	第3層	

### 第1627号土坑（第362～363図）

**位置** 調査2区の北部、D3g3区。住居群の外周域に位置する。

**重複関係** 第1608号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は第1608号土坑に掘り込まれているため、径1.53mほどの円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径が推定で2.10m、短径2.08mのほぼ円形である。確認面からの深さは62cmで、壁は内傾している。

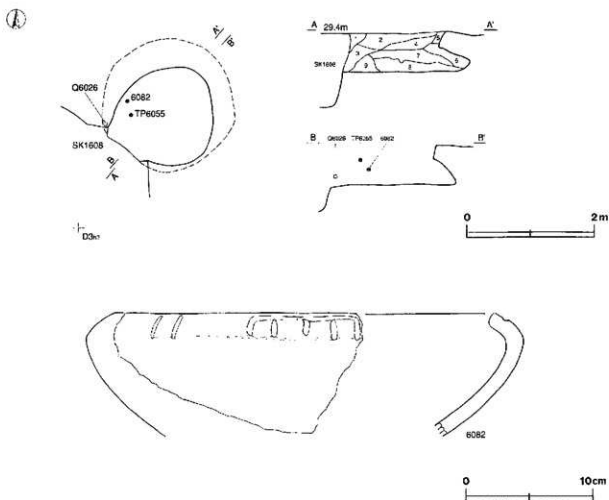
**覆土** 9層に分層される。第8・9層が底面の中央部に凸状に堆積している以外は、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

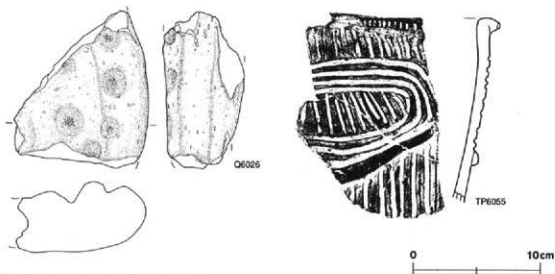
- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 コーム粒子・炭化粒子微量          | 6 黒褐色 コーム小アブロック少量        |
| 2 黒褐色 コーム小アブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ローム小アブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量          | 8 褐色 ローム小アブロック多量         |
| 4 黒褐色 ローム小アブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ローム小アブロック少量        |
| 5 黒褐色 ローム小アブロック少量           |                          |

**遺物出土状況** 縄文土器片152点、石皿片1点が覆土から出土している。6082の浅鉢片は、壁際の覆土中層から出土している。

**所見** 本跡の廃絶時期は明確にすることができないが、覆土中層の堆積時期は6082の浅鉢片から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第362図 第1627号土坑・出土遺物実測図



第363図 第1627号土坑出土遺物実測図

第1627号土坑出土遺物観察表 (第362・363図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6082	縄文土器	浅鉢	[29.8]	(9.6)	—	口縁部は沈線により縁出している。胴部は無文で、入念に磨削している。	長石・石英・雲母	良好	にぶい赤褐	覆土中層	内・外面赤彩
TP6055	縄文土器	深鉢	—	(14.6)	—	口縁部直下につきみを有する隆帯をめぐらしている。沈線により文様を描出している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6023	石皿	(12.5)	(10.4)	6.5	(598.6)	安山岩	表面に環状のくぼみを有する。	覆土中層	

### 第1633号土坑 (第364図)

位置 調査2区の北部、D2g9区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.82m、短径1.56mの楕円形である。底は鹿沼バミス層中を底面とし、ほぼ平坦である。底部の平面形は長径2.00m、短径1.88mのほぼ円形である。確認面からの深さは115cmである。壁は内傾して立ち上がり、西壁以外は中位でくびれ、開口部付近はわずかに外傾する。

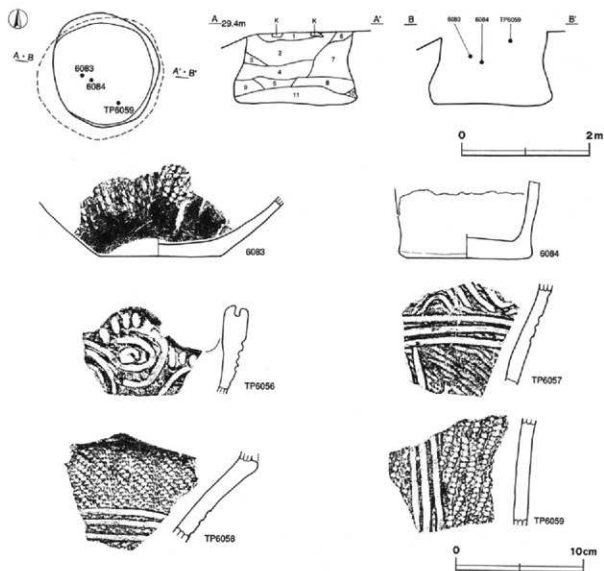
覆土 11層に分層される。第7～10層は壁際に堆積し、ローム粒子を多く含む土層であることから、内傾した壁の崩落土と考えられる。第1～6層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック少量	炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム小ブロック多量
2 黒褐色	ローム小ブロック少量	炭化粒子微量	8 褐色	ローム小ブロック多量 (第9層より粘性あり)
3 暗褐色	ローム小ブロック少量		9 褐色	ローム小ブロック多量
4 暗褐色	ローム小ブロック中量		10 褐色	ローム小ブロック多量、白色粘土粒子中量
5 暗褐色	ローム小ブロック中量		11 暗褐色	ローム小ブロック多量、鹿沼バミス粒子微量
6 暗褐色	ローム小ブロック少量			

遺物出土状況 縄文土器片124点が出土している。土器の多くが廃棄されたような状態で覆土上層から出土しており、6083の鉢片と6084の深鉢片はその覆土上層から出土したものである。

所見 覆土上層に遺物の集中が見られ、一括廃棄されたことがうかがわれる。本跡の廃絶時期は明確にすることができないが、覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第364図 第1633号土坑・出土遺物実測図

第1633号土坑出土遺物観察表（第364図）

番号	種別	器種	口径(cm)	母高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6083	縄文土器	鉢	—	(4.3)	9.5	R L Lの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐色	覆土上層	
6084	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	9.5	無文。	長石・石英	良好	にぶい橙	覆土上層	
TP6056	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	沈線により文様を描出している。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土	
TP6057	縄文土器	深鉢	—	(7.9)	—	沈線により文様を描出している。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土	TP6056と同一器体
TP6058	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	頸部に沈線を巡らしている。L R Lの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
TP6059	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	沈線による3条一組の懸垂文圍を磨り消している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	



### 第1636号土坑 (第365・366図)

位置 調査2区の北部, D3d3区。住居跡群域に位置する。

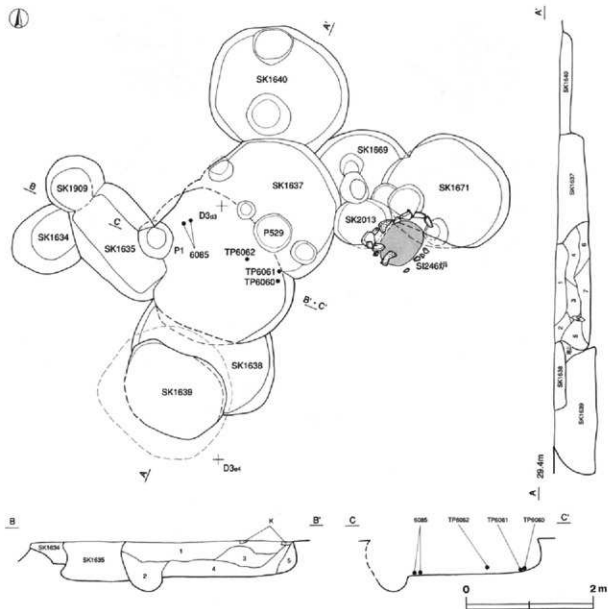
重複関係 第1635号土坑の東側と第1637号土坑の南側と第1638号土坑の北側を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は, 現状では長径2.46m, 短径2.00mの楕円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.50m, 短径2.10mの楕円形である。確認面からの深さは54cmである。壁は内傾して立ち上がり, 南東壁だけが外傾している。ピットは1か所で, 壁際に位置している。P1の深さは28cmである。

覆土 7層に分層される。最下層の第7層が床面中央部に凸状に堆積しており, それ以外はレンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

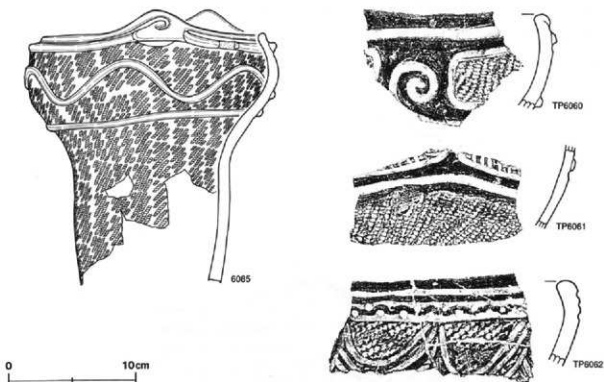
- |       |                 |       |                   |
|-------|-----------------|-------|-------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子・炭化粒子微量    | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量        |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量         |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量       |       |                   |



第365図 第1636号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片115点が出土している。6085の深鉢と TP6060・TP6061の深鉢片は底面から、TP6062の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第366図 第1636号土坑出土遺物実測図

第1636号土坑出土遺物観察表（第366図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6085	縄文土器	深鉢	17.1	(21.8)	—	波頂部に隆帯による渦巻文。口縁部は隆帯による波状文。施文はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黒	底面	P L 51
TP6060	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	沈線が沿う隆帯により渦巻文を施している。R Lの単節縄文を斜方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黒	底面	
TP6061	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	隆帯により文様を抽出し、区画文内に沈線を充填している。R Lの単節縄文を斜方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤黒	底面	
TP6062	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	交互衝突による連続コの字状文と沈線による連続弧文。L Rの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒黒	覆土下層	

#### 第1641号土坑（第367～369図）

位置 調査2区の北部、D3 E3区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 開口部は、現状では径1.82mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は径1.90mの円形である。確認面からの深さは36cmで、壇は北壁が直立する以外は内傾する。

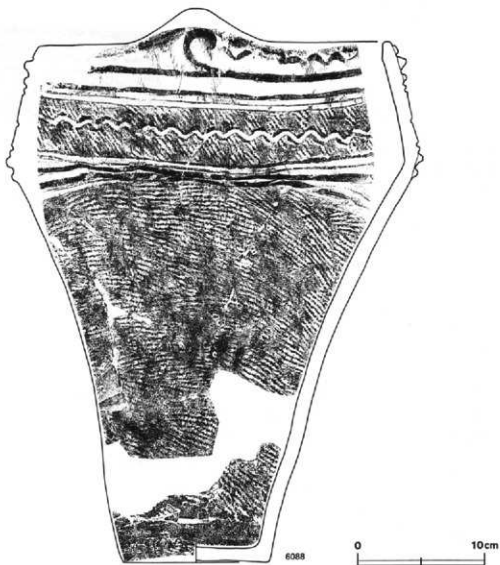
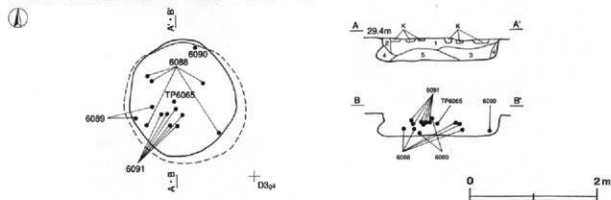
覆土 5層に分層される。最下層の第5層が床面の中央部に凸状に堆積しており、それ以外はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

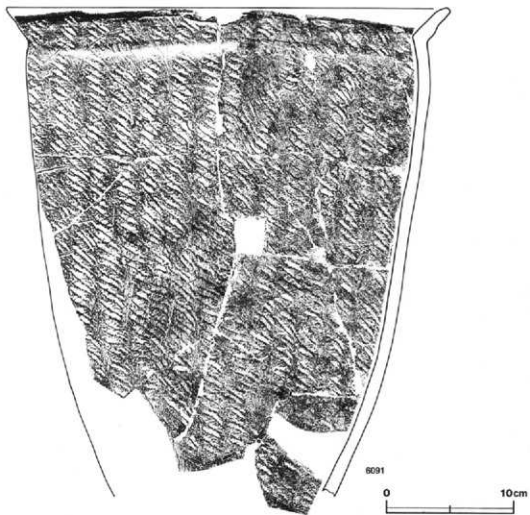
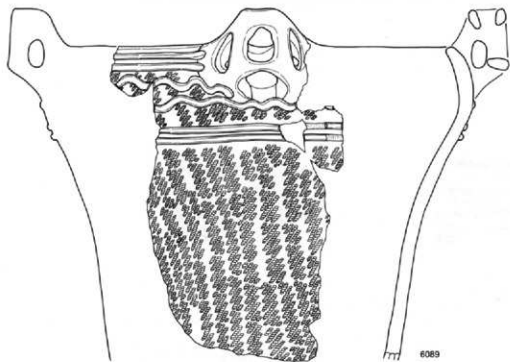
- |       |                   |       |            |
|-------|-------------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 4 暗褐色 | ローム粒子微量    |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |       |            |

**遺物出土状況** 縄文土器片72点が覆土上層から覆土下層にかけて廃棄されたような状態で出土している。6088の深鉢は接合するとはほぼ完形となるもので、破片は東壁寄りと西壁寄りに離れた状態で出土している。6091の甕は破片が接合したもので、破片は離れて中央部付近から出土している。

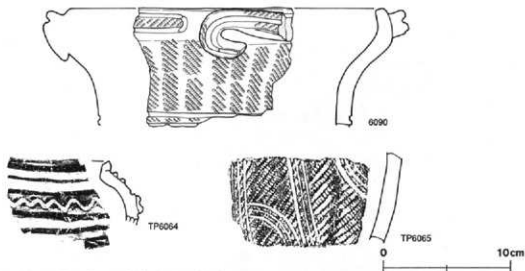
**所見** 図示した土器は、覆土上層から覆土下層にかけての堆積時に廃棄されたものである。時期は、廃棄された土器から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第367図 第1641号土坑・出土遺物実測図



第368图 第1641号土坑出土遗物实测图(1)



第369図 第1641号土坑出土遺物実測図(2)

第1641号土坑出土遺物観察表(第367~369図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6088	縄文土器	深鉢	[27.2]	47.8	11.4	口縁上部は隆帯文。口縁部と頸部の境には背に沈線を有する隆帯文。地文はLの無節縄文。	長石・石英	普通	黒褐色にぶい橙	覆土上層	P 151
6089	縄文土器	深鉢	[30.4]	(27.7)	—	眼縁状把手。口縁部は隆帯による波状文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
6090	縄文土器	深鉢	[24.0]	(9.4)	—	口縁部は背に沈線を有する隆帯による横S字状文。地文はLの無節縄文。	長石・石英	普通	黒褐色	覆土下層	
6091	縄文土器	壺	[34.6]	(38.6)	—	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐色にぶい橙	覆土上層	
TP6064	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	2本一組の隆帯により文様を構成。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土	
TP6065	縄文土器	深鉢	—	(7.2)	—	3本一組の沈線により文様を構成。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土上層	

### 第1642号土坑(第370・371図)

位置 調査2区の北部、D3a5区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1849号土坑を掘り込んでいる。第1656・1848号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は、径1.75mの円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは60cmで、壁は直立する。ピットは3か所、P1が中央部に、P2・P3が壁際に位置している。ピットの深さは、P1が42cm、P2が57cm、P3が40cmである。

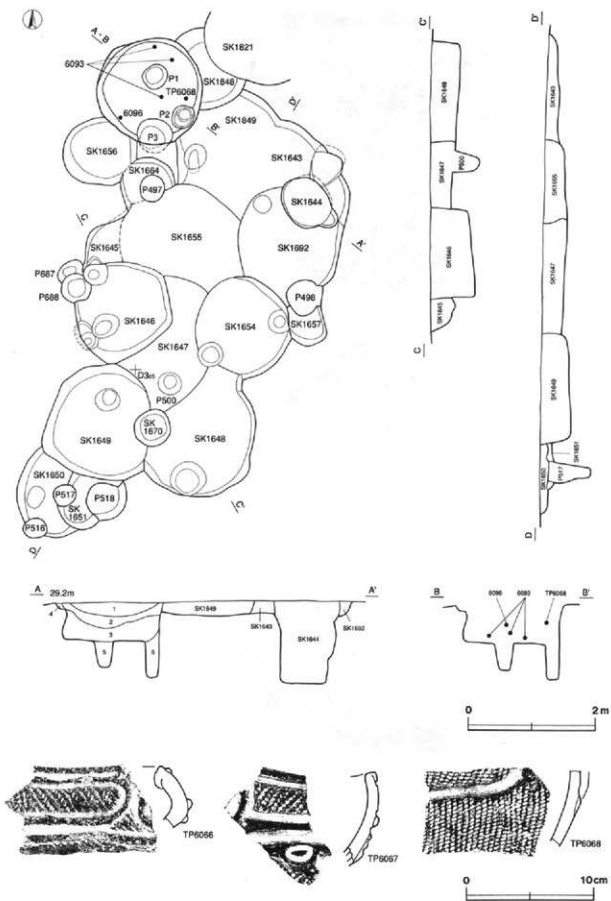
覆土 5層に分層され、第5層はP1とP2の覆土である。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

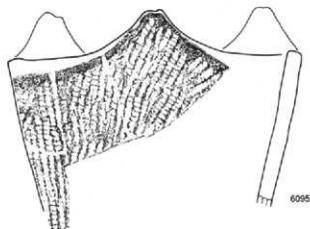
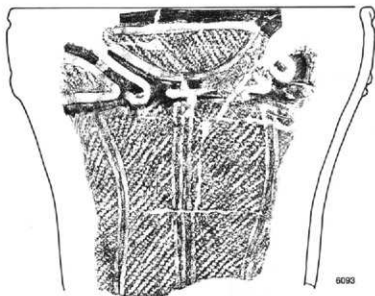
- |       |                   |       |                      |
|-------|-------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量              |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック中量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量、黒煎バミス粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量   |       |                      |

遺物出土状況 縄文土器片113点が出土している。6093の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E1式期)と考えられる。



第370图 第1642号土坑·出土物实测图



第371図 第1642号土坑出土遺物実測図

第1642号土坑出土遺物観察表 (第370・371図)

番号	類別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6093	縄文土器	深鉢	[28.0]	(22.3)	—	1)縁部は隆帯による渦巻文。別部は3条一組の沈線による懸垂文。地文はR Lの単純縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒箱	覆土下層	
6095	縄文土器	深鉢	[21.4]	(15.7)	—	R Lの単純縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐	覆土	

番号	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色相	出土位置	備考
6096	縄文土器	鉢	—	(12.0)	—	L, R Lの複線縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黄褐色	覆土	+
TP6006	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	隆帯により文様を浮出。0段多条によるR Lの半線縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄	覆土	+
TP6067	縄文土器	鉢	—	(7.4)	—	沈帯がゆるぎ帯により文様を浮出。R Lの半線縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐色	覆土	+
TP6088	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	隆帯により文様を浮出。R Lの半線縄文を斜方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黄褐色	覆土上層	

### 第1646号土坑 (第372・373図)

位置 調査2区の北部, D3b4区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1645土坑の南側と第1647号土坑の北西側を掘り込んでいる。第1655号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は、現状では径1.51mの円形と推定される。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは70cmである。壁は直立する。ピットは4か所で、いずれも壁際に位置している。ピットの深さは、P1が43cm, P2が32cm, P3が20cm, P4が46cmである。

覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

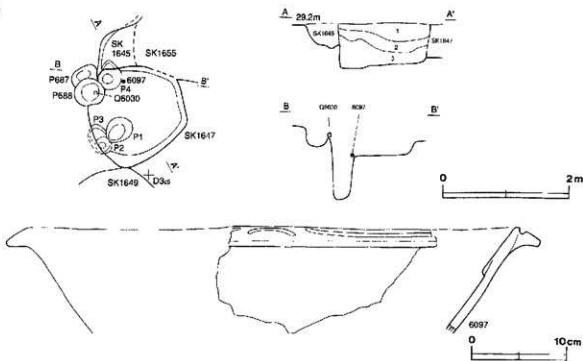
2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片15点, 敲石1点が覆土から出土している。6097の浅鉢は覆土下層から出土している。

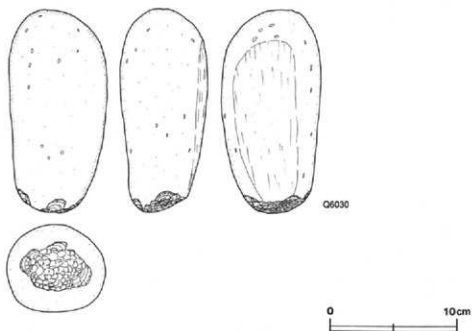
所見 時期は、覆土下層から出土している6097の浅鉢から中期後葉(加曾利E I時期)と考えられる。

①



第372図 第1646号土坑・出土遺物実測図





第373図 第1646号土坑出土遺物実測図

第1646号土坑出土遺物観察表 (第372・373図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6097	縄文土器	深鉢	[51.6]	(11.3)	—	突出させた口唇部には沈線により文様を描出している。胴部は無文で、磨過している。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐色	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6030	磁石	16.1	7.8	7.0	1295.7	安山岩	下端に敲打痕あり。裏面に摺痕あり。	覆土下層	P.L62

#### 第1649号土坑 (第374図)

位置 調査2区の北部, D3c1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1647号土坑の南西側と第1651号土坑の北東側を掘り込んでいる。第1648・1670号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は、径1.87mほどの円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは42cmで、壁は外傾する。ピットは1か所で、中央部のやや北寄りに位置している。P1の深さは28cmである。

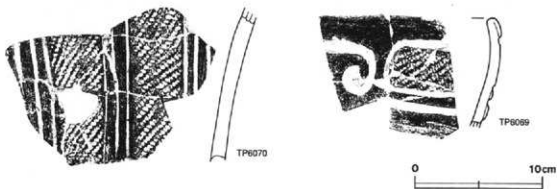
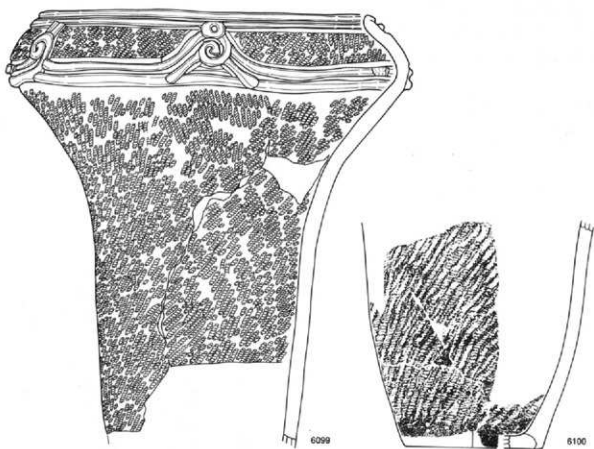
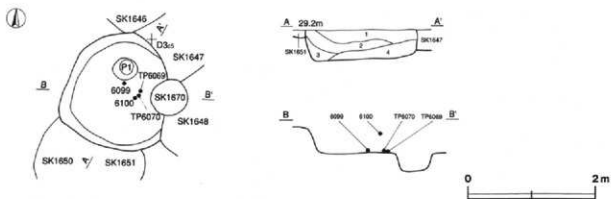
覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層観察

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子微量  
 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 4 黒褐色 ローム小ブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片21点が出土している。6099の深鉢は、底面から斜位の状態で出土している。

所見 時期は、底面から出土している6099の深鉢から中期後葉(加曾利E1式期)と考えられる。



第374图 第1649号土坑·出土遗物实测图

第1649号土坑出土遺物観察表（第374図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6099	縄文土器	深鉢	25.5	(34.3)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯により渦巻文を施す。R.Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色にぶい橙	底面	P.L.51
6100	縄文土器	深鉢	—	(18.0)	[10.8]	口段多染によるR.Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP6069	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	沈線が沿う隆帯により渦巻文を施している。	長石・石英	普通	黒褐色	底面	
TP6070	縄文土器	深鉢	—	(12.3)	—	沈線による3条一組の懸垂文を磨り消している。R.Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	

第1658号土坑（第375・376図）

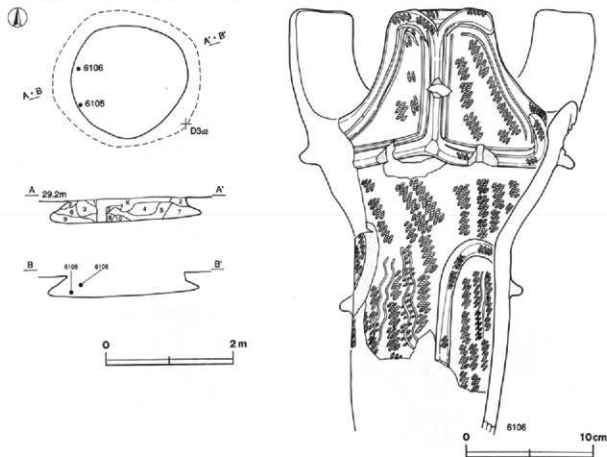
位置 調査2区の北部，D3c1区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は，径1.84mの円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.36m，短径2.14mのほぼ円形である。確認面からの深さは36cmで，壁は内傾する。

覆土 10層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

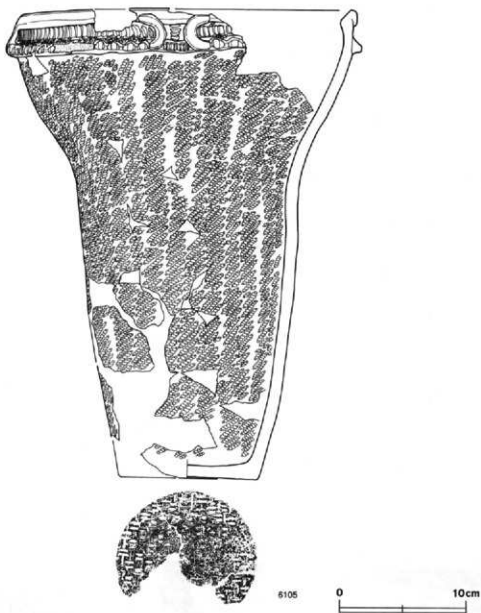
- |       |                        |       |            |
|-------|------------------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量                | 6 黒褐色 | ローム粒子微量    |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量         | 7 暗褐色 | 炭化粒子微量     |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量        | 8 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量             | 9 暗褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量    |



第375図 第1658号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片77点が出土している。6105の深鉢は西壁際の覆土下層から横位の状態で、6106の深鉢は西壁際の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、覆土下層から出土している6105の深鉢から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第376図 第1658号土坑出土遺物実測図

第1658号土坑出土遺物観察表（第375・376図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6105	縄文土器	深鉢	26.0	37.1	10.8	口縁部は隆帯に沿って爪形文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒灰にぶい橙	覆土下層	P L 52 底 部 副代板
6106	縄文土器	深鉢	[21.0]	(33.5)	—	口縁部は隆帯に沿って半截竹管による平行成線文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	

### 第1662号土坑（第377・378図）

位置 調査2区の北部，D3c6区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第691号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，現状では長径2.44m，短径2.26mのほぼ円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは32cmで，壁はほぼ直立する。ピットは4か所で，P1とP2は壁際に，P3とP4は中央部付近に位置している。ピットの深さは，P1が51cm，P2が65cm，P3が67cm，P4は18cmである。

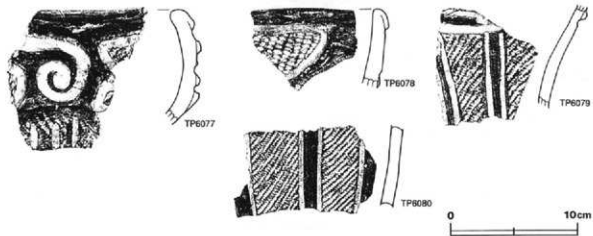
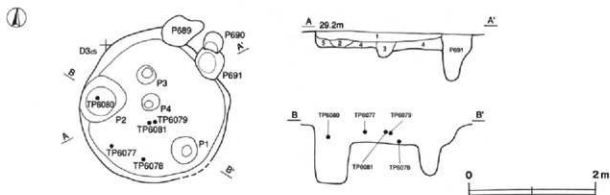
覆土 5層に分層される。第3層はP4の覆土である。レンズに堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                 |       |                      |
|-------|-----------------|-------|----------------------|
| 1 黒色  | ロームブロック少量，炭化物微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量           |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量      | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量，産卵バミス粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック中量      |       |                      |

遺物出土状況 縄文土器片630点，土器片円盤2点が出土している。土器片は接合するものが少なく，その大部分が覆土上層から出土している。

所見 本跡の廃絶時期は底面や覆土下層から出土している土器が少ないため明確ではないが，覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ時期）と考えられる。



第377図 第1662号土坑・出土遺物実測図



第378図 第1662号土坑出土遺物実測図

第1662号土坑出土遺物観察表 (第377・378図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6077	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	—	沈線に沿う隆帯により渦巻文を施している。L Rの単節縄文。	長石・石英	普通	赤褐色	覆土上層	
TP6078	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	沈線に沿う隆帯により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
TP6079	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	—	胴部は沈線による懸垂文間を磨り消している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土上層	
TP6080	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	胴部は沈線による懸垂文間を磨り消している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土上層	
TP6081	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	胴部は沈線による懸垂文間を磨り消している。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐色	覆土上層	
TP6082	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	交互刺突文を有する隆帯を導らし、押圧文を有する隆帯を導下。平紋竹管による平行沈線文。	長石・石英	普通	黒褐色	覆土上層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP6008	土器片(瓦)	4.1	4.0	1.8	22.7	長石・石英 灰褐色	沈線文とL Rの単節縄文。副線は研磨。	覆土	P L 59

### 第1663号土坑 (第379図)

位置 調査2区の北部、C3b4区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は、径0.78mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.68m、短径2.32mの楕円形である。確認面からの深さは92cmで、壁は内傾する。

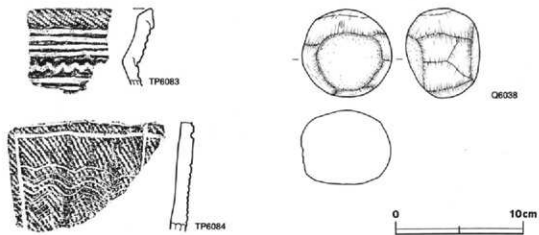
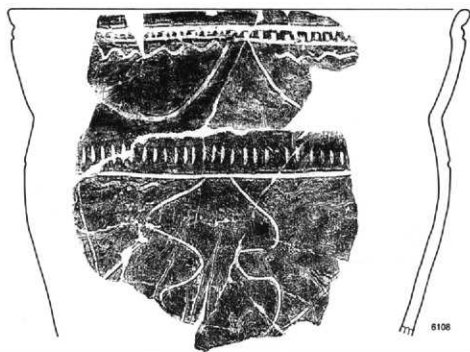
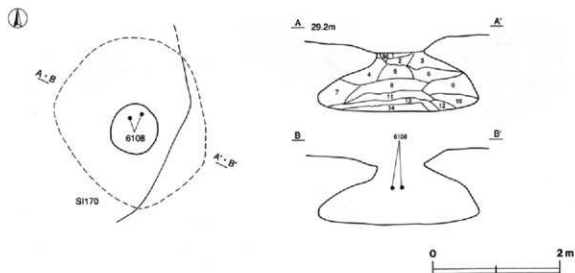
覆土 14層に分層される。第8～14層は底面の中央部に凸状に堆積しており、短時間に堆積したと判断できることから、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック少量	8 黒褐色	炭化物中量、ローム小ブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	焼土粒子少量、ローム小ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	ローム小ブロック少量、炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、炭化粒子少量
5 暗褐色	ローム小ブロック中量、炭化粒子少量	12 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・炭化粒子少量
6 黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	13 黒褐色	炭化物少量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
7 黒褐色	ローム小ブロック少量	14 暗褐色	炭化物・ローム粒子少量、炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片48点、磨製石斧2点が出土している。6108の深鉢片は、覆土上層から出している。

所見 本跡の廃絶時期は底面や覆土下層から出している土器がないため明確でないが、覆土上層の堆積時期は出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第379图 第1663号土坑·出土遗物实测图

第1663号上坑出土遺物観察表 (第379回)

番号	種別	器型	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6108	縄文土器	深鉢	[36.0]	(25.8)	—	口唇部直下は割突による連続の字状文を、胴部上位はキザミ目列を施している。	灰石・石英	普通	灰褐色	覆土層	—
TP6083	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	1) 胴部は沈積文を施している。口唇部外面にはR.Lの線画文を横方向に施す。	灰石・石英・炭灰	普通	にぶい橙	覆土	上
TP6084	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	頸部沈積文により文様を推出している。Lの無勢縄文を縦方向に施す。	灰石・石英・炭灰	普通	にぶい黄	覆土	上

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6038	灰石	7.0	7.2	5.9	415.6	安山岩	周縁に深痕。	覆土	P.L61

第1666号土坑 (第380・381回)

位置 調査2区の北部、C3h7区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 開口部は内傾する南西壁が第5層の堆積後に大きく崩落しているため、南西側が沈下してテラス状になっている。平面形は残存している形状から径0.80mの円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.75m、短径2.64mのはほぼ円形である。確認面からの深さは84cmで、壁は内傾している。

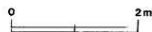
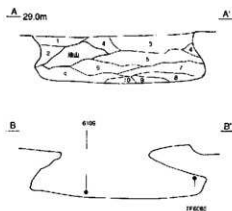
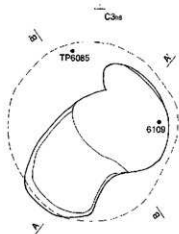
覆土 10層に分層される。大きく崩落した南西壁は第5層上面に堆積しており、第1～4層は崩落後に堆積したものである。第5～7層はレンズ状に堆積していることから自然堆積、第8～10層はロームブロックを多く含むことから崩落土と考えられる。

土層解説

- |       |                   |        |                            |
|-------|-------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色  | ローム小ブロック少量                 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 7 黒褐色  | ローム小ブロック・炭化粒子微量            |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色  | ローム小ブロック中量、炭化パミスブロック微量     |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 9 黒色   | ローム小ブロック・炭化粒子少量            |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック中量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック中量、炭化パミス粒少量、炭化粒子微量 |

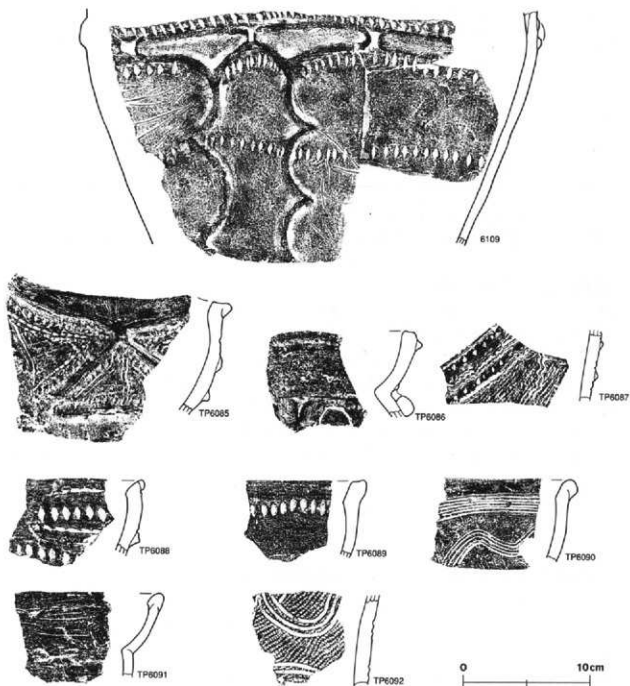
遺物出土状況 縄文土器片250点が出土している。6109の深鉢片は底面から出土している。

所見 晩縄時における土坑内の状態は、大きく崩落した南西壁の下位の堆積状況が自然堆積と崩落土であることから空洞であったと判断できる。時期は、底面から出土した6109の深鉢片から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第380回 第1666号土坑出土遺物実測図





第381図 第1666号土坑出土遺物実測図

第1666号土坑出土遺物観察表(第381図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6109	縄文土器	深鉢	—	(18.5)	—	胴部上位に隆帯による文字状文。キザミ目列を施している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	
TP6085	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	隆帯により文様を突出し、隆帯に沿ってアナタラ属の貝による刺突文を施している。	長石・石英・雲母	普通	赤褐	覆土下層	
TP6086	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	胴部上位に隆帯によるワ字状文。隆帯に沿って結節状縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	
TP6087	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	キザミを有する隆帯文を施らし、手執竹管による結節平行沈線文を施している。Lの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰黄褐	覆土	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6088	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	口縁部は陰帯による区画文。陰帯に沿って結節状線文。キザミ目列を施している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土	
TP6089	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	キザミ目列を施している。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土	
TP6090	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	鋸歯状工具による波状文を施している。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土	
TP6091	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土	
TP6092	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	3条一組の沈線により文様を挿入。R.Lの単純縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土	

### 第1671号土坑 (第382・383図)

**位置** 調査2区の北部、D3c4区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1669号土坑を掘り込み、第246号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は、長径2.02m、短径1.62mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは52cmである。壁は南壁が内傾している以外は外傾している。ピットは2か所で、いずれも壁際に位置している。ピットの深さは、P1が56cm、P2が58cmである。

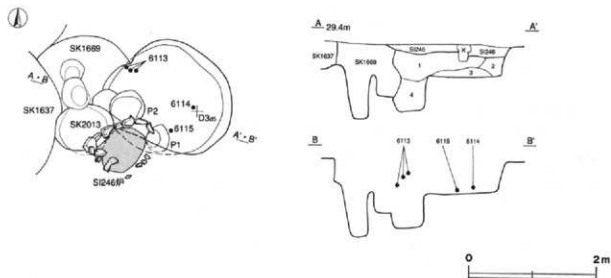
**覆土** 4層に分層される。第4層はP2の覆土である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

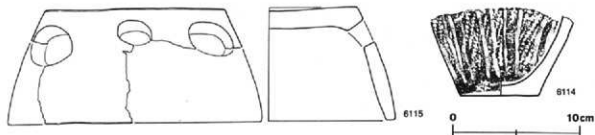
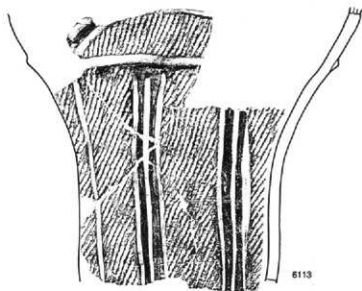
- |       |                     |       |                     |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化バミス粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量     |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量    | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化バミス粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片70点が出土している。6113の深鉢片は覆土上層から、6114の深鉢片と6115の器台は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、覆土下層から出土した6114の深鉢片と6115の器台から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第382図 第1671号土坑実測図



第383図 第1671号土坑出土遺物実測図

第1671号土坑出土遺物観察表 (第383図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6113	縄文土器	深鉢	—	(21.6)	—	胴部は沈線による3条一組の懸垂文帯を磨り消している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土上層	
6114	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	6.2	胴部は沈線による懸垂文を施し、R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
6115	縄文土器	器台	14.0	(9.0)	19.8	胴部上位に大・小4単位ずつの透かし孔がある。無文で、入念に磨削している。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	P L 52

### 第1672号土坑 (第384図)

位置 調査2区の北部, D3 e4区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1681号土坑を掘り込んでおり, 第1673号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は, 第1673号土坑に掘り込まれているため, 長径が推定で2.38m, 短径1.88mの楕円形である。底面はほぼ平坦で, 確認面からの深さは34cmである。壁は内傾している。

覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

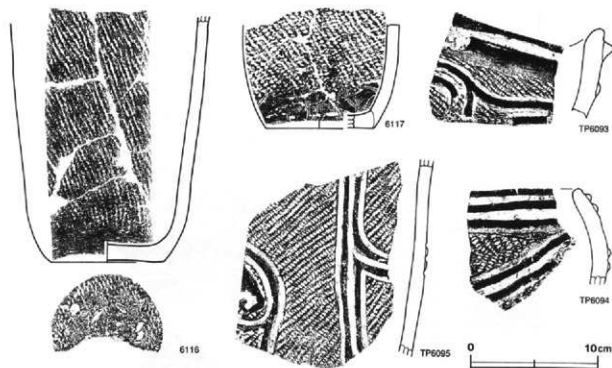
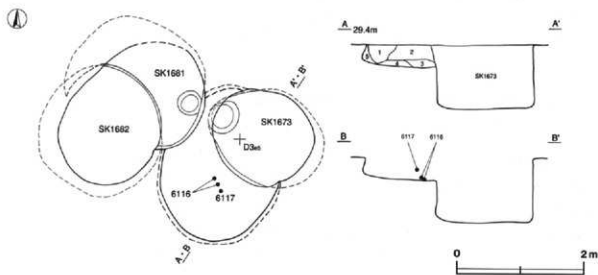
#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

- 4 暗褐色 ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片71点が出土している。6116の深鉢片は底面から、6117の深鉢片は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、底面から出土した6116の深鉢片から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第384図 第1672号土坑・出土遺物実測図

第1672号土坑出土遺物観察表（第384図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6116	縄文土器	深鉢	—	(19.4)	8.8	Lの無節縄文を縦方向に施す。	長石・石英	普通	赤褐色	底面	底部割代痕

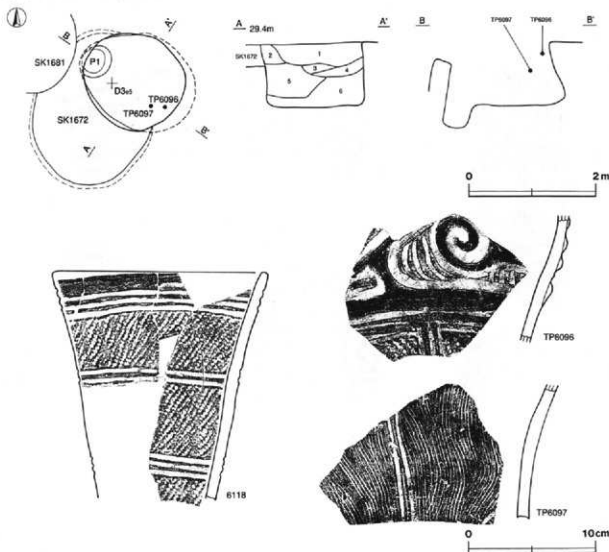
番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6117	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	[8.5]	L Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	明赤褐色	覆土中層	
TP6093	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	口縁部直下に隆帯を巡らし、口縁部は縞い隆帯により文様を描出。Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐色	覆土	
TP6094	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	2本一組の隆帯により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向と横方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
TP6095	縄文土器	深鉢	—	(15.6)	—	沈線に沿う2本一組の隆帯により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙黒褐色	覆土	

### 第1673号土坑（第385図）

位置 調査2区の北部，D3e5区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1672号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は、長径1.61m、短径1.46mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは100cmである。壁は直立する南西壁以外は内傾している。ピットは1か所で、深さは38cmである。



第385図 第1673号土坑・出土遺物実測図

覆土 6層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                        |       |                        |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 茶褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量           | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量        |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・腐沼パミス粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量              |
| 3 黒色  | ローム粒子・炭化粒子微量           | 6 暗褐色 | ロームブロック少量・腐沼パミス小ブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片237点が出土している。TP6096とTP6097の深鉢片は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。

第1673号上坑出土遺物観察表（第385図）

発号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
611X	縄文土器	深鉢	[16.0]	(18.0)	—	口縁部と胴部に波線を巡らし、波線間を塗り込んでいる。胎文はRししの単純縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土上層	覆土
TP6096	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	口縁部は沈没がゆるぎ音により支線を抽出、胴部は3条一組の懸垂文間を塗り込んでいる。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土上層	
TP6097	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	—	沈没による2条一組の懸垂文を施している。珊瑚状工具による蒸気文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐色	覆土上層	内面炭化跡あり

第1676号土坑（第386～388図）

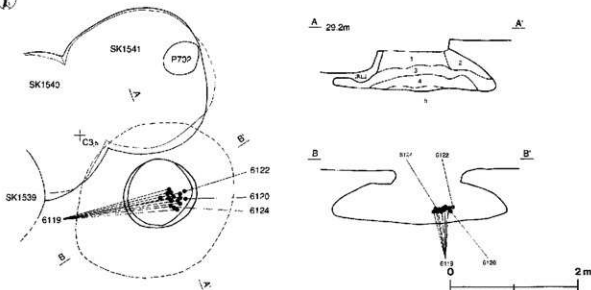
位置 調査2区の北部、C35区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は、径1.12mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.65m、短径2.38mの楕円形である。壁は内傾している。北壁は第1541号土坑が上部にあるため沈下しており、内傾する壁の立ち上がる角度が小さくなっている。深さは85cmである。

覆土 5層に分層される。第4・5層が底面の中央部に凸状に堆積している以外は、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

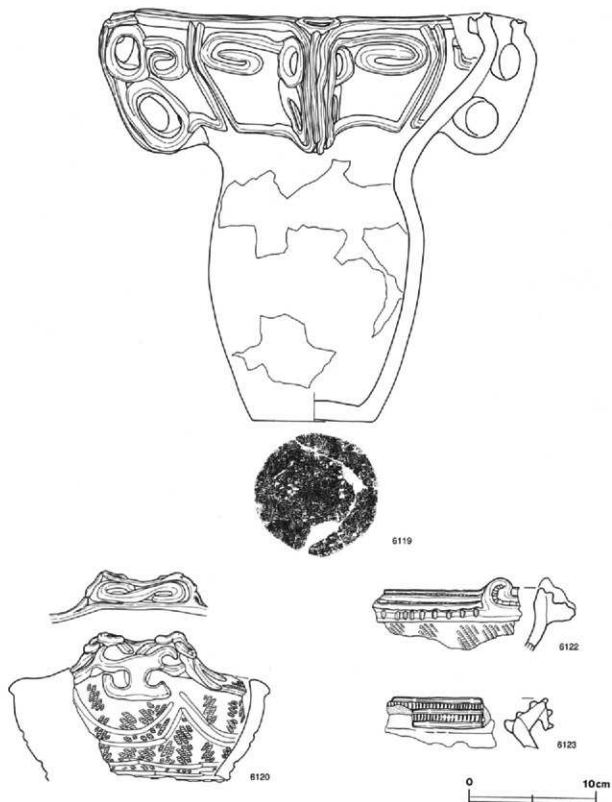
- |       |                  |       |                       |
|-------|------------------|-------|-----------------------|
| 1 茶褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量、腐沼パミスブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量        | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、腐沼パミスブロック微量 |
| 3 黒色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |       |                       |



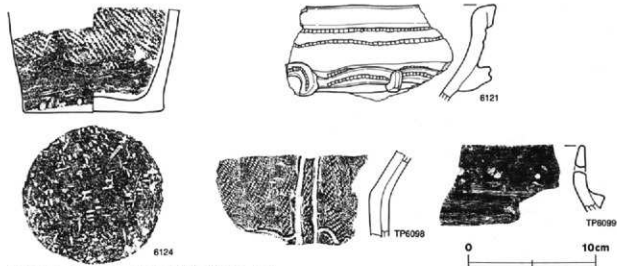
第386図 第1676号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片147点が出土している。6119の深鉢，6122と6124の深鉢片は，いずれも第4層上面から出土している。

所見 6119の深鉢は胎土が在地の土器と異なることから，搬入されたものと考えられる。時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式併行期）と考えられる。



第387図 第1676号土坑出土遺物実測図（1）



第388図 第1676号土坑出土遺物実測図(2)

第1676号土坑出土遺物観察表(第387・388図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6119	縄文土器	深鉢	27.6	32.2	9.7	二段の横状把手。口縁部は隆帯により文様を描出。胴部は無文で、研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	第4層上面	P.L52 底部 網代表
6120	縄文土器	深鉢	[17.6]	(11.7)	—	把手及び口唇部直下は隆帯。口縁部は沈線により文様を描出。地文はRとしLの単筋縄文。	長石・石英	普通	褐色	第4層上面	
6121	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	口縁部は、結節沈線文を有し、突出させた隆帯文を高らしている。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土	
6122	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	口唇部外面は、結節沈線文とキザミを有し、突出させた隆帯文を高らしている。Lの無筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	第4層上面	
6123	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	口唇部外面は上下に突出させた隆帯文を高らし、隆帯に沿って結節沈線文を描いている。	長石・石英	普通	にぶい褐色	覆土	
6124	縄文土器	深鉢	—	(8.2)	11.0	L Rの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐色	第4層上面	底部 網代表
TP6098	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	隆帯による懸垂文。沈線により文様を描出。R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐色	覆土	
TP6099	縄文土器	有孔器付土器	—	(5.2)	—	無文で、研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土	内・外面赤彩

### 第1680号土坑(第389図)

位置 調査2区の北部、C4区。住居跡群域に位置する。

確認状況 平安時代の第173号住居跡の掘り方調査で確認する。

重複関係 第173・182号住居と第1839号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、第173・182号住居跡に掘り込まれているため、径1.86mの円形と推定される。底面はほぼ平坦である。壁は直立し、深さは40cmである。ピットは3か所、いずれも壁寄りに位置している。ピットの深さは、P1が25cm、P2が23cm、P3が35cmである。

覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

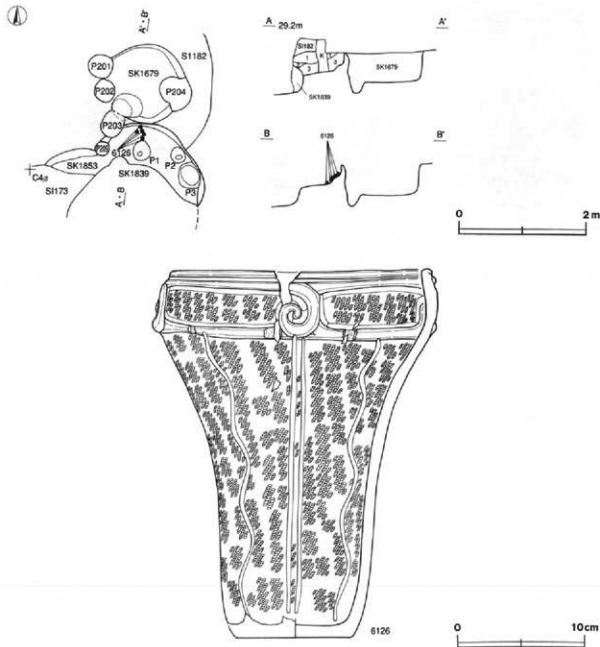
#### 土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 |                 |



**遺物出土状況** 縄文土器片75点が出土している。6126の深鉢は、北壁寄りの底面から出土している。

**所見** 時期は、底面から出土した6126の深鉢から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第389図 第1680号土坑・出土遺物実測図

第1680号土坑出土遺物観察表（第389図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6126	縄文土器	深鉢	19.6	29.0	[9.0]	口縁部は比羅が沿う隆帯による波帯文。胴部は比羅による懸垂文。地文はR Iの甲節縄文。	長石・石英	普通	暗赤褐	底面	P L 52

#### 第1681号土坑（第390・391図）

**位置** 調査2区の北部，D 3 64区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 南側を第1672・1682号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は、第1672・1682号土坑に掘り込まれているため、現状では径1.72mの円形である。底面はほぼ平坦で、径2.16mの円形である。壁は第1672号土坑に掘り込まれて直立している南壁以外は傾斜している。深さは56cmである。ピットは1か所で、東壁際に位置している。P1の深さは54cmである。

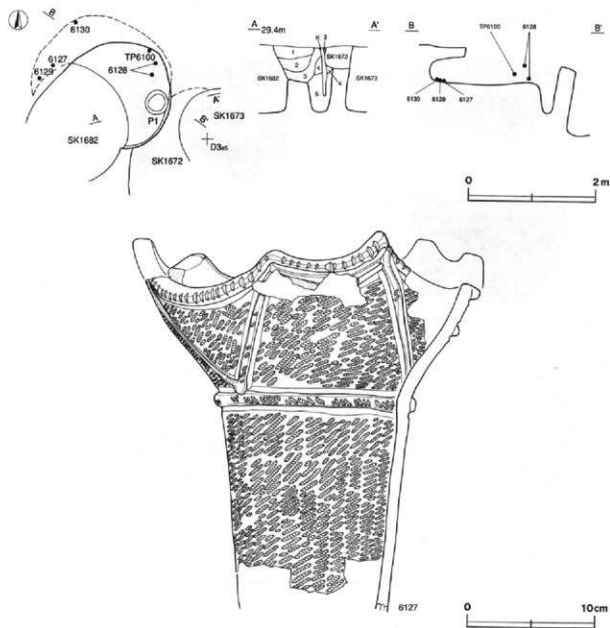
**覆土** 5層に分層され、第5層はP1の覆土である。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

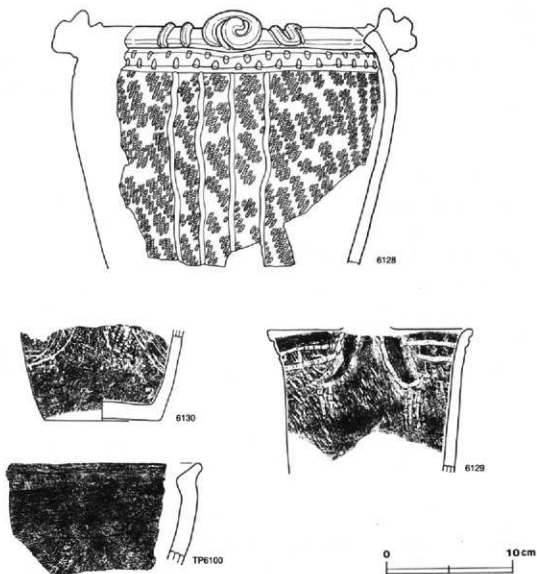
- |       |                            |       |                 |
|-------|----------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量         | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・風沼/パミス粒子微量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子微量          |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量           |       |                 |

**遺物出土状況** 縄文土器片23点が出土している。6127・6129・6130の深鉢片は、いずれも壁際の底面から出土している。

**所見** 時期は、底面から出土した6127・6129・6130から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第390図 第1681号土坑・出土遺物実測図



第391図 第1681号土坑出土遺物実測図

第1681号土坑出土遺物観察表 (第390・391図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6127	縄文土器	深鉢	[24.2]	(29.9)	—	口縁部外面にキザミを有する隆帯文。口縁部は隆帯文。R Lの単節縄文。	長石・石英	普通	灰褐色 にふい橙	底面	P L 52
6128	縄文土器	深鉢	[22.2]	(20.2)	—	口縁部外面に渦巻状の突起を有する。口縁部は交互刺突による連続の字状文。R Lの単節縄文。	長石・石英 ・雲母	普通	黒灰 にふい橙	覆土下層	
6129	縄文土器	深鉢	16.0	(11.3)	—	口縁部は結節沈線文を高くしている。地文はLの無節縄文で、縦方向に施文。	長石・石英 ・雲母	普通	黒褐色	底面	
6130	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	9.2	平截竹管による平行沈線文により文様を描出している。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英 ・雲母	普通	明赤褐色	底面	
TP6100	縄文土器	深鉢	—	(8.1)	—	無文。	長石・石英	普通	灰褐色	覆土下層	

第1682号土坑 (第392・393図)

位置 調査2区の北部, D3 d4区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第1681号土坑の南西側を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.90m, 短径1.60mの楕円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.07m, 短径1.94mのほぼ円形である。確認面からの深さは108cmで, 壁は内傾している。

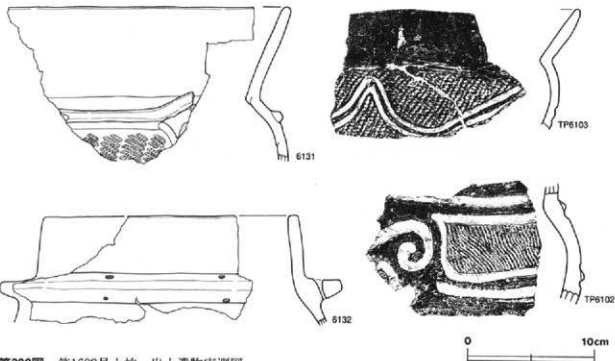
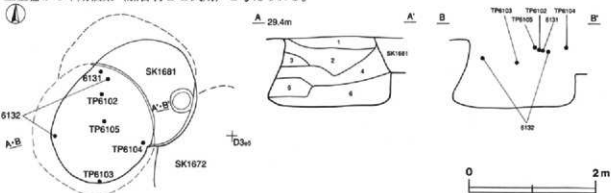
覆土 6層に分層される。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

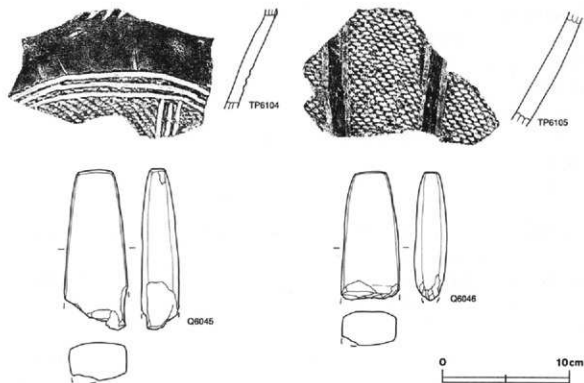
- |       |                         |       |                         |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量          | 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量      |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・炭屑バミス粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量               |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量            | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭屑バミス小ブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片158点, 磨製石斧片4点, 剥片3点が出土している。遺物の多くは覆土上層から出土しており, 図示した土器はいずれも覆土上層から出土したものである。

所見 本跡の廃絶時期は覆土下層から出土した土器がないため明確ではないが, 覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第392図 第1682号土坑・出土遺物実測図



第393図 第1682号土坑出土遺物実測図

第1682号土坑出土遺物観察表 (第392・393図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6131	縄文土器	鉢	—	(12.3)	—	口縁部は加文で、研磨している。胴部上位は隆帯により文様を描出。施文はL Rの単筋縄文。	長石・石英	普通	にぶい褐色	覆土上層	
6132	縄文土器	有孔筒付土器	[19.3]	(8.7)	—	無文で、入念に研磨している。	長石・石英	普通	褐色	覆土上層	内・外面赤彩
TP6102	縄文土器	鉢	—	(9.4)	—	沈線に沿う隆帯により文様を描出。捺赤文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土上層	
TP6103	縄文土器	鉢	—	(9.5)	—	口縁部は無文。胴部上位は沈線による2条一組の波状文。R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐色	覆土上層	
TP6104	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	頸部は無文。胴部は沈線による3条一組の懸垂文。L Rの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土上層	
TP6105	縄文土器	鉢	—	(9.0)	—	沈線による懸垂文間を磨り消している。L R Lの複筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐色	覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6045	磨製石斧	(12.2)	5.1	3.0	(311.0)	緑色粘岩	器体研磨入念。刃部欠損。	覆土	
Q6046	磨製石斧	(10.1)	4.6	2.8	(206.9)	緑色粘岩	器体研磨入念。刃部欠損。	覆土	

### 第1685号土坑 (第394~396図)

位置 調査2区の北部、D34区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は、径1.88mの円形である。底面は平坦で、径2.30mの円形である。深さは52cmで、壁は内傾する。

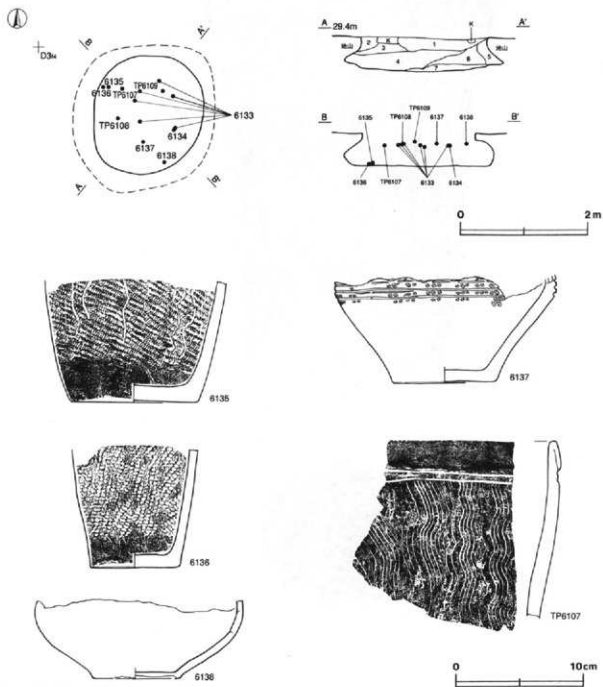
覆土 7層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

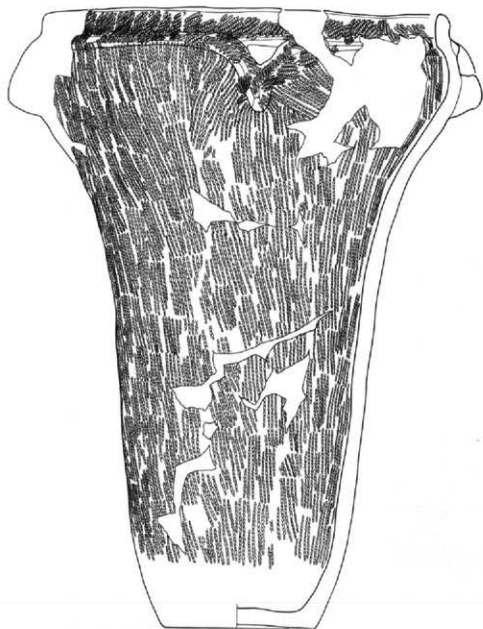
- |                       |                            |
|-----------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量            |
| 2 褐色 ロームブロック中量        | 6 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量     |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量   | 7 褐色 ロームブロック中量、第2層より粘性がある。 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量       |                            |

遺物出土状況 縄文土器片113点、打製石斧片1点、掻器片1点が主に覆土上層から廃棄されたような状態で出土している。6133と6134の深鉢は、いずれも覆土上層から出土している。

所見 覆土上層に遺物が集中し、一括廃棄されたことがうかがわれる。本跡の廃絶時期は明確ではないが、覆土上層の堆積時期は出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。



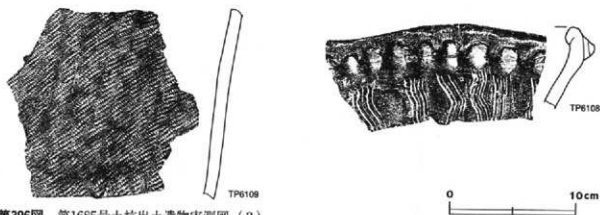
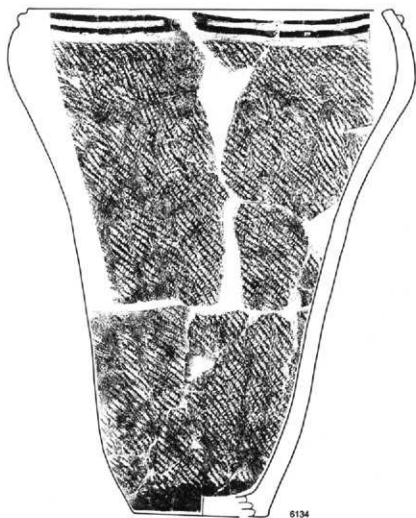
第394図 第1685号土坑・出土遺物実測図



6133



第395图 第1685号土坑出土遗物实测图(1)



第396図 第1685号土坑出土遺物実測図(2)

第1685号土坑出土遺物観察表(第394~396図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6133	縄文土器	深鉢	[30.7]	48.8	11.8	口縁部は隆帯によるV字状文。口唇部外面はLRの単節縄文。それ以外は熱点文。	長石・石英	普通	橙	第4層上	P.L.53 底部 網代表
6134	縄文土器	深鉢	28.5	40.2	10.5	口唇部外面に沈線に沿う隆帯を高らしている。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	第4層上	P.L.52 網代表



番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	施成	色調	出土位置	備考
6135	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	10.0	旋輪による明り文。施文はLRの準節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にない程度	覆土上層	内・外面ともにL53
6136	縄文土器	深鉢	—	9.3	6.8	以上の準節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にない程度	覆土上層	内・外面ともにL53
6137	縄文土器	鉢	—	(8.2)	7.9	胎土は花崗文と旋輪による明り文。施文はLの準節縄文で、縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にない程度	覆土上層	内・外面ともにL53
6138	縄文土器	鉢	—	(6.2)	6.9	胎土で、完全に研磨。	長石・石英・雲母	普通	にない程度	覆土上層	内・外面ともにL53
TP6107	縄文土器	深鉢	—	(14.1)	—	口縁部は彫刻して、無文。胎土は節状工具による波状文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にない程度	覆土上層	
TP6108	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	口縁部下に押印文を有する隆帯を施している。堆積状工具による波状文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にない程度	覆土上層	
TP6109	縄文土器	深鉢	—	(15.2)	—	口縁の準節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にない程度	覆土上層	

### 第1687号土坑 (第397~400頁)

位置 調査2区の北部、C3j6区。住居跡群域に位置する。

重複関係 南側を平安時代の第178号住居に掘り込まれている。第1686号土坑との新旧関係は、出土土器から本跡が古い。

規模と形状 開口部の平面形は、第178号住居と第1686号土坑に掘り込まれているため径1.26mの円形と推定される。底面は平坦で、平面形は径2.10mの円形である。深さは78cmで、壁は残存している北壁が内傾している。

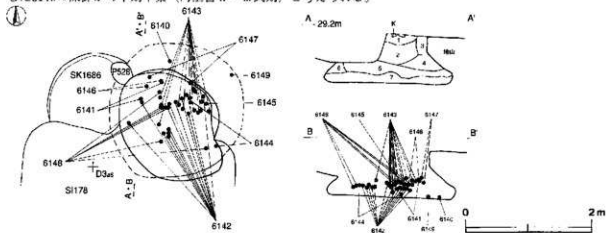
覆土 7層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

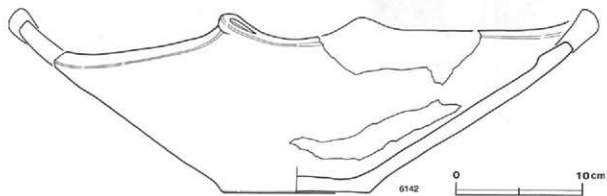
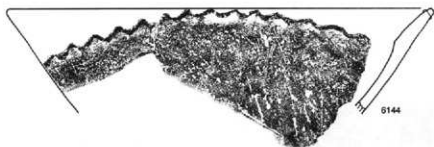
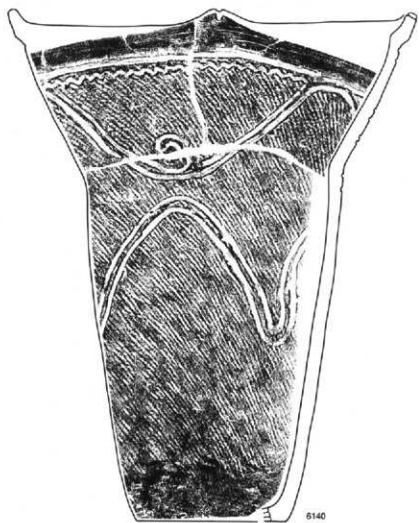
- |                        |                               |
|------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 コーム粒子微量          | 5 黒色 ロームブロック・炭屑パミス粒子少量、炭化種子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量        | 6 黒褐色 ロームブロック・炭屑パミス粒子少量       |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量        | 7 黒褐色 コームブロック中量、炭屑パミス粒子少量     |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化種子微量 |                               |

遺物出土状況 縄文土器片300点、磨石1点が出土している。主な遺物は底面から覆土下層にかけて廃棄されたような状態で出土している。6140の深鉢は底面から、6141の深鉢と6142・6143の浅鉢は覆土下層から破片が散在する状態で出土している。6146と6147の深鉢は、接合しないが同一個体である。

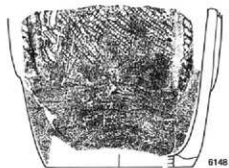
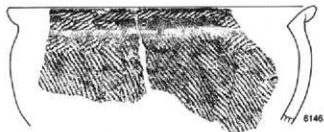
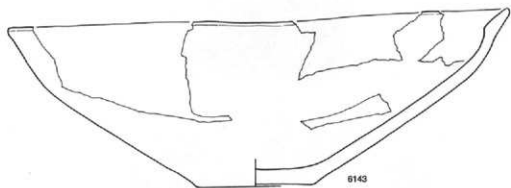
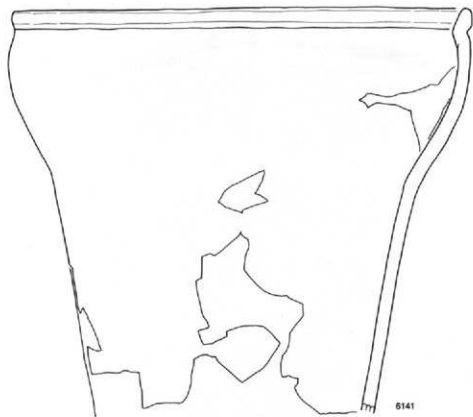
所見 底面から覆土下層にかけて遺物が集中し、一括廃棄されたことがうかがわれる。時期は、底面から出土した6140の深鉢から中期中葉(阿玉台II~III式期)と考えられる。



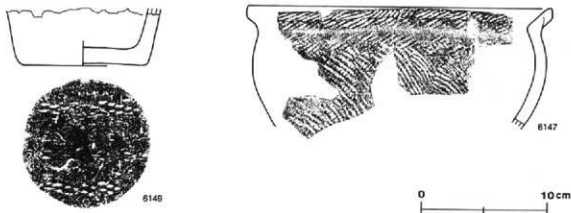
第397図 第1687号土坑出土遺物実測図



第398图 第1687号土坑出土物实测图(1)



第399图 第1687号土坑出土文物实测图(2)



第400図 第1687号土坑出土遺物実測図(3)

第1687号土坑出土遺物観察表(第398~400図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6140	縄文土器	深鉢	[31.4]	40.3	11.8	口縁部と胴部に比喩による大振りの変状文を巡らしている。地文はしの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色にぶい橙	底面	P.L.53
6141	縄文土器	深鉢	35.8	(32.1)	—	無文で、研磨。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色にぶい橙	覆土下層	
6142	縄文土器	浅鉢	[44.2]	14.6	11.5	無文で、入念に研磨。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土下層	P.L.53
6143	縄文土器	浅鉢	[39.2]	13.8	9.4	無文で、入念に研磨。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐色	覆土下層	P.L.53
6144	縄文土器	鉢	[33.2]	(8.4)	—	口唇部外面に押圧文を施している。無文で、研磨。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土下層	
6145	縄文土器	深鉢	[17.8]	(6.5)	—	押圧文を有する隆帯を懸垂させている。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土下層	
6146	縄文土器	深鉢	[24.0]	(9.4)	—	しの無節縄文を口唇部外面は横方向、それ以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
6147	縄文土器	深鉢	[24.0]	(9.5)	—	しの無節縄文を口唇部外面は横方向、それ以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土下層	
6148	縄文土器	深鉢	—	(12.5)	[11.5]	胴部に隆帯を懸垂させ、器面を4分割している。しの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
6149	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	9.8	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	底部調査

#### 第1690号土坑(第401・402図)

位置 調査2区の北部、C3h9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第175号住居と第1522号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は、第175号住居と第1522号土坑に掘り込まれているため、現状では長径2.48m、短径2.20mの楕円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは41cmである。壁は直立しているが、北壁が土層断面から内傾することが確認されている。

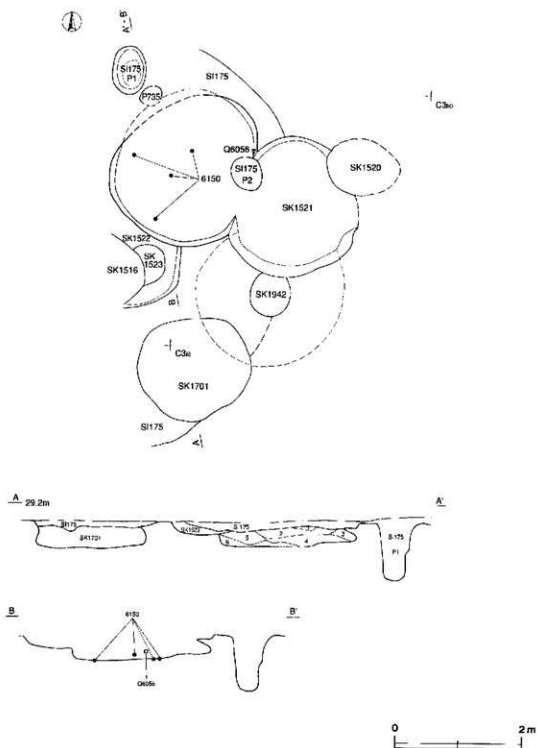
覆土 6層に分層される。第1・2層の上面は第175号住居の床面であり、踏み締まっている。第3・4層はロームブロックを多く含み、北壁側から堆積していることから、内傾する壁の崩落土と考えられる。第5・6層は、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

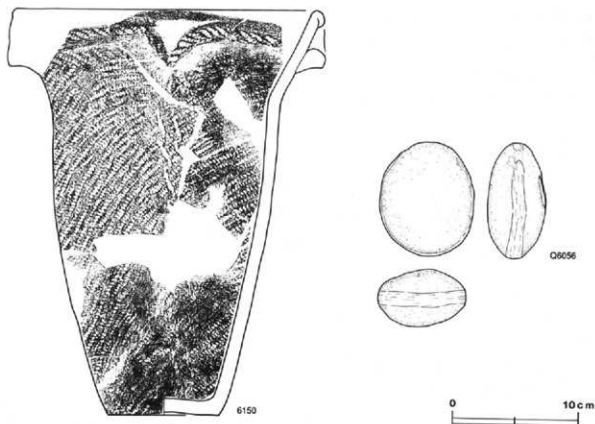
- |        |           |       |                    |
|--------|-----------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量   | 4 暗褐色 | ロームブロック多量          |
| 2 灰褐色  | ローム粒子中量   | 5 黄褐色 | ローム粒子少量            |
| 3 灰暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 深褐色 | ローム粒子中量、第2層より硬よがない |

遺物出土状況 網文土器片54点、磨石1点が出土している。6150の深鉢は散在して底面から出土している。

所見 6150の深鉢は、廃絶時に廃棄されたことがうかがえる。時期は、6150の深鉢から中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。



第401図 第1690号土坑実測図



第402図 第1690号土坑出土遺物実測図

第1690号土坑出土遺物観察表 (第402図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6150	縄文土器	深鉢	23.3	32.1	8.8	口縁部は隆帯によるV字状文。R Lの半筋縄文。V字状文下には線線文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色にふい赤褐色	覆土下層	底部副代版 P L 33

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6056	磨石	9.0	7.5	4.6	431.6	砂岩	縦線に磨痕。	覆土下層	

### 第1697号土坑 (第403図)

**位置** 調査2区の北部, C3j0区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 第1696号土坑と第1699号土坑を掘り込み, 第1698号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は, 土層断面から長径2.18m, 短径2.08mの円形である。底面はほぼ平坦である。深さは57cmである。壁は南壁が直立しているが, 土層断面から内傾していることが確認されている。ピットの深さは3か所で, いずれも壁際に位置している。ピットの深さは, P1が19cm, P2が41cm, P3が27cmである。

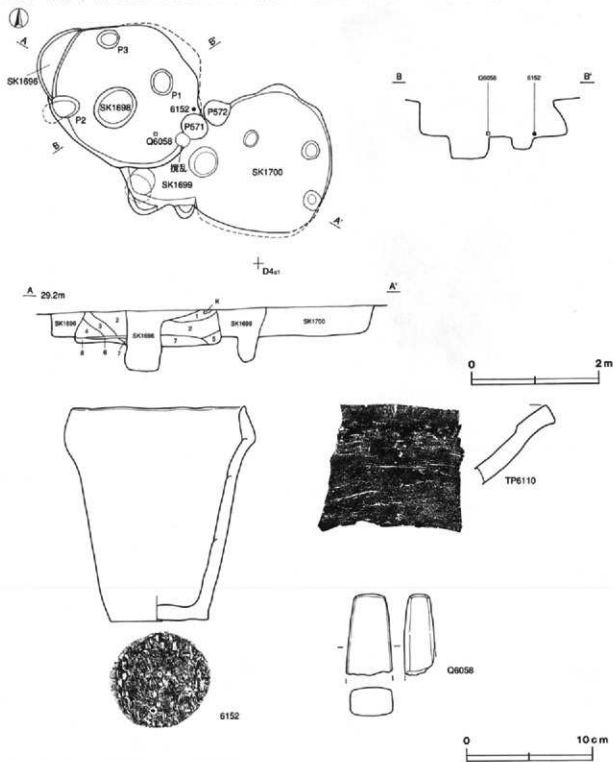
**覆土** 8層に分層される。第7・8層はロームブロックを多く含み, 内傾する壁の崩落土と考えられる。第1～6層は, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                 |        |                    |
|-------|-----------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量         | 5 黒褐色  | ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量         | 6 柳暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量    |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | ロームブロック中量          |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量       | 8 暗褐色  | ロームブロック多量          |

遺物出土状況 縄文土器片75点、磨製石斧1点が出土している。6152の深鉢は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土した6152の深鉢から中期中葉（阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期）と考えられる。



第403図 第1697号土坑・出土遺物実測図

第1697号土坑出土遺物観察表（第403図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6152	縄文土器	深鉢	13.6	16.8	7.7	無文で、頑磨。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色にふい散	覆土下層	底部網代表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6110	縄文土器	浅鉢	—	(6.3)	—	無文で、研磨。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐色	覆土下層	内面・口唇部赤彩

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6058	磨製石斧	(6.3)	3.6	2.3	(93.6)	緑色黒灰岩	器体研磨入念。刃部欠損。	覆土下層	

### 第1698号土坑 (第404・405図)

**位置** 調査2区の北部、C3j0区。住居跡群域に位置する。

**確認状況** 確認面では検出できず、土層断面と第1697号土坑の底面で確認した。

**重複関係** 第1697号土坑の中央部を掘り込んでいる。

**規模と形状** 平面形は、1697号土坑の底面では長径0.66m、短径0.59mのほぼ円形である。底面はほぼ平坦である。深さは96cmで、1697号土坑の底面からの深さは41cmである。壁は直立しているが、土層断面では東壁の上位が緩やかに外傾していることが確認されている。

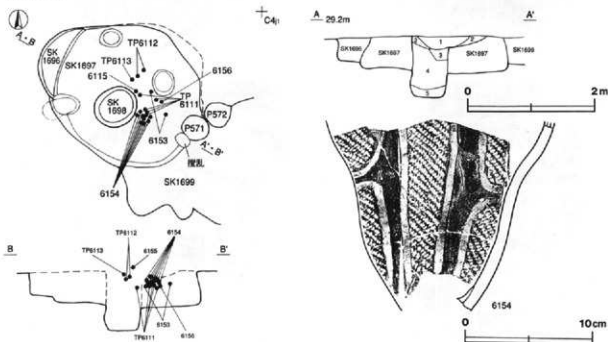
**覆土** 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1 黒色 炭化粒子少量、ローム粒子微量  | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量    |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量   | 5 黒褐色 ロームブロック・塵溜パミス粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |                         |

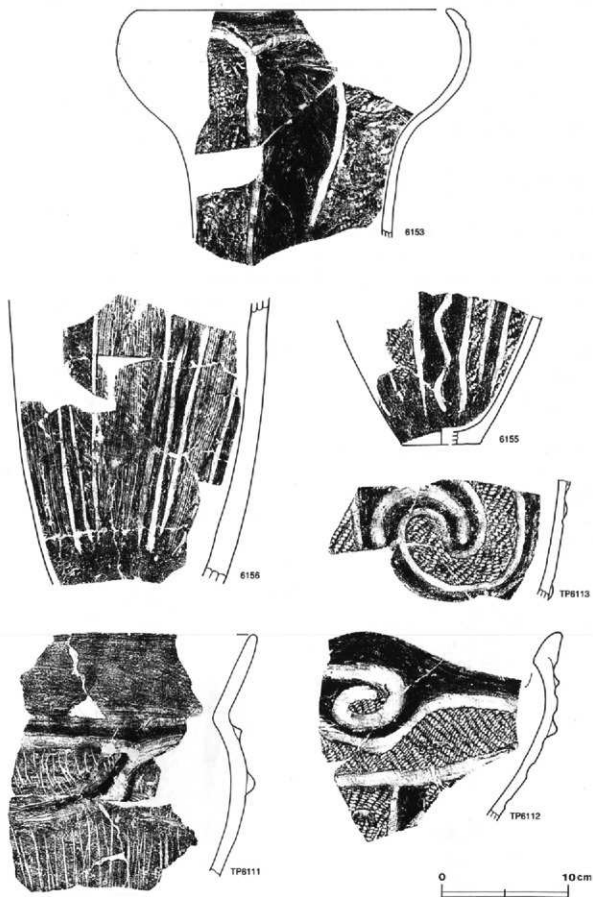
**遺物出土状況** 縄文土器片134点が主に覆土上層から出土している。6153・6154・6155・6156の深鉢片は覆土上層から出土している。

**所見** 覆土上層に土器が集中し、一括廃棄されたことがうかがわれる。本跡の廃絶時期は底面や覆土下層からの出土遺物がないため明確ではないが、覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第404図 第1698号土坑・出土遺物実測図





第405图 第1698号土坑出土遗物实测图

第1698号土坑出土遺物観察表 (第404・405図)

番号	種別	母土	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6153	縄文土器 深鉢	深鉢	124.6	(18.1)	—	沈線により区画文を施し、区画文外を紫り消している。L Rの単節縄文。	長石・石英	良好	にぶい褐	覆土上層	
6154	縄文土器 深鉢	深鉢	—	(15.0)	—	沈線により区画文を施し、区画文外を紫り消している。L Rの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐色	覆土上層	
6155	縄文土器 深鉢	深鉢	—	(10.0)	[6.2]	沈線による器底文周を紫り消している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐	覆土上層	
6156	縄文土器 深鉢	深鉢	—	(22.7)	—	沈線による器底文周を紫り消している。条線文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP6111	縄文土器 鉢	鉢	—	(19.2)	—	口縁部は無文。胴部上縁は隆起により文様を突出。条線文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP6112	縄文土器 深鉢	深鉢	—	(14.9)	—	口縁部は隆起部下に隆起による褐色文。胴部は器底文周を紫り消す。R Lの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土上層	
TP6113	縄文土器 深鉢	深鉢	—	(9.4)	—	2本・1組の隆起による褐色文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土上層	

第1701号土坑 (第406・407図)

位置 調査2区の北部、C3 19区。住跡跡群域に位置する。

重複関係 第175号住居に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は、第175号住居に掘り込まれているため、現状では長径1.72m、短径1.60mのほぼ円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは40cmで、第175号住居の床面からの深さは34cmである。壁は外傾しているが、北壁と南壁の一部は内傾している。ピットは2か所で、壁寄りに位置している。ピットの深さは、P1が49cm、P2が39cmである。

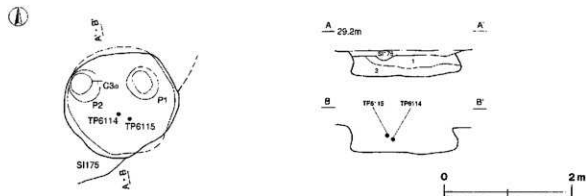
覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層調査

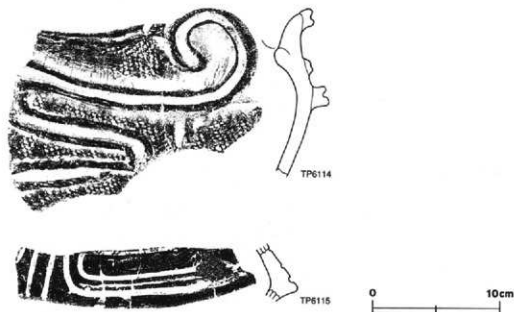
- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片165点が出土している。出土土器の多くは廃棄されたような状態で覆土上層から出土している。TP6114の深鉢片とTP6115の浅鉢片は覆土上層(第1層)から出土している。

所見 覆土上層に遺物が集中し、一括廃棄されたことがうかがわれる。本跡の廃絶時期は底面や覆土下層からの出土遺物がなため明確ではないが、覆土上層の堆積時期は、その出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第406図 第1701号土坑実測図



第407図 第1701号土坑出土遺物実測図

第1701号土坑出土遺物観察表 (第407図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6114	縄文土器	深鉢	—	(13.2)	—	背に辻線を有する隆帯と2本一組の隆帯により文様を描出。上段の単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色にぶい褐	覆土上層	
TP6115	縄文土器	浅鉢	—	(4.5)	—	口縁部は辻線により文様を描出している。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土上層	内・外面赤彩

### 第1761号土坑 (第408・409図)

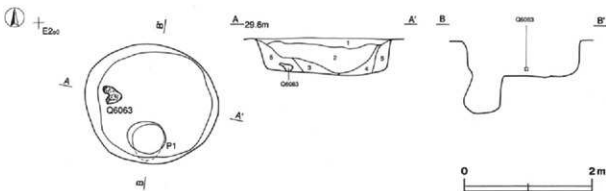
位置 調査2区の中央部、E2e0区。住居群の外周域に位置する。

規模と形状 平面形は、径2.12mの円形である。底面は平坦で、深さは58cmである。壁は西壁が外傾している以外は直立している。

覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

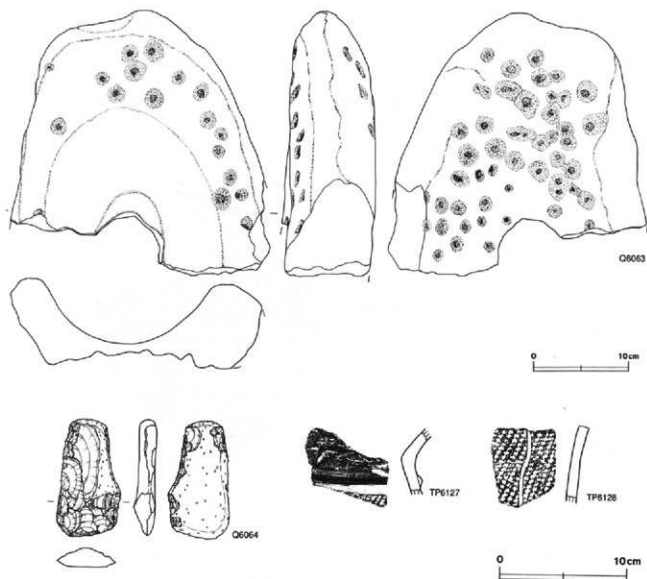
- |                 |                             |
|-----------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量、第2層より色調が明るい |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 5 褐色 ロームブロック多量              |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 |                             |



第408図 第1761号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片21点、石皿1点、打製石斧1点が出土している。Q6063の石皿は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第409図 第1761号土坑出土遺物実測図

第1761号土坑出土遺物観察表（第409図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6127	縄文土器	鉢	—	(5.3)	—	口縁部は無文。隆帯により文様を抽出。R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	ぶい橙	覆土	
TP6128	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	北縁による無垂文。R L Rの複筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6063	石皿	(27.8)	27.4	9.9	(5634.6)	安山岩	表面に皿状のくぼみを有する。凹石に併用、欠損。	覆土下層	P L 61
Q6064	打製石斧	9.3	5.0	1.6	92.3	緑色凝灰岩	片面調整。表面の一部と裏面に砥石面を残す。	覆土下層	P L 60

### 第1771号土坑（第410図）

**位置** 調査2区の中央部，E3c4区。住居跡群の外周域に位置する。

**規模と形状** 平面形は長径2.34m，短径2.06mの楕円形である。底面は鹿沼バミス層中で，ほぼ平坦である。深さは71cmで，壁は直立する。ピットは1か所で，東壁際に位置している。

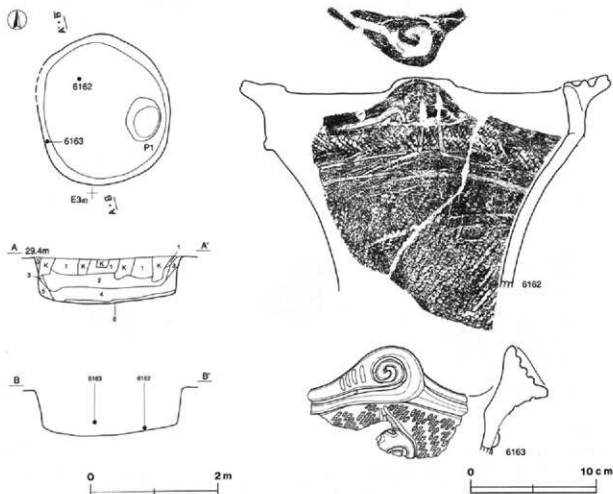
**覆土** 6層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                     |       |                       |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量   | 4 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量             | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子・焼土粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片124点が出土している。6162と6163の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は，覆土下層から出土した6162と6163の深鉢片から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第410図 第1771号土坑・出土遺物実測図

### 第1771号土坑出土遺物観察表（第410図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6162	縄文土器	深鉢	[22.6]	(16.8)	—	口唇部外面に派帯文を軸す突起を有する。口縁部は派帯により文様を描出。R Lの単形縄文。	長石・石英	普通	黒褐色にぶい橙	覆土下層	
6163	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	派帯部下に疎密による尚卷文。口縁部は比喩が効く派帯文により描出。地文はR Lの単形縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土下層	

第1772号土坑 (第411・412図)

位置 調査2区の中央部、E3 e2区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 平面形は、長径2.18m、短径1.96mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、深さは118cmである。壁はほぼ直立し、西壁の一部だけが内傾している。

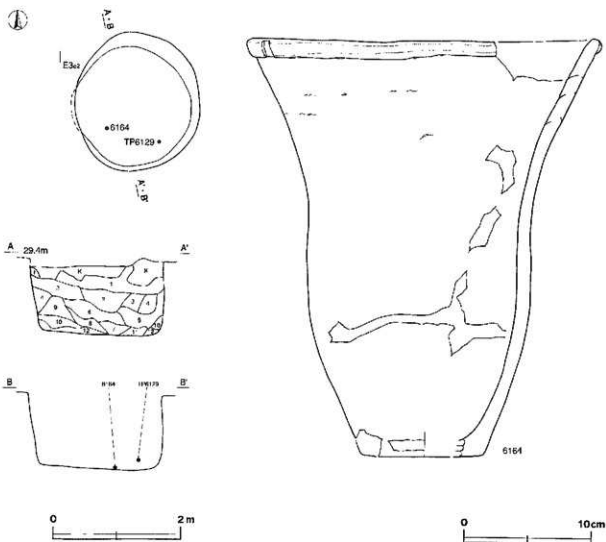
覆土 12層に分層される。第4～12層は、ロームブロックを含む層がレンズ状あるいは凸状に堆積していることから、壁の崩落を繰り返しながら自然堆積したものと考えられる。第1～3層は、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

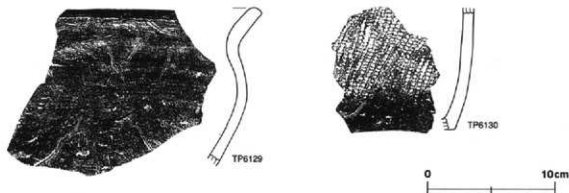
- |       |                |        |                    |
|-------|----------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化木片少量   | 7 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化バミス粒少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量        | 8 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化バミス粒少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化木片少量   | 9 暗褐色  | ロームブロック少量          |
| 4 褐色  | ロームブロック少量      | 10 暗褐色 | ロームブロック少量          |
| 5 褐色  | ローム粒子中量        | 11 暗褐色 | ロームブロック少量          |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化木片少量 | 12 褐色  | ロームブロック少量          |

遺物出土状況 縄文土器片43点が出土している。6164の深鉢は底面から横位の状態で出土している。

所見 時期は、底面から出土している6164の深鉢から中期後葉（加賀利E I時期）と考えられる。



第411図 第1772号土坑・出土遺物実測図



第412図 第1772号土坑出土遺物実測図

第1772号土坑出土遺物観察表 (第411・412図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6164	縄文土器	深鉢	26.0	33.2	[8.4]	無文で、研磨。	長石・石英	普通	褐灰橙	底面	P L 53
TP6129	縄文土器	鉢	—	(12.0)	—	無文で、研磨。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	口縁部内・外面赤彩
TP6130	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	—	R Lの早節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	

第1814号土坑 (第413・414図)

位置 調査2区の南部, E 3 g7区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第1815号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は、径1.14mの不整形円形である。底面はほぼ平坦である。深さは52cmで、壁は直立する。

第1815号土坑と重複している北東壁はテラス状になっている。

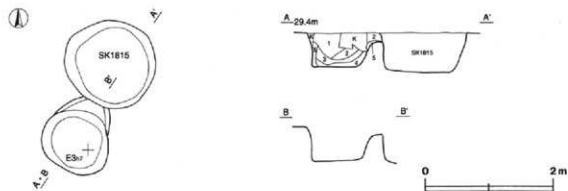
覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

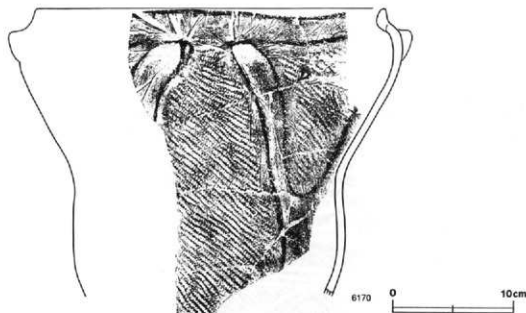
- |       |                |       |           |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量    | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色  | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量        |       |           |

遺物出土状況 縄文土器片13点が出土している。6170の深鉢片は覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利 E N式期)と考えられる。



第413図 第1814号土坑実測図



第414図 第1814号土坑出土遺物実測図

第1814号土坑出土遺物観察表 (第414図)

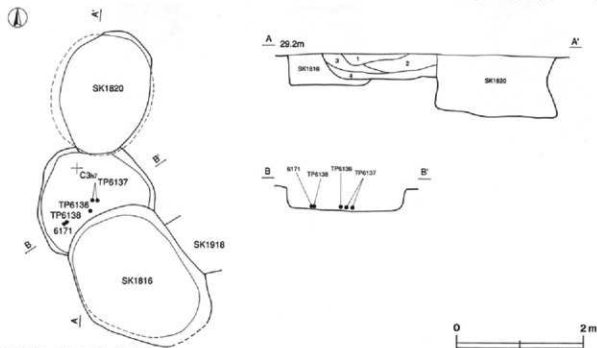
番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6170	縄文土器	深鉢	[29.0]	(24.0)	—	敷き帯により文様を露出している。区画内にL.Rの単純縄文を充填している。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土	

第1817号土坑 (第415・416図)

位置 調査2区の北部, C3h7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1816号土坑を掘り込み, 第1820号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は, 第1820号土坑に掘り込まれているため, 径1.86mの円形と推定される。底面はほぼ平



第415図 第1817号土坑実測図



坦である。深さは38cmで、壁はほぼ直立する。

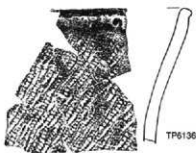
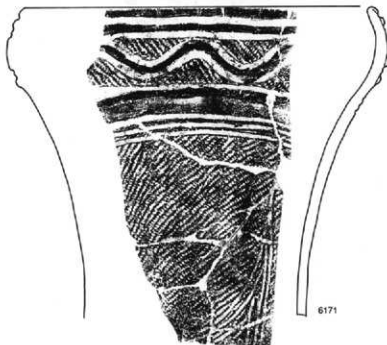
**覆土** 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |        |                |        |           |
|--------|----------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 黒褐色  | ロームブロック微量 |
| 2 黒暗褐色 | ロームブロック少量      | 4 黒暗褐色 | ローム粒子中量   |

**遺物出土状況** 縄文土器片73点が出土している。6171の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、覆土下層から出土している6171の深鉢片から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第416図 第1817号土坑出土遺物実測図

第1817号土坑出土遺物観察表（第416図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6171	縄文土器	深鉢	[27.6]	(24.5)	—	口縁部は隆帯による波状文。頸部は無文。胴部は沈線により文様を描出。R Lの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP6136	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	R Lの単節縄文を縦方向に施文している。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP6137	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	沈線が沿う隆帯により文様を描出している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黒	覆土下層	
TP6138	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	沈線が沿う隆帯による渦巻文。L Rの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	

### 第1821号土坑 (第417・418図)

位置 調査2区の北部, D3 a5区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1822土坑に東側を掘り込まれている。第1848号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は, 径1.96mの円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は径2.26mの円形である。深さは96cmで, 壁は内傾している。ピットは5か所で, いずれも壁際に位置している。ピットの深さは, P1が38cm, P2が45cm, P3が32cm, P4が38cm, P5が25cmである。

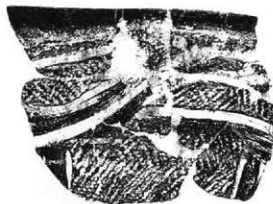
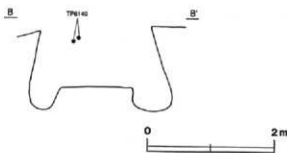
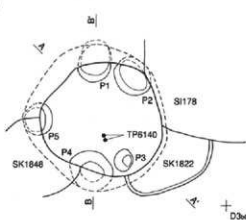
覆土 7層に分層される。第6・7層が底面中央部に凸状に堆積している以外は, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

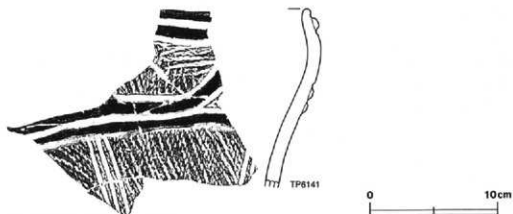
- |       |                  |       |                     |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量          | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭屑バミスブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量        | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量    |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量          | 7 褐色  | ローム粒子少量             |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 |       |                     |

遺物出土状況 縄文土器片104点, 剥片1点が覆土から出土している。TP6140の深鉢片は覆土上層から出土している。

所見 廃絶時期は底面や覆土下層から出土している遺物がないため明確にはできないが, 覆土上層の堆積時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第417図 第1821号土坑・出土遺物実測図



第418図 第1821号土坑出土遺物実測図

第1821号土坑出土遺物観察表 (第417・418図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6140	縄文土器	深鉢	—	(13.9)	—	口縁部は隆帯により文様を描出。胴部は沈線による懸垂文を磨り出す。R.Lの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上層	
TP6141	縄文土器	深鉢	—	(14.1)	—	口縁部は2本一組の隆帯により文様を描出。胴部は沈線による懸垂文。懸垂文。	長石・石英	良好	灰褐	覆土	
TP6142	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	沈線が沿う隆帯による渦巻文。R.Lの単筋縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	外面スス付着

#### 第1829号土坑 (第419~421図)

位置 調査2区の北部、D3a8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1830号土坑の西側を掘り込み、第217・218号住居と第1831号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は、第217号住居と第1831号土坑に掘り込まれているため、現状では長径2.16m、短径1.62mの楕円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは68cmで、第217号住居の底面からの深さは54cmである。壁は内傾している。ピットは1か所、北壁寄りに位置している。P1の深さは25cmである。

覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |        |                |       |         |
|--------|----------------|-------|---------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量      | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |       |         |

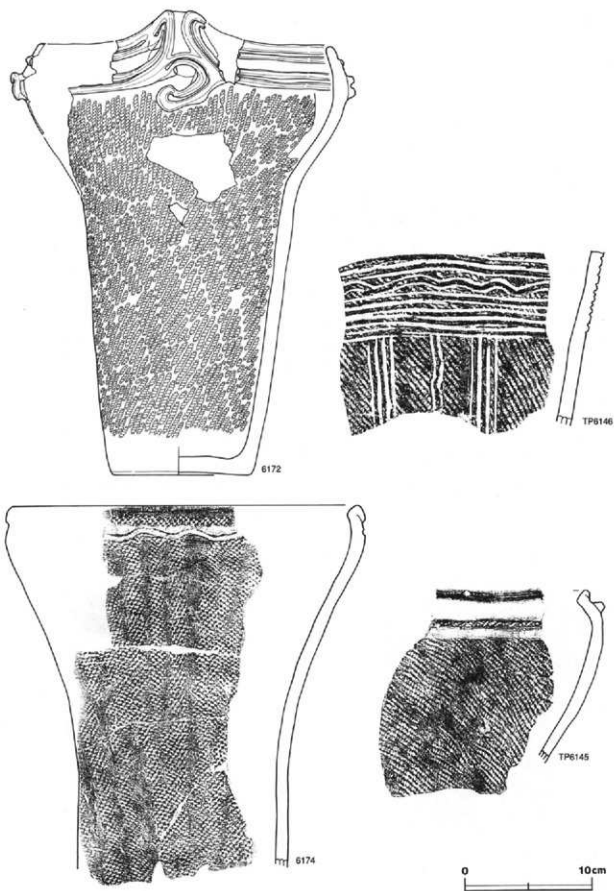
遺物出土状況 縄文土器片57点が、主に覆土下層から廃棄されたような状態で出土している。6172と6173の深鉢は壁際の覆土下層から、6174の深鉢は覆土下層から破片が散在している状態で出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土している6172と6173の深鉢から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第419図 第1829号土坑出土遺物実測図 (1)





第421图 第1829号土坑出土遗物实测图(2)

第1829号土坑出土遺物観察表 (第419~421図)

番号	類別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	土色	組成	色調	出土位置	備考
6172	縄文土器	深鉢	23.1	36.6	10.8	1層部は胎縁部と首に凹線を有する隆帯文、R1の厚胎縄文を縦方向に施す。	長石・石英	普通	灰褐色にぶい橙	覆土下層	P.L54
6173	縄文土器	深鉢	16.6	23.1	2.7	1層部は基本一帯の隆帯による胎縁上、胎口の凹線を光道している。胎縁はR1の厚胎縄文。	長石・石英	普通	灰褐色にぶい赤黒	覆土下層	P.L54
6174	縄文土器	深鉢	27.0	(28.7)	—	1層部は胎縁による胎縁文、R1の厚胎縄文を、2層部胎縁に横方向、それ以外は縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土下層	—
6175	縄文土器	深鉢	23.8	19.8	—	1層部は胎縁による胎縁文を施している。R1の厚胎縄文を縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土下層	—
6176	縄文土器	深鉢	—	5.0	11.2	R1の厚胎縄文を縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい灰褐色	覆土下層	—
6177	縄文土器	深鉢	—	(13.2)	7.1	R.Rの厚胎縄文を縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土下層	—
TP6145	縄文土器	深鉢	—	(13.5)	—	1層部首下に隆帯を施している。Rの厚胎縄文を縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土下層	—
TP6146	縄文土器	深鉢	—	(13.8)	—	手轆轤による“行沈細文”より文様を抽出し多数によるRの厚胎縄文を縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土下層	—

第1830号土坑 (第422・423図)

位置 調査2区の北部、D3a8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第218号住居と第1829号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、第218号住居と第1829号土坑に掘り込まれているため、現状では長径1.52m、短径1.09mの楕円形である。底面はほぼ平床で、平面形は長径3.21m、短径2.82mの楕円形である。確認面からの深さは102cmで、第218号住居跡の床面からの深さは86cmである。壁は内傾して立ち上がり、中位でくびれ、上位は直立する。底面からくびれ部までの高さは平均で70cmである。

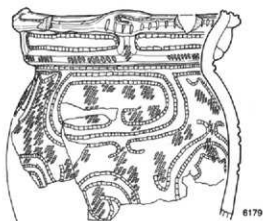
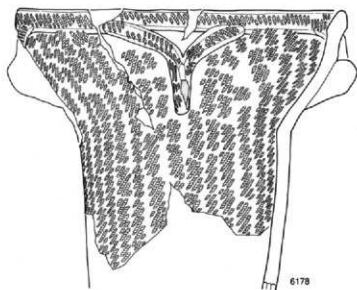
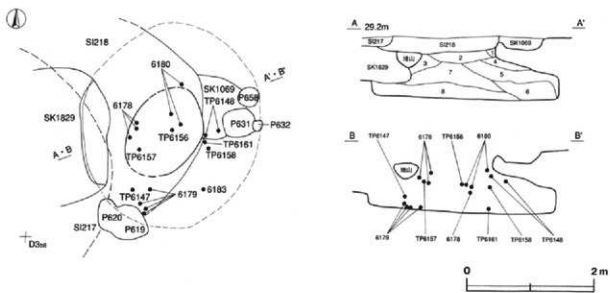
覆土 8層に分層される。第8層はロームブロックを多く含み、粘性がある土層であることから、内傾する壁の崩落土と考えられる。覆土中層は炭化粒子を少量含み、遺物が集中していることから、廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。覆土上層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

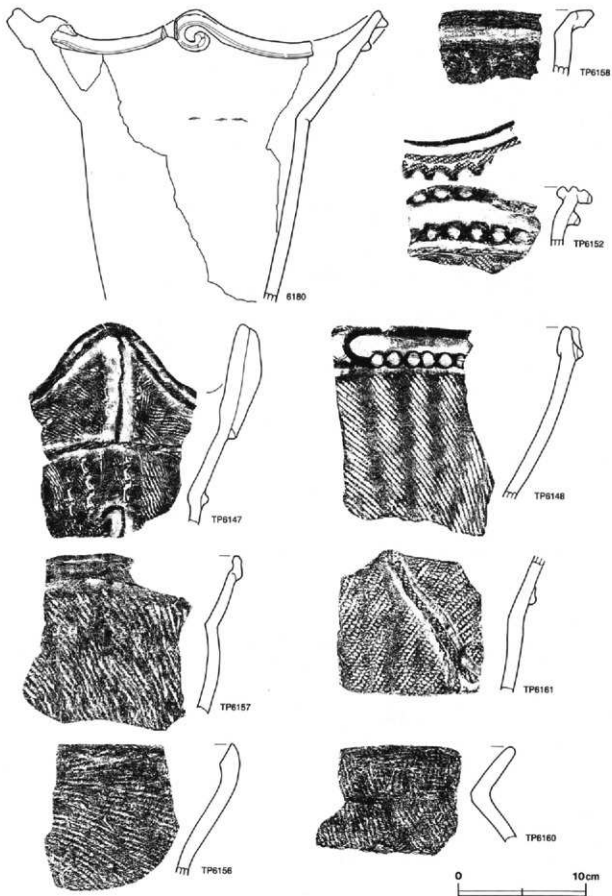
- |       |                |       |                  |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量      | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 赤褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量   |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   | 7 黒色  | 炭化粒子少量、ローム粒子微量   |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片442点が出土している。土器は覆土下層と覆土中層に遺物が集中し、特に覆土中層からの出土量が多い。6179の深鉢は底面からTP6147の深鉢片は南端側の覆土下層から出土している。6178と6180の深鉢は覆土中層から出土している。

所見 遺物の集中が覆土下層と覆土中層に大別されることから、一度にわたる廃棄活動が行われたことがうかがわれる。時期は、底面から出土している6179の深鉢と覆土下層から出土しているTP6147の深鉢片から中期中葉(阿玉台皿式期)と考えられる。



第422图 第1830号土坑·出土遺物実測図



第423图 第1830号土坑出土文物实测图



第1830号土坑出土遺物観察表(第422・423図)

番号	性別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	施成	色調	出土位置	備考
6178	縄文土器	深鉢	[23.1]	(22.2)	—	口縁部は胎帯によるV字状文。R上の甲斐縄文を1行部外型に横方向に、以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土上層	
6179	縄文土器	深鉢	[16.6]	(16.9)	—	口縁部は2本の縦筋文を施している。胴部は結節状帯で施し、地文はR上の甲斐縄文。	長石・石英・雲母	赤褐色	黒褐色	近 山	P.154
6180	縄文土器	深鉢	[27.0]	(22.9)	—	口縁部外型に横帯を施し、此直部に溝筋文を施している。無文で、斜削している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
6183	縄文土器	鉢	[19.8]	7.5	[7.9]	無文で、入念に研削している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	内・外面赤彩
TP6147	縄文土器	深鉢	—	(15.8)	—	口縁部は胎帯により文様を呈出。Lの甲斐縄文と縦筋文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土下層	
TP6148	縄文土器	深鉢	—	(13.5)	—	口縁部はV字文を有する胎帯により文様を呈出。Lの甲斐縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土上層	
TP6152	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	口縁部を有する胎帯を施している。L・Rの甲斐縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆 上	
TP6156	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	—	Lの甲斐縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土上層	
TP6157	縄文土器	深鉢	—	(12.6)	—	口縁部外面は無文。以下はLの甲斐縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土上層	
TP6158	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	無文で、入念に研削している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP6160	縄文土器	甕	—	(7.7)	—	Lの甲斐縄文を、口縁部の一部は横方向に、以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆 上	
TP6161	縄文土器	深鉢	—	(10.8)	—	胎帯により文様を呈出。R上の甲斐縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土上層	

## 第1831号土坑(第424図)

位置 調査2区の北部、D3a7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1829号土坑を掘り込み、第1843号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、第1843号土坑に掘り込まれているため、現状では径2.04mの円形と推定される。底面はほぼ平坦である。深さは65cmで、壁はほぼ直立する。ピットは2か所で、いずれも中央部に位置している。P1は北壁と北東壁がテラス状となっており、2か所のピットが重複している可能性がある。ピットの深さは、P1が77cm、P2が50cmである。

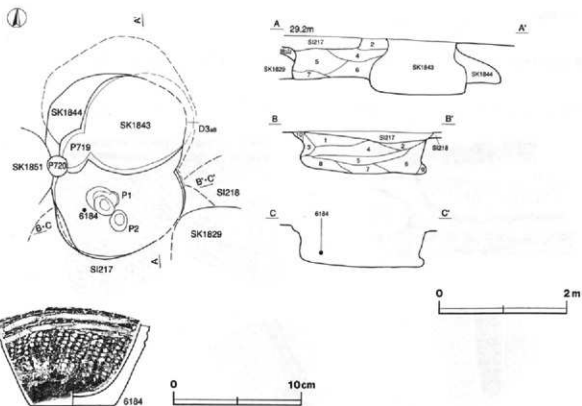
覆土 9層に分類される。レンズに堆積していることから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

1 汎黄褐色	ローム粒子少量、炭化物微少	6 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック中量	7 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子少量
4 汎黄褐色	ローム粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子・炭粒バミス粒少量		

遺物出土状況 縄文土器片46点が出土している。6184の深鉢片は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第424図 第1831号土坑・出土遺物実測図

第1831号土坑出土遺物観察表(第424図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6194	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	6.7	沈線文を施している。地文はR Lの単節縄文で、縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	

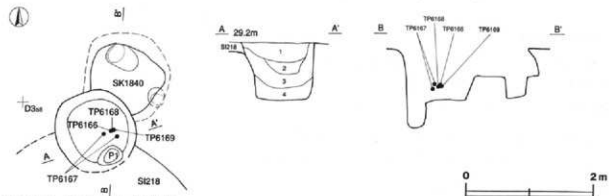
### 第1832号土坑 (第425・426図)

**位置** 調査2区の北部, D3a8区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第218号住居跡を掘り込んでいる。第1840号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 平面形は、長径1.37m, 短径1.23mの楕円形である。底面はほぼ平坦である。深さは92cmで、壁は外傾している。

**覆土** 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。



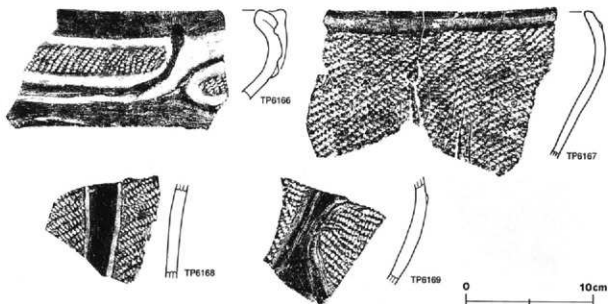
第425図 第1832号土坑実測図

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量  
 3 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、炭化粒子微量  
 4 極暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片132点、石核1点が出土している。TP6166～6169の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土した TP6166～6169の深鉢片から中期後葉（加曾利 E Ⅲ 式期）と考えられる。



第426図 第1832号土坑出土遺物実測図

第1832号土坑出土遺物観察表（第426図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6166	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	口縁部は比線に沿う隆帯により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。頸部は無文。	長石・石英	普通	灰褐色	覆土下層	
TP6167	縄文土器	深鉢	—	(11.8)	—	口唇部外周は無文。以下はR Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐色	覆土下層	
TP6168	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	比線による懸垂文間を磨り消している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐色	覆土下層	
TP6169	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	微隆帯による区画文内にL Rの単節縄文を充填。微隆帯に沿って磨り消しを施す。	長石・石英	普通	にぶい褐色	覆土下層	

第1841号土坑（第427図）

位置 調査2区の北部、C37区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1842号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、第1842号土坑に掘り込まれているため、径1.24mの円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.64m、短径2.38mの楕円形である。壁は内傾して立ち上がり、上位で強くくびれている。深さは64cmで、底面からくびれ部までの高さは56cmである。

覆土 8層に分層される。第6～8層が底面中央部に凸状に堆積し、第1～5層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

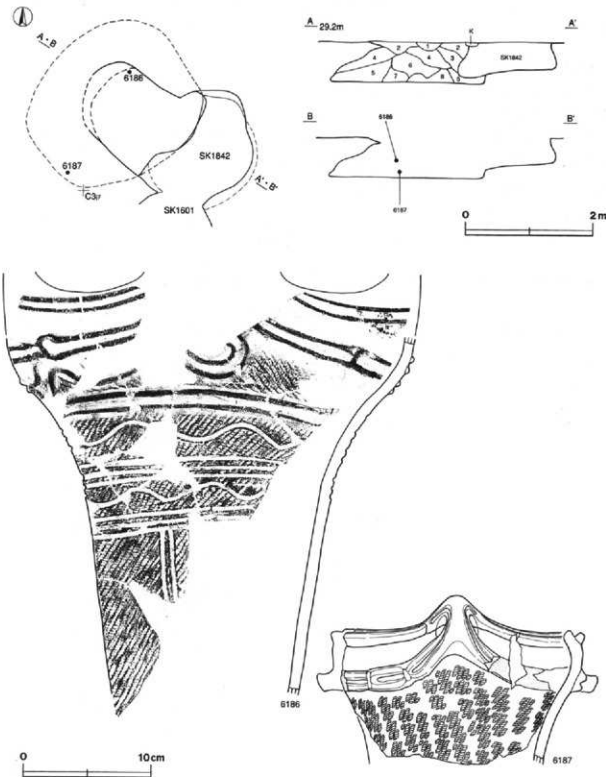
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量

- 5 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量、炭沼バミスブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量、炭沼バミス粒子微量
- 8 褐色 炭沼バミスブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片140点が出土している。6186と6187の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土した6186と6187の深鉢片から中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第427図 第1841号土坑・出土遺物実測図

第1841号土坑出土遺物観察表 (第427図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6186	縄文土器	深鉢	[32.0]	(34.0)	—	口縁部は幾何文。胴部は沈線文。R.Lの単筋縄文を、口縁部は横方向、胴部は縦方向に施す。	長石・石英	普通	黒褐色	覆土下層	
6187	縄文土器	深鉢	[17.4]	(13.4)	—	口縁部は縦線状把手を起点に背に沈線を有する隆帯を施す。R.Lの単筋縄文を縦方向に施す。	長石・石英	普通	黄	覆土下層	

第1842号土坑 (第428・429図)

位置 調査2区の北部、C317区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1841号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は、径1.30mの円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.82m、短径1.52mの楕円形である。深さは45cmで、壁は内傾している。

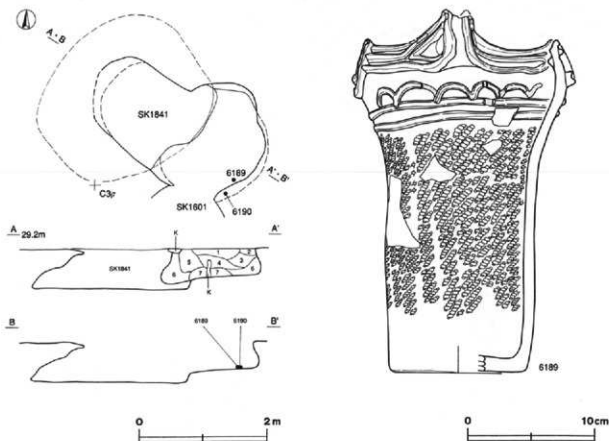
覆土 7層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

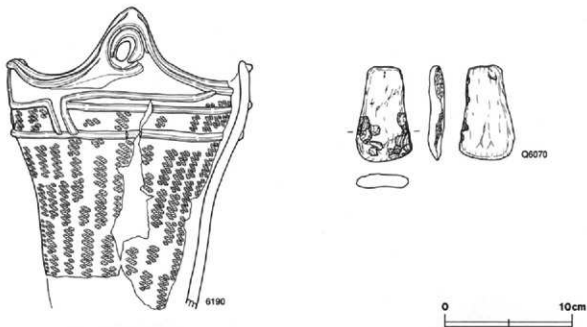
- |       |                  |        |         |
|-------|------------------|--------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量     | 5 黒褐色  | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量          | 6 暗褐色  | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 7 極暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 黒色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |        |         |

遺物出土状況 縄文土器片7点、磨製石斧1点が出土している。6189の深鉢と6190の深鉢片は壁際の底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土した6189の深鉢から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第428図 第1842号土坑・出土遺物実測図



第429図 第1842号土坑出土遺物実測図

第1842号土坑出土遺物観察表 (第428・429図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6189	縄文土器	深鉢	14.9	28.5	[10.6]	口縁部は縦線状把手と背に沈線を含む隆帯文。R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐色 明赤褐色	底面	P L 54
6190	縄文土器	深鉢	[19.4]	(23.7)	—	孔を有する山形状把手。口縁部は隆帯により文様を排出。L Rの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐色 にぶい黄褐色	底面	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6070	磨製石芥	7.5	4.3	1.2	55.9	緑色凝灰岩	右側面に敲打痕が残る。器体研磨不全。	覆土	

### 第1843号土坑 (第430図)

位置 調査2区の北部、D3a7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 南側で第1831号土坑を北西側で1844号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は、径1.12mの円形と推定される。底面は平坦で、平面形は長径1.72m、短径1.44mの楕円形である。壁はわずかに内傾して立ち上がり、中位でくびれ、上位はほぼ直立する。深さは83cmで、底面からくびれ部までの高さは54cmである。

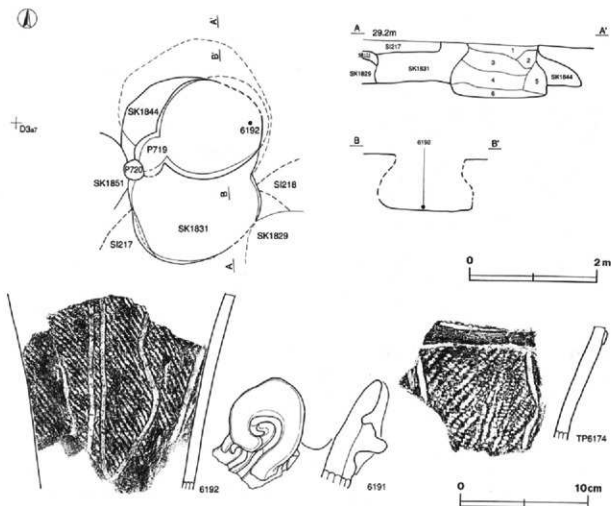
覆土 6層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・炭化物微量	4	黒褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
2	黒褐色	ローム粒子少量	5	黒褐色	ローム粒子中量
3	黒褐色	ローム粒子少量、第2層より色調が明るい	6	黒褐色	ロームブロック・底層バミブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片76点が出土している。6192の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土した6192から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第430図 第1843号土坑出土遺物実測図

第1843号土坑出土遺物観察表 (第430図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6191	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	波頂部下に條帯による渦巻文を施している。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
6192	縄文土器	深鉢	—	(15.3)	—	沈線による懸垂文を施している。地文はLの無筋縄文で、縦方向に施文。	長石・石英	普通	明赤褐色	覆土下層	
TP6174	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	—	口縁部と胴部の境に條帯を巡らし、胴部は沈線による懸垂文を施している。R Lの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黒	覆土	

### 第1847号土坑 (第431・432図)

位置 調査2区の北部, D3 b9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第683号ピットと第721号ピットと重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は, 現状では長径1.78m, 短径1.54mの楕円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径1.88m, 短径1.66mの楕円形である。深さは43cmで, 壁は外傾しているが, 南西壁だけは内傾している。ピットは3か所まで, いずれも壁際に位置している。ピットの深さは, P1が42cm, P2が57cm, P3が28cmである。

覆土 7層に分層される。第5～7層はロームブロックを多く含む層で, 壁際に堆積していることから内傾す

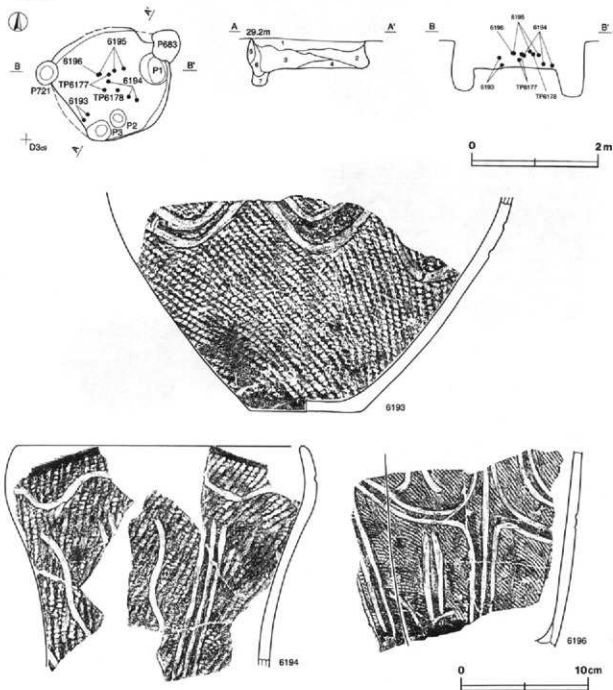
る壁の崩落土と考えられる。第1～4層は、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                  |       |                   |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 5 暗褐色 | ロームブロック中量         |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量   | 6 暗褐色 | ロームブロック少量         |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭屑パミス粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量          |       |                   |

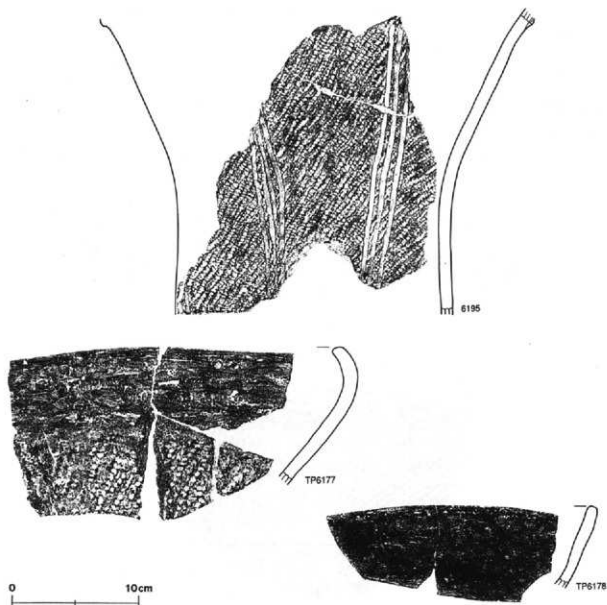
遺物出土状況 縄文土器片122点、磨製石斧片1点が出土している。6193の鉢片と6194の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土した6193の鉢片と6194の深鉢片から中期後葉（加曾利EⅡ時期）と考えられる。



第431図 第1847号土坑・出土遺物実測図





第432図 第1847号土坑出土遺物実測図

第1847号土坑出土遺物観察表 (第431・432図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6193	縄文土器	鉢	—	(17.2)	8.6	胴上位は沈線による波状文を巡らしている。地文はL R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
6194	縄文土器	深鉢	[22.2]	(17.5)	—	口縁部は沈線による波状文。胴部は3条一組の懸垂文周を巻り滑している。R Lの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土下層	
6195	縄文土器	深鉢	—	(24.2)	—	胴部は沈線による3条一組の懸垂文を施している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土中層	
6196	縄文土器	深鉢	—	(15.1)	—	胴部は沈線により縦位に4分割し。沈線により描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	明赤褐	覆土中層	
TP6177	縄文土器	鉢	—	(10.9)	—	口縁部は無文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土中層	
TP6178	縄文土器	鉢	—	(6.6)	—	無文で、研物。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中層	

### 第1851号土坑 (第433・434図)

位置 調査2区の北部, D3a7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 南側で第1850号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は、長径1.36m、短径1.21mのはほぼ円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.29m、短径1.18mのはほぼ円形である。深さは56cmで、壁は東壁が外傾する以外は内傾している。

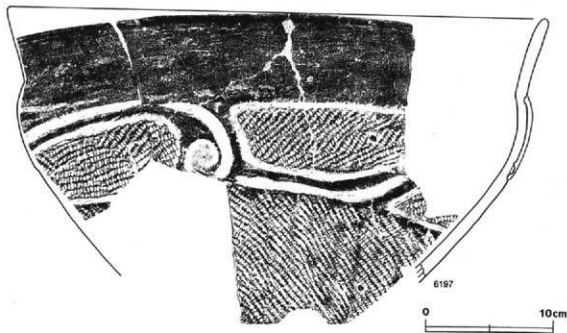
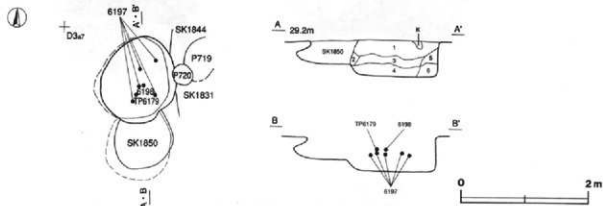
覆土 6層に分層される。第5・6層は外傾する東壁側から堆積していることから、内傾する壁の崩落土と考えられる。第1～4層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

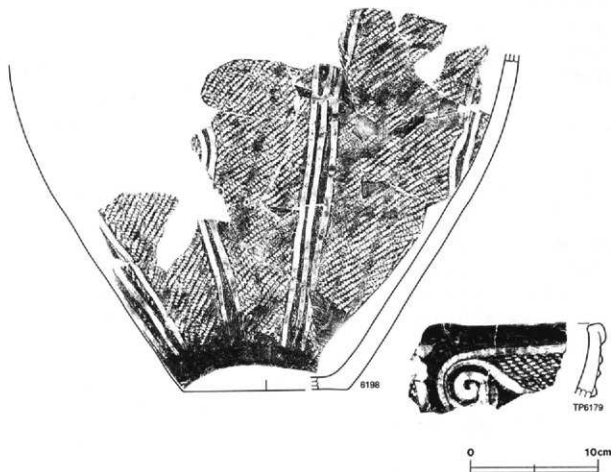
1 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック中量
3 極暗褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片86点, 打製石斧片1点, 磨製石斧片1点が覆土から出土している。6197の鉢片と6198の深鉢片は、いずれも覆土中層から出土している。

所見 時期は底面や覆土下層から出土している土器がないため明確ではないが、覆土中層の堆積時期はその出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第433図 第1851号土坑・出土遺物実測図



第434図 第1851号土坑出土遺物実測図

第1851号土坑出土遺物観察表 (第433・434図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6197	縄文土器	鉢	[42.2]	[21.1]	—	口縁部は無文。胴部上位は沈線が沿う隆帯文。地文はL Rの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
6198	縄文土器	深鉢	—	[26.2]	[13.0]	胴部は沈線による3条一組の螺旋文間を断り削している。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	
TP6179	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	沈線が沿う隆帯による渦巻文。L R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	

#### 第1854号土坑 (第435・436図)

位置 調査2区の北部, C3j7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 北側で第1601号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、径1.24mの円形である。底面は平坦で、平面形は長径1.96m、短径1.80mのはほぼ円形である。深さは56cmで、壁は内傾している。

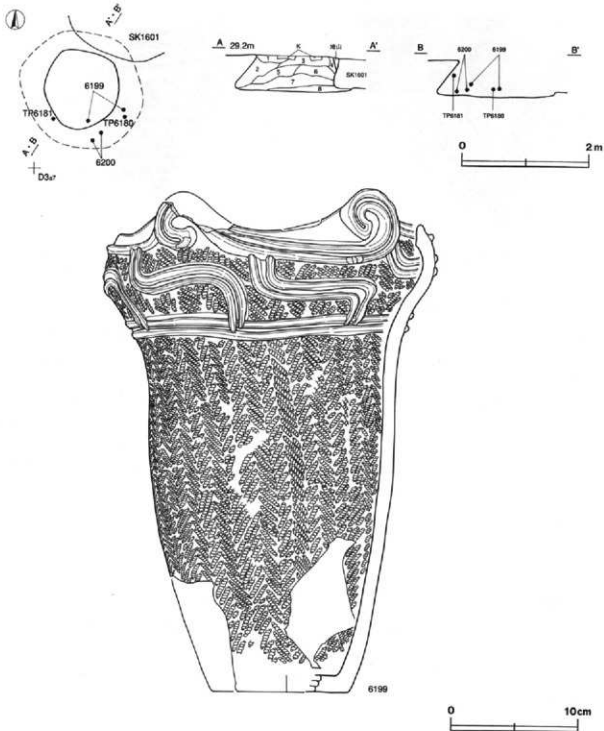
覆土 8層に分層される。第5～8層は中央部に凸状に堆積し、特に第7層には遺物が廃棄されたように出土していることから廃棄活動による人為堆積と考えられる。

土層解説

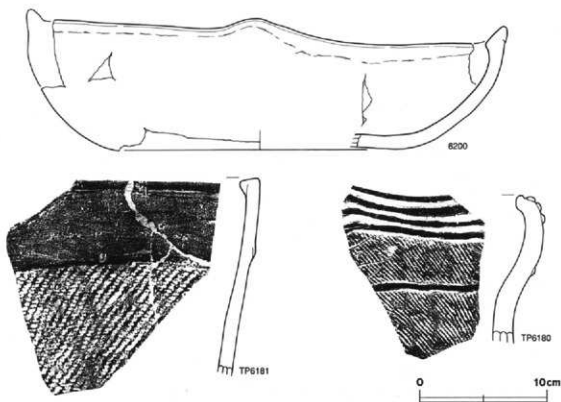
- |       |                |        |                  |
|-------|----------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量        | 5 黒褐色  | ローム粒子・炭化物少量      |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量     | 6 黒褐色  | ローム小ブロック少量、炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | ロームブロック中量        |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量     | 8 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片119点が出土している。主な遺物は覆土下層（第7層）に廃棄されたような状態で出土している。6199の深鉢と6200の浅鉢は、覆土下層から廃棄されたような状態で出土している。

所見 覆土下層に遺物が集中し、一括廃棄されたことがわかる。時期は、覆土下層から出土した6199の深鉢から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第435図 第1854号土坑・出土遺物実測図



第436図 第1854号土坑出土遺物実測図

第1854号土坑出土遺物観察表 (第435・436図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6199	縄文土器	深鉢	23.4	39.7	[10.6]	波頂部は横S字状文。口縁部は陸帯によるクラク文。L RとR Lの半周縄文による羽状縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙にぶい褐	覆土下層	P L 54
6200	縄文土器	浅鉢	[37.0]	10.2	[23.0]	無文で、入念に研磨。	長石・石英	普通	黒褐褐色調	覆土下層	P L 54
TP6180	縄文土器	深鉢	—	(11.7)	—	口縁部は陸帯により文様を挿出。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP6181	縄文土器	深鉢	—	(15.6)	—	口縁部は無文。以下はR L Rの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	内・外面赤彩痕

### 第1855号土坑 (第437・438図)

位置 調査2区の北部、C3 h5区。住居跡群域に位置する。

重複関係 上面に第211号住居の炉がつくられている。

規模と形状 開口部の平面形は、径1.33mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.70m、短径2.55mのほぼ円形である。深さは78cmである。壁は内傾し、北東壁は中位でくびれ、上位は直立している。くびれ部までの高さは54cmである。

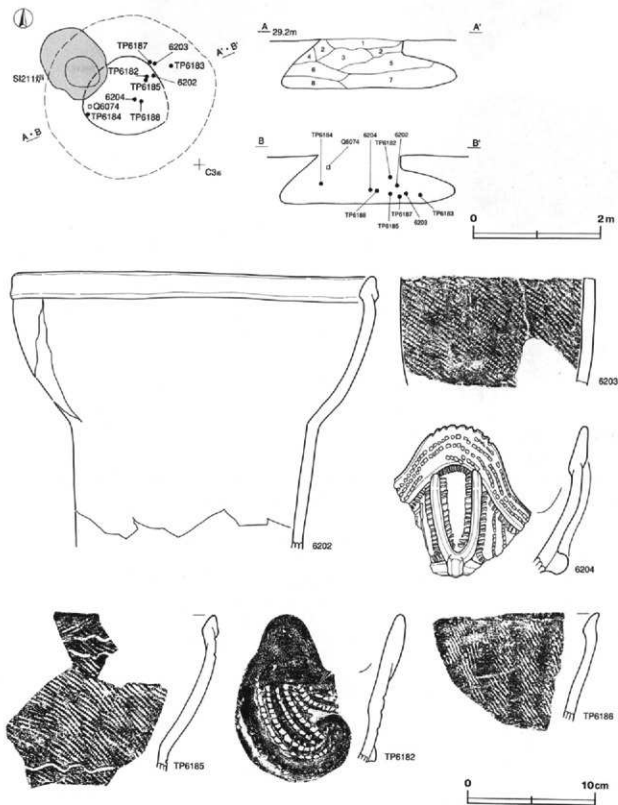
覆土 8層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

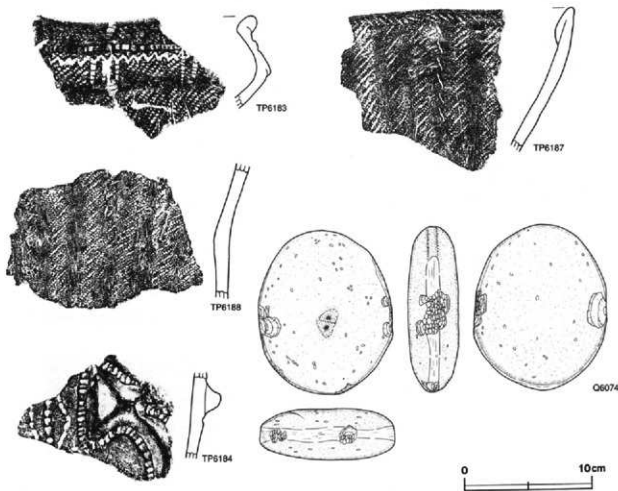
- |       |                   |       |                 |
|-------|-------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量           | 5 黒色  | ローム粒子・炭化粒子少量    |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量    | 6 黒色  | ローム小ブロック少量      |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量           | 8 暗褐色 | ロームブロック中量       |

**遺物出土状況** 縄文土器片341点、磨石1点、磨製石斧片1点、敲石片2点が、主に覆土下層から覆土中層にかけて出土している。6202の深鉢と6203・6204の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、覆土下層から出土した6202・6203・6204の深鉢片から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第437図 第1855号土坑・出土遺物実測図



第438図 第1855号土坑出土遺物実測図

第1855号土坑出土遺物観察表 (第437・438図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6202	縄文土器	深鉢	28.1	(21.8)	—	無文で、研磨。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色にふい赤褐色	覆土下層	
6203	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
6204	縄文土器	深鉢	—	(11.8)	—	口縁部は波頂部下に隆帯によるU字状文を施し、隆帯に沿って爪形文を施している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP6182	縄文土器	深鉢	—	(11.7)	—	口縁部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母	普通	褐色	覆土中層	
TP6183	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	結節沈線文により文様を描出し、R Lの単節縄文を口唇部には横方向に、以下は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP6184	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って爪形文を施している。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP6185	縄文土器	深鉢	—	(12.4)	—	口縁部上位と胴部上位に沈線による波状文を巡らしている。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP6186	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6187	縄文土器	深鉢	—	(11.2)	—	R.Lの単筋縄文を口唇部外面は縦方向に、以下は縦方向に施文。一部に綾織文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP6188	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	R.Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	TP6187と同一個体

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6074	磨石	13.4	10.6	4.0	853.7	安山岩	周縁に擦痕。両側縁に敲打痕。	覆土上層	P.L.62

### 第1856号土坑 (第439・440図)

**位置** 調査2区の北部，C3j6区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 北東側の一部を第1854号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は、長径1.84m、短径1.74mのほぼ円形である。底面は平坦で、平面形は長径2.24m、短径1.80mの楕円形である。深さは55cmで、壁は南西壁が直立している以外は内傾している。

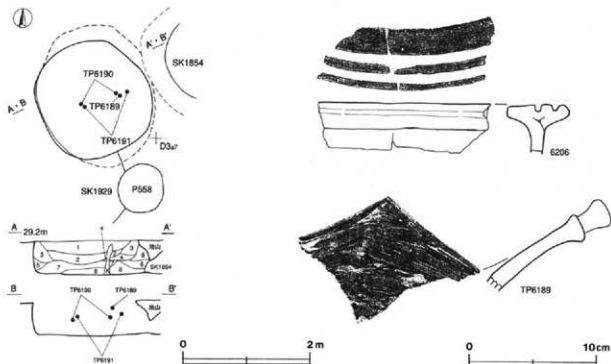
**覆土** 8層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |        |               |        |                 |
|--------|---------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量，炭化物微量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子多量         |
| 2 黒褐色  | ローム粒子中量，炭化物微量 | 6 暗褐色  | ロームブロック中量       |
| 3 黒褐色  | ローム粒子中量       | 7 極暗褐色 | ローム粒子多量，炭化物微量   |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子中量       | 8 黒褐色  | ローム粒子多量，炭化物粒子微量 |

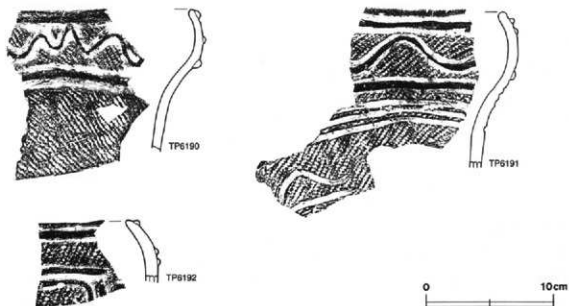
**遺物出土状況** 縄文土器片161点，石皿片1点が出土している。TP6189～TP6191の深鉢片は覆土上層から出土している。

**所見** 底面や覆土下層から出土した土器がないため本跡の廃絶時期を明確にすることはできないが，覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第439図 第1856号土坑・出土遺物実測図





第440図 第1856号土坑出土遺物実測図

第1856号土坑出土遺物観察表 (第439・440図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6206	縄文土器	鉢	—	(4.0)	—	口縁部は内・外面に突出させ、沈線文を施している。	長石・石英	普通	赤褐色 にぶい橙	覆土	
TP6189	縄文土器	浅鉢	—	(7.3)	—	無文で、入念に研磨。	長石・石英	良好	にぶい橙	覆土上層	内・外面赤彩
TP6190	縄文土器	深鉢	—	(11.2)	—	口縁部は隆帯による波状文、胴部は沈線による波状文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	灰褐	覆土上層	
TP6191	縄文土器	深鉢	—	(12.3)	—	口縁部は隆帯による波状文、胴部は沈線による波状文、R1の単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい橙	覆土上層	
TP6192	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	口縁部は隆帯による波状文を施す。R1の単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい橙	覆土	

#### 第1857号土坑 (第441図)

位置 調査2区の北部、D3 b9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1858・1872号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.62m、短径1.90mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、深さは52cmである。壁は南壁が外傾している以外は直立している。ピットは2か所で、いずれも北西壁寄りに位置している。ピットの深さは、P1が51cm、P2が46cmである。

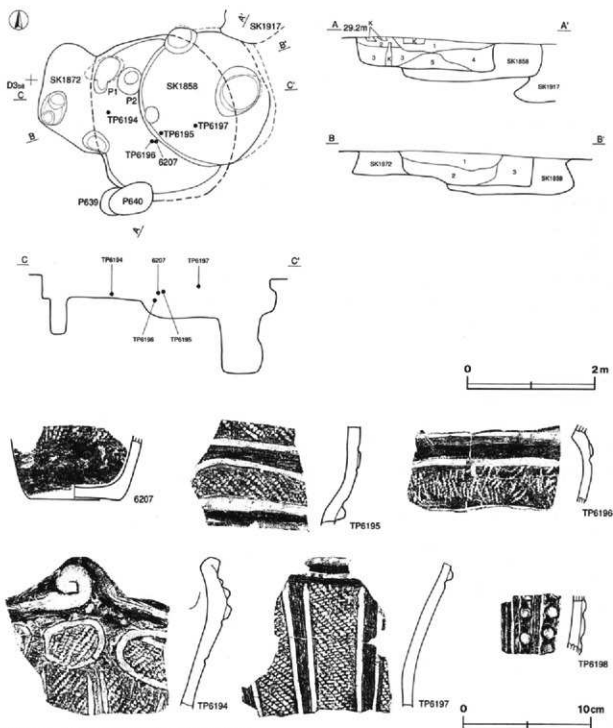
覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

- |       |                 |       |                   |
|-------|-----------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量    | 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量    | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量    |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量 |       |                   |

遺物出土状況 縄文土器片106点が覆土から出土している。6207とTP6194～TP6197の深鉢片及び鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土したTP6194の深鉢片から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第441図 第1857号土坑・出土遺物実測図

第1857号土坑出土遺物観察表(第441図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6207	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	7.1	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	によい地	覆土下層	
TP6194	縄文土器	深鉢	—	(12.0)	—	波頂部下に隆帯による渦巻文。口縁部は沈線による区画文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	黒褐色	覆土下層	
T 6195	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	沈線に沿う隆帯により文様を描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	褐色	覆土下層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6196	縄文土器	鉢	—	(6.2)	—	胴部上縁は沈線が沿う隆帯により文様を抽出。R.Lの準節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	橙	覆土下層	
TP6197	縄文土器	深鉢	—	(11.5)	—	胴部は沈線による懸垂文面を磨り消している。L.Rの準節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	黒褐	覆土中層	
TP6198	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	押圧文を有する隆帯による懸垂文。半截竹管による平行沈線文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	橙	覆土	

### 第1858号土坑 (第442・443図)

位置 調査2区の北部、D3b9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 西側を第1857号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、第1857号土坑に掘り込まれているため、現状では径2.19mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.20m、短径2.05mのほぼ円形である。深さは66cmで、壁は残存している東壁は内傾している。ピットは3か所、壁寄りに位置している。ピットの深さは、P1が94cm、P2が31cm、P3が27cmである。

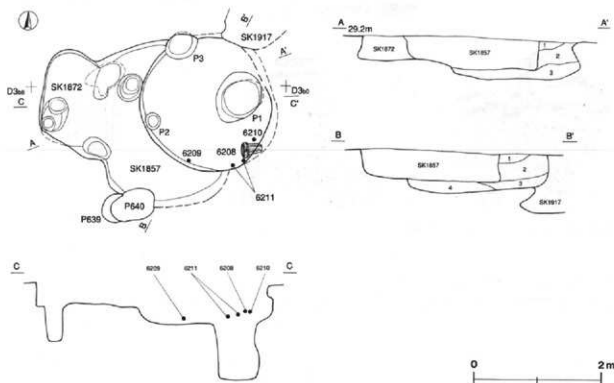
覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

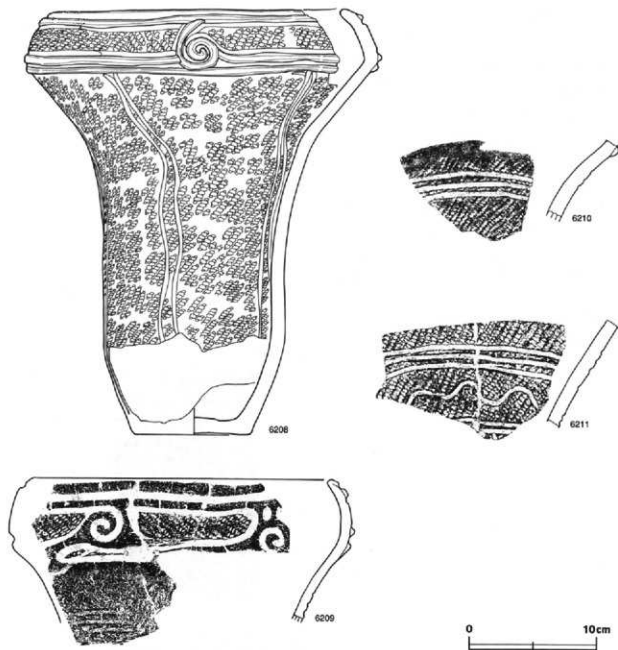
- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量    | 3 灰褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量         |

遺物出土状況 縄文土器片84点が出土している。6208の深鉢は、覆土下層から横位の状態で出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土した6208の深鉢から中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第442図 第1858号土坑出土遺物実測図



第443図 第1858号土坑出土遺物実測図

第1858号土坑出土遺物観察表(第443図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6208	縄文土器	深鉢	22.6	33.5	9.1	口縁部は沈線が沿う隆帯による渦巻文。胴部は沈線による懸垂文。R.Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色にぶい黄褐色	覆土下層	PL55
6209	縄文土器	深鉢	[23.2]	(11.4)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯による渦巻文。頸部は無文。R.Lの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
6210	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	口縁部と頸部の境に隆帯文、頸部に沈線文を巡らしている。R.Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
6211	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	頸部は沈線文と沈線による波状文を巡らしている。R.Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土下層	

第1859号土坑（第444～446図）

位置 調査2区の中央部，D3d5区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第2017号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，第2017号土坑と重複しているため，径1.56mの円形と推定される。くびれ部の平面形は，長径1.46m，短径1.26mの楕円形である。底面は平坦で，平面形は長径2.50m，短径2.18mの楕円形である。深さは74cmで，壁は内傾して立ち上がり，上位でくびれ，確認面付近は外傾している。

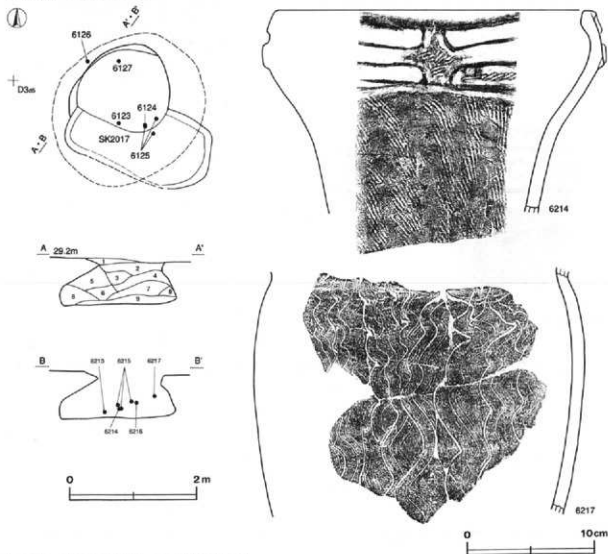
覆土 9層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

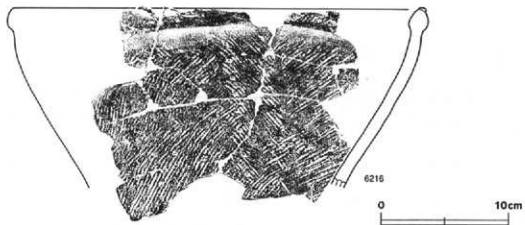
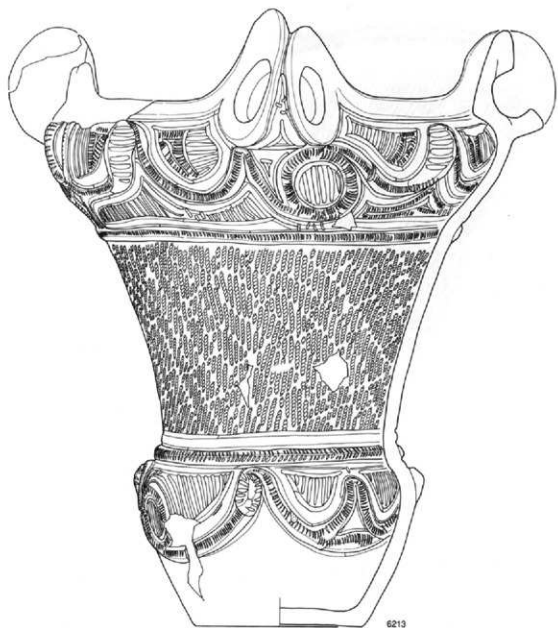
- |       |                |       |                   |
|-------|----------------|-------|-------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子・炭化粒子微量   | 6 黒色  | 炭化粒子少量，ロームブロック微量  |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   | 7 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量    |
| 3 黒色  | 炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 8 黒色  | ローム粒子少量，炭化粒子微量    |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化バミス粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量      |       |                   |

遺物出土状況 縄文土器片120点，石皿1点，磨石片1点，磨製石斧1点が出土している。6213の深鉢は覆土下層から壁際の斜位の状態で，6214の深鉢片は覆土下層から出土している。

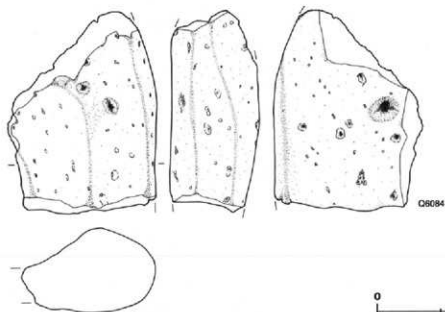
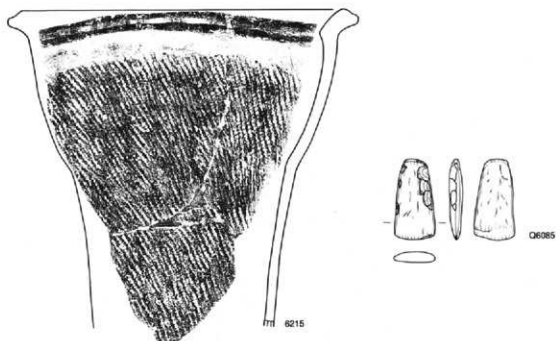
所見 6213の深鉢は勝坂Ⅲ式土器である。時期は，覆土下層から出土した6213の深鉢から中期中葉（阿玉台Ⅳ式併行期）と考えられる。



第444図 第1859号土坑・出土遺物実測図



第445图 第1859号土坑出土遗物实测图(1)



第446図 第1859号土坑出土遺物実測図(2)

第1859号土坑出土遺物観察表(第444~446図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6213	縄文土器	深鉢	33.8	48.4	13.3	口縁部と胴部下位はキザミを有する隆帯文。区画内には沈線文を先頭。胴部はR.L.の単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色にぶい橙	覆土下層	P.L.54
6214	縄文土器	深鉢	[24.5]	[16.0]	—	口縁部は隆帯により文様を突出している。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒灰	覆土下層	
6215	縄文土器	深鉢	25.4	[25.0]	—	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	

番号	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	施文	色調	出土位置	備考
6216	縄文土器	尖鉢	[12.3]	(14.4)		口唇部に隆帯による波状文を施している。口の無縁端文を横方向に、一部を縦方向に施文。	灰石・石英・雲母	に深い縦		覆土1層	
6217	縄文土器	壺	—	(19.2)	—	口縁部隆帯による波状の「行沈」線文を縦方向に施文。	灰石・石英・雲母	に深い縦		覆土中層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6084	石皿	(16.0)	(11.8)	7.2	(140.8)	安山岩	表面に厚状のくぼみを有する。臼石に常用。	覆土上	
Q6085	多裂石筴	6.3	3.1	1.0	31.6	凝灰岩	新修館前入念。	覆土P.L60	

### 第1860号土坑 (第447・448図)

位置 調査2区の北部、C3区。住居跡群域に位置する。

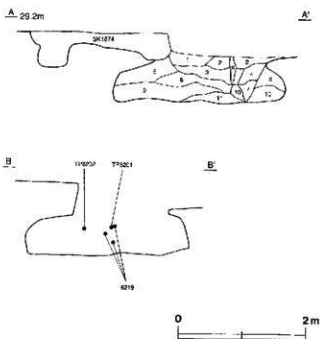
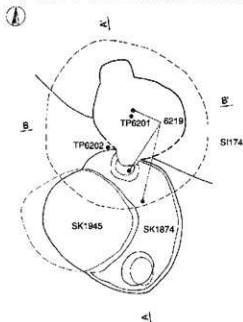
重複関係 第1874号土坑と第174号住居に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、第1874号土坑と第174号住居に掘り込まれているため、現状では長径1.46m、短径1.18mの楕円形である。底面は平坦で、平面形は長径2.68m、短径2.35mのはは形である。深さは74cmで、壁は内傾している。

覆土 11層に分層される。第9～11層はロームブロックを多く含む褐色土で、内傾する壁の崩落土と考えられる。第3～8層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第1～2層は絡まりがある緻密な褐色土で、その上面が第174号住居の床面であることから、第174号住居の階床と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                     |       |                         |
|-------|---------------------|-------|-------------------------|
| 1 褐色  | ローム粒子極めて微少          | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量、腐沼バミス小ブロック微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子微量             | 8 暗褐色 | ローム粒子・腐沼バミス粒子微量         |
| 3 赤褐色 | ローム粒子微量             | 9 褐色  | ロームアロックス中量、腐沼バミス粒少量     |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック微量          | 10 褐色 | ロームアロックス多量、腐沼バミス粒少量     |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量      | 11 褐色 | ロームブロック中量               |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量、腐沼バミス粒子微量 |       |                         |

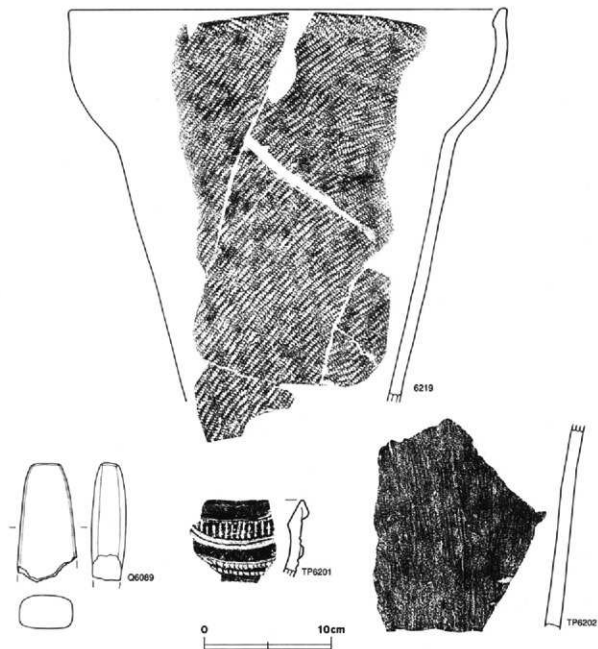


第447図 第1860号土坑実測図



遺物出土状況 縄文土器片209点、磨製石斧1点が出土している。6219の深鉢と TP6201の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土した6219の深鉢と TP6201の深鉢片から中期中葉（阿玉台Ⅱ・Ⅲ式期）と考えられる。



第448図 第1860号土坑出土遺物実測図

第1860号土坑出土遺物観察表（第448図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6219	縄文土器	深鉢	[33.8]	(30.1)	—	R 1の単節縄文を口縁部外面は横方向に、それ以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色にぶい濁	覆土下層	
TP6201	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	隆帯により文様を描出している。隆帯に沿って輪飾状縄文を施している。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土下層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	旋成	色調	出土位置	備考
TP6202	縄文土器	深鉢	—	16.2	—	外文で、磨物。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6089	磨製石斧	9.3	4.7	2.6	207.1	珪 礬 質	器体研磨不全、刃部欠損。	覆 土	七

### 第1862号土坑 (第449～451回)

**位置** 調査2区の北部、D3b7区。住居跡群域に位置する。

**確認状況** 平安時代の住居跡である第179号住居跡の調査中に確認する。

**重複関係** 西側で第179号住居に、南側で第704号ピットに掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は、第179号住居と第704号ピットに掘り込まれているため、径0.90mの円形と推定される。底面は皿状で、平面形は長径2.48m、短径2.20mの楕円形である。深さは118cmで、壘は内傾して立ち上がり、中位でくびれ、残存している北東壁の上位だけが外傾している。くびれ部までの高さは65cmである。

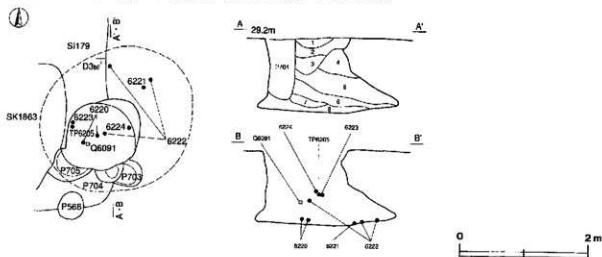
**覆土** 8層に分層される。第5層と第7・8層はローム粒子が多く、遺物が廃棄されたような状態で出土していることから、廃棄活動による人為堆積と考えられる。第1～4・6層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

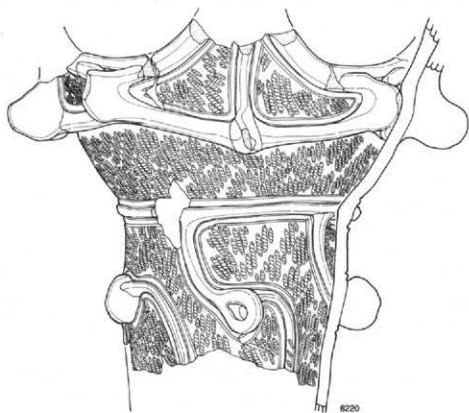
- |       |                            |       |                          |
|-------|----------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量           | 5 褐色  | ロームブロック中量、炭化物少量、底沼バミス粒少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒下・炭化粒子微量          | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒少量      |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子・底沼バミス粒子微量  | 7 褐色  | ローム粒子中量、底沼バミス粒少量、炭化粒子微量  |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量、炭化物少量、底沼バミス粒子微量 | 8 褐色  | ローム粒子・底沼バミス粒少量           |

**遺物出土状況** 縄文土器片285点、磨製石斧片2点、磨石1点、石核片1点が出土している。遺物の多くは覆土下層と覆土中層にそれぞれ廃棄されたような状態で出土している。6220の深鉢は覆土下層から、6221・6222の深鉢は底面から、6223・6224の深鉢片は覆土中層から出土している。

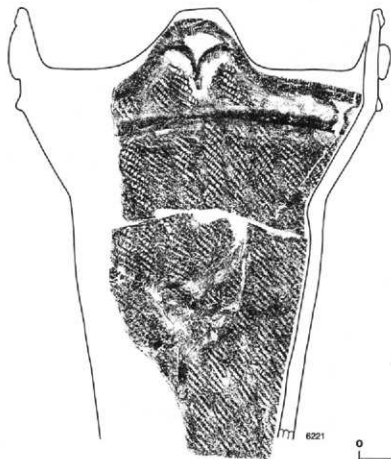
**所見** 覆土下層と覆土中層に遺物が集中し、それぞれ一括廃棄されたことがうかがわれる。時期は、覆土下層から出土した6220の深鉢から中期中葉（阿玉台IV式期）と考えられる。



第449図 第1862号土坑実測図



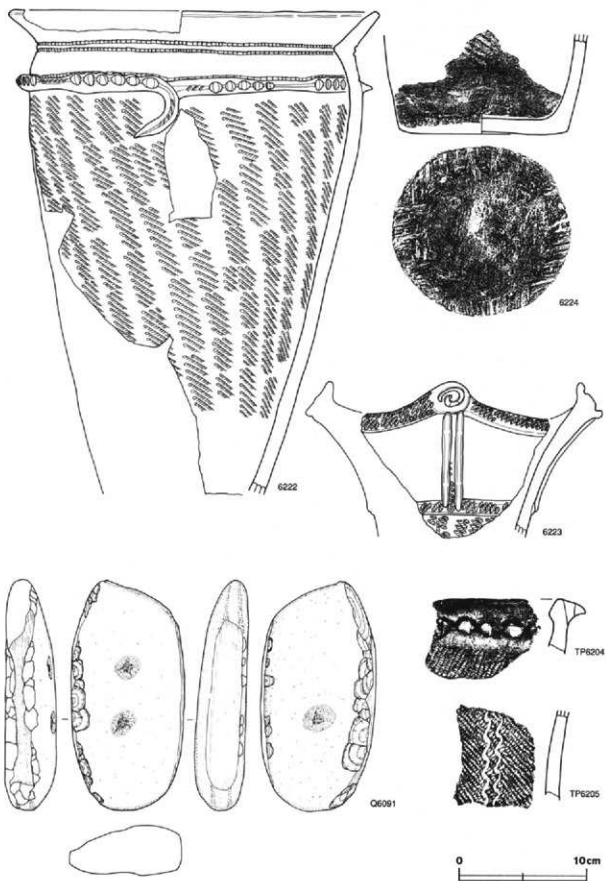
6220



6221



第450圖 第1862号土坑出土遺物実測圖(1)



第451图 第1862号土坑出土文物实测图(2)

第1862号土坑出土遺物観察表 (第450~451図)

番号	種類	器種	口径(cm)	胎高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	灰皮	色澤	出土位置	備考
6220	縄文土器	深鉢	30.0	31.1	—	Lは縁部と頸部は圓形を有する隆起帯と隆帯に沿う平紋行首による7行逆織文、L.Rの早稲織文。	長石・石英・雲母	普通	暗灰・明赤褐	覆土下層	P1.55
		次鉢	28.4	34.0	—	口縁部と頸部の間に隆起帯、波指形にV字状文。波指部中に文字状文、L.Rの早稲織文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙		
6222	縄文土器	壺	28.6	38.0	—	L縁部は無文。胴部上縁は輪状文、L.Rの早稲織文。胴部はLの無輪織文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒黒にぶい橙	底	面
6223	縄文土器	深鉢	20.0	20.0	—	波指部下は隆帯による高弁文、L縁部は隆起帯を帯赤さき、以外は無文。胴部はL.Rの早稲織文。	長石・石英・雲母	普通	純灰	腹上中層	
6224	縄文土器	深鉢	—	8.0	13.8	Lの無輪織文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
		次鉢	—	4.4	—	口縁部外面に押紐文を有する隆帯を巡らしている。R.Lの早稲織文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐		
TP6204	縄文土器	深鉢	—	7.0	—	L.Rの早稲織文と縦織文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黒	腹上中層	P1.61

番号	器種	寸測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6091	磨石	18.3	9.0	4.0	968.3	砂引	両側縁に溝状。凹心に併用	腹上中層	P1.61

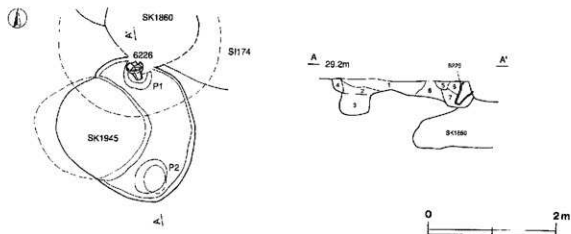
第1874号土坑 (第452・453図)

位置 調査2区の北部、C38区。住居跡群域に位置する。

重複関係 北側で第1860号土坑を掘り込んでいる。第1945号土坑との新旧関係は、出土遺物から本跡が新しい。

規模と形状 平面形は、第1945号土坑と重複しているため長径2.34m、短径は推定で1.78mの楕円形である。

底面はほぼ平坦であるが、第1860号土坑と重複している北側は沈下して深くなっている。深さは44cmで、壁は外傾している。ピットは2か所、いずれも壁際に位置している。P1は6226の深鉢が出土していることから土器埋設土坑の可能性もあるが、P1とP2は壁際に位置し、相対していること、ピットの覆土は近似していることから、木蔭のピットと判断した。ピットの深さは、P1が11cm、P2が43cmである。



第452図 第1874号土坑平面図

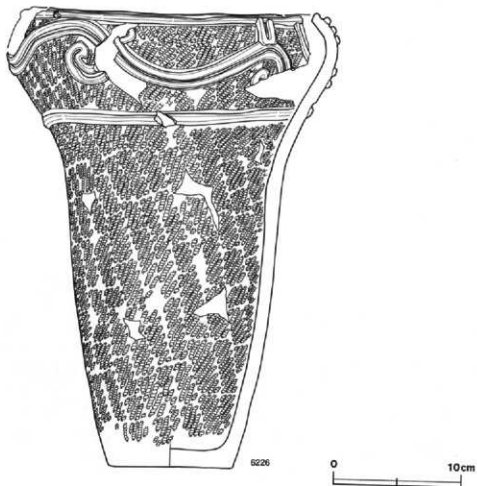
**覆土** 8層に分層される。第3層はP2の覆土で、第7層はP1の覆土である。それ以外はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |              |       |                        |
|-------|--------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子微量、第2層より色調が明るい    |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量      | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量           |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量   | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量、第3層より色調が明るい |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック微量   | 8 暗褐色 | ローム小ブロック中量             |

**遺物出土状況** 縄文土器片101点が出土している。6226の深鉢はほぼ完形で、P1の覆土下層から口縁部をやや北側に向けた斜位の状態で出土している。

**所見** 時期は、P1の覆土下層から出土した6226の深鉢から中期後葉（加曽利E I式期）と考えられる。



第453図 第1874号土坑出土遺物実測図

第1874号土坑出土遺物観察表（第453図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6226	縄文土器	深鉢	[22.3]	35.9	9.6	口縁部は2本一組の隆帯により文様を描出。R Lの準跗縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	P1覆土下層	PL55

**第1876号土坑（第454・455図）**

**位置** 調査2区の北部、D3 d5区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 南東側で第1877号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は、長径1.58m、短径1.43mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径

2.16m, 短径1.94mの楕円形である。深さは118cmである。壁は内傾して立ち上がり, 中位でくびれ, 上位は外傾している。ピットは2か所で, 壁寄りに位置している。ピットの深さは, P1が50cm, P2が42cmである。

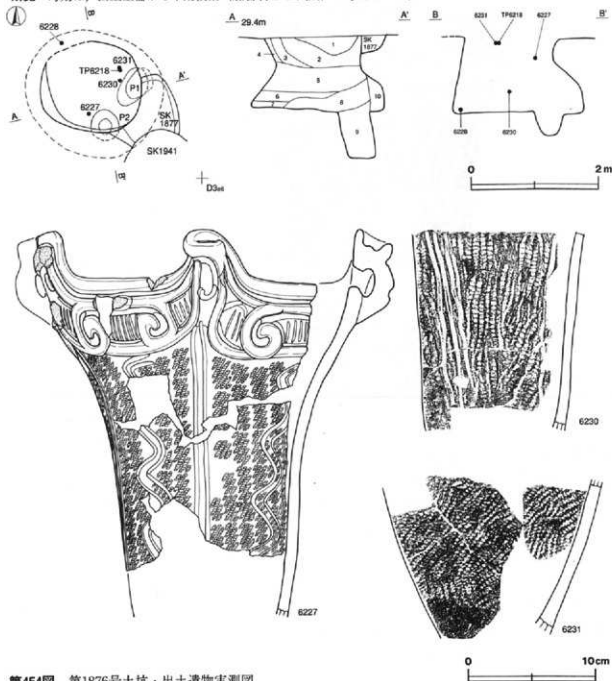
**覆土** 10層に分層される。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

**土層解説**

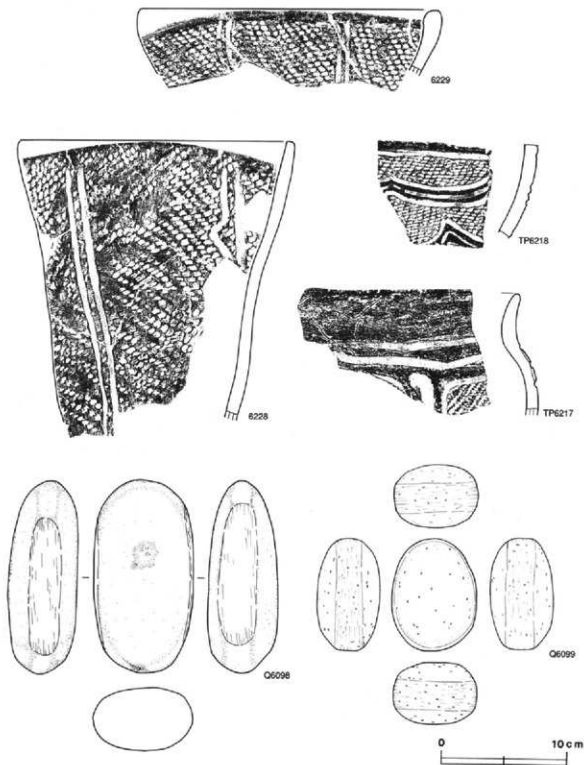
- |       |                       |        |                   |
|-------|-----------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量               | 6 黒褐色  | ローム小ブロック少量        |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化物微量     | 7 黒褐色  | ローム小ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・炭屑パミス粒子微量    | 8 暗褐色  | ローム小ブロック微量        |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量            | 9 黒褐色  | ローム小ブロック微量        |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・炭屑パミス小ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック中量        |

**遺物出土状況** 縄文土器片310点, 磨石4点, 打製石斧片1点, 石核1点, 剥片1点が出土している。6228と6230の深鉢片は覆土下層から, 6227と6231の深鉢片は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第454図 第1876号土坑・出土遺物実測図



第455図 第1876号土坑出土遺物実測図

第1876号土坑出土遺物観察表 (第454・455図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6227	縄文土器	深鉢	[24.0]	(30.5)	—	口縁部は隆帯文と縦位の沈線文。胴部は沈線による懸垂文間を繋ぎ出す。R Lの単純縄文。	長石・石英	普通	黒褐色	覆土上層	
6228	縄文土器	深鉢	21.4	(21.1)	—	沈線による2条一組の懸垂文。L R Lの複線縄文を口縁部は横方向、胴部は縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黒	覆土下層	



番号	種類	器種	口径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6229	縄文土器	深鉢	[23.5]	(5.3)	—	沈澱による2条一組の懸垂文。 LとLの縦筋織文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐色	覆土上	
6230	縄文土器	深鉢	—	(16.2)	—	沈澱による3条一組の懸垂文。 R Lの縦筋織文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	灰褐色	覆土下層	
6231	縄文土器	深鉢	—	(12.2)	—	R Lの半筋織文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にがい色	覆土上層	
TP6217	縄文土器	鉢	—	(9.6)	—	口縁部は無文。胴部上段は懸垂文により文様を演出。R Lの半筋織文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土上	
TP6218	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	沈澱による重懸文。R Lの半筋織文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にがい色	覆土上層	

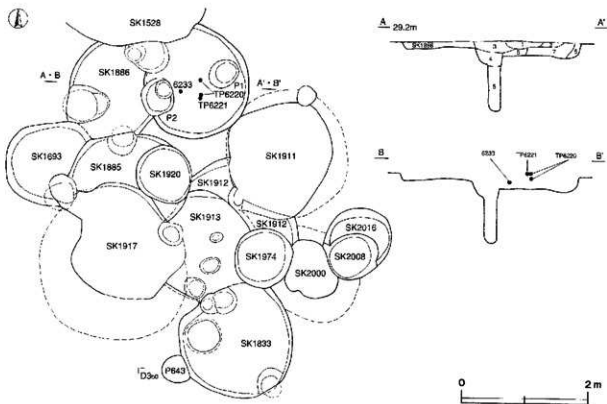
番号	器種	計測値				材質	粘	堅	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)					
Q6098	磨石	15.2	7.8	5.5	969.3	砂岩			覆土	P.L.62
Q6099	磨石	8.8	6.7	5.0	444.6	石英片岩			覆土	形態不明 P.L.51

### 第1884号土坑 (第456・457図)

位置 調査2区の北部、C3j0区。住居跡帯域に位置する。

重複関係 西側で第1886号土坑を掘り込んでいる。第1528号土坑との新旧関係は、出土遺物から本跡が新しい。

規模と形状 平面形は、第1528号土坑と重複しているため、長径は推定で1.78m、短径1.66mのはほぼ円形である。底面はほぼ平坦である。深さは26cmで、壁は外傾している。ピットは2か所で、いずれも壁際に位置している。ピットの深さは、P1が52cm、P2が88cmである。



第456図 第1884号土坑平面図

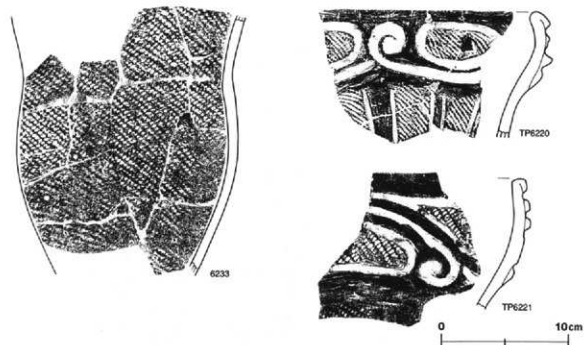
覆土 8層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |   |     |              |   |     |                   |
|---|-----|--------------|---|-----|-------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 | 黒褐色 | ロームブロック少量         |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量  | 6 | 黒褐色 | ロームブロック中量         |
| 3 | 黒褐色 | ローム小ブロック少量   | 7 | 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム小ブロック中量   | 8 | 暗褐色 | ローム粒子微量           |

遺物出土状況 縄文土器片75点、石核1点が出土している。6233の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第457図 第1884号土坑出土遺物実測図

第1884号土坑出土遺物観察表（第457図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6233	縄文土器	深鉢	—	(20.6)	—	L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黒	覆土下層	
TP6220	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	口縁部は陸帯により文様を描出。胴部は沈線による陸帯文間を際り際す。L Rの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐色	覆土上層	
TP6221	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	—	口縁部は2本一組の陸帯により文様を描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黒	覆土上層	

第1889号土坑（第458・459図）

位置 調査2区の北部、D3 6区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 南東側で第1888号土坑を掘り込んでいる。第1887号土坑との新旧関係については不明である。

規模と形状 開口部の平面形は、現状では長径1.72m、短径1.24mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.38mほどの円形である。深さは84cmである。壁は内傾して立ち上がり、中位でくびれ、上位は直立している。くびれ部までの高さは56cmである。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

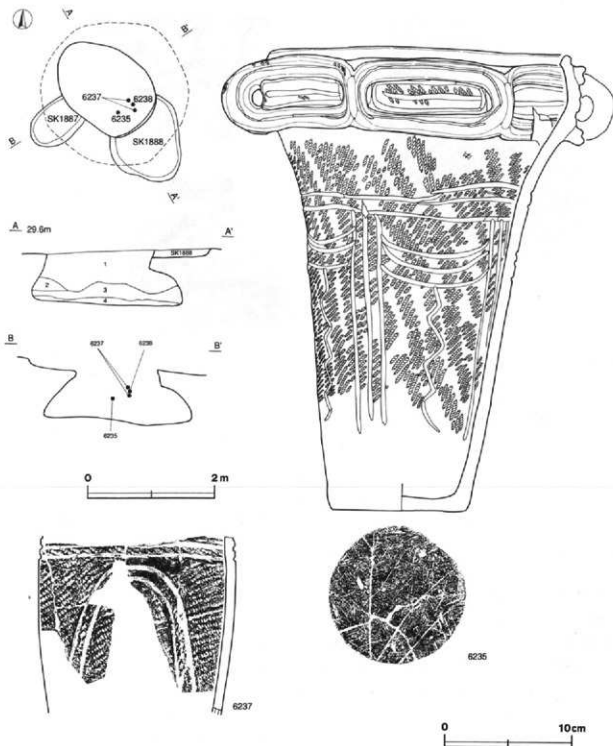
土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子微量  
 2 黒褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量  
 4 暗褐色 ロームブロック・炭化パミス粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片208点、不明土製品1点、磨石片1点が出土している。6235の深鉢と6237・6238の深鉢片は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第458図 第1889号土坑・出土遺物実測図



第459図 第1889号土坑出土遺物実測図

第1889号土坑出土遺物観察表 (第458・459図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6235	縄文土器	深鉢	23.2	36.5	10.6	口縁部は楕円把手を起点に管に沈線を含む幾何文。胴部は沈線文。R.Lの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 明赤褐	覆土中層	底部木炭灰 P.L.55
6237	縄文土器	深鉢	—	(14.0)	—	胴部には2条一組の沈線による逆じ字状文を施している。R.Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
6238	縄文土器	深鉢	—	(12.8)	10.2	沈線による懸垂文を施している。Lの無筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP6019	不明土製品	(3.3)	3.4	(1.6)	(8.1)	長石・石英にぶい褐	キノコ形。下部欠損。	覆土	

### 第1892号土坑 (第460・461図)

位置 調査2区の北部、D3c8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 南東側を平安時代の第1894号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は、径2.30mほどの円形である。底面は平坦である。深さは50cmで、壁は直立している。ピットは1か所で、壁際に位置し、底面は二段となる。深さは65cmである。

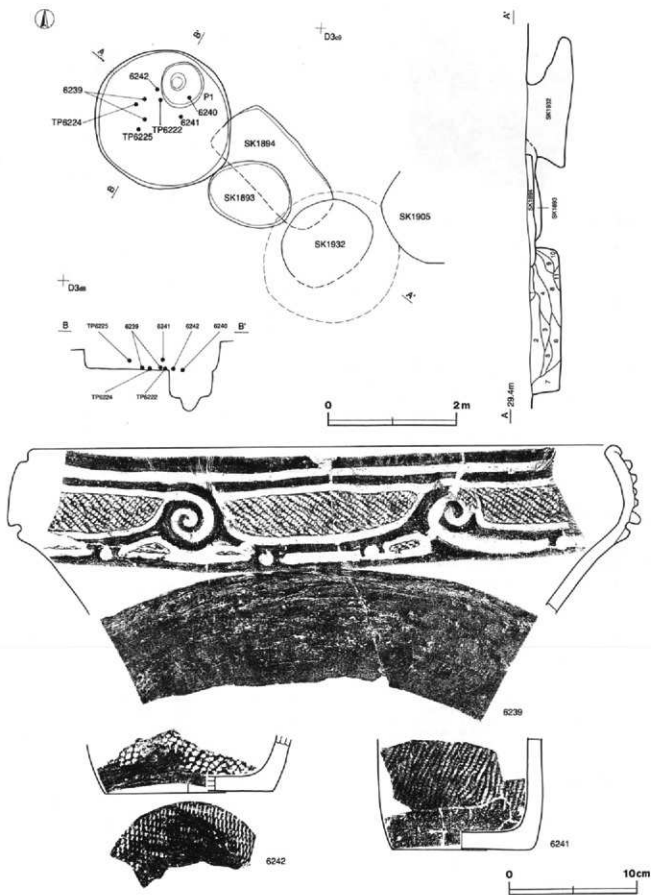
覆土 11層に分層される。第1・5層は焼土粒子と炭化物を多く含む層である。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

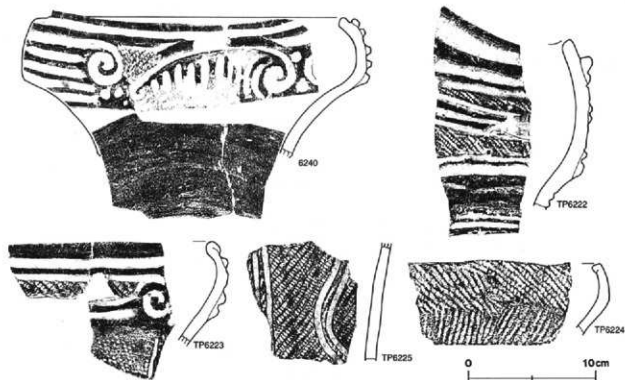
1 黒褐色	焼土小ブロック・炭化物少量	7 黒褐色	ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・炭化物少量	8 極暗褐色	ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	9 黒褐色	ローム小ブロック少量
4 黒褐色	ローム小ブロック中量、炭化粒子少量	10 褐色	ロームブロック中量
5 暗赤褐色	炭化物中量、焼土粒子少量	11 極暗褐色	ローム小ブロック少量
6 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片238点が、主に覆土中層から底面にかけて廃棄されたような状態で出土している。6239と6240の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 覆土下層に遺物が集中し、一括廃棄されたことがうかがわれる。時期は、底面から出土している6239と6240の深鉢片から中期後葉(加曾利EⅠ式期)と考えられる。



第460图 第1892号土坑·出土遗物实测图



第461図 第1892号土坑出土遺物実測図

第1892号土坑出土遺物観察表 (第460・461図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6239	縄文土器	深鉢	[46.0]	(13.4)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯による渦巻文。胴部は無文。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	底面	
6240	縄文土器	深鉢	[23.0]	(11.0)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯による渦巻文。区画内は沈線を充填している。胴部は無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	底面	
6241	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	11.0	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
6242	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	[13.2]	R L Rの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	底部朝代痕
TP6222	縄文土器	深鉢	—	(13.4)	—	口縁部は背に沈線を有する隆帯文。胴部上位は半截竹管による平行沈線文。L Rの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐色	底面	
TP6223	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯による渦巻文。胴部は沈線による懸垂文。L Rの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP6224	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	R Lの単節縄文を口縁部は横方向に、以外は縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐色	底面	
TP6225	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	沈線による懸垂文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐色	覆土下層	

第1905号土坑 (第462・463図)

位置 調査2区の北部、D3㉟区。住居跡群域に位置する。

重複関係 西側で第1932号土坑を掘り込み、北東側を第1906号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、第1906号土坑に掘り込まれているため、現状では長径1.92m、短径1.84mのほぼ円形である。底面は平坦で、平面形は長径1.88m、短径1.74mのほぼ円形である。深さは76cmで、壁は

第1906号土坑に掘り込まれているため内傾している。ピットは1か所で、壁際に位置している。P1の深さは、56cmである。

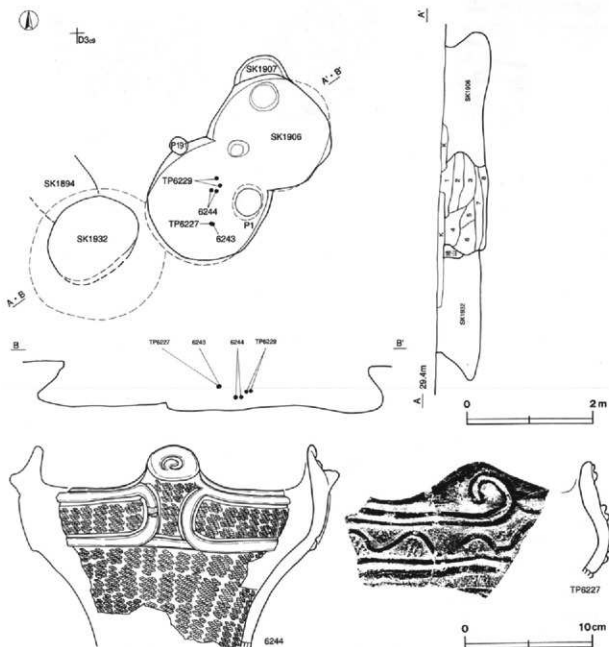
**覆土** 8層に分層される。第7・8層は褐色を呈し、ロームブロックを多く含む層で、特に第8層はしまりが強い。第1～6層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

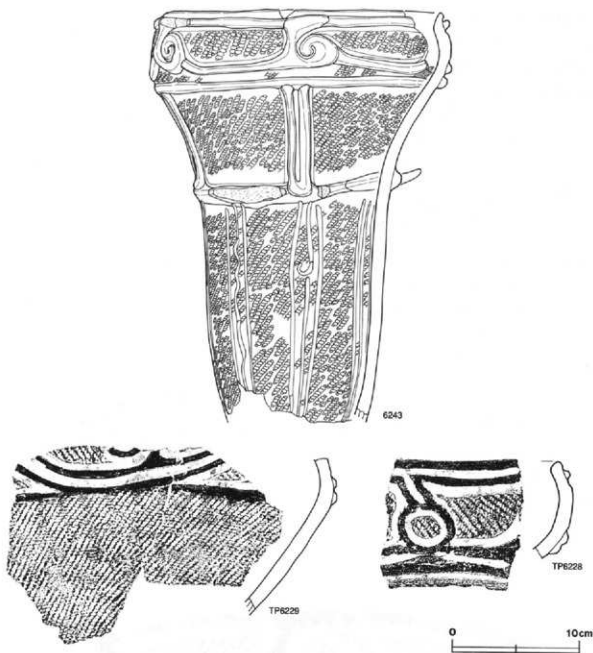
- |       |               |       |            |
|-------|---------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量  | 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量   | 6 黒褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 3 黒色  | 炭化物少量、ローム粒子微量 | 7 褐色  | ロームブロック中量  |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック微量    | 8 褐色  | ロームブロック少量  |

**遺物出土状況** 縄文土器片37点が出土している。6243は覆土中層から横位の状態、6244は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第462図 第1905号土坑・出土遺物実測図



第463図 第1905号土坑出土遺物実測図

第1905号土坑出土遺物観察表 (第462・463図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6243	縄文土器	深鉢	[21.6]	(32.2)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。頸部は突起を有する隆帯文。胴部は沈線文。R Lの単筋縄文。	長石・石英	普通	黒灰	覆土中層	P.L.55
6244	縄文土器	深鉢	[21.6]	(16.1)	—	波頂部下に隆帯による渦巻文。口縁部は隆帯文。施文はL Rの単筋縄文で、縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP6227	縄文土器	深鉢	—	(9.4)	—	波頂部下に沈線を有する隆帯による渦巻文。口縁部は隆帯文。R Lの単筋縄文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土中層	
TP6228	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯により横出。R Lの単筋縄文を横方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土	
TP6229	縄文土器	深鉢	—	(12.6)	—	口縁部は2本一組の隆帯により文様を描出。R Lの単筋縄文。	長石・石英	普通	明褐	覆土下層	



### 第1906号土坑（第464～466図）

**位置** 調査2区の北部，D3c9区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 南西側で第1905号土坑を掘り込んでいる。第1907号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 平面形は，現状では径1.80mの円形である。底面はほぼ平坦で，深さは74cmである。壁は北壁が直立するが，それ以外は内傾して立ち上がり，中位でくびれ，上位は外傾している。ピットは2か所で，壁際に位置している。ピットの深さは，P1が62cm，P2が59cmである。

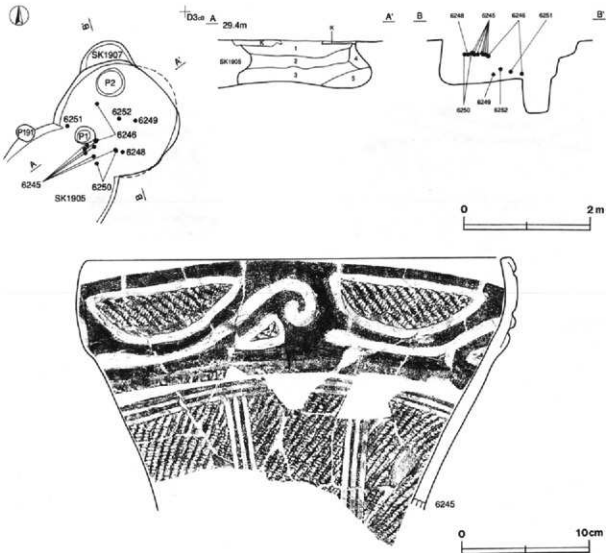
**覆土** 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

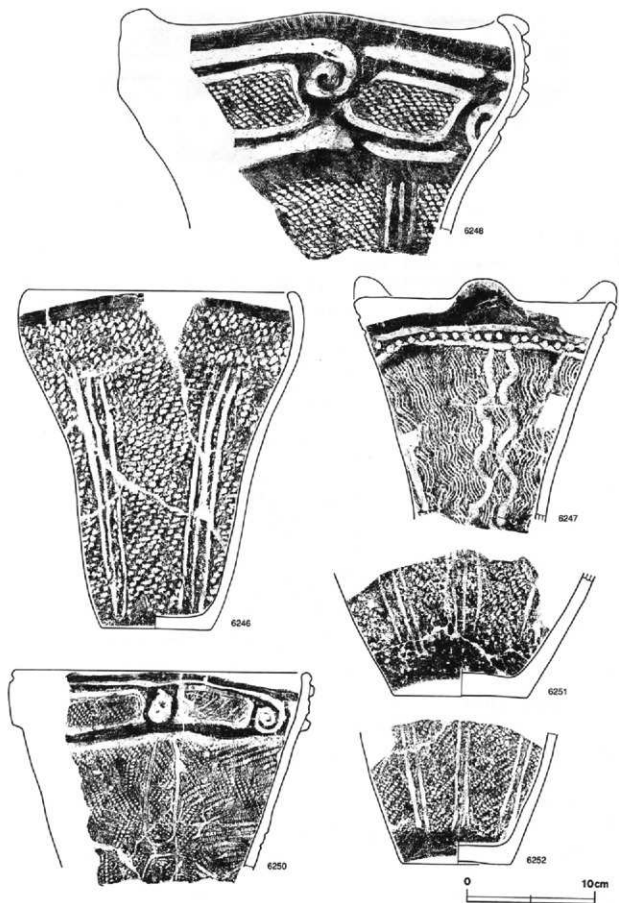
- |       |                   |        |                   |
|-------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量   | 4 極暗褐色 | ローム小ブロック中量        |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック中量，炭化粒子少量 | 5 極暗褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |        |                   |

**遺物出土状況** 縄文土器片63点が出土している。大形破片が多く，覆土下層と覆土上層に廃棄されたような状態で出土している。6249・6251・6252の深鉢片は覆土下層から出土している。

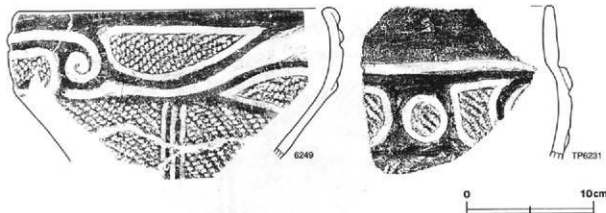
**所見** 遺物が覆土下層と覆土上層に集中し，二度にわたる廃棄活動が行われたことがうかがわれる。時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第464図 第1906号土坑・出土遺物実測図



第465图 第1906号土坑出土遺物実測图(1)



第466図 第1906号土坑出土遺物実測図(2)

第1906号土坑出土遺物観察表(第464~466図)

番号	種別	器種	口径(cm)	唇高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6245	縄文土器	深鉢	[33.3]	(19.8)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は3条一組の懸垂文間を磨り消す。R.Lの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい焼 灰褐	覆土上層	
6246	縄文土器	深鉢	20.8	26.8	8.7	胴部は3条一組の沈線による懸垂文。R.L.Rの複節縄文を口縁部は横方向、胴部は縦方向に施す。	長石・石英 ・雲母	普通	黒褐 にぶい焼	覆土下層	P L 55
6247	縄文土器	深鉢	[19.8]	(19.3)	—	口縁部は沈線と刺突文を施す。胴部は沈線による懸垂文。磨擦状工具による直状文。	長石・石英	普通	灰褐	P 2 覆土	
6248	縄文土器	深鉢	[28.6]	(17.4)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は沈線による3条一組の懸垂文間を磨り消す。L.Rの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい焼	覆土上層	
6249	縄文土器	深鉢	[24.8]	(12.0)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は3条一組の懸垂文間を磨り消す。地文はL.R.Lの複節縄文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土下層	
6250	縄文土器	深鉢	[22.6]	(15.6)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は沈線により文様を抽出。地文はR.LとL.Rの単節縄文。	長石・石英 ・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
6251	縄文土器	深鉢	—	(9.5)	10.5	胴部は沈線による3条一組の懸垂文間を磨り消す。L.Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英 ・雲母	普通	橙	覆土下層	
6252	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	8.4	胴部は沈線による2条一組の懸垂文間を磨り消す。L.Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
TP6231	縄文土器	鉢	—	(12.2)	—	口縁部は施文。胴部上位は沈線が沿う隆帯による区画文。R.Lの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい焼	覆土	

### 第1908号土坑(第467図)

位置 調査2区の北部、D4 e2区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.04m、短径1.90mのほぼ円形である。底面は平坦で、平面形は長径2.10m、短径1.72mの楕円形である。深さは66cmで、壁は北壁が内傾している以外は直立している。ピットは1か所、深さは42cmである。

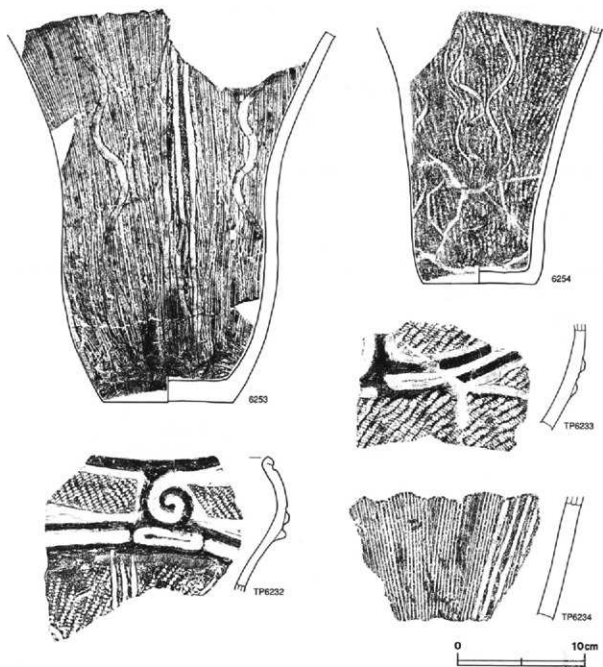
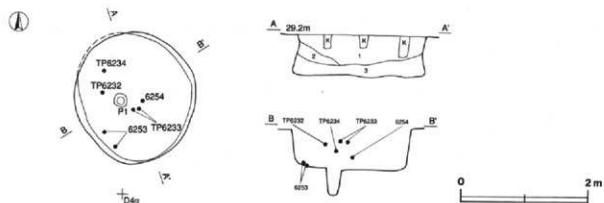
覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック中量  
2 暗褐色 ローム小ブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片98点が出土している。6253の深鉢片は底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土した6253の深鉢片から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第467图 第1908号土坑·出土遗物实测图

第1908号上坑出土遺物観察表 (第467回)

番号	種別	形状	口径(cm)	深さ(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6253	横文土師	深鉢	—	(29.3)	10.4	胴部は沈線による3条一組の整半文様を巻り出す。短文は幅約2cmによる条線文。	長石・石英	普通	灰褐色	第十層	
6254	横文土師	深鉢	—	(20.2)	8.6	胴部は沈線による波状の整半文様している。R.L.の幅約1cmを縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐色	第十層	
TP6232	横文土師	深鉢	—	(10.6)	—	胴部は沈線が帯状の整半文様を巻り出す。胴部は沈線による整半文。R.L.の幅約1cmを縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐色	第十層	
TP6233	横文土師	深鉢	—	(8.4)	—	胴部は沈線が帯状の整半文様を巻り出す。胴部は沈線による整半文。R.L.の幅約1cmを縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐色	第十層	
TP6234	横文土師	深鉢	—	(9.8)	—	沈線による3条一組の整半文。整半文はR.L.による条線文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	第十層	

第1913号土坑 (第468・469回)

位置 調査2区の北部、D3a0区。住居跡群域に位置する。

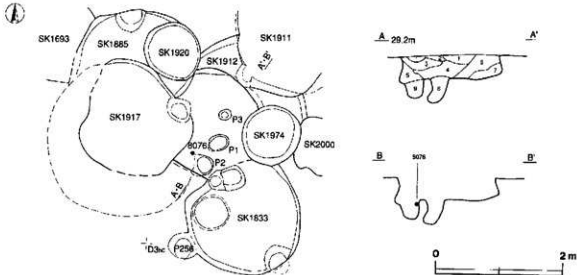
重複関係 第1912号土坑を掘り込み、第1974号土坑に掘り込まれている。第1885・1911・1917・1920号土坑と重複しており、土層では確認することができなかったが、出土土器からはそれより新しいと考えられる。第1833号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 重複遺構に掘り込まれているため明確ではないが、開口部の平面形は径1.56mほどの円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は径1.68mほどの円形と推定される。深さは39cmほどで、壁の現状は、下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり、上位はほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは平均18cmである。ピットは3か所で、深さはP1が29cm、P2が42cm、P3が28cmである。

覆土 9層に分層される。全体的にロームブロック・粒子を含み、やや締まりがある。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。なお第8層はP1の、第9層はP2の覆土である。

土層解説

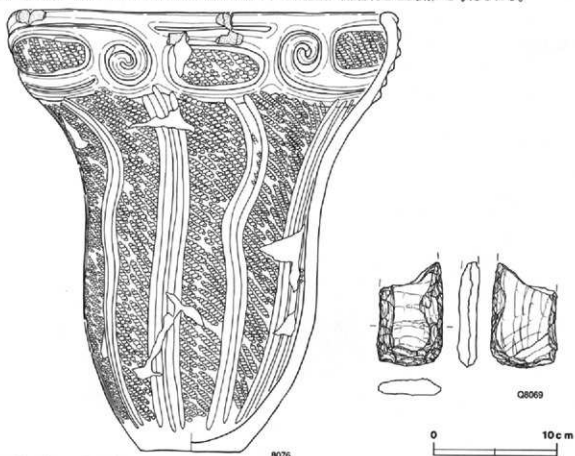
- |       |                       |       |                |
|-------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量          | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼上粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量      |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量             | 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中等             | 9 黒褐色 | ローム粒子少量、焼上粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量             |       |                |



第468回 第1913号土坑実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片124点、磨石2点、打製石斧1点が出土している。8076は完形の深鉢で、底面から横位で出土している。

**所見** 時期は、底面から出土している8076などから、中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第469図 第1913号土坑出土遺物実測図

第1913号土坑出土遺物観察表（第469図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8076	縄文土器	深鉢	24.9	35.7	8.0	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は沈線による垂直文を磨り出す。L.Rの単筋縄文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい程	底面	P.L.55

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q8069	打製石斧	(8.4)	5.3	1.6	(112.9)	緑泥片岩	刃部及び両側縁に圓整加工あり。	覆土	

### 第1924号土坑（第470・471図）

**位置** 調査2区の北部、D3b7区。住居跡群域に位置する。

**規模と形状** 開口部の平面形は楕円形と推定され、現状では長径1.83m、短径1.59mである。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.95m、短径1.78mの円形である。深さは53cmで、壁は下位からぐれ部にかけて内傾して立ち上がり、上位はほぼ直立する。底面からぐれ部までの高さは平均34cmである。ピットは2か所で、P1・P2ともに西壁際で検出された。深さはP1が61cm、P2が50cmである。

**覆土** 7層に分層される。全体的にロームブロック・粒子を含み、やや締まりがある。レンズ状の堆積状況か

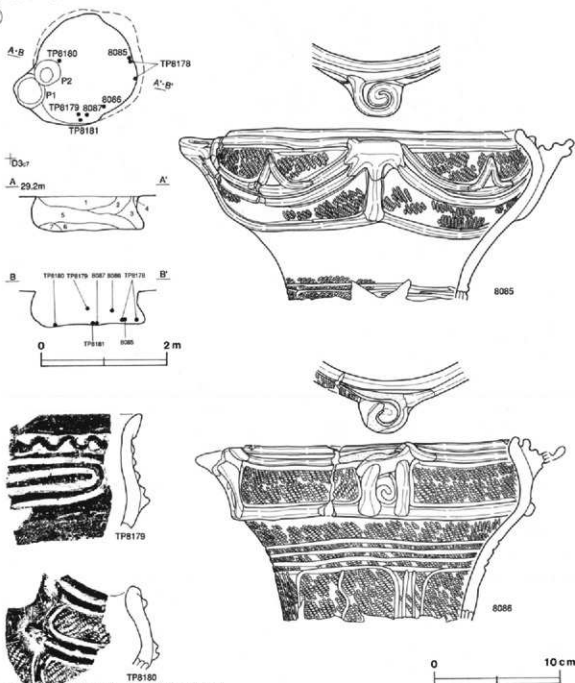
ら自然堆積と考えられる。

土層解説

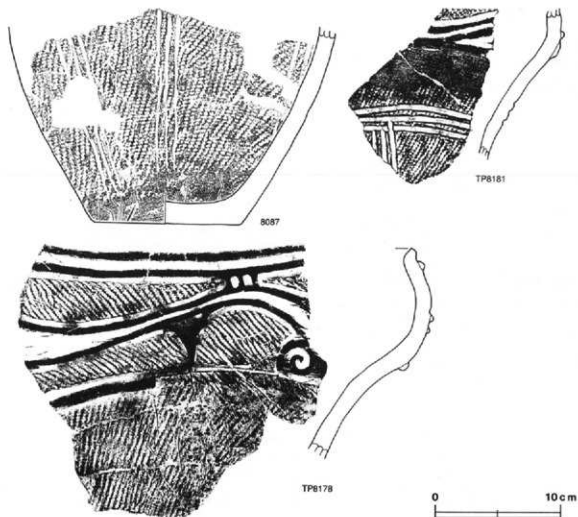
- |       |                   |        |                   |
|-------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量   | 5 極暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色  | ロームブロック中量         |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量   | 7 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量         |        |                   |

遺物出土状況 縄文土器片178点が出土している。遺物は、覆土上層から底面にかけて散在する状況で出土している。中層から底面にかけて出土した遺物は、壁際に集中する傾向が見られる。8085~8087及びTP8178・TP8179・TP8181はいずれも深鉢片で、壁際の中層から底面にかけて出土している。またTP8180の深鉢片は底面から出土している。

所見 時期は、壁際の中層から底面にかけて出土している8085~8087などから、中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第470図 第1924号土坑・出土遺物実測図



第471図 第1924号土坑出土遺物実測図

第1924号土坑出土遺物観察表 (第470・471図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8085	縄文土器	深鉢	23.0	(13.3)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部無文。胴部は沈線により文様を描出。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐色	覆土下層	
8086	縄文土器	深鉢	22.7	(14.3)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は4条一組の沈線と波状沈線を描す。L Rの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土中層	
8087	縄文土器	深鉢	—	(15.7)	11.5	3条一組の沈線による懸垂文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐色	底面	
TP8178	縄文土器	深鉢	—	(16.6)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。R Lの単節縄文を口縁部は横方向、胴部は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土下層	
TP8179	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	口唇部直下に交互刺突による連続コノ字状文が走る。口縁部は沈線が沿う隆帯文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土中層	
TP8180	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	沈線を有する隆帯文。隆帯には沈線が沿う。L Rの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	底面	
TP8181	縄文土器	深鉢	—	(12.1)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は3条一組の沈線により文様を描出。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	底面	



第1927号土坑（第472図）

位置 調査2区の北部，D3c7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第245号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は楕円形と推定され，現状では長径1.10m，短径0.92mである。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.32m，短径2.03mの楕円形である。深さは112cmで，壁は下位からくびれ部にかけて内傾し，上位は外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均68cmである。

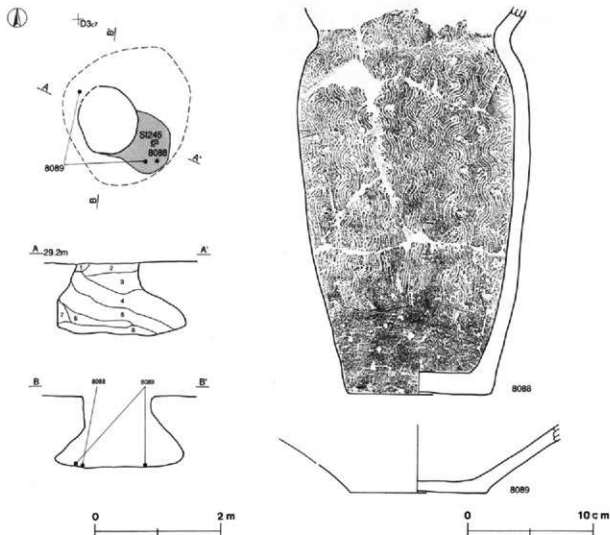
覆土 8層に分層される。中層から下層にかけて鹿沼バミスを含んでいる。第8層が堆積した後，西側の壁から徐々に崩落し，自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量，白色粒子微量      | 5 褐色 ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子微量    |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量，鹿沼バミス粒子微量     |
| 3 褐色 ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子少量    | 7 暗褐色 ロームブロック少量，鹿沼バミスブロック微量 |
| 4 褐色 ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量      | 8 黒色 ロームブロック中量，鹿沼バミスブロック微量  |

遺物出土状況 縄文土器片139点が出土している。ほとんどの遺物が覆土から出土している。8088の深鉢片及び8089の浅鉢片は，いずれも底面から出土している。

所見 時期は，底面から出土している8088・8089などから，中期中葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第472図 第1927号土坑・出土遺物実測図

第1927号土坑出土遺物観察表 (第472図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8088	縄文土器	深鉢	—	(30.4)	11.2	樽巻状工具による波状条線文を縦位に施文。	長石・雲母	普通	にぶい褐	底面	底部網代敷 P.L.56
8089	縄文土器	浅鉢	—	(5.4)	10.7	無文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい橙	底面	

第1941号土坑 (第473図)

位置 調査2区の中央部、D3d5区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第230号住居に掘り込まれている。第1877号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は楕円形と推定され、上層が削平されているため現状では長径1.52m、短径1.34mである。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.68m、短径1.56mの円形である。深さは43cmで、壁は内傾して立ち上がる。

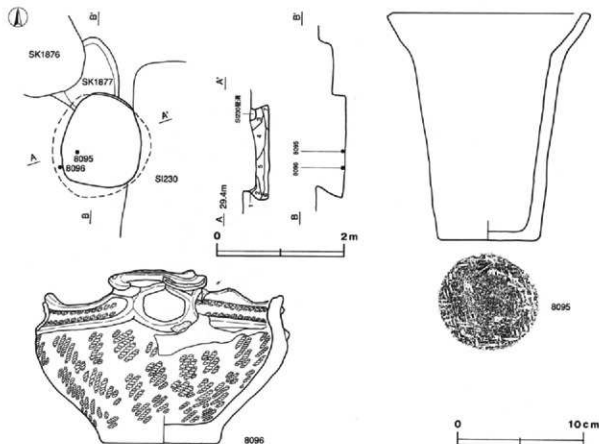
覆土 7層に分層される。全体的にやや締まりがある。不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- |   |     |                |   |     |                  |
|---|-----|----------------|---|-----|------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子微量        | 5 | 黒褐色 | ロームブロック微量        |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック微量      | 7 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量      |   |     |                  |

遺物出土状況 縄文土器片25点が覆土から出土している。8095の深鉢は底面から横位で、8096の鉢は底面から逆位で出土している。

所見 時期は、底面から出土している8095・8096などから、中期中葉(阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期)と考えられる。



第473図 第1941号土坑・出土遺物実測図

第1941号土坑出土遺物観察表 (第473図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8095	縄文土器	深鉢	16.0	17.8	7.8	無文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	底面	P L 57 底部 側代直
8096	縄文土器	鉢	18.2	13.7	9.1	口縁部は隆帯文に沿って2条の押出縄文が並ぶ。胴部はR Lの単筋縄文を施文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	黒褐色にふい縄	底面	P L 56

第1942号土坑 (第474・475図)

位置 調査2区の北部, C3h9区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は円形と推定され, 現状では長径0.70m, 短径0.65mである。底面はほぼ平坦で, 平面形は径2.34mほどの円形である。深さは86cmで, 壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり, 上位はほぼ直立する。また底面からくびれ部までの高さは平均68cmである。

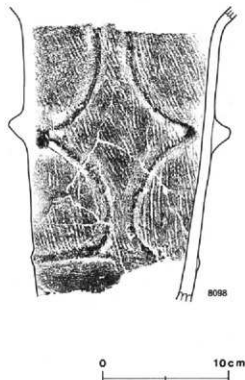
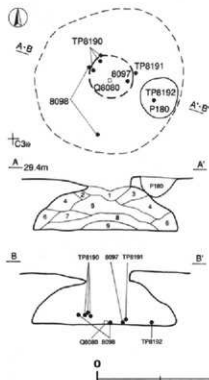
覆土 9層に分層される。第9層はロームブロックを多量に含んでおり, ローム粒子を含む第8層とともに開口部付近の壁の崩落層と考えられる。遺物は第8・9層に集中している。堆積状況に乱れがみられないことから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

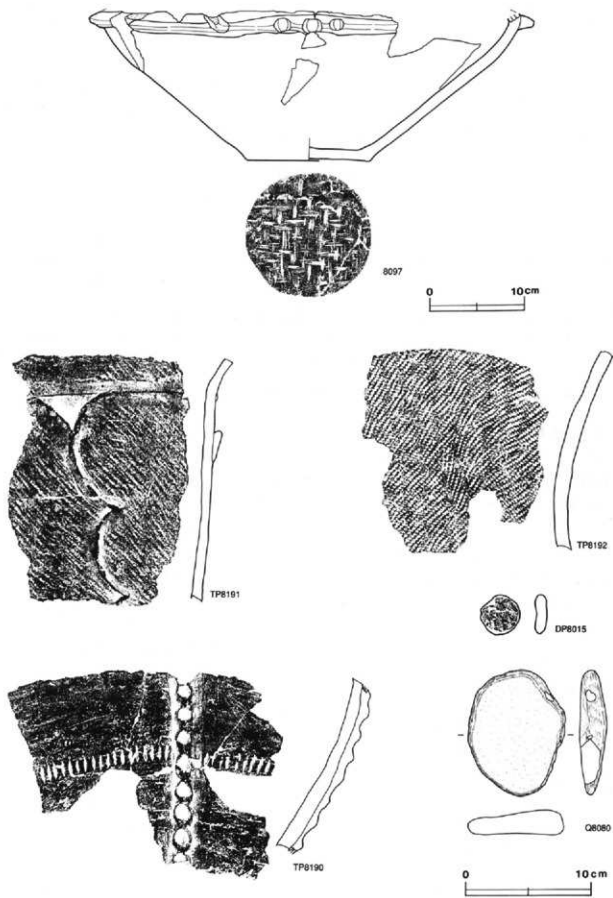
- |       |                   |       |                      |
|-------|-------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量      | 6 黒褐色 | ローム粒子微量              |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量    |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 8 黒色  | ローム粒子・炭化物少量          |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量    | 9 褐色  | ロームブロック多量, 鹿角パイス粒子少量 |
| 5 黒色  | 炭化物少量, ロームブロック微量  |       |                      |

遺物出土状況 縄文土器片156点, 土器片円盤1点, 磨石1点が出土している。遺物は覆土下層から底面にかけて集中している。8097の浅鉢及びQ8080の磨石は, 底面から出土している。8098の深鉢片は, 覆土下層から底面にかけて散在していた破片が接合したものである。またTP8190~8192の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第474図 第1942号土坑・出土遺物実測図



第475图 第1942号土坑出土遗物实测图

第1942号土坑出土遺物観察表 (第474・475図)

番号	種類	形	寸法	L径(cm)		L径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色	出土位置	備考
				幅	厚							
8097	縄文土器	浅鉢	—	—	(15.7)	13.0	11等深さ下に押圧痕を有する隆帯が走る。胴部は無文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	底面	底面代書 P.L.56
8098	縄文土器	深鉢	—	(23.3)	—	—	隆帯により上下に対抗する風状文を描出。Lの無縁縁文を単・多方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	底面上部	底面
TP8190	縄文土器	深鉢	—	(13.9)	—	—	押圧文を有する隆帯が走下し、1列のキゼミ目列が走る。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	底面上部	底面
TP8191	縄文土器	深鉢	—	(19.2)	—	—	胴部は1列の隆帯が走る。V字状文を起点に隆帯が垂下する。Lの半距縁文を施文。	長石・石英	普通	灰褐色	底面上部	底面
TP8192	縄文土器	深鉢	—	(15.5)	—	—	R.Lの半距縁文を単及び斜方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	底面上部	底面

番号	器種	計測値				胎土・色調	特	痕	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
DP8015	上部片断	3.2	3.0	0.9	10.9	長石石英雲母・灰褐色	無文	装状の輪縁痕を残す。	底面	P.L.59

番号	器種	計測値				材質	特	痕	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
Q8080	灰石	10.0	(8.4)	2.1	(185.0)	砂岩	使用面は全割壊。	—	底面	—

第1944号土坑 (第476・477図)

位置 調査2区の北部、D3 b8区。住居跡群域に位置する。

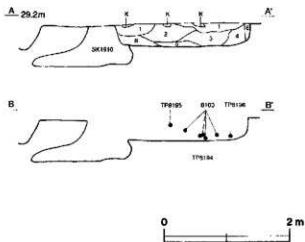
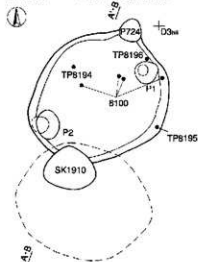
重複関係 第1910号土坑を掘り込んでいる。第724号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径2.28m、短径1.97mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、深さは35cmである。壁は外傾して立ち上がる。ピットは2か所で、深さはP1が67cm、P2が68cmである。なおP2は中央部に向かって傾斜して掘り込まれている。

覆土 6層に分層される。全体的にロームブロック・粒子を含み、やや締まりがある。遺物の出土状況などから、土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

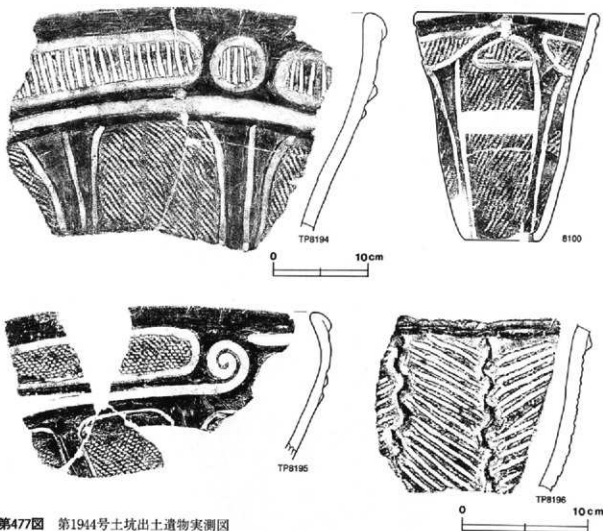
- |       |              |        |                     |
|-------|--------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子微量             |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量      | 5 暗褐色  | ロームブロック少量、鹿角パミス粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色  | ロームブロック中量           |



第476図 第1944号土坑実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片224点、磨製石斧1点、敲石1点、凹石1点が出土している。遺物は覆土中層に廃棄されたような状況で集中して出土している。8100の深鉢は、中層から下層にかけて散在していた破片が接合したものである。また TP8194・TP8196の深鉢片は覆土下層から、TP8195の深鉢片は覆土中層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、廃絶時に廃棄されたと想定できる8100などから、中期後葉（加曾利 E Ⅲ 式期）と考えられる。



第477図 第194号土坑出土遺物実測図

第194号土坑出土遺物観察表（第477図）

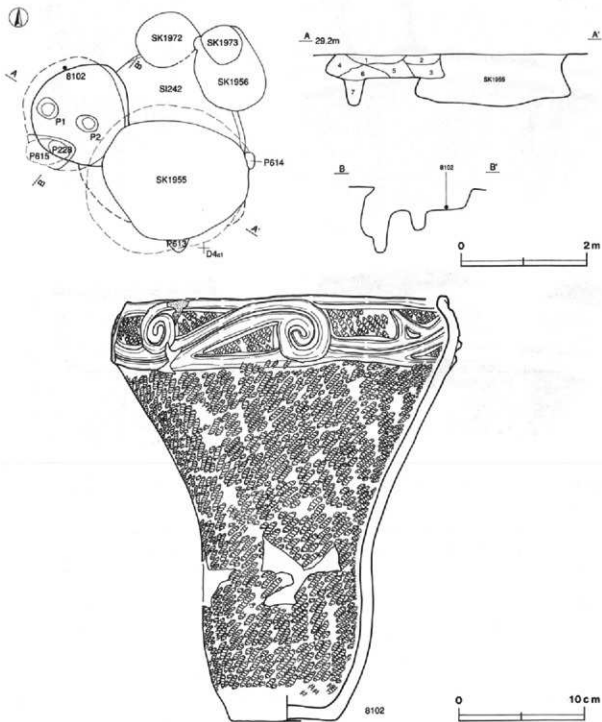
番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	地色	色調	出土位置	備考
8100	縄文土器	深鉢	14.7	18.0	[6.0]	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は沈線による懸垂文間を巻り滑す。R・Lの複筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層～下層	P.L.57
TP8194	縄文土器	深鉢	—	(23.0)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は沈線による懸垂文間を巻り滑す。L・Rの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土下層	
TP8195	縄文土器	深鉢	—	(11.5)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は沈線による懸垂文間を巻り滑す。L・Rの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	赤褐	覆土中層	
TP8196	縄文土器	深鉢	—	(13.5)	—	胴部に遠る隆帯文を起点に蛇行隆帯が垂下。棒状工具による斜方向の沈線文を繪文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい地橙	覆土下層	

### 第1954号土坑（第478図）

**位置** 調査2区の北部，D3b0区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第242号住居跡及び第1955号土坑を掘り込んでいる。第228・615号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は円形と推定され，現状では長径1.57m，短径1.50mである。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.80m，短径1.70mの円形である。深さは37cmで，壁は内傾して立ち上がる。くびれ部は確認されなかった。ピットは2か所で，深さはP1が48cm，P2が32cmである。



第478図 第1954号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 7層に分層される。第6層は凸状に堆積しており、開口部からの土砂の流入によるものと考えられる。また第7層はP1の覆土である。第1～5層は不自然な堆積状況であり、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                |       |                    |
|-------|----------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム灰土・炭化粒子微量   | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量   |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量   |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量、硝子ハミスリ少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |       |                    |

**遺物出土状況** 縄文土器片127点、打製石斧1点が覆土から出土している。8102の深鉢は底面からやや浮いた状態で出土している。

**所見** 時期は、床面からやや浮いた状況で出土している8102などから中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。

**第1954号土坑出土遺物観察表（第478図）**

番号	種別	容積 [L](L)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色澤	出土位置	備考
8102	縄文土器 深鉢	24.8	33.2	8.0	口縁部は文様が沿う隆帯文、R上の単線文を主とする横方向、胴部は縦方向に施文。	灰石・石灰質	普通	暗灰	底面P1.56	

**第1955号土坑（第479～481図）**

**位置** 調査2区の北部、D3b0区。生居跡群域に位置する。

**重複関係** 第242号生居跡を掘り込み、第1954号土坑に掘り込まれている。第613・614号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は楕円形と推定され、現状では長径2.33m、短径2.13mである。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.45m、短径2.15mの円形である。深さは83cmで、壁は内傾して立ち上がる。また土層断面から一部で確認できた底面からくびれ部までの高さは68cmである。

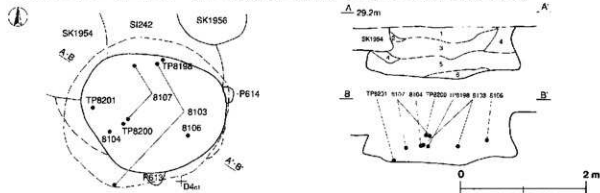
**覆土** 6層に分層される。第6層は開口部からの土砂流入により凸状に堆積した層と考えられ、ローム粒子を多量に含み、粘性が高い。堆積状況に乱れがみられないことから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                  |       |                  |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量     | 5 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量          |

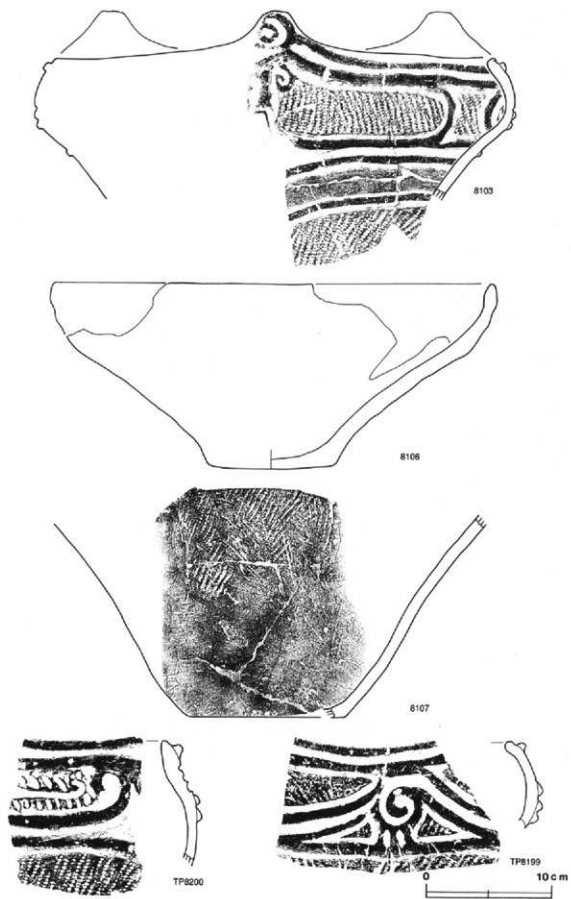
**遺物出土状況** 縄文土器片902点、磨石1点、石核1点が出土している。遺物は覆土中層から底面にかけて多く出土している。8103・8104・TP8198・TP8200の深鉢片及び8106・8107の浅鉢はいずれも覆土中～下層から出土しており、一括して廃棄されたものと考えられる。またTP8201は床面から出土している。

**所見** 本跡の廃前後、第5・6層が堆積した後に一括して土器が廃棄されたと考えられるため、出土土器からの時期決定は難しいが、覆土中～下層の堆積時期は中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。

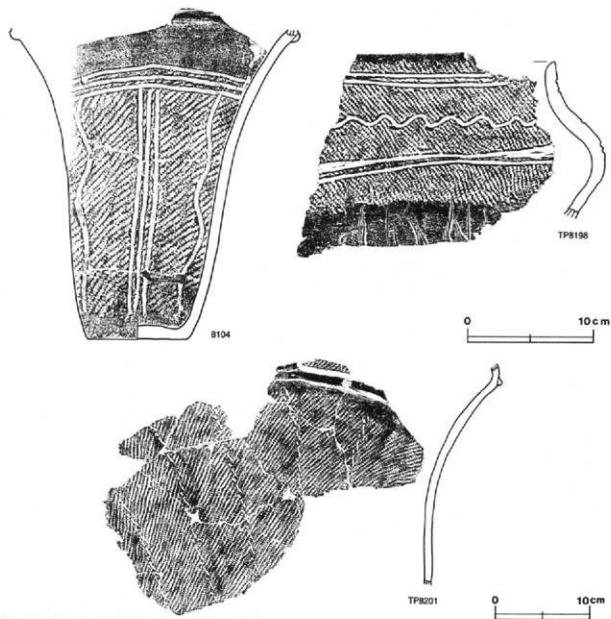


第479図 第1955号土坑実測図





第480图 第1955号土坑出土遗物实测图(1)



第481図 第1955号土坑出土遺物実測図(2)

第1955号土坑出土遺物観察表(第480・481図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8103	縄文土器	深鉢	[34.4]	(15.0)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯文。胴部に1本の隆帯が巡る。R Lの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土中層	
8104	縄文土器	深鉢	—	(24.6)	7.8	3条一組の沈線と波状沈線により文様を描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
8106	縄文土器	浅鉢	[34.6]	14.7	9.7	無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
8107	縄文土器	浅鉢	—	(15.2)	[12.0]	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層～中層	
TP8198	縄文土器	深鉢	—	(12.4)	—	2条一組の沈線と波状沈線により文様を描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土中層	
TP8199	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	沈線に沿う隆帯による区画文。R Lの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	灰黄褐	覆土	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP8200	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	口縁部は波線が沿う隆帯による区画文。胴部はR.Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	灰黄褐色	覆土上層	
TP8201	縄文土器	深鉢	—	(23.7)	—	口縁部は波線が沿う隆帯文。胴部は結節したR.Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	底面	

### 第1970号土坑 (第482・483図)

位置 調査2区の北部, C4区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第182号住居に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.18m, 短径1.10mの円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.06m, 短径1.98mの円形である。深さは90~94cmで, 壁は下位からくびれ部にかけて内傾し, 上位は外傾して立ち上がる。また底面からくびれ部までの高さは平均60cmである。

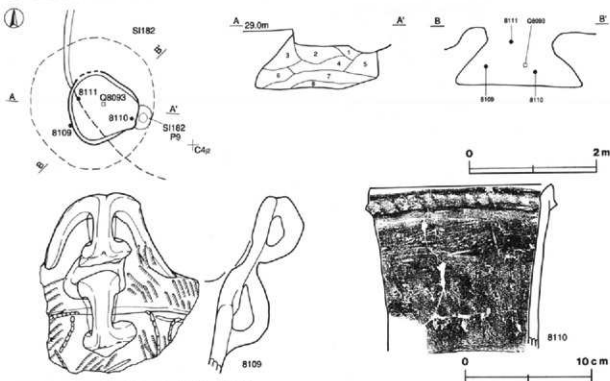
覆土 8層に分層される。第8層は開口部からの土砂流入により凸状に堆積した層と考えられ, ロームブロックを多量に含んでいる。第7層には, 鹿沼パミスブロックが多量に含まれ, 鹿沼パミスを取り扱った壁の崩落層と考えられる。遺物は上層から中層に集中しているため, 開口部及び壁が崩落し第7・8層が堆積した後廃棄され, 一気に埋め戻されたものと考えられる。

#### 土層解説

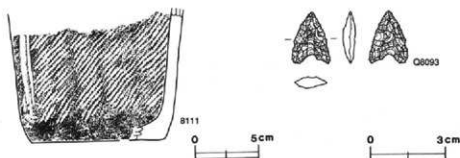
- |       |                             |       |                      |
|-------|-----------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量             | 5 暗褐色 | ロームブロック微量            |
| 2 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 鹿沼パミス粒子微量   |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物粒子微量     | 7 黄褐色 | 鹿沼パミスブロック多量, ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化物少量, ロームブロック・焼土粒子微量       | 8 褐色  | ロームブロック多量            |

遺物出土状況 縄文土器片240点, 打製石斧1点, 石鏃1点が出土している。8110の深鉢片は覆土下層, 8109の深鉢片及びQ8093の石鏃は覆土中層から出土している。

所見 壁などの崩落後に土器片が廃棄されたと考えられるため, 出土土器からの時期判断は難しいが, 覆土中層の堆積時期は中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第482図 第1970号土坑・出土遺物実測図



第483図 第1970号土坑出土遺物実測図

第1970号土坑出土遺物観察表 (第482・483図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8109	縄文土器	深鉢	—	(14.2)	—	波頂部から口縁部にかけて楕状把手を有する。結節状線文とRの無節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土中層	
8110	縄文土器	深鉢	(14.2)	(12.7)	—	口唇部直下に三角形の断面形をもつ隆帯が走り、内面に稜を有する。胴部は無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
8111	縄文土器	深鉢	—	(10.2)	[10.6]	2条一組の平行波線文が沿う隆帯が走り、R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	

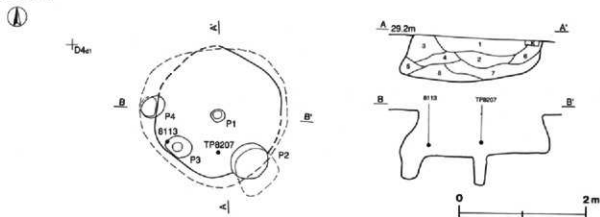
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q8093	石 鉢	2.1	1.5	0.5	1.0	黒曜石	基部中央が溝入。	覆土中層	P L 99

### 第1989号土坑 (第484～486図)

位置 調査2区の北部、D4 d1区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.07m、短径1.97mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.33m、短径2.19mの円形である。深さは60～70cmで、壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり、上位はほぼ直立する。また底面からくびれ部までの高さは平均46cmである。ピットは4か所、深さはP1が46cm、P2が48cm、P3が30cm、P4が40cmである。

覆土 8層に分類される。全体的にロームブロック・粒子を含み、やや締まりがある。第8層は開口部の崩落により凸状に堆積した層と考えられ、ロームブロックを中量含んでいる。第5・7層は壁の崩落層と考えられロームブロックを中量含んでいる。上層から中層にかけては、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。



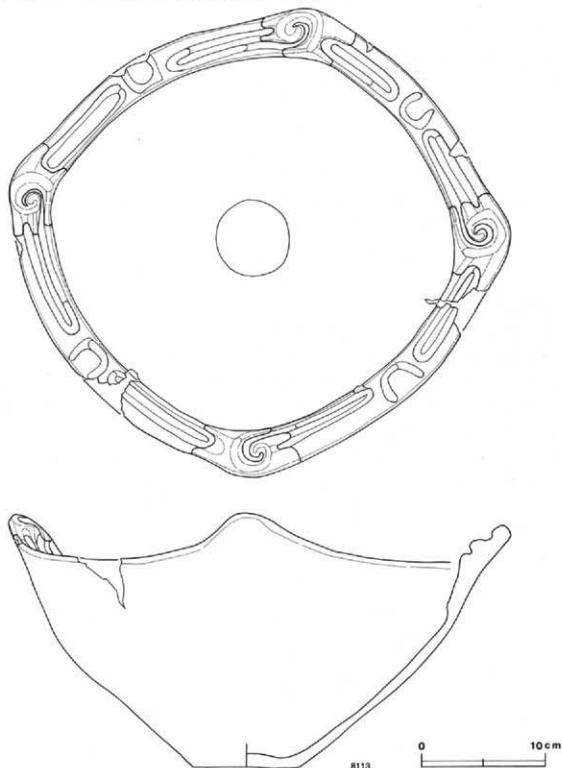
第484図 第1989号土坑実測図

土層解説

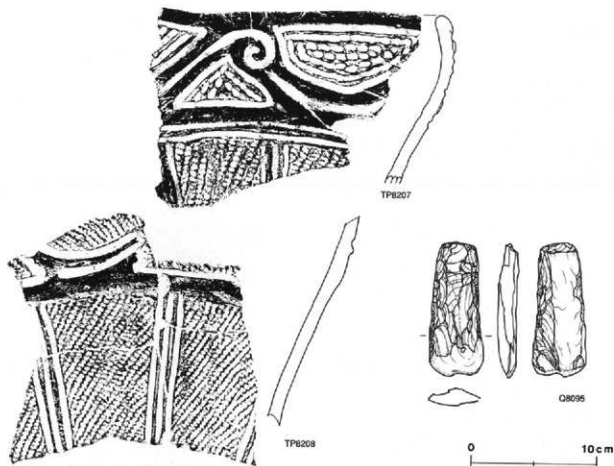
- |       |                  |        |                     |
|-------|------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量     | 5 極暗褐色 | ロームブロック中量           |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量      |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量    |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片220点、磨石1点、磨製石斧1点が覆土から出土している。S113の浅鉢及びTP8207の深鉢片は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第485図 第1989号土坑出土遺物実測図（1）



第486図 第1989号土坑出土遺物実測図(2)

第1989号土坑出土遺物観察表(第485・486図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8113	縄文土器	浅鉢	39.6	20.4	8.4	口唇部は隆帯による渦巻文と沈線による区画文で文様を抽出。胴部は無文。	長石・石英	普通	浅黄褐色 黒褐色	覆土下層	内外面 赤彩 P.L.56
TP8207	縄文土器	深鉢	—	(13.5)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は沈線による懸垂文間を帯り滑す。R.L.の単節縄文。	長石・石英 ・雲母	普通	黒褐色	覆土下層	
TP8208	縄文土器	深鉢	—	(17.1)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は沈線による懸垂文間を帯り滑す。R.L.の単節縄文。	長石・石英 ・雲母	普通	にぶい橙	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q8095	磨製石斧	10.6	4.3	1.5	86.3	粘板岩	両面調整加工後、刃部付合を局部研磨。	覆土	P.L.60

### 第1992号土坑(第487図)

位置 調査2区の北部、D3c0区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第1991・1994号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は径0.95mほどの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径3.00m、短径2.90mの円形である。深さは82cmで、壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり、上位はほぼ直立する。また底面からくびれ部までの高さは平均60cmである。

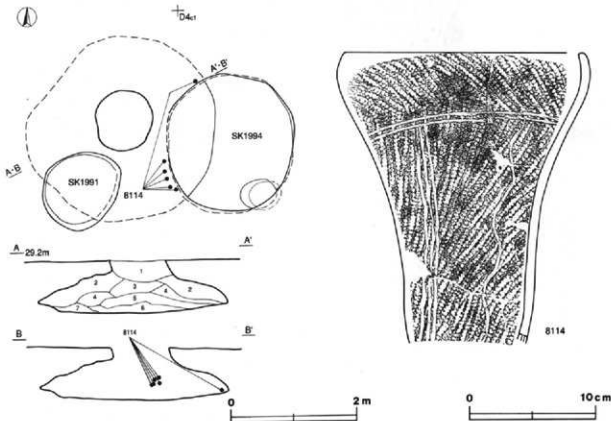
覆土 7層に分層される。第5・6層は開口部からの土砂流入により凸状に堆積した層と考えられ、ロームブロック・粒子を多量に含んでいる。第1～4層は堆積状況に乱れがみられないことから自然堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                           |       |                        |
|--------|---------------------------|-------|------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量         | 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭沼バミスブロック微量   |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量         | 6 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭沼バミスブロック少量 |
| 3 黒色   | ローム粒子・炭化粒子少量, 炭沼バミスブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量      |
| 4 黒褐色  | ロームブロック少量                 |       |                        |

遺物出土状況 縄文土器片27点, 土器片円盤1点が覆土から出土している。8114の深鉢は, 第5層の上面に散在していた破片が接合したものであり, 第5・6層が堆積した後, 廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第487図 第1992号土坑・出土遺物実測図

第1992号土坑出土遺物観察表(第487図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
B114	縄文土器	深鉢	18.7	(23.0)	—	口縁部に沈線が高る。胴部は3本一組の沈線と波状沈線による懸垂文。R Lの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色にふい橙	覆土中層～下層	P L 56

第1994号土坑(第488・489図)

位置 調査2区の北部, D4 c1区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第1992号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.16m, 短径2.04mの円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.20m, 短径2.06mの円形である。深さは42cmで, 壁は一部で内傾するが, 全体的にはほぼ直立する。ピットは1か所, P1の深さは38cmである。

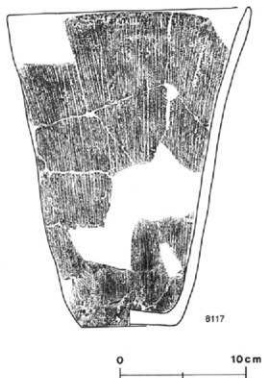
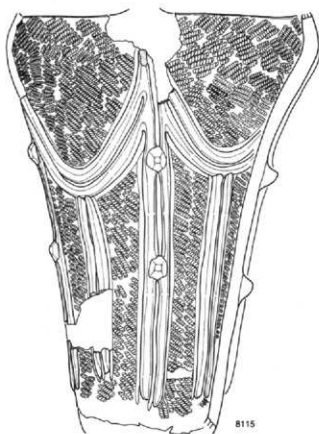
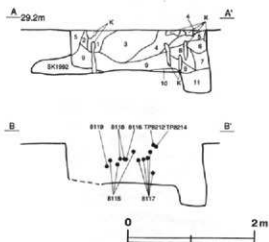
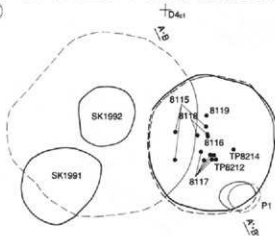
覆土 11層に分層される。第5～9層にはロームブロック・粒子が多目に含まれている。遺物の出土状況などから, 土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。なお第11層はP1の覆土である。

土層解説

- |       |                  |        |                   |
|-------|------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック、炭化粒子微量   | 7 暗褐色  | ロームブロック多量         |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック中量         |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量    | 9 極暗褐色 | ローム粒子多量、流沼パミス粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量         |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量        | 11 暗褐色 | ロームブロック中量         |
| 6 暗褐色 | ローム粒子多量          |        |                   |

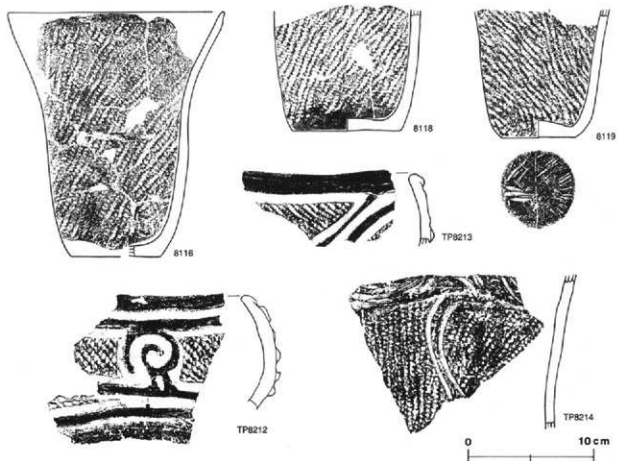
遺物出土状況 縄文土器片104点、剥片1点が覆土から出土している。遺物は上層から中層にかけて集中して出土しており、下層及び底面のものは少ない。8115~8119及びTP8212~8214はいずれも深鉢で、覆土上層から中層にかけて廃棄されたような状況で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第488図 第1994号土坑・出土遺物実測図





第489図 第1994号土坑出土遺物実測図

第1994号土坑出土遺物観察表 (第488・489図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8115	縄文土器	深鉢	—	(33.6)	—	2本一組の沈線が沿う隆帯により文様を描出。L Rの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐にぶい橙	覆土上層～中層	P L 57
8116	縄文土器	深鉢	17.0	19.3	[7.0]	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
8117	縄文土器	深鉢	19.2	25.1	7.6	歯状工具による条線文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐にぶい橙	覆土中層～下層	P L 56
8118	縄文土器	深鉢	—	(9.5)	8.5	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
8119	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	5.8	Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	底部木炭灰
TP8212	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	—	沈線が沿う隆帯により区別文、渦巻文を描出。R Lの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
TP8213	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	沈線が沿う隆帯による区別文 R Lの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	
TP8214	縄文土器	深鉢	—	(11.9)	—	2条一組の沈線により文様を描出。R Lの単節縄文を縦及び斜方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	



序号	位置	断面形状	规格			断面尺寸	备注	主要出土物	规格同层 (旧→新)	层位号
			长度(米)×宽度(米)	厚度(米)×深度(米)	面积(平方米)					
999	C2d7	不规则形	0.97×(0.45)	—	49	铺面	—	—	—	—
1000	C2d6	椭圆形	[1.22]×1.10	—	46	铺面	—	—	—	SK2070
1001	C2d7	圆形	0.83×0.80	—	98	铺面	—	—	—	SK2072
1002	C2d6	椭圆形	1.09×(0.81)	—	16	铺面	—	—	—	SK2074
1003	C2d8	不规则形	2.08×1.48	1.92	57	铺面	—	—	—	SK2075
1004	C2d8	椭圆形	1.44×1.30	2.02×1.80	60	铺面	—	—	—	SK2076
1005	C2d8	不明	不明	—	46	铺面	—	—	—	SK2077
1006	C2d9	椭圆形	[1.46×1.23]	2.01×1.71	47	铺面	—	—	—	SK2078
1007	C2d8	椭圆形	1.76×1.43	2.24×1.90	66	铺面	—	—	—	SK2080
1008	C2d9	圆形	0.81×0.83	—	110	铺面	—	—	—	SK2081
1009	C2d9	不规则形	2.98	—	57	铺面	—	—	—	SK2082
1010	C2d9	圆形	[1.70]	2.53×2.37	105	铺面	—	—	—	SK2083
1011	B2d9	椭圆形	0.80×0.65	2.69×2.44	108	铺面	—	—	—	SK2084
1012	C2d6	不规则形	1.25×1.22	—	29	铺面	—	—	—	SK2085
1013	C2d6	不规则形	1.76×1.41	—	28	铺面	—	—	—	SK2086
1014	C2d7	长方形	1.77×0.70	—	52	铺面	—	—	—	SK2087
1015	C2d6	不规则形	1.90×1.56	—	10	铺面	—	—	—	SK2088
1016	C2d7	不规则形	1.71×1.42	—	18	铺面	—	—	—	SK2089
1017	B2d7	椭圆形	3.03×(1.30)	—	87	铺面	—	—	—	SK2090
1018	B2d7	不明	不明	—	66	铺面	—	—	—	SK2091
1019	B2d9	不明	(0.73)×—	—	不明	不明	—	—	—	SK2092
1020	B2d9	不明	(1.29)×—	—	不明	不明	—	—	—	SK2093
1021	C2d6	椭圆形	0.83×(0.71)	—	22	铺面	—	—	—	SK2094
1022	C2d5	椭圆形	1.39×1.12	—	37	铺面	—	—	—	SK2095
1023	C2d5	不规则形	1.45×(1.40)	—	60	铺面	—	—	—	SK2096
1024	C2d6	不明	(1.58×1.43)	—	55	铺面	—	—	—	SK2097
1025	C2d6	不规则形	2.08×1.79	2.41×2.32	80	铺面	—	—	—	SK2098
1026	C2d9	圆形	0.65×0.61	—	46	铺面	—	—	—	SK2099
1027	C2d8	椭圆形	1.12×(1.03)	(0.92)×0.89	85	铺面	—	—	—	SK2100
1028	C2d9	椭圆形	0.88×0.75	—	73	铺面	—	—	—	SK2101
1029	C2d5	椭圆形	2.57×1.95	2.44×1.86	不明	不明	—	—	—	SK2102
1030	B2d7	椭圆形	1.01×(0.35)	—	8	铺面	—	—	—	SK2103
1031	C2d6	不规则形	2.28×(1.02)	2.00×(0.91)	47	铺面	—	—	—	SK2105
1032	C2d1	不规则形	3.63×2.99	—	76	铺面	—	—	—	SK2106
1034	C2d1	不规则形	[2.08]×1.48	5.10	134	铺面	—	—	—	SK2107
1035	C2d1	椭圆形	2.24×1.90	2.24×2.08	91	铺面	—	—	—	SK2108
1036	C2d8	不规则形	2.48×2.24	3.28×2.47	102	铺面	—	—	—	SK2109
1037	C2d5	椭圆形	(1.22×0.96)	(1.10×0.89)	不明	不明	—	—	—	SK2110
1038	C2d5	椭圆形	2.00×(1.80)	1.77×(1.72)	37	铺面	—	—	—	SK2111
1039	C2d5	圆形	1.57×1.52	—	37	铺面	—	—	—	SK2112
1040	C2d5	椭圆形	2.90×2.86	—	35	铺面	—	—	—	SK2115
1041	C2d7	不规则形	(2.20)	—	37	铺面	—	—	—	SK2114
1042	C2d5	不规则形	1.20	1.00	不明	不明	—	—	—	SK2115
1043	C2d6	椭圆形	2.66×(2.12)	—	40	铺面	—	—	—	SK2116
1044	C2d8	椭圆形	2.45×(2.00)	—	49	铺面	—	—	—	SK2117
1045	C2d5	椭圆形	0.82×(0.55)	—	116	铺面	—	—	—	SK2118

序号	宝号	宽口部 平面形	宽			口径 (mm)	底径 (mm)	耳上	主要出土物	重复标号 (日·新)	宝 号	
			最大直径×壁厚	最大直径×壁厚	最大直径							
1046	C216	椭圆形	2.62×1.96	2.50×1.92	86	内缘	平足	5	自然	深钵、磨製石斧	SK1070-1084-本脚·SK1074	SK2119
1047	C216	不规则形	不明	—	71	内缘	平足	—	自然	—	—	SK2120
1048	B216	不规则形	(1.70)×1.22	—	—	53	外缘	平足	1	自然	—	SK2121
1049	B216	不规则形	(1.13)×1.01	—	46	外缘	平足	—	自然	—	—	SK2122
1050	C317	椭圆形	1.38×(1.01)	1.14×(0.95)	47	内缘	平足	1	—	—	—	SK2123
1051	C311	椭圆形	[0.90]×0.76	—	104	内缘	平足	—	—	—	—	SK2124
1052	C311	椭圆形	[1.84]×1.27	—	98	外缘	平足	—	—	—	—	SK2125
1053	C311	椭圆形	1.29×1.17	—	72	内缘	平足	1	自然	深钵、土器片瓦	—	SK2126
1054	C311	圆形	1.01×[1.00]	2.87×2.57	113	内缘	平足	—	自然	深钵、土器片瓦、磨製石斧、磨石	—	SK2127
1055	C216	不规则形	1.80×[1.41]	2.06×2.04	56	内缘	平足	—	自然	—	—	SK2128
1056	C216	椭圆形	1.33×(0.58)	—	47	外缘	平足	—	—	—	—	SK2129
1057	C216	不规则形	0.85×(0.56)	0.64×(0.54)	—	小周	不明	—	—	—	—	SK2130
1058	C216	不规则形	1.53×—	—	40	外缘	平足	—	—	—	—	SK2131
1059	C216	不规则形	(3.80)×2.08	—	23	内缘	平足	—	自然	—	—	SK2132
1060	B216	椭圆形	2.35×1.96	2.10×1.67	57	内缘	平足	—	自然	—	—	SK2133
1061	B216	椭圆形	2.10×0.98	—	53	直立	平足	—	自然	—	—	SK2134
1062	C216	椭圆形	[2.47]×2.08	—	26	外缘	平足	—	—	—	—	SK2135
1063	C216	圆形	[0.89×0.80]	—	74	内缘	平足	—	自然	—	—	SK2136
1065	C216	椭圆形	1.92×1.14	2.92×2.64	101	内缘	平足	—	人为	深钵	—	SK2138
1066	C216	椭圆形	0.96×0.96	—	14	外缘	平足	—	—	—	—	SK2139
1067	B216	不规则形	1.97×(0.62)	1.04×(0.50)	—	不明	不明	—	—	—	—	SK2140
1068	C216	不规则形	1.87×—	1.62×—	50	不规则	平足	—	自然	—	—	SK2141
1069	C216	椭圆形	2.35×(1.42)	—	48	外缘	平足	2	自然	—	SK1070-1084·本脚·SK1074	SK2142
1070	C216	圆形	2.68×2.65	—	30	外缘	平足	—	自然	—	小脚→SK1069-1074-1084	SK2143
1071	C216	圆形	1.71×[1.69]	—	61	直立	平足	—	自然	—	—	SK2144
1072	C216	椭圆形	2.90×2.08	—	45	外缘	平足	6	自然	深钵、土器片瓦、磨製石斧、磨石、深钵	—	SK2145
1073	C216	椭圆形	[0.92]×—	1.80×1.75	73	内缘	平足	—	自然	—	本脚→SI145	SK2146
1074	C216	椭圆形	2.54×(1.04)	—	80	外缘	平足	—	—	—	SK1069·1070→本脚	SK2147
1075	C216	圆形	[2.10×1.96]	—	58	外缘	平足	1	自然	—	SI145→本脚	SK2148A
1076	C216	椭圆形	[2.10]×1.80	[1.80]×1.66	—	不明	不明	—	不明	—	—	SK2148B
1077	C216	圆形	[2.30]×2.12	—	29	外缘	平足	3	自然	—	—	SK2149
1078	C216	圆形	1.60	—	78	直立	平足	—	自然	—	本脚→SI145	SK2150
1079	C216	椭圆形	2.42×1.89	—	33	外缘	平足	—	自然	深钵	SK1124·1143→本脚	SK2151
1080	C216	椭圆形	[1.50]×1.18	[1.30×1.08]	—	不明	不明	—	不明	—	—	SK2152
1081	C216	椭圆形	(2.38×1.90)	(2.38×2.10)	50	内缘	平足	—	自然	深钵	F8→本脚	SK2153
1082	C216	不规则形	1.68×1.26	1.56×1.16	—	不明	不明	—	不明	—	F8·本脚	SK2154
1083	C311	圆形	[1.34]	—	34	直立	平足	—	不明	—	—	SK2155
1084	C216	圆形	1.58	1.40	38	内缘	平足	—	自然	—	SK1070→本脚·SK1069	SK2156
1085	C216	不规则形	(1.34×0.46)	—	88	外缘	平足	—	自然	—	SK1110·1111→本脚	SK2157
1086	C216	圆形	[0.62]	—	31	外缘	平足	—	自然	—	SK1109→本脚	SK2158
1087	C216	椭圆形	1.28×1.06	—	63	外缘	平足	—	自然	—	—	SK2159
1088	C216	椭圆形	0.64×(0.24)	—	47	直立	平足	—	人为	—	SK1109→本脚	SK2160
1089	C216	不规则形	[0.78]×0.72	2.08×1.74	78	内缘	平足	—	自然	—	本脚·SK1090	SK2161
1090	C216	椭圆形	1.80×1.54	—	58	直立	平足	—	自然	—	SK1089·本脚	SK2162
1091	C311	椭圆形	1.94×1.76	1.80×1.44	85	内缘	平足	—	人为	深钵	SK1095→本脚	SK2163
1092	C311	圆形	1.49	[1.92×1.48]	80	内缘	平足	—	自然	—	SK1123→本脚	SK2164

序号	位置	洞口部 空断形	底		宽	深	材料	施工	所在地区/用途	系 级 间 距 (距上游)	袋 装 番 号	
			上口距岩面×(m)	底距岩面×(m)								
1093	C2d1	圆形	2.08	—	78	外	平流	自然	本路→SK1091		SK2165	
1094	C2d0	椭圆方形	1.24×1.73	—	54	外	平流	自然	SK1093→本路→SK1095		SK2166	
1095	C3d0	方形	[2.06]	[1.75]	—	不明	不明	不明			SK2167	
1096	C2d0	梯形	[2.00]×(1.46)	—	32	外	平流	不明	SK1094→本路		SK2168	
1097	C2d0	梯形	2.22×2.00	2.08	64	外	平流	3	人工	深修	SK2169	
1098	C2d0	梯形	2.37×(1.14)	—	38	外	平流	1	—		SK2170	
1099	C2d0	梯形	1.73×[1.50]	—	38	外	平流	3	自然	SK1100→本路	SK2171	
1100	C2d0	不明	不明	—	67	外	平流	1	自然	深修, 石工	SK1102→本路→SK1099	SK2172
1101	C2d0	不明	不明	—	48	外	平流	2	人工	深修, 石工, 石砌	本路→SK1126	SK2173
1102	C2d0	梯形	2.00×1.73	2.67×2.70	(71)	内	平流	1	人工	深修	本路→SK1100-1098	SK2174
1103	C2d7	圆形	1.18	—	47	外	平流	2	自然			SK2175
1104	C2d8	圆形	0.78	—	107	外	平流	—	人工		SK1145→本路	SK2176
1105	C2d8	梯形	[2.25]×1.61	—	51	直	平流	3	自然	深修	SK1145→本路→SK1097	SK2177
1106	C2d8	梯形	2.04×[1.70]	—	43	外	平流	1	—	深修		SK2178
1107	C2d8	圆形	1.30×1.20	—	35	直	平流	2	—			SK2179
1108	C2d6	不明	不明	—	45	外	平流	—	自然		本路→SK1140	SK2180
1109	C2d5	不明	不明	—	40	不明	平流	1	自然		本路→SK1088	SK2181
1110	C2d0	不明	不明	不明	60	内	平流	—	自然		P371→本路→SK1085	SK2182
1111	C2d0	不明	不明	—	49	不明	平流	—	自然		本路→SK1085	SK2183
1112	C2d0	梯形	3.22×2.83	—	54	直	平流	4	自然	石工	SK1115→本路	SK2184
1113	C2d0	不明	不明	—	—	不明	平流	—	—			SK2185A
1114	C2d0	不明	不明	—	—	不明	平流	—	—			SK2185B
1115	C2d0	不规则形	1.83×1.40	3.03	108	内	平流	2	自然	深修, 石工, 石砌	本路→SK1112-1116	SK2186
1116	C2d5	圆形	2.43	—	62	外	平流	1	自然	土器片修整	SK1115→本路	SK2187
1117	C2d2	圆形	1.27	—	41	包	平流	—	人工		本路→SK1118-1119	SK2188
1118	C2d2	梯形	0.93×0.82	—	83	外	平流	—	人工		SK1117→本路	SK2189A
1119	C2d2	圆形	0.57	—	90	直	平流	—	—		SK1117→本路	SK2189B
1120	C2d2	梯形	1.38×0.95	2.60×2.40	112	内	平流	—	自然	修整石基, 石工		SK2190
1121	C3d2	不规则形	1.30×1.22	—	77	外	平流	—	人工			SK2191
1122	C3d1	梯形	1.13×0.87	2.60×2.51	99	内	平流	—	自然			SK2192
1123	C3e1	不明	不明	[1.95]	76	外	平流	—	人工	深修	本路→SK1092	SK2193
1124	C2d7	梯形	2.55×2.25	2.48×2.32	82	内	平流	4	人工	深修, 石工, 石砌	本路→SK1079,P387	SK2194
1125	C2d7	梯形	1.17×[0.91]	—	不明	不明	平流	1	—			SK2195
1126	C2d0	圆形	[2.71]	—	65	外	平流	—	自然		SK1127→本路	SK2196
1127	C2d0	圆形	[2.92]×(1.58)	[3.08]×(1.65)	83	内	平流	—	自然	深修, 石工	SK1123-1149→本路→SK1126	SK2197
1128	C3e1	梯形	[2.40×0.80]	—	35	外	平流	—	自然		本路→SK1127	SK2198
1129	B3d1	梯形	[2.60]×2.50	[3.80]×3.00	120	内	平流	—	自然	深修	本路→SK1017,P722	SK2199
1130	C2d6	梯形	0.83×0.58	—	64	外	平流	—	—			SK2200
1131	C2d6	圆形	0.89	—	20	直	平流	1	—			SK2201
1132	C2d7	梯形	—	2.65×2.45	84	内	平流	—	自然	深修, 石工, 土器片修整	本路→SK1152,SK1134	SK2202
1133	C2d6	梯形	1.95×(1.35)	—	40	不明	平流	—	自然		SK1256→本路→SK1134	SK2203
1134	C2d7	不规则形	[2.93]×2.20	—	43	直	平流	1	自然		SK1133→本路	SK2204
1135	C2d7	圆形	2.81	—	68	外	平流	4	人工	石工, 石砌		SK2205
1136	C3e1	不明	不明	—	(38)	内	平流	—	自然	深修		SK2206
1137	C2d0	梯形	[1.47]×0.66	—	9	外	平流	—	不明			SK2207
1138	C2d0	梯形	1.38×(1.10)	—	78	外	平流	—	—			SK2208

序号	位号	测点部 平面形	概 概			埋置 深度(m)	埋置 方式	埋置 位置	主要出土物	发现图例 (附一箭)	发掘 编号
			埋置 深度(m)	埋置 方式	埋置 位置						
1139	C2d6	椭圆形	[1.15]×1.05	—	—	不明	不明	不明			SK2209
1140	C2d6	不规则形	1.76×1.43	—	—	30	外埋	平埋	4	人点	本队→SK1141 SK2210
1141	C2d7	不规则形	1.30×1.10	—	—	45	外埋	平埋	4	人点	SK1140→本队 SK2211
1142	C2d9	不规则形	—	—	—	不明	不明	不明	1	—	SK2212
1143	C2d7	圆形	不明	—	—	30	外埋	平埋	1	—	本队→SK1079 SK2213
1144	F3d9	圆形	1.34	1.36	—	40	内埋	平埋	—	自然	本队→SH144 SK2214
1145	C3d1	不明	不明	—	—	不明	不明	不明	—	自然	磨製石斧, 磨石, 磨石 SK1123→本队 SK2215
1146	C3d1	椭圆形	[1.55]×0.93	2.10×1.90	—	95	内埋	平埋	—	自然	漆片, 磨石, 磨石 本队→SK1145+1166, SH149 SK2216
1147	C3d1	圆形	[1.58]	—	—	不明	不明	不明	3	人点	漆片 SK1123→本队 SK2217
1148	C2d7	圆形	0.85	—	—	71	内埋	平埋	—	人点	土器片, 磨石 SK1182→本队 SK2218
1149	C3d1	椭圆形	[1.73×1.28]	—	—	43	外埋	平埋	—	自然	本队→SK1127 SK2219
1150	C2d9	不明	不明	—	—	51	不明	不明	1	—	SK2220
1151	C2d9	不明	不明	—	—	54	不明	不明	—	人点	SK1152+1192→本队 SK2221
1152	C2d9	不明	不明	—	—	42	外埋	平埋	—	人点	本队→SK1151 SK2222
1153	C3d1	椭圆形	[1.86]×1.64	—	—	58	直立	平埋	1	人点	漆片 SK1154+1155→本队 SK2223
1154	C2d9	不明	不明	—	—	不明	不明	不明	—	—	SK2224
1155	C2d9	圆形	[1.21]	2.17×2.08	—	60	内埋	平埋	—	自然	漆片, 磨石 SD24→本队→SK1153+1155 SK2225
1156	C3d2	圆形	2.25×1.90	—	—	50	外埋	平埋	3	自然	漆片 SD24→本队→SK1157+1176 SK2226
1157	C3d2	不规则形	不规则	—	—	14	外埋	平埋	—	不明	本队→SK1157+1176 SK2227
1158	C3d1	椭圆形	1.32×[1.10]	—	—	20	内埋	平埋	—	不明	SK2228
1159	C2d9	不规则形	2.10×1.65	1.92×1.70	—	64	内埋	平埋	—	人点	SK2229
1160	C2d9	圆形	2.17×2.05	2.52	—	68	内埋	平埋	1	人点	漆片, 磨石, 打製石斧 本队→SD23 SK2230
1161	C2d9	不规则形	1.45×1.30	3.08×2.78	—	110	内埋	平埋	—	自然	漆片 本队→SK1162 SK2231
1162	C2d9	不明	不明	—	—	35	不明	不明	—	自然	SK1161→本队→SK1165 SK2232
1163	C2d7	圆形	3.16×2.98	—	—	52	外埋	平埋	5	人点	漆片 SK1162→本队→P401 SK2233
1165	C3d1	圆形	0.93×0.85	—	—	65	外埋	平埋	—	不明	SK2236
1166	C3d1	椭圆形	1.02×[0.72]	[.65]	—	87	内埋	平埋	—	自然	漆片 SK1146→本队→SH149 SK2237
1167	C2d9	椭圆形	2.48×2.24	2.62×2.03	—	43	外埋	平埋	2	人点	漆片, 磨石, 土器片, 磨石, 石刀 本队→SK1255, SH146 SK2238
1168	C2d7	不规则形	1.98×1.62	1.74×1.65	—	66	内埋	平埋	1	人点	漆片, 磨石 本队→SK1169 SK2239
1169	C2d9	圆形	[2.36]	—	—	56	外埋	平埋	6	自然	漆片, 磨石 SK1168→本队→P393+726 SK2240
1170	C2d9	椭圆形	2.07×1.95	—	—	43	直立	平埋	4	自然	SH162, SK1171→本队 SK2241
1171	C2d8	椭圆形	2.35×1.75	—	—	50	直立	平埋	4	自然	漆片 本队→1170 SK2242
1172	C2d9	椭圆形	2.03×1.91	—	—	24	外埋	平埋	4	自然	SH157→本队 SK2243
1173	C2d9	圆形	2.08×1.90	—	—	37	直立	平埋	2	自然	磨石 本队→磨石1与土器片 SK2244
1174	C2d8	椭圆形	2.73×[1.95]	—	—	43	直立	平埋	4	自然	本队→SK1173+1175 SK2245
1175	C2d8	椭圆形	2.51×[2.15]	—	—	29	外埋	平埋	6	自然	漆片, 磨石, 磨石 SK1174→本队→SK1195 SK2247
1176	C3d1	椭圆形	[1.41]×0.75	[1.25]×0.59	—	63	内埋	平埋	—	自然	SK1156+1157→本队 SK2248
1177	C2d7	椭圆形	0.95×0.55	—	—	101	直立	平埋	—	自然	SK2249
1178	C2d9	不规则形	2.66×2.00	2.83×2.08	—	81	外埋	平埋	1	自然	磨製石斧 本队→SK1181 SK2250
1179	C2d9	不规则形	2.51×2.23	2.18×1.88	—	58	内埋	平埋	2	人点	漆片, 磨製石斧, 磨石 本队→SH182, SK1183+1219, 408 SK2251
1181	C2d9	不规则形	1.78×1.55	—	—	45	外埋	平埋	3	自然	漆片, 磨製石斧 SH157, SK1178→本队 SK2252
1182	C2d9	圆形	[1.70]	—	—	不明	不明	不明	—	—	SK2253
1183	C2d9	圆形	1.14	—	—	62	外埋	平埋	—	人点	漆片, 磨製石斧, 磨石, 磨石 SH152, SK1179→本队 SK2254
1184	D2d7	椭圆形	4.50×1.84	—	—	81	外埋	平埋	—	人点	本队→SK1185 SK2255
1185	C2d9	椭圆形	[1.25]×0.99	—	—	34	外埋	平埋	—	自然	漆片 SK1184→本队 SK2256
1186	D2d8	椭圆形	[2.28×2.03]	—	—	50	外埋	平埋	1	自然	SK1187→本队 SK2257

番号	位号	開口部 平面形	規		高さ mm	壁 底面(寸)	壁土	主要地上建物	重複関係 (門→新)	免 番 号	
			開口部 幅×高さ	開口部 長さ×幅							
1187	D2j	楕円形	2.85×1.83	—	35	外取	平取	自然		SK2258	
1188	D2a6	楕円形	1.02×0.89	1.04×0.82	104	外取	平取	自然	深鉢	SK2259	
1189	D2a6	楕円形	2.28×1.72	—	13	壁取	平取	自然	SK1184→本跡	SK2260	
1190	C2f	楕円形	3.02×2.38	3.21×2.55	58	外取	平取	人工	深鉢, 流鉢, 打製石斧, 磨石	本跡→SK1191	SK2261
1191	C2f	円形	1.18×1.10	—	85	直立	平取	自然		SK1190→本跡	SK2262
1192	C2d	楕円形	不明	2.32	105	外取	平取	人工	深鉢, 磨石	本跡→SK1096-1151	SK2263
1193	C2d	楕円形	1.00×(0.30)	—	38	壁取	平取	—			SK2264
1195	C2b6	楕円形	1.05×0.60	1.00×0.65	113	外取	平取	自然	石鉢	SK1175→本跡	SK2266
1196	C2j	楕円形	1.88×1.52	2.33×2.04	67	外取	平取	人工	深鉢, 流鉢, 石鉢		SK2267
1197	C2d	楕円形	1.82×1.63	2.00×1.88	55	外取	平取	自然	深鉢, クッキー状化石物	本跡→SK1198	SK2268
1198	C2d	楕円形	2.95×2.30	—	21	外取	平取	自然	深鉢	SK1197→本跡	SK2269
1199	C2b	楕円形	1.85×1.65	—	不明	不明	不明	—	磨石, 石鉢		SK2270
1200	C2j	円形	2.50×2.40	—	48	外取	平取	自然	深鉢, 貝, ミニチュア土器, 石製石斧		SK2271
1201	C2j	楕円形	1.13×1.02	—	30	外取	平取	人工			SK2272
1202	C2b	不明	不明	—	33	不明	不明	—			SK2273
1204	C2g	楕円形	1.74×1.57	—	22	壁取	平取	自然		SI152→本跡	SK2276
1205	C2d	円形	1.98	—	50	壁取	平取	自然	深鉢	SI159→本跡	SK2277
1206	C2d	楕円形	1.78×1.42	2.78×2.32	65	外取	平取	人工	深鉢	本跡→SI159	SK2278
1207	C2j	不定形	2.15×(2.01)	—	40	壁取	平取	自然	深鉢		SK2279
1208	C2d	不明	不明	—	85	壁取	平取	—			SK2280
1209	C2d	不整形円形	2.28×2.08	3.23	114	外取	平取	人工	深鉢, 鉢, 流鉢	本跡→SI150	SK2281
1210	C2d	楕円形	不明	—	12	外取	平取	自然		本跡→SK1088	SK2282
1211	C2d	円形	0.91×0.88	—	36	外取	平取	自然		本跡→SI164	SK2283
1212	C2g	楕円形	1.32×1.13	—	52	直立	平取	自然			SK2284
1213	C2j	楕円形	2.12×1.72	—	42	外取	平取	人工			SK2285
1214	C2b	円形	0.63	—	43	壁取	不明	—			SK2286
1215	C2d	不整形円形	[2.25×2.02]	—	27	外取	平取	不明		SK1179→本跡→SK1216	SK2287
1216	C2b	不整形円形	1.61×1.28	—	53	直立	平取	自然	深鉢, 石皿	SK1215→本跡	SK2288
1217	C2b	楕円形	1.72×1.50	—	10	壁取	平取	—	深鉢		SK2289
1218	D2a9	円形	2.38×2.22	2.53×2.28	57	内取	平取	人工 自然	深鉢, 磨製石斧	SI160→本跡→SK1235	SK2290
1219	C2j	不明	不明	—	44	外取	平取	—			SK2291
1220	C2b	楕円形	1.27×0.75	—	20	外取	平取	自然			SK2292
1221	C2j	円形	2.08	—	102	直立	平取	人工 自然	深鉢, 磨製石斧	SI160, SK1238→本跡	SK2293
1222	C2j	円形	[1.93]	—	42	外取	平取	自然	深鉢	SK1233→本跡→SK1235	SK2294
1223	C2j	楕円形	2.11×1.85	—	45	外取	平取	—	深鉢	SI160→本跡	SK2295
1224	C2b	楕円形	1.98×1.82	2.69×2.29	65	内取	平取	自然	深鉢, 鉢, 磨石	本跡→SI159, SK1225	SK2296
1225	C2d	楕円形	2.60×2.10	—	57	外取	平取	自然		SK1224→本跡→SK1233	SK2297
1226	C2j	楕円形	0.90×0.78	—	25	外取	平取	自然		SK1225	SK2298
1227	C2b	不明	不明	2.70×2.12	57	内取	平取	自然		本跡→SK1229→SK1228	SK2299
1228	C2b	円形	1.95×1.82	—	110	直立	平取	自然		SK1227-1228-1230→本跡	SK2300
1229	C2j	不整形円形	2.08×[1.92]	1.98×[1.58]	44	内取	平取	—	深鉢	SK1227→本跡→SK1228	SK2301
1230	C2b	円形	3.15	—	58	外取	平取	人工	深鉢, 流鉢	本跡→SK1228-1232	SK2302
1231	C2b	円形	1.55	—	55	外取	平取	—	深鉢, 流鉢		SK2303
1232	C2b	円形	2.36	—	85	外取	平取	自然	深鉢	SK1227→本跡	SK2304
1233	C2j	楕円形	[2.81×2.05]	—	35	壁取	平取	自然		SK1225→本跡→SK1222	SK2305
1234	C2j	円形	0.77	—	62	直立	平取	自然	土製耳飾	SI160, SK1222→本跡→SK1221	SK2306

序号	层位	沟口部 平面形	底 部			底宽 (m)	底深 (m)	层位	层厚 (m)	主要出土器物	采集地点 (旧→新)	受 编 号
			开口部底径×底深(m)	底径(长径×短径)	底深(m)							
1235	D2d	椭圆形	2.23×1.73	—	32	外壁	平底	—	自然	SK1218-1221-本层	SK2307	
1236	C2β	圆形	1.15	—	50	直立	平底	—	自然	SK1238-本层	SK2308	
1237	C2bd	不明	不明	—	—	外壁	平底	—	自然	本层→SK1232	SK2309	
1238	C2β	不明	不明	—	—	不明	不明	—	—	—	SK2310	
1239	C2β	圆形	0.55	—	40	外壁	平底	—	—	—	SK2311	
1240	C2a	圆形	0.75	—	35	不明	平底	—	—	—	SK2312	
1241	C2g	椭圆形	0.85×0.55	—	61	外壁	平底	—	—	—	SK2313	
1242	C2d	椭圆形	1.98×1.70	2.52×[1.50]	55	外壁	平底	—	—	—	SK2314	
1243	C3d1	椭圆形	2.73×2.32	—	57	外壁	平底	6	自然	—	SK2315	
1244	C3c	圆形	2.75	—	113	直立	平底	5	自然	—	SK2316	
1245	D2d	圆形	0.79	—	90	直立	平底	—	—	本层→第17号地下式坑	SK2317	
1246	C2g	椭圆形	1.93×1.72	2.30×2.20	48	外壁	平底	—	—	—	SK2318	
1247	C3f	椭圆形	[2.40]×1.62	[2.45]×1.95	45	外壁	平底	1	自然	—	SK2319	
1248	C2d	椭圆形	[0.93×0.65]	—	23	外壁	平底	—	—	—	SK2320	
1249	C3f	圆形	2.12	—	57	外壁	平底	—	—	—	SK2321	
1250	C3f	圆形	1.245	—	28	外壁	平底	1	自然	—	SK2322	
1251	C3c1	不规则圆形	1.93×1.14	2.15×1.83	48	外壁	平底	1	自然	—	SK2323	
1252	C2g	椭圆形	[1.63×1.40]	—	48	外壁	平底	2	—	—	SK2324	
1253	C2g	椭圆形	1.50×1.20	2.13×[1.85]	55	外壁	平底	1	自然	—	SK2325	
1254	C2g	椭圆形	2.04×1.56	—	23	外壁	平底	5	自然	—	SK2326	
1255	C2d	椭圆形	[1.95]×1.77	—	—	不明	平底	—	—	—	SK2328	
1256	C2g	椭圆形	1.16×0.73	—	56	外壁	平底	—	—	—	SK2329	
1257	C3d	椭圆形	[1.98×1.65]	2.38×2.20	84	内壁	平底	—	—	—	SK2330	
1258	C3b	圆形	3.39×[3.30]	—	58	直立	平底	4	自然	—	SK2331	
1259	C3d	椭圆形	2.85×[1.70]	—	36	外壁	平底	1	自然	—	SK2332	
1260	C3d	椭圆形	1.15×0.95	—	45	外壁	平底	—	—	—	SK2333	
1261	C3b	椭圆形	0.71×(0.62)	—	80	外壁	平底	—	—	—	SK2334	
1262	C3c1	椭圆形	2.04×(1.35)	[1.98]×1.77	46	外壁	平底	—	—	—	SK2335	
1263	C3g1	椭圆形	[2.60×1.80]	—	36	不明	平底	3	自然	—	SK2336	
1264	C3g1	圆形	[1.41]	—	52	直立	平底	1	自然	—	SK2337	
1265	C2g	椭圆形	[2.02×1.55]	—	55	外壁	平底	—	—	—	SK2338	
1266	C2g	不明	不明	—	41	外壁	平底	—	—	—	SK2339	
1267	C2g	不明	不明	—	38	外壁	平底	—	—	—	SK2340	
1268	C2g	圆形	1.12×1.04	—	31	外壁	平底	1	自然	—	SK2341	
1269	C3β	圆形	1.46	—	43	外壁	平底	—	—	—	SK2342	
1270	C2β	不规则圆形	[2.76]×2.26	[2.54]×2.17	57	外壁	平底	1	自然	—	SK2343	
1271	C2β	圆形	1.75	—	35	外壁	平底	—	—	—	SK2344	
1272	D2d	圆形	2.12	—	40	外壁	平底	2	自然	—	SK2345	
1273	D2d	不规则圆形	[2.24]×1.85	2.54	63	外壁	平底	—	—	—	SK2346	
1274	C3c	椭圆形	1.17×1.02	—	82	外壁	平底	—	—	—	SK2347	
1275	C3c	椭圆形	[1.77×1.18]	—	28	外壁	平底	—	—	—	SK2348	
1276	C3c3	圆形	1.24	—	65	外壁	平底	—	—	—	SK2349	
1277	C3c	不明	不明	—	20	外壁	平底	—	—	—	SK2351	
1278	C3f	椭圆形	[2.60]×2.36	—	36	外壁	平底	—	—	—	SK2352	
1279	D2d	不规则	不明	—	28	不明	平底	1	自然	—	SK2353	
1280	C2d	椭圆形	0.77×0.66	—	27	外壁	平底	—	—	—	SK2354	





序号	代码	截面 平面形	规格		壁厚 mm	重量 kg/m	生产 厂家	主要加工用途	备注 (门、窗)	规格 号	
			断面长×断面宽 mm	重量 kg/m							
1327	C313	梯 形	3.43×2.43	—	69	外圆	7	深井、上管井	SK1326-1330→本册	SK2406	
1328	C314	梯 形	[0.75]×0.62	—	30	外圆	—	—	—	SK2407	
1329	C322	梯 形	2.45×1.95	—	46	外圆	—	—	本册→SK1327	SK2408	
1330	C312	不 明	1.42×1.05	1.95×1.85	45	外圆	—	—	本册→SK1327	SK2409	
1331	C311	梯 形	[2.35×2.15]	[2.72×2.65]	109	内圆	—	—	本册→S1163,SK1339	SK2410	
1332	C312	梯 形	1.55×[1.18]	3.07×2.94	102	内圆	—	—	本册→S1154,SK1250	SK2411	
1333	C322	不 明	—	—	—	不明	—	—	—	SK2412	
1334	C322	不 明	—	—	—	不明	—	—	—	SK2413	
1335	C312	梯 形	[1.05×0.82]	—	26	外圆	—	—	—	SK2414	
1336	C314	梯 形	[2.02]	—	67	外圆	—	—	本册→SK1320	SK2415	
1337	C314	梯 形	1.82×[1.63]	—	—	不明	—	—	—	SK2416	
1338	C311	梯 形	1.68×[1.02]	—	55	外圆	—	—	本册→SK1352	SK2417	
1339	D311	与 形	[2.62]	[2.64]	60	外圆	—	—	SK1331→本册→S1163	SK2418	
1340	D311	梯 形	[2.41×2.23]	—	65	不明	—	—	本册→S1163,SK1339	SK2419	
1341	D311	不 明	—	—	55	外圆	—	—	本册→S1163	SK2420	
1342	C314	不 明	—	—	26	外圆	—	—	本册→S1154	SK2421	
1343	C311	梯 形	[1.82×1.65]	—	25	内圆	—	—	本册→P436-447	SK2422	
1344	C311	梯 形	1.73×[1.52]	—	14	外圆	—	—	本册→S1156, P447	SK2423	
1345	C311	梯 形	1.04×0.85	1.75×1.65	94	内圆	—	—	SK1358→本册	SK2424	
1346	D211	不 明	—	—	—	不明	—	—	—	SK2425	
1347	C311	不 明	—	—	27	外圆	—	—	本册→P422	SK2426	
1348	C312	梯 形	1.62×1.46	—	39	直立	—	—	SK1306→本册	SK2427	
1349	C311	梯 形	1.51	1.63	—	不明	—	—	—	SK2428	
1350	D311	梯 形	1.45×1.31	—	35	外圆	—	—	SK1360→本册	SK2429	
1351	C311	梯 形	2.1×[1.93]	—	60	直立	—	—	—	SK2430	
1352	C211	梯 形	1.94×[1.68]	—	82	直立	—	—	SK1338-1353-1368→本册	SK2431	
1353	C311	梯 形	[2.31]×2.12	—	55	外圆	—	—	SK1354-1403→本册→SK1357	SK2432	
1354	C311	梯 形	[2.78]×1.53	2.64×2.16	82	外圆	—	—	深井、磨石	SK1361→本册→S1154, S1155, P43	SK2433
1355	C311	梯 形	[2.10]×1.9	—	35	外圆	—	—	—	SK2434	
1356	C311	梯 形	1.07	1.18	50	外圆	—	—	—	SK2435	
1357	C211	梯 形	0.82	—	18	外圆	—	—	P433→本册	SK2437	
1358	C311	梯 形	[1.12×0.64]	—	14	不明	—	—	本册→SK1345	SK2441	
1359	C311	梯 形	[1.20]×1.10	—	35	外圆	—	—	P434→本册	SK2442	
1360	D311	梯 形	1.06	1.09	84	外圆	—	—	本册→SK1350	SK2456	
1361	D311	梯 形	[1.48]	—	25	外圆	—	—	本册→S1163	SK2458	
1362	D311	梯 形	1.95×1.45	—	—	不明	—	—	—	SK2459	
1363	C312	梯 形	1.02×0.81	2.19×1.82	97	内圆	—	—	深井、磨石	SK2460	
1364	D312	梯 形	[1.85]×1.45	—	29	外圆	—	—	本册→SK1367	SK2461	
1365	D312	梯 形	[2.25×1.52]	—	26	不明	—	—	—	SK2462	
1366	D311	不 明	—	—	—	不明	—	—	—	SK2463	
1367	C311	梯 形	2.03×1.72	—	64	外圆	—	—	SK1364-1366→本册→S1158	SK2464	
1368	C311	梯 形	1.4×1.02	2.25×1.93	102	外圆	—	—	本册→SK1352	SK2465	
1369	D311	梯 形	1.08	1.97	46	外圆	—	—	—	SK2467	
1370	D311	梯 形	[2.22]×1.42	—	25	外圆	—	—	本册→SK1371	SK2468	
1371	D311	梯 形	1.68	—	57	外圆	—	—	SK1370→本册	SK2469	
1372	D311	不 明	—	—	45	不明	—	—	本册→SK1371-1373	SK2470	

序号	位置	洞口形状	规格			面积	尺寸	备注	主要出土器物	查阅编号 (旧·新)	发现 编号
			长(距坑壁×距边线m)	宽(距坑壁×距边线m)	深(m)						
1373	D3j	圆形	[0.95]	[1.05]	62	圆形	平口	自然	SK1372→本路	SK2471	
1374	D3g	不规则圆形	0.96×0.85	—	15	圆形	平口	自然	本路→P448	SK2479	
1375	C3h	椭圆形	1.32×0.55	—	31	圆形	平口	自然		SK2486	
1376	C3f	椭圆形	0.82×0.68	—	12	圆形	平口	自然		SK2487	
1377	C3j	圆形	[0.97]	—	42	圆形	平口	自然		SK2488	
1378	D3d	圆形	1.12×0.98	—	19	圆形	平口	自然		SK2489	
1379	D2h	椭圆形	1.08×0.94	0.93×0.83	98	圆形	平口	自然	深林	本路→SK1362	SK2490
1380	D2h	圆形	0.79	—	66	圆形	平口	自然		SK2491	
1381	C3e	椭圆形	1.16×0.73	—	18	圆形	平口	自然	本路→P群P122	SK2492	
1382	D3d	椭圆形	2.57×2.39	3.02×2.67	40	圆形	平口	自然		SK2498	
1383	D3c	椭圆形	2.28×1.70	—	34	圆形	平口	自然	本路→SK1385	SK2499	
1384	D3c	椭圆形	2.10×1.87	2.35×2.02	82	圆形	平口	自然	本路→SK1385	SK2500	
1385	D3c	椭圆形	2.17×1.91	—	32	圆形	平口	自然	SK1384→本路	SK2501	
1386	D3d	椭圆形	[0.96×0.87]	—	30	圆形	平口	自然	SK1389-1395→本路	SK2502	
1387	D3h	不规则圆形	2.13×[1.88]	2.45×2.25	76	圆形	平口	自然	本路→SK1389-1413	SK2503	
1388	D3d	椭圆形	[2.05×1.82]	—	不明	不明	不明	自然		SK2504	
1389	D3d	椭圆形	[2.88×1.47]	—	26	圆形	平口	自然	本路→SK1386-1390	SK2505	
1390	D3d	椭圆形	1.95×1.68	—	52	圆形	平口	自然	SK1389-1391→本路	SK2506	
1391	D3d	椭圆形	[2.15×1.95]	[2.20×1.95]	42	圆形	平口	自然	本路→SK1390-1392-1410	SK2507	
1392	D3h	椭圆形	[2.15×1.76]	—	46	圆形	平口	自然	SK1389-1391→本路	SK2508	
1393	D3a	椭圆形	1.78×[1.53]	—	26	圆形	平口	自然	本路→SK1423	SK2509	
1394	D3h	圆形	0.87	—	63	圆形	平口	自然		SK2510	
1395	D3c	椭圆形	2.90×1.62	—	27	圆形	平口	自然	本路→SK1385-1286	SK2511	
1396	C3d	椭圆形	[1.36×0.84]	2.07×1.54	110	圆形	平口	自然		SK2512	
1397	D2h	不明	不明	—	18	圆形	平口	自然	本路→SI163	SK2513	
1398	D3h	圆形	[1.96]	—	不明	不明	不明	自然		SK2514	
1399	D3h	椭圆形	0.95×0.82	—	40	圆形	平口	自然		SK2524	
1400	C3i	圆形	0.59	—	55	圆形	平口	自然		SK2527	
1401	C3d	不明	不明	—	40	圆形	平口	自然		SK2528	
1402	D3d	椭圆形	[1.18×1.04]	—	28	圆形	平口	自然	SK1425→本路	SK2543	
1403	C3j	圆形	0.72	0.98	45	圆形	平口	自然		SK2553	
1404	C3i	椭圆形	0.72×0.58	—	不明	不明	不明	自然		SK2554	
1405	C3d	椭圆形	2.05×1.65	—	55	圆形	平口	自然	本路→SK1411	SK2562	
1406	D3d	椭圆形	1.12×0.98	—	78	圆形	平口	自然	本路→SK1412	SK2563	
1407	C3j	椭圆形	1.12×0.86	—	56	圆形	平口	自然		SK2564	
1408	C3j	圆形	[2.42]	[2.38]	50	圆形	平口	自然		SK2565	
1410	D3d	椭圆形	0.85×0.63	—	105	圆形	平口	自然	SK1392-1423→本路	SK2577	
1411	C3d	圆形	[1.08]	—	52	圆形	平口	自然		SK2588	
1412	D3d	椭圆形	[1.98×1.58]	—	24	圆形	平口	自然	SK1406→本路	SK2595	
1413	D3b	椭圆形	1.72×1.45	—	20	圆形	平口	自然	SI167,SK1387→本路	SK2596	
1414	D3d	圆形	[1.55]	[2.12×1.83]	38	圆形	平口	自然	本路→SK1415	SK2604	
1415	D3a	圆形	[2.25]×2.13	[2.30×2.26]	72	圆形	平口	自然	SI69,SK1414-1416→本路	SK2605	
1416	D2h	不规则圆形	1.95×1.53	2.32×2.28	75	圆形	平口	自然	本路→SK1415,SI167-169	SK2606	
1417	D3h	椭圆形	2.55×2.25	—	85	圆形	平口	自然	SI167,SK1418-本路	SK2607	
1418	D3d	椭圆形	1.42×1.15	1.58×1.42	30	圆形	平口	自然	本路→SK1417	SK2608	
1420	D3d	不规则圆形	0.55×0.45	—	24	圆形	平口	自然		SK2616	

番号	宝文	開口部 形状	縦			横	厚	底	口	蓋	主な出土遺物	出 発 所 (旧・新)	発 掘 番 号
			開口部 縦×横×厚	開口部 縦×横×厚	開口部 縦×横×厚								
1421	C2c	楕円形	2.70×2.35	—	60	外周	平足	3	天然	深鉢		SK2620	
1422	C3c	楕円形	1.15×1.01	—	90	外周	平足	—	天然			SK2621	
1423	D3a	楕円形	1.92×[1.45]	—	46	外周	平足	—	自然	夏門上段		SK2624	
1424	D3c	円形	[0.91]	—	42	外周	平足	—	天然			SK2625	
1425	D3a	円形	0.66	—	50	外周	平足	—	天然		SH166,SK1402→本跡	SK2626	
1426	D3a	楕円形	[2.45]×2.02	—	90	外周	平足	3	天然	深鉢	SH169→本跡→SH170	SK2626	
1427	D3a	楕円形	0.98×0.69	—	115	外周	平足	—	自然		SK1426→本跡	SK2627	
1428	D3a	円形	1.18	—	20	外周	平足	—	不明			SK2628	
1429	C3b	楕円形	0.54×0.32	—	15	外周	平足	—	不明		本跡→第190号上段	SK2669	
1430	C3b	楕円形	[0.98]×0.76	[1.48]	83	外周	平足	—	天然		本跡→SE10	SK2681	
1431	C3d	円形	[1.80]×1.75	2.02×1.95	45	内周	平足	4	自然	深鉢	本跡→SK1432	SK2684	
1432	C3j	円形	[2.45]	—	44	直立	平足	3	天然	深鉢、磁石、土製片陶器	SK1431・1433→本跡	SK2686	
1433	C3j	楕円形	[1.62]×0.98	—	25	外周	平足	—	天然	深鉢	本跡→SK1432, P466	SK2687	
1434	D3c	楕円形	0.77×0.61	0.65	不明	内周	平足	—	天然		本跡→SK1386	SK2694	
1435	C3a	円形	[2.05]	2.17×2.04	57	内周	平足	—	天然	深鉢	本跡→SH170, SK1436, 1437, P701	SK2695	
1436	C3a	楕円形	1.96×[1.52]	2.38×1.85	48	外周	平足	—	天然		本跡→SK1435→本跡→SH170	SK2696	
1437	C2b	楕円形	[2.05×1.27]	—	20	外周	平足	—	天然		SH170→本跡	SK2699	
1438	C3b	円形	[2.08]	[2.35]×2.20	45	内周	平足	—	天然	深鉢、銅片	本跡→SH170	SK2701	
1439	C3a	楕円形	[1.18]×0.98	2.20×1.70	75	内周	平足	1	天然	深鉢	本跡→SH170, P470	SK2702	
1440	C3g	不整形可移	2.15×1.95	2.42×1.78	61	直立	平足	—	天然	深鉢、磁石	SK1441→本跡	SK2709	
1441	C3g	楕円形	1.92×1.135	—	38	外周	平足	3	不明	深鉢、石皿	本跡→SH170, SK1440	SK2710	
1442	C3g	楕円形	[2.02]×1.55	1.97×1.78	74	内周	平足	3	天然	深鉢		SK2711	
1443	C3g	楕円形	2.25×1.65	—	72	直立	平足	4	天然			SK2712	
1444	C3g	楕円形	[1.52×1.35]	[1.73×1.40]	57	内周	平足	—	天然		SK1445→本跡→SH170	SK2713	
1445	C3g	不整形可移	[2.45]×2.05	2.82×2.60	97	外周	平足	—	天然	深鉢、3ニテウ7ニ器、磁石、石皿	本跡→SH170, SK1444	SK2714	
1446	C3g	楕円形	1.07×[0.94]	—	58	直立	平足	—	天然			SK2715	
1447	C3g	楕円形	1.13×0.77	—	不明	不明	不明	不明	不明			SK2716	
1448	C3g	楕円形	0.64×0.43	—	不明	不明	不明	不明	不明			SK2717	
1449	C3j	楕円形	[2.18]×1.95	2.38×2.20	102	外周	平足	3	自然	深鉢、外	SK1450→本跡	SK2722	
1450	C3h	楕円形	[2.90]×1.72	—	45	外周	平足	1	自然		本跡→SK1449・1539	SK2728	
1451	C3d	楕円形	2.35×2.12	—	51	外周	平足	4	自然		本跡→SK1452	SK2729	
1452	C3d	楕円形	3.25×2.65	—	45	直立	平足	5	天然	磁石	SK1453→本跡	SK2730	
1453	C3d	円形	2.03	—	60	外周	平足	2	自然		本跡→SK1452	SK2731	
1454	C3b	楕円形	2.22×1.98	2.37×1.87	43	内周	平足	—	自然	磨製七土、磁石		SK2734	
1455	C3b	楕円形	[1.98]×1.27	2.33×1.97	84	内周	平足	1	天然	深鉢、磁石	本跡→SK1455	SK2735	
1456	C3a	楕円形	0.91×0.76	—	34	直立	平足	—	自然		本跡→SH170, SK1435	SK2736	
1457	C3g	楕円形	0.98×0.82	—	53	直立	平足	—	自然		SH179→本跡	SK2737	
1458	C3f	楕円形	[2.52×2.32]	—	75	外周	平足	3	天然	石皿	SK1459→本跡	SK2738	
1459	C3g	楕円形	[2.15]×1.85	2.12×2.05	106	内周	平足	—	天然	深鉢、石皿	本跡→SK1458・1460・1474	SK2739	
1460	C3g	楕円形	[2.62×1.92]	[2.08×1.82]	56	外周	平足	2	天然	深鉢	SK1459・1465→本跡→SK1474	SK2740	
1461	C3d	楕円形	[1.72]×1.52	—	18	外周	平足	1	不明		本跡→SK1462, P472	SK2747	
1462	C3e	円形	[2.45]	—	50	外周	平足	8	天然		SK1461・1464→本跡→SK1466	SK2748	
1463	C3d	楕円形	[2.35]×1.95	—	43	直立	平足	—	天然		SK1464→本跡	SK2749	
1464	C3e	楕円形	2.42×2.18	2.25×1.98	60	外周	平足	6	天然		本跡→SK1462・1463	SK2750	
1465	C3g	楕円形	[1.40×1.02]	1.50×1.28	88	内周	平足	1	天然	深鉢	SK1455→本跡→SK1460	SK2751	
1466	C3e	不整形	0.95×[0.75]	0.75×[0.72]	19	外周	平足	—	天然		SK1462→本跡	SK2752	

番号	位置	開口部 平面形	規 模			高さ m	構造	色別	材	備 考	主 要 白 土 産 地	重 複 開 係 (H-前)	規 準 番 号
			幅(長さ×短さ)	高さ(長さ×短さ)	高さ								
1467	C3e	楕円形	3.18×2.70	2.94×2.60	85	外構	半瓦	7	自然	深鉢、土器片門壁	本誌→T233、F16	SK2753	
1468	C3e	円形	0.95	0.82	38	外構	平瓦	—	不明	—	—	SK2755	
1469	C3g	楕円形	2.80×2.53	2.71×2.66	45	内構	平瓦	6	自然	—	—	SK2757	
1470	C3h	円形	2.10	—	26	縁部	平瓦	3	自然	—	本誌→SK1471	SK2758	
1471	C3h	円形	2.66×2.54	2.42×2.30	45	直立	平瓦	9	自然	深鉢	SK1470-1472→本誌→P486	SK2759	
1472	C3h	不整形	2.11×(0.77)	—	36	外構	平瓦	—	自然	—	本誌→SK1471	SK2760	
1473	C3d	円形	[2.20]	[2.45]	63	内構	平瓦	2	自然	鉢、深鉢	—	SK2761	
1474	C3g	不整形	[1.59×0.99]	—	130	外構	平瓦	—	不明	—	—	SK2762	
1475	C3e	不明	—	—	45	外構	平瓦	—	不明	—	—	SK2763	
1476	D3h	楕円形	2.22×1.92	—	30	直立	平瓦	3	自然	深鉢	—	SK2764	
1477	C4f	楕円形	1.56×[1.30]	—	18	外構	平瓦	1	自然	—	SK1478→本誌	SK2765	
1478	C4f	楕円形	2.51×2.21	—	30	外構	平瓦	1	自然	深鉢	本誌→SK1477、1491	SK2766	
1479	C3g	円形	1.94	—	24	直立	平瓦	—	自然	深鉢	本誌→SK1482	SK2767	
1480	C3g	楕円形	[2.26]×1.98	—	42	内構	平瓦	2	自然	深鉢	SK1481→本誌→SK1482	SK2768	
1481	C3g	円形	[2.10]	—	30	外構	平瓦	—	自然	—	本誌→SK1480、1482	SK2769	
1482	C3g	円形	[2.12]	—	30	内構	平瓦	—	自然	—	SK1479、1481→本誌	SK2770	
1483	C3g	円形	[1.64]	—	27	外構	平瓦	1	不明	—	—	SK2771	
1484	C3h	楕円形	1.89×1.23	—	25	外構	平瓦	2	自然	—	本誌→SK1485	SK2772	
1485	C3h	楕円形	2.13×1.92	—	33	外構	平瓦	2	自然	—	SK1484→本誌	SK2773	
1486	C3d	楕円形	(1.30)×1.17	—	29	外構	平瓦	—	自然	—	—	SK2775	
1487	C4g	楕円形	[2.26]×1.96	2.24×2.10	52	内構	平瓦	—	自然	深鉢、磁石、石張	SK1493→本誌	SK2776	
1488	C3g	円形	2.03	—	25	外構	平瓦	1	自然	—	—	SK2777	
1489	C3h	楕円形	1.76×[1.40]	—	27	外構	平瓦	—	自然	—	—	SK2778	
1490	C3h	楕円形	(2.09×1.75)	—	26	外構	平瓦	1	自然	—	—	SK2779	
1491	C4f	不明	(1.25)×(0.54)	—	43	内構	平瓦	—	自然	—	SK1478→本誌	SK2780	
1492	C4g	楕円形	[1.93]	—	75	内構	平瓦	—	自然	—	SK1493→本誌	SK2781	
1493	C4g	楕円形	1.78×1.52	1.88×1.48	37	内構	平瓦	—	自然	深鉢、打製石芥	本誌→SK1487-1492、P484	SK2782	
1494	C4h	楕円形	1.35×(0.95)	1.65×1.30	45	内構	平瓦	1	自然	—	SK1501→本誌→SK1512	SK2783	
1495	C3g	楕円形	2.88×2.32	2.88×2.30	88	内構	平瓦	6	自然	深鉢	SK1496→本誌	SK2784	
1496	C3g	楕円形	2.70×(1.32)	—	38	直立	平瓦	3	自然	—	SK1497→本誌→SK1495	SK2785	
1497	C3h	楕円形	2.04×1.86	—	54	直立	平瓦	1	自然	—	SK1498→本誌→SK1496	SK2786	
1498	C3h	不整形	[1.62]	—	36	不明	平瓦	—	自然	—	本誌→SK1497、1499	SK2787	
1499	C3h	円形	[2.22]	—	46	外構	平瓦	3	自然	—	SK1498→本誌→SK1500	SK2788	
1500	C3h	円形	[2.42]	—	40	外構	平瓦	5	自然	—	SK1499-1500-1507-1508-1509	SK2789	
1501	C2h	円形	1.34	—	67	直立	平瓦	—	自然	—	SK1494→本誌	SK2790	
1502	C3h	円形	[1.86]	—	16	外構	平瓦	—	自然	—	本誌→S1170	SK2791	
1503	C3f	楕円形	3.20×2.39	—	55	縁部	平瓦	8	自然	—	SK1511→本誌→SK1514、P489	SK2792	
1504	C3h	円形	0.70	—	48	直立	平瓦	—	不明	—	SK1458→本誌	SK2793	
1505	C4f	楕円形	[2.03]×1.75	—	30	外構	平瓦	4	自然	—	—	SK2794	
1506	C3h	楕円形	1.50×1.35	2.00×1.67	62	内構	平瓦	—	自然	深鉢	SK1490→本誌→SK1507-1549	SK2795	
1507	C3h	不明	(1.52×1.24)	—	30	内構	平瓦	—	自然	—	SK1455-1506→本誌→SK1540-1550	SK2797	
1508	C2g	円形	[2.68]	—	40	外構	平瓦	5	不明	—	本誌→SK1500	SK2798	
1509	C3h	楕円形	1.61×—	—	38	縁部	平瓦	2	自然	—	SK1489→本誌	SK2799	
1510	C3h	円形	[1.35]	—	46	内構	平瓦	—	自然	—	—	SK2800	
1511	C3f	楕円形	2.20×[1.60]	2.50×[1.94]	57	内構	平瓦	—	自然	深鉢、磨製石芥	SK1512→本誌→SK1518	SK2801	
1512	C3h	円形	[1.12]	2.26×2.24	72	内構	平瓦	—	自然	深鉢、鉢	本誌→SK1511、1518	SK2802	

序号	名称	原口部 平面形	规格		壁厚 mm	管口 直径mm	管口 直径mm	管口 直径mm	管口 直径mm	主要加工场所	主要材料	规格
			长度 mm	直径 mm								
1513	C37	圆形	[1.26]	—	64	内径	平口	—	自然	深井, 土製耳井	—	SK2803
1514	C37	圆形	2.36×2.20	—	64	内径	平口	—	自然	—	—	SK1503-1538-△-B→SE11
1515	C38	圆形	1.72	1.86×1.82	28	内径	平口	—	自然	—	—	SK2805
1516	C38	圆形	1.26	—	115	内径	平口	—	自然	—	—	SK1522-515, 5175-△-B→SK1528
1517	C39	圆形	0.94	—	—	—	—	—	—	—	—	SK2807
1518	C39	不整形	2.34×1.60	—	24	外径	平口	1	自然	—	—	SK1511-1512-1592-△-B→SK2808
1519	C39	椭圆形	1.70×1.50	1.80×1.62	40	外径	平口	—	自然	—	—	SK1511-1517
1520	C39	椭圆形	[1.20×0.90]	1.72×1.64	64	内径	平口	—	自然	—	—	SK1521
1521	C39	椭圆形	2.24×[1.95]	—	36	外径	平口	1	自然	—	—	SK1520-△-B→SK15175
1522	C39	不整形	—	—	16	外径	平口	—	自然	—	—	SK1523-△-B→SK1516, SK1516
1523	C39	圆形	[0.64]	—	30	直径	平口	—	自然	—	—	SK1512-1516
1524	C39	椭圆形	2.00×1.60	2.50×2.20	60	内径	平口	—	自然	—	—	SK1517
1525	C39	圆形	1.04	—	16	外径	平口	1	自然	—	—	SK1517
1526	C39	不整形	2.18×1.80	—	30	外径	平口	—	自然	深井	—	SK1527-△-B→SK15177
1527	C39	圆形	1.66×[1.56]	—	30	外径	平口	—	自然	—	—	SK1526
1528	C39	椭圆形	2.38×1.96	—	54	外径	平口	6	自然	—	—	SK15177
1529	C39	圆形	1.48	—	70	外径	平口	—	自然	—	—	SK1531-1580-△-B→SK15160
1530	C39	圆形	1.06	—	32	外径	平口	1	自然	—	—	SK1531-△-B→SK2820
1531	C39	椭圆形	2.09×[1.52]	—	28	外径	平口	—	自然	—	—	SK1529-1530
1532	C39	圆形	1.03	—	23	外径	平口	—	自然	—	—	SK1529
1533	C39	椭圆形	0.97×0.87	—	23	外径	平口	—	自然	—	—	SK2823
1534	C39	圆形	[0.86]	—	100	内径	平口	—	自然	—	—	SK2825
1535	C39	不整形	—	—	—	—	—	—	自然	—	—	SK2826
1536	C39	椭圆形	2.45×[1.65]	2.62×1.96	92	内径	平口	—	自然	深井	—	SK1537-△-B→SK2827
1537	C39	椭圆形	[0.94×0.82]	2.70×2.20	128	内径	平口	—	自然	深井, 土製耳井, 石井	—	SK1536
1538	C39	不整形	2.68	—	46	外径	平口	1	自然	—	—	SK1531, P091, SK1534-1599
1539	C39	圆形	2.52	2.70×2.34	48	内径	平口	3	自然	深井	—	SK1540-△-B→SK2830
1540	C39	圆形	[2.36]	—	42	平口	—	—	自然	—	—	SK1539-1541, P6
1541	C39	圆形	2.34	—	43	内径	平口	—	自然	深井	—	SK1540-1676-△-B→P702
1542	C40	不整形	2.09×2.04	—	91	内径	平口	—	自然	—	—	SK1494-△-B→SK1543
1543	C40	圆形	1.67	—	67	外径	平口	—	自然	—	—	SK1542-1544-△-B→SK2834
1544	C41	不整形	—	—	15	外径	平口	1	自然	—	—	SK1543
1545	C41	圆形	[2.46]	—	34	外径	平口	3	自然	—	—	SK1512, SK1546
1546	C41	圆形	1.42×1.28	—	60	外径	平口	1	自然	—	—	SK1545-△-B→SK2837
1547	C39	圆形	[0.82]	—	55	外径	平口	—	自然	—	—	SK2838
1548	C39	椭圆形	—×2.22	—	31	外径	平口	—	自然	—	—	SK1551-△-B→SK2839
1549	C39	椭圆形	1.24×[0.68]	—	29	外径	平口	—	自然	—	—	SK2840
1550	C39	椭圆形	0.68×0.57	0.64×0.61	48	内径	平口	—	自然	深井	—	SK2841
1551	C39	椭圆形	2.24×1.94	—	30	外径	平口	3	自然	—	—	SK1571-△-B→SK1548, P492
1552	C39	不整形	—	—	—	—	—	—	自然	—	—	SK2843
1553	C39	圆形	1.46	—	44	外径	平口	—	自然	—	—	SK1554
1554	D28	圆形	1.04	—	15	直径	平口	—	自然	—	—	SK1553-△-B→SK2845
1555	C39	不整形	—	—	24	直径	平口	—	自然	—	—	SK1511, SK1536
1556	C39	椭圆形	2.28×2.02	—	47	外径	平口	2	自然	—	—	SK1555-△-B→SK2847
1557	C39	圆形	[2.27]	—	34	外径	平口	3	自然	—	—	SK2848
1558	C39	不整形	—	—	20	外径	平口	—	自然	—	—	SK2849

番号	位置	開口部 平面形	規 格			断面	実寸	ピノ 寸法	主会社上造物	重複規格 (旧→新)	発 番 号
			開口部(長さ×幅) mm	規格(長さ×幅) mm	高さ mm						
1559	D2p	円形	1.67	1.75	99	円筒	字組 1	自然	深鉢、鉢		SK2850
1560	C3e	円形	1.16	—	73	直立	字組 1	自然			SK2851
1561	C3e	不整形	0.91×0.74	—	74	円筒	字組 1	自然			SK2852
1562	D2b	楕円形	0.84×0.70	—	8	円筒	字組 1	自然		本誌→SK1563	SK2853
1563	D2b	円形	0.84	—	10	楕円	字組 1	自然		SK1562→本誌	SK2854
1564	D2b	楕円形	0.96×0.84	—	7	円筒	字組 1	自然			SK2855
1565	D2b	楕円形	1.12×0.86	—	48	円筒	字組 1	自然			SK2856
1566	D2b	円形	0.56	—	7	円筒	字組 1	自然			SK2857
1567	D2b	円形	0.88	—	8	直立	円筒	自然			SK2858
1568	D2b	楕円形	0.68×0.56	—	10	楕円	字組 1	自然		本誌→SK1569	SK2859
1569	D2b	楕円形	0.78×0.64	—	8	円筒	字組 1	自然		SK1568→本誌	SK2860
1570	D2b	円形	0.64	—	12	円筒	字組 1	自然			SK2861
1571	D2b	不整形	1.02	—	16	円筒	字組 1	自然			SK2862
1572	D2b	楕円形	[0.86]×0.76	—	14	円筒	字組 1	自然		SK1573→本誌	SK2863
1573	D2b	円形	[0.54]	—	12	円筒	字組 1	自然		本誌→SK1572	SK2864
1574	D2b	円形	0.85	—	23	円筒	字組 1	自然			SK2865
1575	D2c	円形	0.60	—	40	直立	円筒	自然			SK2866
1576	D2c	円形	0.86	—	66	直立	円筒	自然			SK2867
1577	D2b	不整形	2.32	—	20	円筒	字組 2	自然			SK2868
1578	D2b	円形	0.50	—	8	円筒	字組 1	自然		本誌→SK1579	SK2869
1579	D2b	楕円形	0.98×0.84	—	32	円筒	字組 1	自然		SK1578→本誌	SK2870
1580	D2p	楕円形	1.43×1.15	—	30	円筒	字組 1	自然			SK2871
1581	D2p	楕円形	2.41×2.16	—	34	円筒	字組 3	自然	深鉢	本誌→SU181	SK2872
1582	D2e	楕円形	0.80×0.72	—	60	円筒	字組 1	自然			SK2873
1583	C3e	不整形	[0.81]	—	29	直立	円筒	自然			SK2874
1584	C3e	不明	不明	—	52	不明	円筒	不明			SK2879
1585	D2d	円形	2.32	—	50	直立	円筒	自然			SK2880
1586	D2e	楕円形	0.91×0.79	—	27	円筒	字組 1	自然			SK2881
1587	D2e	円形	2.16	2.20×2.14	41	円筒	字組 1	自然			SK2882
1588	D2e	円形	1.16	—	50	直立	円筒	自然		SK1589→本誌	SK2883
1589	D2e	楕円形	[2.41]×2.18	—	47	直立	円筒	自然		本誌→SK1588	SK2884
1590	D2e	楕円形	2.50×1.98	—	22	円筒	字組 3	自然			SK2885
1591	C3e	円形	[2.20]×2.10	—	45	円筒	字組 8	自然			SK2887
1592	C3e	円形	0.96	—	36	直立	円筒	自然		本誌→SK1518	SK2888
1593	D2e	楕円形	1.29×1.08	—	18	円筒	字組 1	自然			SK2889
1594	D2e	不明	0.80×	—	8	楕円	字組 1	自然			SK2891
1595	D2e	楕円形	[1.68]×1.42	—	31	円筒	字組 1	自然			SK2892
1596	D2e	楕円形	—×0.70	—	12	円筒	字組 1	自然			SK2893
1597	D2e	不明	—×1.05	—	38	円筒	字組 1	自然			SK2894A
1598	D2e	不明	—×[0.69]	—	不明	不明	不明	不明			SK2894A
1599	C3e	不明	不明	—	20	楕円	字組 1	不明		本誌→SE11	SK2895
1600	C3e	楕円形	[1.14]×1.03	1.78×1.50	90	円筒	字組 1	自然	深鉢	本誌→SK1601、P495	SK2896
1601	C3p	楕円形	2.56×2.00	—	65	円筒	字組 1	自然		SK1600→本誌	SK2897
1602	D2e	不明	[1.68]	—	15	円筒	字組 1	自然			SK2898
1603	D3e	円形	2.45×[2.37]	—	25	円筒	字組 3	自然			SK2899
1604	D3e	円形	2.29	2.56×2.01	85	円筒	字組 2	自然	深鉢、鉢、打製石斧、磨石	本誌→SK1605	SK2900

序号	位置	洞口部 平面形	洞			形状	底面	平面上	主支路十建特	重複関係 (旧→新)	発 書 号	
			開口幅(又は×距離m)	底幅(又は×距離)	高さ(m)							
1605	D3g	椭圆形	[1.41]×[1.21]		32	外傾	平直	—	自然	SK1604→本路	SK2901	
1606	D3d	円形	2.12×2.00	—	25	外傾	平直	1	自然		SK2902	
1607	D3g	円形	[2.05]×2.04	—	73	縦傾	直状	—	自然	SK1608→本路	SK2903	
1608	D3g	円形	2.36×2.20	2.30×2.00	110	内傾	平直	8	人込	深谷、跡、遊覧石等、石取	SK1627→本路・SK1607	SK2904
1609	D2f	円形	2.14×[1.95]	—	46	内傾	平直	3	自然		SK2905	
1610	D2f	円形	0.89	—	49	外傾	平直	—	自然	本路→SI180	SK2906	
1611	D2d	楕円形	2.30×2.02	—	34	内傾	平直	1	自然	本路→SK1612	SK2907	
1612	D2d	楕円形	1.96×1.75	—	78	直立	平直	2	自然	深谷、跡	SK1611→本路	SK2908
1613	D3d	楕円形	1.34×[0.93]	—	21	外傾	平直	—	自然	本路→SK1614	SK2909	
1614	D3d	楕円形	2.13×1.72	2.01×1.85	44	内傾	平直	—	自然	深谷	SK1613→本路→SK1659	SK2910
1615	D3f	楕円形	1.86×1.68	—	30	外傾	平直	2	自然		SK2911	
1616	D3d	円形	2.19	—	40	外傾	平直	1	自然	SK1617→1620→本路	SK2912	
1617	D3d	楕円形	1.29×[1.05]	—	23	外傾	平直	—	自然	SK1618→本路・SK1616	SK2913	
1618	D3d	円形	[1.58]	—	8	縦傾	平直	—	自然	本路→SK1617	SK2914	
1619	D3d	円形	1.78	—	15	縦傾	平直	1	自然	本路→SK1620, SI212	SK2915	
1620	D3d	不明	1.65×(0.76)	—	26	外傾	平直	—	自然	SK1619→本路→SK1616	SK2916	
1621	D3d	不明	不明	—	23	外傾	平直	—	自然	本路→SK1622	SK2917	
1622	D3d	円形	[2.83]	—	37	外傾	平直	3	人込	深谷	SK1621→1623→1659→本路	SK2918
1623	D3d	円形	1.98	2.29×2.11	49	内傾	平直	1	自然	深谷	本路→SK1622	SK2919
1624	D2d	楕円形	1.42×1.17	—	29	外傾	平直	3	自然		SK2920	
1625	D2g	楕円形	1.05×0.92	—	49	直立	平直	—	自然		SK2921	
1626	D3d	円形	1.35	—	9	後傾	平直	2	自然		SK2922	
1627	D3g	円形	[1.53]	[2.10]×2.08	62	内傾	平直	1	自然	深谷、深跡、石取	本路・SK1608	SK2923
1628	D3d	円形	2.12×2.10	—	30	縦傾	平直	1	自然	本路→SI21, SK1629→SK, P24	SK2924	
1629	D3g	楕円形	1.40×1.29	—	102	内傾	平直	—	自然	本路→SI212, SK1628, P25	SK2925	
1632	E3d	楕円形	1.46×0.95	—	26	外傾	平直	—	自然		SK2928	
1633	D2g	楕円形	1.82×1.56	2.00×1.88	115	内傾	平直	—	自然	深谷、跡	SK2929	
1634	D3d	楕円形	(1.05)×1.03	—	32	不明	不明	—	自然	本路→SK1635→1909	SK2930	
1635	E3d	楕円形	(1.85)×1.18	—	63	外傾	平直	—	自然	SK1634→本路→SK1636	SK2931	
1636	D3d	楕円形	2.46×2.00	2.50×2.10	54	内傾	平直	1	自然	深谷	SK1635→1637→1638→本路	SK2932
1637	D3d	楕円形	2.27×[1.90]	—	47	直立	平直	4	自然	SK1640→本路・SK1636	SK2933	
1638	D3d	不明	不明	—	20	縦傾	平直	—	自然	SK1639→本路→SK1636	SK2934	
1639	D3d	楕円形	1.75×1.38	2.00×1.92	68	内傾	平直	—	自然	本路・SK1638	SK2935	
1640	D3d	楕円形	2.26×2.00	—	19	縦傾	平直	2	自然	本路→SK1637	SK2936	
1641	D3d	円形	1.82	1.90	36	内傾	平直	—	自然	深谷、跡	SK2937	
1642	D3d	円形	1.75	—	60	直立	平直	3	自然	深谷、跡	SK1649→本路	SK2938
1643	D3d	不明	不明	—	22	縦傾	平直	1	自然	本路・SK1641→1849	SK2939	
1644	D3d	楕円形	0.86×0.68	—	130	内傾	平直	—	自然	SK1643→本路	SK2940	
1645	D3d	不明	不明	—	38	外傾	平直	1	自然	本路→SK1646	SK2941	
1646	D3d	本路旧形	[1.51]	—	70	直立	平直	4	自然	深谷、跡、石	SK1645→1647→本路	SK2942
1647	D2d	不明	不明	—	32	内傾	平直	—	自然	SK1648→本路・SK1646	SK2943	
1648	D2d	不明	不明	—	45	直立	平直	1	自然	本路→SK1647	SK2944	
1649	D3d	円形	[1.87]	—	42	外傾	平直	1	自然	深谷	SK1647→1650→1651→本路	SK2945
1650	D3d	不明	不明	—	13	外傾	平直	1	自然	SK1651→本路→SK1649	SK2946A	
1651	D3d	不明	不明	—	9	外傾	平直	—	自然	本路→SK1650→1649	SK2946B	
1652	C3d	楕円形	1.45×1.03	—	20	後傾	平直	—	自然		SK2947	



番号	位置	横口部 平面形	型		縦口部 深さ	取組 方法	取組 回数	取組 時間	主会 品名	取組 回数 (回一組)	会 費 号	
			縦口部 深さ	縦口部 深さ								
1653	C3c	楕円形	1.67×1.31	2.21×1.74	68	手組	平	2	自然	本跡→P499	SK2948	
1654	D3c	円形	1.60	—	34	手組	平	2	自然	—	SK2949	
1655	D2d	不明	不明	—	36	手組	平	—	自然	SK1643・本跡→SK1647	SK2950	
1656	D3d	楕円形	1.18×1.03	—	14	手組	平	—	自然	SK1664→本跡	SK2951	
1657	D3d	不明	(0.50)×0.54	—	19	手組	平	—	自然	本跡→SK1692	SK2952	
1658	D2c	円形	1.84	2.36×2.14	36	手組	平	—	自然	—	SK2953	
1659	D3c	楕円形	[2.35]×[1.52]	—	12	手組	平	—	自然	SK1614・本跡→SK1622	SK2954	
1660	D3c	楕円形	1.90×1.74	—	16	手組	平	—	自然	—	SK2955	
1661	D3c	楕円形	[1.10]×[0.66]	—	32	手組	平	—	自然	—	SK2956	
1662	D3c	円形	2.35	—	32	手組	平	—	自然	本跡→P691	SK2957	
1663	C3c	円形	0.78	2.68×2.32	92	手組	平	—	自然	深鉢、磨石	SK2958	
1664	D3d	円形	[0.84]	—	15	手組	平	—	自然	本跡→SK1656、P197	SK2959	
1665	C3d	円形	1.00	—	22	手組	平	—	自然	—	SK2960	
1666	C3d	円形	[0.80]	2.75×2.64	84	手組	平	—	自然	深鉢	SK2961	
1667	D3d	楕円形	0.94×0.74	—	不明	不明	不明	—	不明	—	SK2962	
1668	D3d	楕円形	0.86×0.65	—	不明	不明	不明	—	不明	—	SK2963	
1669	D3d	不明	不明	—	32	手組	平	—	自然	SK1671→本跡、SK1246	SK2964	
1670	D3c	円形	0.60	—	28	手組	平	—	不明	—	SK2965	
1671	D3d	楕円形	2.02×1.62	—	52	手組	平	—	自然	深鉢、磨石	SK1669→本跡→SK1246	SK2966
1672	D3d	楕円形	[2.38]×1.88	[2.54]×1.98	34	手組	平	—	自然	深鉢	SK1681→本跡→SK1673	SK2967
1673	D2c	楕円形	1.61×1.46	1.90×1.45	100	手組	平	—	自然	深鉢	SK1672・本跡	SK2968
1674	C3d	円形	0.91	—	18	手組	平	—	自然	本跡→SK1675	SK2969	
1675	D3d	楕円形	1.90×1.63	—	18	手組	平	—	自然	SK1674・本跡	SK2970	
1676	C3d	円形	1.12	2.74×2.43	85	手組	平	—	自然	深鉢	SK2971	
1677	C3d	楕円形	2.20×1.78	—	20	手組	平	—	自然	—	SK2972	
1678	C3d	楕円形	2.02×1.82	2.30×1.94	72	手組	平	—	自然	—	SK2973	
1679	C4d	円形	1.30	—	47	手組	平	—	自然	—	SK2974	
1680	C4d	円形	[1.86]	—	40	手組	平	—	自然	深鉢	本跡→SK173-182、SK1839	SK2975
1681	D3d	円形	[1.72]	[2.16]	56	手組	平	—	自然	深鉢	本跡→SK1672、1682	SK2976
1682	D3d	楕円形	1.90×1.60	2.07×1.94	108	手組	平	—	自然	深鉢、磨製石斧	SK1681→本跡	SK2977
1683	D3d	円形	1.72	1.76	30	手組	平	—	自然	—	SK2978	
1684	D3d	円形	1.18	—	12	手組	平	—	自然	—	SK2979	
1685	D3d	円形	1.88	2.30	52	手組	平	—	自然	深鉢、磨石	SK2980	
1686	C3d	不明	不明	—	不明	不明	不明	—	不明	—	SK2981	
1687	C3d	円形	1.26	2.22	78	手組	平	—	自然	深鉢、浅鉢	本跡→SK178・SK1686	SK2982
1688	C3d	円形	1.48	1.38	20	手組	平	—	自然	—	SK2983	
1689	C3d	楕円形	1.10×0.96	1.36	38	手組	平	—	自然	—	SK2984	
1690	C3d	楕円形	2.48×2.20	—	41	手組	平	—	自然	深鉢、磨石	本跡→SK175、SK1522	SK2985
1691	C3d	円形	0.81	—	60	手組	平	—	自然	本跡→SK175、SK1557	SK2986	
1692	D3d	不明	不明	—	27	手組	平	—	不明	本跡→SK1655	SK2987	
1693	D3d	円形	[1.49]	—	40	手組	平	—	自然	—	SK2988	
1694	D3d	楕円形	1.14×0.99	—	30	手組	平	—	自然	—	SK2990	
1695	D3d	円形	1.34	—	48	手組	平	—	自然	—	SK2991	
1696	C3d	不明	不明	—	39	手組	平	—	自然	本跡→SK1697	SK2992	
1697	C3d	円形	2.13	—	57	手組	平	—	自然	深鉢、磨石	SK1696→本跡→SK1697	SK2993
1698	C3d	楕円形	0.66×0.59	—	96	手組	平	—	自然	深鉢	SK1697→本跡	SK2994

序号	符号	洞口部 半为形	洞		洞高 m	洞口 结构	洞口 材料	备注	主要出入口	备注	备注	
			洞长 m	洞宽 m								
1699	C30	不	不	不	43	外	平	2	自然		SK170 + 小册 → SK1697	SK2995
1700	C41	梯	凹	2.35 × 1.70	—	46	外	平	3	自然	本册 → SK1699, P572	SK2996
1701	C30	凹	形	1.66	—	40	外	平	2	自然	本册 → S1175	SK2997
1702	C30	梯	凹	1.13 × 0.98	2.20 × 1.16	74	内	平	—	自然		SK2998
1703	D30	凹	形	[1.20]	1.56 × 1.44	34	内	平	—	自然	本册 → P510	SK2999
1704	F30	不	整	2.75 × 2.60	2.62 × 2.29	72	内	平	—	自然		SK20001
1705	F30	凹	形	1.62	—	90	外	平	—	自然		SK20002
1706	F30	梯	凹	1.59 × 1.28	—	29	外	平	—	自然		SK20003
1707	F30	梯	凹	1.37 × 1.16	—	30	外	平	—	自然		SK20004
1708	F30	梯	凹	2.16 × 1.96	1.73 × 1.64	111	内	平	—	不明		SK20005
1709	F30	凹	形	1.84	—	71	外	平	1	自然		SK20007
1710	F30	凹	形	1.12	—	85	外	平	—	自然		SK20008
1711	F30	梯	凹	1.08 × 0.94	—	18	外	平	—	自然		SK20009
1712	F30	梯	凹	1.14 × 0.95	—	41	外	平	1	自然		SK20010
1713	F30	梯	凹	1.40 × 1.09	—	41	外	平	—	自然		SK20011
1715	F30	凹	形	1.51	—	56	外	平	—	自然		SK20013
1716	F30	凹	形	0.87	—	103	外	平	—	自然		SK20014
1717	F30	梯	凹	1.72 × 1.46	—	74	外	平	—	自然		SK20015
1718	F30	凹	形	1.10	—	48	外	平	—	自然		SK20016
1719	F30	凹	形	1.75	—	50	外	平	—	自然		SK20017
1720	F30	凹	形	1.48	—	28	外	平	—	自然		SK20018
1721	F30	凹	形	1.26	—	140	外	平	—	自然		SK20019
1723	F30	凹	形	1.60	—	64	外	平	—	自然		SK20021
1724	E30	凹	形	1.02	—	25	外	平	—	自然		SK20022
1725	F30	梯	凹	1.38 × 1.14	—	40	外	平	—	自然		SK20023
1727	E30	不	整	1.50 × 1.00	—	36	外	平	1	自然		SK20025
1728	F30	梯	凹	1.56 × (1.15)	—	33	外	平	—	自然		SK20026
1729	F30	梯	凹	1.20 × 1.06	—	48	外	平	—	自然		SK20027
1730	F30	凹	形	[1.90]	—	80	外	平	—	自然		SK20028
1732	F30	不	整	1.10 × 0.95	—	52	外	平	—	自然		SK20030
1733	F30	凹	形	1.27	—	30	外	平	—	自然		SK20031
1736	F30	不	整	1.48 × 1.08	—	76	外	平	—	自然		SK20034
1737	E30	梯	凹	1.16 × 0.80	—	16	外	平	—	自然		SK20035
1738	F30	梯	凹	1.16 × 1.04	—	28	外	平	—	自然		SK20036
1739	E30	凹	形	0.94	—	32	外	平	—	自然		SK20037
1740	E30	不	整	2.38 × 1.76	—	32	外	平	—	自然		SK20038
1741	E30	凹	形	1.14	—	46	外	平	—	自然		SK20039
1742	E30	梯	凹	1.16 × 0.94	—	26	外	平	1	自然		SK20040
1743	E30	凹	形	1.04	—	38	外	平	—	自然		SK20041
1744	F30	凹	形	0.88	—	12	外	平	—	自然		SK20042
1745	F30	凹	形	0.81	—	22	外	平	—	自然		SK20043
1746	E30	凹	形	1.07	—	28	外	平	—	自然		SK20044
1749	E30	不	整	1.95 × 1.58	—	74	外	平	—	自然		SK20047
1750	E30	凹	形	1.74	—	22	外	平	—	自然		SK20048
1751	E30	梯	凹	2.40 × 2.18	—	26	外	平	1	自然		SK20049
1753	E30	凹	形	1.82	—	57	外	平	1	自然		SK20052

序号	位置	间口部 平面形	规格			横高 cm	底面 形状	材 种	覆工 方法	主心出土遺物	遺 蹟 関 係 (旧一新)	発 掘 番 号
			開口部(長さ×幅) cm	底面(長さ×幅) cm	深さ cm							
1754	E3g1	櫛形	1.56×1.11	—	14	正立	西島	—	自然			SK20053
1756	E3g1	円形	2.09	—	36	竪立	平野	2	自然			SK20055
1757	E2e0	栴形	(0.96)×0.72	—	21	竪立	内山	—	自然	本跡・SK1758		SK20056
1758	E2e0	円形	1.81	—	35	竪立	平野	1	自然	SK1757→本跡		SK20057
1759	E2e0	栴形	2.92×(1.34)	—	50	竪立	平野	1	自然			SK20058
1760	E2e0	櫛形	2.33×1.83	—	24	竪立	正立	1	自然			SK20059
1761	E2e0	円形	2.12	—	58	竪立	平野	1	自然	深鉢、石皿、打製石斧		SK20060
1762	E3f7	楕円形	1.78×1.56	—	26	外傾	平野	—	自然			SK20061
1763	E2e0	楕円形	2.21×1.92	—	15	竪立	平野	1	自然			SK20062
1764	E2e0	円形	1.96	—	21	竪立	平野	—	自然			SK20063
1765	E3d1	円形	1.84	—	43	竪立	平野	1	自然			SK20064
1767	E3c2	楕円形	1.96×1.77	—	47	竪立	平野	1	自然			SK20066
1769	E3c1	不明	不明	—	48	外傾	平野	2	自然			SK20068
1770	E3e0	楕円形	1.32×1.15	—	49	竪立	平野	—	自然			SK20069
1771	E3e0	楕円形	2.34×2.06	—	71	正立	平野	1	自然			SK20070
1772	E3c2	楕円形	2.18×1.96	—	118	正立	平野	—	自然	深鉢		SK20071
1773	E3e0	不明	(0.76)×0.89	—	48	外傾	平野	—	自然		本跡→P706	SK20072
1775	E3d0	楕円形	2.81×2.24	—	35	竪立	平野	4	自然			SK20074
1776	E4d1	楕円形	0.92×0.83	—	31	竪立	平野	—	自然			SK20075
1777	E4d1	円形	0.95×0.83	—	30	外傾	平野	—	自然			SK20076
1778	E3e0	楕円形	2.74×2.50	—	50	竪立	平野	1	自然			SK20079
1779	E3e0	円形	1.45	—	43	外傾	平野	—	自然			SK20080
1780	E3c2	楕円形	2.64×[1.50]	—	34	外傾	平野	—	自然	本跡→SK1791		SK20081
1781	E3e0	不明	不明	—	35	外傾	平野	1	自然	SK1780→本跡・SK1782		SK20082
1782	E3c2	楕円形	2.01×1.90	—	24	外傾	平野	—	自然	SK1781・本跡		SK20083
1783	E3e0	円形	1.15	—	51	竪立	平野	—	自然			SK20084
1785	E3e0	楕円形	1.16×0.92	—	51	竪立	平野	—	自然			SK20086
1786	E4h1	楕円形	1.60×1.38	—	44	外傾	平野	—	自然			SK20087
1787	E3e0	楕円形	1.83×1.20	—	34	外傾	平野	1	自然	本跡・SK1784		SK20088
1788	E3f7	円形	1.03	—	32	外傾	平野	—	自然			SK20089
1789	E3g4	円形	1.28	—	28	外傾	平野	—	自然			SK20090
1790	E3d4	楕円形	1.72×1.24	—	80	外傾	平野	—	自然			SK20091
1791	E3f4	円形	1.01	—	55	竪立	平野	—	自然			SK20092
1792	E3a7	円形	1.40	—	70	竪立	平野	—	自然			SK20093
1793	E2e0	楕円形	1.78×1.44	—	76	竪立	平野	—	自然			SK20094
1794	E3g5	円形	1.42	—	60	外傾	平野	—	自然			SK20095
1796	E4h1	不整形円形	0.84×0.72	—	40	外傾	平野	—	自然			SK20097
1797	E3e0	楕円形	2.62×1.56	—	80	竪立	平野	—	自然			SK20098
1799	E2g0	楕円形	1.36×1.20	—	54	外傾	平野	—	自然			SK20100
1800	F2e0	楕円形	[1.15]	—	28	外傾	平野	—	自然	SK2021・本跡		SK20101
1801	F2e0	不整形円形	1.80×1.48	—	30	外傾	平野	1	自然	本跡→P682		SK20102
1803	F3e5	円形	2.02	—	48	外傾	平野	—	自然			SK20105
1805	F3e0	円形	1.44	—	55	竪立	平野	—	自然			SK20107
1806	F3e0	不整形円形	1.40×1.18	—	30	外傾	平野	—	自然			SK20108
1808	F3d6	楕円形	2.36×1.74	—	30	外傾	平野	—	自然			SK20110
1811	F3e0	円形	1.34	—	68	外傾	平野	—	自然			SK20114



番号	位置	開口部 平面形	規格			標準 深さ(mm)	標準 厚さ(mm)	標準 寸法(mm)	土質	主会出上通物	系統関係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部 長さ×幅(mm)	底幅 長さ×幅(mm)	深さ(mm)							
1865	D3a	円形	1.76	—	83	外積	平足	—	自然	SK1864→本跡	SK20169	
1866	D3b	円形	0.73	—	95	不明	不明	—	不明		SK20170	
1868	E3d	楕円形	1.35×[1.17]	—	75	深鉢	皿底	—	自然		SK20172	
1869	E3e	不明	1.43×(0.75)	—	25	深鉢	平足	1	自然		SK20173	
1870	D3h	円形	0.64	0.54×0.48	71	外積	平足	—	自然		SK20174	
1871	C3g	不明	不明	—	42	外積	平足	2	自然		SK20175	
1872	D3b	不明	不明	—	38	底立	平足	1	自然	本跡→SK1857	SK20176	
1873	C3f	楕円形	0.85×0.69	1.90×1.80	85	外積	平足	—	自然		SK20177	
1874	C3g	楕円形	2.34×[1.78]	—	30	外積	平足	2	自然	深鉢	SK1860→本跡	SK20178
1875	D3b	楕円形	1.97×[1.00]	—	20	外積	円底	—	自然		SK20179	
1876	D3d	楕円形	1.58×1.43	2.16×1.94	118	内積	円底	2	自然	深鉢、磨石	SK1877→本跡	SK20180
1877	D3d	不明	不明	—	26	外積	円底	—	自然	本跡→SK1876	SK20181	
1878	D3f	不明楕円形	1.67×0.84	—	32	外積	円底	—	自然		SK20182	
1881	E3h	円形	1.81	—	54	底立	円底	—	自然		SK20185	
1882	F3h	楕円形	0.82×0.69	—	42	深鉢	皿底	—	自然		SK20186	
1883	G4d	楕円形	0.38×[1.00]	—	95	外積	平足	—	自然		SK20187	
1884	C3g	円形	[1.72]	—	26	外積	平足	2	自然	深鉢	SK1528・1886・本跡	SK20188
1885	D3d	不明	[1.82]	—	48	不明	平足	—	自然	SK1886・1917→本跡	SK20189	
1886	C3d	不明	不明	—	12	外積	平足	2	自然	本跡→SK1881・1885	SK20190	
1887	D3b	楕円形	(0.78)×0.64	—	15	外積	平足	—	自然	本跡→SK1889	SK20191	
1888	D3b	楕円形	1.14×(0.82)	—	12	外積	平足	—	自然	本跡→SK1889	SK20192	
1889	D3b	楕円形	1.72×1.24	2.38	84	内積	平足	—	自然	深鉢、不明上製品	SK1887・1888→本跡	SK20193
1890	D3h	円形	1.14	—	36	外積	平足	—	自然	本跡→S1216・SK1891	SK20194	
1891	D3h	楕円形	1.18×0.86	—	22	外積	平足	—	自然	SK1890→本跡→S1216	SK20195	
1892	D3e	円形	2.30	—	50	外積	平足	1	自然	深鉢	本跡→SK1894	SK20196
1893	D3d	楕円形	1.36×1.06	—	12	外積	平足	—	自然	本跡→SK1894	SK20197	
1895	D3g	楕円形	1.92×1.62	—	18	外積	平足	1	自然		SK20199	
1896	D4g	円形	1.98	—	13	外積	平足	1	自然		SK20200	
1897	D4e	円形	1.06	—	10	外積	平足	—	自然		SK20201	
1898	F3e	楕円形	1.60×1.42	—	44	外積	円底	—	自然		SK20202	
1900	F3d	円形	1.10	—	28	外積	円底	—	自然		SK20204	
1901	F3d	楕円形	2.14×1.16	1.85×1.22	72	外積	円底	—	自然		SK20205	
1902	F3h	不明	2.85×(2.22)	—	60	外積	円底	1	自然		SK20206	
1903	D3d	楕円形	1.38×1.16	—	62	外積	円底	—	自然		SK20207	
1905	D3d	円形	1.88	1.88×1.74	76	内積	平足	1	自然	深鉢	SK1932→本跡→SK1906	SK20209
1906	D3d	円形	1.80	2.12×1.72	74	内積	平足	2	自然	SK1905→本跡	SK20211	
1907	D3d	円形	[0.86]	—	26	深鉢	皿底	—	不明		SK20212	
1908	D3e	円形	1.97	2.10×1.72	66	内積	平足	1	自然	深鉢	SK20213	
1909	D3c	円形	0.82×0.80	—	—	不明	外積	不明	—	不明	SK20214	
1910	D3b	楕円形	0.82×0.52	2.13×1.83	62	内積	平足	—	自然	深鉢	本跡→SK1941	SK20215
1911	C3d	楕円形	1.87×1.67	1.96×2.00	57	内積	平足	2	自然	深鉢	本跡→SK1912・1918	SK20216
1912	C3d	円形	[2.07]	—	30	外積	平足	—	自然	深鉢	SK1911・本跡→SK1913	SK20217
1913	D3d	円形	[1.56]	[1.68]	39	内積	平足	3	自然	深鉢、打製石斧、磨石	SK1885・1911・1912・1917・1920→本跡→SK1924	SK20218
1914	D3f	円形	1.87×1.81	—	46	外積	平足	2	自然		SK20219	
1915	D3b	楕円形	1.34×1.16	—	45	底立	平足	—	自然	深鉢		SK20220
1916	D3b	円形	[2.63]	—	52	外積	平足	6	自然	深鉢	本跡→SK1185	SK20221

序号	位置	开口窗 平面形	窗			窗宽 mm	窗高 mm	窗上	主要出土器物	备注 (同一窗)	发掘 层号	
			窗口长(距×距)mm	窗口宽(距×距)mm	窗高 mm							
1917	D3a9	梯圆形	2.31×1.85	2.40×2.30	39	内倾	平压	3	人高	深钵	本层→SK1858、1885	SK20222
1918	D3a7	圆形	[1.96]	—	50	内倾	平压	1	不明	深钵		SK20223
1919	D3a7	梯圆形	1.23×1.00	—	42	外倾	平压	1	自然			SK20224
1920	D3a6	圆形	1.90×0.87	—	125	直立	平压	—	自然	深钵, 磨石	SK1885→本层	SK20226
1921	D3a6	梯圆形	0.70×0.60	—	63	直立	平压	—	不明			SK20228
1922	C3a7	圆形	2.16×[2.02]	—	43	外倾	平压	—	不明	深钵	本层→SK1871	SK20229
1923	E3a0	圆形	1.10×1.00	—	20	外倾	平压	—	自然			SK20230
1924	D3a7	梯圆形	1.83×1.59	1.95×1.78	53	内倾	平压	2	自然	深钵		SK20231
1925	E4a2	梯圆形	1.13×0.75	—	13	外倾	平压	—	自然			SK20232
1926	D3a6	圆形	1.36	—	25	外倾	平压	—	自然			SK20233
1927	D3a7	梯圆形	1.10×0.92	2.32×2.03	112	内倾	平压	—	自然	深钵, 浅钵	SI245→本层	SK20234
1928	E3a7	梯圆形	1.00×0.81	1.54×1.35	90	内倾	平压	—	人高	深钵, 打裂石笋, 磨裂石笋	本层→P557	SK20235
1929	D3a6	梯圆形	[2.24×1.24]	—	17	外倾	平压	—	自然		本层→P558	SK20236
1930	D3a7	圆形	0.78×0.72	—	100	外倾	平压	—	自然		SK1911→本层	SK20237
1931	D3a7	梯圆形	1.45×1.20	—	65	外倾	平压	1	自然	深钵	本层→SK1930	SK20238
1932	D3a9	梯圆形	[1.40×1.20]	2.15×2.05	68	外倾	平压	—	自然	深钵	本层→SK1894	SK20239
1933	D3a9	圆形	1.08×1.10	—	27	外倾	平压	—	自然			SK20240
1934	F4a1	圆形	1.93×1.90	—	50	外倾	平压	—	自然		本层→SI197	SK20241
1935	D3a8	梯圆形	0.50×0.44	—	42	直立	平压	—	不明			SK20242
1936	D3a8	梯圆形	0.92×0.65	—	60	外倾	平压	—	自然			SK20243
1937	D3a8	梯圆形	1.43×[1.05]	—	19	外倾	平压	2	不明			SK20244
1938	C3a7	梯圆形	2.50×2.15	—	22	外倾	平压	2	自然			SK20245
1939	D3a7	梯圆形	1.18×1.06	—	34	外倾	平压	—	自然			SK20246
1940	D3a7	不规则圆形	0.84×0.74	1.02×0.81	36	外倾	平压	—	自然	深钵		SK20247
1941	D3a5	梯圆形	1.52×1.34	1.68×1.56	43	内倾	平压	—	人高	深钵, 钵	本层→SI230	SK20248
1942	C3a9	圆形	0.70×[0.65]	2.34	86	内倾	平压	—	自然	深钵, 浅钵, 土布片陶器		SK20249
1943	D3a7	梯圆形	2.08×1.62	—	不明	外倾	平压	2	不明	深钵	SI245, SK2012→本层	SK20250
1944	D3a8	梯圆形	2.28×1.97	—	35	外倾	平压	2	人高	深钵, 磨裂石笋, 磨石	SK1910→本层	SK20251
1945	C3a7	不规则圆形	1.63×1.50	1.75×1.58	50	内倾	平压	—	自然	深钵	本层→SK1874	SK20252
1946	D3a7	不规则形	1.04×0.90	—	70	外倾	平压	—	自然			SK20253
1947	D4a0	梯圆形	1.38×(0.95)	—	21	倾斜	平压	1	自然		本层→SK1948	SK20254
1948	D4a0	梯圆形	1.32×1.13	—	45	直立	平压	—	自然		SK1947、1949→本层	SK20255
1949	D4a3	梯圆形	1.65×0.80	—	25	倾斜	平压	—	人高		本层→SK1948	SK20256
1950	D4a3	圆形	1.25	—	25	倾斜	平压	—	自然			SK20257
1951	D4a4	圆形	1.45×1.36	—	45	外倾	平压	—	人高			SK20258
1952	D4a3	梯圆形	1.50×0.95	—	64	外倾	平压	—	自然			SK20259
1953	C4a4	圆形	1.17×1.15	—	33	倾斜	平压	—	自然			SK20260
1954	D3a0	圆形	1.57×[1.50]	1.80×[1.70]	37	内倾	平压	2	人高	深钵, 打裂石笋	SI242, SK1955→本层	SK20262
1955	D3a6	梯圆形	2.33×2.13	2.45×2.15	83	内倾	平压	—	自然	深钵, 浅钵, 磨石	SI242→本层→SK1954	SK20263
1956	D4a1	梯圆形	1.25×1.10	1.15×1.00	30	内倾	平压	—	自然		SI242、SK1973→本层	SK20264
1957	D3a7	圆形	1.88×1.78	1.77×1.75	45	外倾	平压	2	自然	深钵	SK1958→本层	SK20265
1958	D3a7	圆形	2.60×2.55	2.90×2.75	70	内倾	平压	—	人高		本层→SK1957、1959	SK20266
1959	C3a7	梯圆形	1.55×1.30	—	40	外倾	平压	—	不明		SK1958→本层	SK20267
1960	D4a1	不规则圆形	1.80×1.70	—	25	倾斜	平压	1	自然		本层→SK1961、1971	SK20270
1961	D4a1	梯圆形	0.90×0.75	—	36	外倾	平压	—	自然		SK1960、1962→本层	SK20271
1962	D4a1	不规则圆形	1.61×1.30	1.63×1.09	26	内倾	平压	—	人高		本层→SK1961	SK20272

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁高 (mm)	開口 形状	開口 寸法	開口 位置	主令内上遺物	発掘関係 (旧・新)	発掘 番号
			開口部長さ×幅(m)	開口部高さ×幅(m)	開口部 寸法(m)							
1963	D3d	不整形円形	1.18×1.04	—	60	外壁	平直	—	自然	SK1964→本跡	SK20273	
1964	D3e	円形	1.84×1.62	2.28×2.10	75	外壁	平直	—	自然	本跡→SK1963	SK20274	
1965	D4a	不整形円形	0.90	—	70	外壁	平直	1	自然	SK1966→本跡	SK20275	
1966	D4c	楕円形	1.40×1.28	1.52×1.30	55	外壁	凹形	2	人工	本跡→SK1965	SK20276	
1967	E3d	楕円方形	(1.20)×1.05	—	26	外壁	凹形	—	自然	—	SK20277A	
1968	E3e	円形	1.20×1.10	1.26×1.10	23	外壁	凹形	—	自然	—	SK20277B	
1969	F4c	不整形円形	2.59×2.31	3.75×3.41	85	内壁	平直	—	自然	—	SK20278	
1970	C4i	円形	1.18×1.10	2.06×1.98	90-94	内壁	平直	—	人工	深鉢、打製石片、石葉	本跡・SI182	SK20279
1971	C4j	楕円形	1.45×(0.22)	—	21	外壁	平直	—	不明	SK1960→本跡	SK20280	
1972	D3b	楕円形	1.02×0.83	—	12	外壁	平直	—	不明	—	SK20281	
1973	D4h	円形	0.86×0.62	—	49	外壁	凹形	—	自然	本跡→SK1956	SK20282	
1974	D3d	円形	0.95×0.91	—	98	外壁	平直	—	人工	磨石、打製石器	—	SK20286
1975	D3b	楕円形	1.74×1.38	—	33	外壁	凹形	—	自然	SK1999→本跡	SK20287	
1977	C4g	不明	(1.45×0.59)	—	51	外壁	平直	—	自然	SK1978→本跡→SK1492	SK20289	
1978	C4h	不明	1.34×(0.49)	—	38	外壁	平直	—	自然	SK1979→本跡・SK1977	SK20290	
1979	C4i	不明	1.91×(1.44)	—	36	外壁	平直	2	自然	本跡→SK1978	SK20291	
1980	D3d	円形	1.37×1.29	—	66	外壁	平直	—	人工	—	SK20293	
1981	D3e	円形	1.01×0.94	—	32	外壁	平直	—	自然	—	SK20294	
1982	D3b	円形	0.77×0.76	0.69×0.62	55	内壁	平直	—	自然	—	SK20295	
1983	D3e	円形	1.03×0.92	—	41	外壁	平直	—	自然	—	SK20296	
1984	D3f	円形	0.78×0.74	—	15	外壁	平直	—	自然	—	SK20297	
1985	D4h	楕円形	1.25×0.96	—	10	外壁	平直	—	不明	本跡→SI226	SK20298	
1986	D3g	円形	1.59×[1.52]	—	11	外壁	平直	—	不明	本跡→SI183	SK20299	
1987	D3b	円形	1.26×1.17	—	27	外壁	平直	—	自然	—	SK20300	
1988	C3d	楕円形	1.08×0.89	—	31	外壁	平直	—	自然	—	SK20301	
1989	D4i	円形	2.07×1.97	2.33×2.19	90-94	内壁	平直	4	自然	深鉢、浅鉢、磨製石片	—	SK20302
1990	D4i	楕円形	20.6×1.84	—	58	外壁	凹形	—	人工	本跡→SI237	SK20303	
1991	D3d	楕円形	1.33×1.14	—	51	外壁	凹形	—	自然	SK1992→本跡	SK20304	
1992	D3d	円形	0.95×0.90	3.00×2.90	82	内壁	平直	—	自然	深鉢、土器片、凹形	本跡・SK1991・1994	SK20305
1993	D3e	円形	1.06×0.98	—	94	外壁	平直	—	自然	—	SK20307	
1994	E4e	円形	2.16×2.04	—	42	外壁	平直	1	人工	深鉢	SK1992→本跡	SK20308
1995	D4e	楕円形	1.39×1.18	1.08×0.89	46	外壁	平直	—	自然	—	SK20309	
1996	D4e	円形	1.09×0.99	—	13	外壁	平直	—	不明	—	SK20310	
1997	D4e	円形	0.99×0.93	—	15	外壁	平直	—	不明	—	SK20311	
1998	D4f	円形	1.06×[1.01]	—	11	外壁	平直	—	不明	本跡→SI226	SK20312	
1999	D3b	楕円方形	[1.72]×1.68	—	43	外壁	平直	1	自然	本跡→SI234, SK1975	SK20313	
2000	D3d	不整形円形	0.94×(0.74)	1.58×(0.92)	44	内壁	平直	—	不明	本跡→SK2008	SK20314	
2001	D3e	楕円形	1.90×[1.60]	—	12	外壁	平直	—	自然	—	SK20315	
2002	D3g	楕円形	1.10×(0.50)	—	29	外壁	凹形	—	不明	F17→本跡	SK20316	
2003	D3e	楕円形	0.94×0.82	—	14	外壁	凹形	—	自然	—	SK20317	
2004	D3e	楕円形	0.88×0.73	—	23	外壁	平直	1	不明	—	SK20318	
2005	D3e	楕円方形	1.41×1.35	—	48	外壁	平直	—	自然	—	SK20319	
2006	D4b	円形	1.21×1.11	—	51	外壁	平直	1	不明	—	SK20320	
2007	D3b	楕円形	2.27×[2.05]	2.07×2.02	88	内壁	平直	1	人工	本跡→SI213・231	SK20321	
2008	D4d	円形	0.81×0.74	—	142	外壁	平直	—	自然	SK2000→本跡	SK20323	
2009	D3e	不整形円形	1.71×1.06	—	36	外壁	凹形	—	自然	本跡→SI230	SK20325	

番号	位置	開口部 平面形	欄			壁面 材料	開口 形状	開口 位置	土台地上遺物	遺物關係 (山→野)	発 掘 番 号
			開口部(扉)×欄高(m)	開口部(窓)×欄高(m)	高(m)						
2010	D3e6	楕円形	0.79×0.68	—	41	外構	平瓦	—	不明	本跡→SI230	SK20326
2011	D3e5	楕円形	1.30×(0.62)	—	20	外構	平瓦	—	不明	—	SK20327
2012	D3e7	楕円形	0.90×(0.67)	1.33×0.98	85	内装	平瓦	—	自然	小跡→SK1943	SK20328
2013	D3e6	楕円形	0.95×0.73	0.80×0.76	100	内構	平瓦	—	深跡	—	SK20329
2014	D3e7	楕円形	1.04×0.91	—	24	外構	瓦葺	—	自然	SK2015→本跡	SK20330
2015	D3e2	楕円形	0.68×(0.40)	—	7	庭前	瓦葺	—	不明	本跡→SK2014	SK20331
2016	D3e0	円形	0.68×(0.40)	0.80×(0.30)	—	不明	瓦葺	不明	不明	—	SK20332
2017	D3e5	隅丸長方形	2.32×[1.21]	2010×[1.06]	—	不明	平瓦	不明	不明	—	SK20333
2018	D3e7	楕円形	0.94×0.67	—	34	外構	平瓦	—	不明	—	SK20334
2019	C2e0	不整形円形	0.70×0.40	—	—	不明	不明	不明	不明	—	SK20335
2020	E2e0	隅丸長方形	1.22×0.62	—	—	30	内装	平瓦	不明	—	SK20336
2021	F3e1	不整形円形	1.20×0.90	—	—	60	外構	瓦葺	自然	P681・本跡→SK1800	—
2022	C2e6	不明	(0.61×0.34)	—	—	28	破損	不明	不明	本跡→SK983	SK20337
2023	C2e8	六角	不詳	—	—	不明	不明	不明	不明	—	—